



札幌市立大学年報

平成27年度
(2015年度)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

目次

I 概要

1 大学の概要	1
2 デザイン学部の概要	4
3 看護学部の概要	5
4 デザイン研究科の概要	6
5 看護学研究科の概要	7
6 助産学専攻科の概要	8
7 平成27年度の特筆すべき事項	9
8 行事	10

II 教育活動

1 教育活動概要	11
2 共通教育・連携教育	12
3 デザイン学部	14
4 看護学部	29
5 デザイン研究科	45
6 看護学研究科	50
7 助産学専攻科	59
8 デザインと看護の連携教育	62
9 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(テーマB)	64

III 研究活動

1 個人研究費による研究一覧	65
2 学内公募研究課題一覧	68
3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況	69
4 寄附金の受入状況	72
5 海外出張記録	73

IV 社会活動

1 地域貢献諸活動	75
2 公開講座開催実績	89
3 国・自治体審議会等への就任状況	93
4 ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業(COC事業)	97
5 専門職支援・セミナー講師等	99
6 国際交流実績	107
7 JICA草の根技術協力事業	108
8 サテライトキャンパスの利用状況	109

V キャリア支援活動

1 デザイン学部	110
2 看護学部(助産学専攻科含む)	116
3 デザイン研究科	118

VI 平成28年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部	120
2 デザイン研究科・看護学研究科	126

3 助産学専攻科	130
VII 附属図書館	
1 概要	132
2 利用状況	133
VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会	
1 役員会及び審議会の審議状況	134
2 役員及び審議会委員名簿	135
IX 学内運営の概要	
1 平成27(2015)年度公立大学法人札幌市立大学組織図	136
2 経営会議	136
3 部局長会議	136
4 教育・研究企画会議	137
5 広報室	137
6 教授会	138
7 地域連携研究センター	138
8 附属図書館	139
9 アドミッションセンター	140
10 キャリア支援センター	140
11 教育支援プロジェクトセンター	140
12 学内委員会	140
13 FD・SD活動	147
X 資料	
1 平成27年度年度計画	150
2 平成27年度決算	158
3 教職員数	159
4 管理職一覧表	159
5 教員一覧表	160
6 学生定員及び学生数	161
7 授業料等	162
8 奨学金貸与・授業料減免実施状況	162
9 学生の入選・受賞	164
10 学生の課外活動	166
11 後援会	167
12 教育・研究刊行物一覧	167
13 施設	168
14 大学へのアクセス	174
15 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』	175
XI 教員業績一覧	177



I 概要

1 大学の概要

1) 設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力を持った職業人が強く求められている。

特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要であり、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず、看護職養成施設の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を始めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関には、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は、中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内の医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性と方向性について幅広い論議を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年制大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「(仮称)札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「(仮称)札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受入れ、校地・校舎のあり方といった事項について、準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「(仮称)札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、平成18年4月に開学した。

また、デザインと看護の学部での教育を基盤として、より高度な専門的知識を有する高度専門職業人及び研究者・教育者の育成を目的として大学院修士課程を設置することとした。

大学院修士課程は大学院基本計画に基づき学部1期生の卒業時期に合わせた開設が計画され、平成21年5月に札幌市立大学大学院設置認可申請書を文部科学省に提出、10月に大学院の設置が認可され、平成22年4月に札幌市立大学大学院修士課程を開設した。

大学院修士課程の開設と併せて、より高度な能力を持った助産師の養成が必要とする社会的要請を受け、本学に助産学専攻科を設置して助産師を育成することとした。

その後、平成23年5月に大学院デザイン研究科・看護学研究科の課程変更認可申請書（修士課程を博士課程に変更）を文部科学省に提出、同年10月に認可され、平成24年4月に大学院デザイン研



究科・看護学研究科に博士後期課程を開設するとともに、両研究科の修士課程を博士前期課程に改称した。

2) 理念

札幌市立大学では、造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させたデザイン学と看護学を教育研究の対象とする。

また、札幌市立大学では、次の二つの理念を掲げて、デザイン学及び看護学に関する教育研究に取り組むとともに、社会における有為な人材の育成に取り組む。

① 「人間重視を根幹とした人材の育成」

デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる職業人を育成するとともに、知識・技術に加え、教養と人間性を涵養し、有為な人材を育成する。

② 「地域社会への積極的な貢献」

札幌市立大学が市民からの負託にこたえ、「市民に開かれた大学」、「市民の力になる大学」、「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果たし続けていくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追究する。

3) 特長

札幌市立大学では、教育研究上の理念のもと、「デザイン学部」及び「看護学部」の二つの学部を設けて教育研究を行うとともに、次の二つの特長を備え、開学後及び将来にわたっての大学の基本的な方向性とする。

① 「デザイン学部と看護学部の連携」

デザイン学部と看護学部を併せ持つという特長を生かし、両学部の教員が連携・共同して教育を行うとともに、保健・医療・福祉分野を対象とするデザインなどを共同研究し、両学部の連携を目指す。

② 「幅広いネットワーク」

行政施策や公的機関、市民、産業界などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開することを目指す。

4) 目的

① 学術研究の高度化等に対応した職業人の育成

デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、デザイン分野においては、幅広いデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、看護分野においては、医療の高度化に対応する知識・技術に加え、問題解決能力を有し、他職種と連携できる職業人の育成を目指す。

② まちづくり全体により大きな価値を生み出す「知と創造の拠点」

デザイン学部の設置によって、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上などへの貢献を果たすとともに、看護学部の設置によって、少子高齢社会における地域看護の充実、看護職への学習機会の提供などを通じた、市民の健康の保持増進への貢献を果たす。

また、札幌市の行政施策との緊密な連携によって、地域課題の解決に積極的に取り組み、その成果を広く市民に還元して地域貢献を実現する。



沿革

昭和40年4月	札幌市立高等看護学院 開校
平成3年4月	札幌市立高等専門学校 開校
平成8年4月	札幌市立高等専門学校専攻科 開設 札幌市立高等専門学校附属研究所 開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「(仮称) 札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「(仮称) 札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「(仮称) 札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	公立大学法人札幌市立大学 設立認可
平成18年4月	札幌市立大学 開学
平成18年10月	サテライトキャンパス 開設
平成19年4月	地域連携研究センター 開設 アドミッションセンター 開設
平成20年3月	札幌市立高等看護学院 閉校
平成20年4月	キャリア支援センター 開設
平成20年8月	認定看護管理者制度サードレベル教育課程（現 認定看護管理者教育課程サードレベル）開講
平成21年3月	札幌市立高等専門学校本科 閉科
平成21年10月	大学院（修士課程）設置認可
平成21年12月	助産学専攻科の助産師学校指定通知
平成22年4月	大学院（修士課程）デザイン研究科・看護学研究科・助産学専攻科 開設
平成23年3月	札幌市立高等専門学校専攻科 閉校
平成23年10月	大学院（博士課程）変更認可
平成24年4月	大学院（博士後期課程）開設 大学院（博士前期課程）に改称



2 デザイン学部の概要

1) 特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

また、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある7つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

① 幅広いデザイン能力を持った人材の育成

デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。

② 人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成

造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興をはじめ、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえるとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 多様なコミュニケーション能力

的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。

② 課題探求能力と問題解決能力

社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。

③ デザインの基礎となる表現力

豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。

④ 人間や環境に配慮したデザイン思考能力

人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。

⑤ 新たな価値を発見する柔軟な発想力

固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想力を養う。

⑥ 企画力や管理・運営能力

デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。



3 看護学部の概要

1) 特色

看護学部では、幅広い職業人を育成することを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある7つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

① 的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ、専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

② 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるように常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護など、看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、本学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内あるいは全国的な視点から、看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度・先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯数も増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育

成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 対人関係形成能力
豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。
- ② 権利擁護・安全なケア提供能力
さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。
- ③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力
緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。
- ④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力
看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。
- ⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力
主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4 デザイン研究科の概要

1) 特色

デザインの役割が拡張し、従来のように造形や視覚表現にとどまらず、社会や地域、産業等の複雑な問題をデザイン課題として受け止め、人間や環境に配慮したデザイン提案によりその解決策を実現できる、高度なデザイン能力を有する人材が必要となっている中で、デザイン研究科では、よりよい地域社会の実現に貢献できる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成するため、以下の能力を修得することを特色とする。

また、平成17年9月中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の4つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組む。

【博士前期課程】

- ① 複合的かつ複雑な課題・問題を解決する「課題解決能力」
- ② デザインを通じて新たな価値を生み出す「創造力」
- ③ 課題・問題の発見、分析から具体的事業化までを一貫したデザインプロセスとしてまとめる「企画調整能力」
- ④ 一連のデザインプロセスを具体化する「実践能力」

【博士後期課程】

- ① 自身の専攻分野の専門的知識・技能を中心としつつ、関連近隣分野の基礎的素養をも修得し、幅広い見識から事象の本質を捉える「課題発見・分析・解決能力」
- ② デザインの視点を通じて自主的・自立的に研究や調査、分析等を実践できる「研究遂行能力」
- ③ 国内外の専門家や研究者とのコミュニケーションを図りながら、広く社会全体を俯瞰し、「リーダーシップ」を発揮できる確かな「調整力」及び「指導力」

2) 教育目的

【博士前期課程】

地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業、芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としている。



【博士後期課程】

自立した研究者として独創的な視点から社会課題を発見するとともに、深く研究に取り組み、デザイン分野における学術理論及び技能の高度化の追求を通じて、社会への貢献を果たすことを目的としている。

3) 育成する人材像

【博士前期課程】

- ① 屋内外の様々な空間を対象とする空間デザイン分野において、人間の生活や自然環境に配慮しつつ、建築デザインや環境デザインに関する高度なデザイン能力を有する人材。
- ② 人間生活に欠かせない多様な製品並びにそれを支えるインタフェース（操作性）について、人間中心の生活システムとしての製品やそのインタフェースをデザインできる高度なデザイン能力を有する人材。
- ③ 人々の豊かなコミュニケーション活動を支えるコンテンツの制作と、多様なコンテンツのメディア展開を企画・構築し、運営に至るプロセスをプロデュースできる高度なデザイン能力を有する人材。

【博士後期課程】

- ① デザインを通じた組織構築や質改善のためのシステム開発を実践し、組織において指導的立場となり得る人材。
- ② 自立して研究活動を行い、デザインの学問的体系を構築できる人材。

5 看護学研究科の概要

1) 特色

近年、看護分野は専門分化しており、これに対応する卓越した実践能力を有する看護職及び統合的な調整能力を有する看護管理者の育成が急務となっている。

また、これら卓越した臨床能力及び看護の専門性のさらなる向上には、看護の未来を見据えた洞察力・創造力を有し、学問的理念を基盤として研究を推進する自立した教育者・研究者の果たす役割が大きい。

看護学研究科は、このような社会の要請に応える人材を育成し、札幌を発信源に、21世紀の看護の一端を担い、これを保健・医療・福祉分野へ発信できる、看護のバランス感覚に優れた人材の育成を目指している。

なお、本研究科では、平成17年9月5日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の4つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組むことを特色とし、以下の能力の修得を目指している。

【博士前期課程】

- ① 正確性・緻密性及び独創性を有する高度な臨床看護実践能力
- ② 高度な倫理観に基づき、専門看護分野において分析・判断・行動・評価ができる能力
- ③ 他職種と協働し、看護における将来展望に資する統合・調整ができる能力
- ④ 積雪寒冷地における健康づくり支援に取り組む能力

【博士後期課程】

- ① 看護に対する社会的課題を的確に認識し、将来を見据えた技術開発やシステムの検証・創出、組織での施策提言等を行う能力
- ② 豊かな人間性や広い視野に加え、高度な倫理観、専門知識や技能に裏打ちされる高い管理能力、指導能力
- ③ 高度な学識と臨床の両面から、看護学の基礎研究や応用研究に自立的に取り組み、実践科学としての看護学を追究する能力

2) 教育目的



【博士前期課程】

保健・医療・福祉分野における様々な課題に主体的に取り組む高度な看護実践能力を有する看護職及び総合的な調整能力を有する看護管理者の育成を目指し、市民の健康の保持増進に貢献を果たすことを目的としている。

【博士後期課程】

自立した研究者として、様々な看護現象に対して深く研究に取り組み、看護の枠組みの再構築やシステム開発、技術開発などを行い、看護分野における学術理論及び技能の高度化を追究し、社会に貢献することを目的としている。

3) 育成する人材像

【博士前期課程】

- ① 保健・医療の中核を担う高度臨床看護実践者の育成（専門看護師を含む）
- ② 総合的に看護ケアをマネジメントする看護管理者の育成
- ③ 地域や在宅においては健康な生活と福祉の向上に率先して貢献する看護職の育成
- ④ 看護の学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる看護研究者の育成
- ⑤ 次世代の看護教育の中心的担い手としての教育者の育成
- ⑥ 看護技術の開発及び評価能力を備える人材の育成
- ⑦ 幅広い視野のもとで新しい看護システムや制度の開発に資する人材の育成

【博士後期課程】

- ① 看護学の基礎研究・応用研究に自立的に取り組む、人材育成システムの検証・提言ができる研究者・開発者
- ② 確かな知識や技術、倫理観を基盤として、看護職者を志す人々に質の高い教育を実現し、さらに新たな教育制度や方法、カリキュラム等の創出に寄与できる教育者
- ③ 看護現象の分析・評価を通じて、看護システムをグローバルに構築・変革し、自ら行動する高度専門職業人及び看護管理者を養成・指導できる教育者・管理者

6 助産学専攻科の概要

1) 特色

助産学専攻科では、学士課程4年間に於いて培った自己研鑽力が発揮できる教育課程を特色としている。

その1つとして、選択科目を設定せず、学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創っている。加えて、この学びの更なる発展に向け文献研究を行う。

また、1年間の学修では、助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、ハイリスク事例に対応できるような高度な知識・技術を熟練した助産師と専門医のもとで修得する。この学修では、看護師資格が大いに役立っている。

2) 教育目的

札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤に、各種助産技術能力の正確な修得を目指し、次のような教育を目的とする。

- ① 助産師に必要な基本的かつ高度な知識が修得できる。
- ② 助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術が修得できる。
- ③ 助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアが実践できる。

3) 育成する人材像

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、助産師の需要がさらに増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。



このため、助産学専攻科においては、次のような人材を育成する。

- ① 助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有する助産師
- ② 地域社会における母子健康の向上に貢献できる助産師
- ③ 人間性豊かな助産師

7 平成27年度の特筆すべき事項

平成27年度、札幌市立大学では以下のような特筆すべき事項があった。

- 1) 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）参加校として室蘭工業大学と調印
文部科学省の新たな補助事業であり、「地（知）の拠点整備事業（COC）」の発展型として、他大学や自治体・企業等と協働して雇用創出や学卒者の地元定着率の向上を推進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加を決定した（事業期間：平成27～31年度）。また、参加にあたり、事業責任大学である室蘭工業大学のほか、本学と同じく参加校となる小樽商科大学、稚内北星学園大学と連携協定を締結した。
- 2) ラップランド大学と学術交流協定を調印
ラップランド大学と教育・研究上の協力と学術交流の促進を図るために、平成27年8月5日に学術交流に関する協定を締結した。教員及び研究者の交流、学生の交流、学術資料・刊行物及び情報等の交換、共同研究及びシンポジウムの実施、短期特別教育プログラムの実施、その他の学術及び文化交流の実施等を推進していく。
- 3) 芸術の森地区連合会と地域連携協定を調印
芸術の森地区連合会と、地域の主体的なまちづくりの推進と芸術文化の創造・発展に資するため、平成28年3月15日に協定を締結した。地域における連携体制、地域の芸術文化の向上、双方が実施する事業への協力、施設の相互活用、地域のまちづくりの推進及び地域活性化等を推進していく。
- 4) 開学10周年
本学は平成18年4月に創立され、平成27年度末をもって開学10周年を迎えた。これを記念するとともに、学外の関係者の方々に感謝と祝意を表す為、平成28年9月に開学10周年記念式典の開催を計画し、その執行機関として「開学10周年記念事業実行委員会」を設置した。
「開学10周年記念事業実行委員会」では、委員が具体的な計画を立案し、適宜開催される実行委員会に上程し討議を行った。また、学内各機関と連携を図り、全学一体となって計画の遂行に当たった。



8 行事

行 事 名	月 日
前期開始	4月1日
入学式・後援会総会	4月3日
前期ガイダンス	4月6日
前期授業開始	4月7日
前期履修登録	4月7日～15日
健康診断	4月13日・15日
第1回オープンキャンパス、助産学専攻科・大学院説明会	6月20日
デザイン学部3年次編入学試験	7月18日
大学院デザイン研究科博士前期課程推薦選抜入学試験	7月18日
前期定期試験	8月4日～8月12日
夏季休業	8月13日～9月2日
看護学部3年次編入学試験	9月12日
助産学専攻科入学試験	9月12日
第2回オープンキャンパス	9月19日
大学祭	9月19日・20日・22日
卒業式・修了式	9月25日
後期ガイダンス	9月25日
大学院デザイン研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験	9月26日
大学院看護学研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験	9月26日
後期授業開始	9月28日
前期終了	9月30日
後期開始	10月1日
後期履修登録	10月1日～10月8日
デザイン・看護学部特別選抜入学試験（推薦入学・社会人）	11月21日
冬季休業	12月23日～1月3日
後期定期試験	1月6日～8日・ 2月3日～17日
大学院看護学研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験（2次募集）	2月6日
大学院看護学研究科博士後期課程入学試験	2月6日
デザイン・看護学部一般選抜入学試験（前期日程）	2月25日
デザイン学部特別選抜入学試験（私費外国人留学生）	2月25日
春季休業	3月2日～31日
大学院デザイン研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験（2次募集）	3月5日
大学院デザイン研究科博士後期課程入学試験	3月5日
デザイン学部一般選抜入学試験（後期日程）	3月12日
卒業式・修了式	3月19日
後期終了	3月31日



II 教育活動

1 教育活動概要

1) デザイン学部・看護学部

デザイン学部・看護学部共通の「共通教育科目」は、両学部に通ずる「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生が一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化した。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの修得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。また、学芸員の資格を取得するために必要となる科目を「自由科目」という区分で開講した。その他、専門教育科目を履修する上で必要となる技術や知識を補完する目的で「クリエイティブ・プロセスの解説と事実」、「VOICE WORKSHOP-個人の時代を生き抜くためのブランディング戦略-」等といった特別講義を実施した。

看護学部の「専門教育科目」は、専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」と看護の専門的知識・技術を学ぶ「専門科目」で構成し、段階を踏んで学修できるよう体系化している。特に「専門科目」の各看護領域の授業カリキュラムは、まず「概論科目」により基本理念や考え方を理解した後、「演習科目」「実習科目」を学ぶことで、高度な実践的能力を修得できる構成としている。「実習科目」は、1年次から4年次まで開講し、各学年の講義・演習のレベルに応じた実習を行っている。また、平成24年度（編入学生は26年度）以降の入学生のうち、保健師国家試験受験資格の取得を希望する場合は、必要な単位を修得したうえで保健師コースを選択することとしている。保健師コースは3年次前期終了時に選択（編入学生を含む）することとしており、選択希望者が30名を上回る場合は、面接及び3年次前期までの成績等により総合的に判定し、選択者を決定している。

2) デザイン研究科

デザイン研究科博士前期課程の授業科目は、幅広い視野を身につけ、デザインと看護に共通する関連領域の基礎的素養を涵養するため、看護学研究科と合同で行う「研究科連携科目」とデザイン分野における高度専門職業人及び研究者・教育者に必要な専門知識・技術、研究方法を修得するための「専門教育科目」の2つに区分し、「専門教育科目」はさらに「基本科目」、「展開科目」、「実践科目」及び「修了研究」の4つの科目群で構成され、学生がデザインの高度かつ専門的な知識・技術を学ぶことができるよう体系化した。

デザイン研究科博士後期課程では、「基本科目」、「展開科目」、「研究指導科目」の3つの科目区分を設け、体系的なコースワークによる教育課程を編成し、研究指導を体系的・組織的に展開する教育・研究環境を整備した。それにより、専門分野に関する高度な専門知識及び能力を修得させるとともに、関連する分野の教育を行った。

3) 看護学研究科

看護学研究科博士前期課程の授業科目は、課程制大学院の趣旨に従い、教育目標を達成するために体系化した構成としている。科目区分は、デザイン研究科と合同で授業を行う「研究科連携科目」と、看護学の各専攻分野に関する高度の専門的知識および能力を修得する「専門教育科目」に区分し、卓越した能力を発揮できる人材を育成する。また、専門看護師（CNS）教育課程の認定基準に沿った授業科目も配置し、広く保健・医療・福祉や看護学の発展に寄与することを目指して

いる。

看護学研究科博士後期課程は、課程制大学院としてコースワークを意識し、コースワークがリサーチワークの基礎となるよう学修できる教育課程を構成している。「連携科目」、「専門科目」、「研究指導科目」の1つの科目区分に基づき体系的な授業展開を行い、看護学開発の基盤形成をねらいとする「看護学特論（1年次前期）」の学修を通じて、社会を広く俯瞰し看護学のさらなる進化、発展に取り組む提案力を形成する。各特講科目では、高度な創造性を涵養して主体的に課題発見や新たな提案を行い、「特別研究」で独創的な研究を取りまとめる。

4) 助産学専攻科

助産学専攻科では、助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有し、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目標として教育課程を編成している。また、助産師活動に不可欠な技術・能力を高い次元で身につけるため、学部教育と同様に客観的臨床能力試験「OSCE」を導入し、各種助産技術能力の修得度を適正に評価している。

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
スタートアップ演習	演習・60時間	1年次前期	◎原 俊彦 町田 佳世子 斉藤 雅也 山田 良 石田 勝也 片山 めぐみ 松井 美穂 三谷 篤史 須之内 元洋 河原田 まり子 川村 三希子 上村 浩太 古都 昌子 原井 美佳 藤井 瑞恵 矢野 祐美子 山本 真由美 檜山 明子 中田 亜由美 藪谷 祐介
哲学と倫理	講義・30時間	1年次前期	★中島 孝一
体のしくみ	講義・30時間	1年次前期	小宮 加容子
人間関係を考える	講義・30時間	1年次前期	★椿 武愛子
自然科学を学ぶ	講義・30時間	1年次前期	★小野田 波里
札幌を学ぶ	講義・30時間	1年次前期	原 俊彦
英語 I A	演習・30時間	1年次前期	★赤間 荘太 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語 I B	演習・30時間	1年次前期	町田 佳世子 松井 美穂 ★白土 淳子 ★三ツ木 真実
英語 I C	演習・30時間	1年次前期	★バマイ モクター ★山田 パトリシア
日本語表現法	演習・30時間	1年次前期	★斎木 正直 ★安永 立子
基礎カウンセリング	演習・30時間	1年次前期	★小坂 守孝
情報リテラシー I (デザイン学部)	演習・30時間	1年次前期	★児玉 潤二郎
情報リテラシー I (看護学部)	演習・30時間	1年次前期	★杉野 佑太
情報リテラシー II (デザイン学部)	演習・30時間	1年次前期	大淵 一博
情報リテラシー II (看護学部)	演習・30時間	1年次後期	★杉野 佑太
宗教と思想	講義・30時間	1年次後期	★堀 雅彦

授業科目	授業 形態・時数	年次	担当教員
芸術と文化	講義・30時間	1年次後期	★望月 由美子
心のしくみ	講義・30時間	1年次後期	★岸 靖亮
動物のくらし	講義・30時間	1年次後期	★桑原 禎知
現代社会と家族	講義・30時間	1年次後期	原 俊彦
現代社会と経済	講義・30時間	1年次後期	★近藤 公彦
統計の世界	講義・30時間	1年次後期	原 俊彦
英語ⅡA	演習・30時間	1年次後期	町田 佳世子 ★赤間 荘太 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語ⅡB	演習・30時間	1年次後期	松井 美穂 ★白土 淳子 ★三ツ木 真実
英語ⅡC	演習・30時間	1年次後期	★バマイ モクター ★山田 パトリシア
プレゼンテーション	演習・30時間	1年次後期	◎武田 亘明 柿山 浩一郎
対人コミュニケーション	演習・30時間	1年次後期	町田 佳世子
手話	演習・30時間	1年次後期	★高橋 淨
環境を考える	講義・30時間	2年次前期	矢部 和夫
生活と文化	講義・30時間	2年次前期	蓮見 孝
ジェンダーと文化 (平成23年度(編入学生は平成25年度)以前入学生は「ジェンダーを考える」)	講義・30時間	2年次前期	松井 美穂
健康とスポーツ(デザイン学部)	講義・30時間	2年次前期	★出町 道代
現代社会と国際関係	講義・30時間	2年次前期	★青木 隆直
ボランティア活動を考える	講義・30時間	2年次前期	★篠原 辰二
中国語(デザイン学部)	演習・30時間	2年次前期	★照井 はるみ
ロシア語(デザイン学部)	演習・30時間	2年次前期	★ジダーノフ ウラジーミル
グループ・ダイナミックス	演習・30時間	2年次前期	★山口 司
実践英語A(デザイン学部)	演習・30時間	2年次 前期・後期	町田 佳世子 松井 美穂
実践英語B(デザイン学部)	演習・30時間	2年次前期	★バマイ モクター ★山田 パトリシア
実践英語A(看護学部)	演習・30時間	2年次前期	町田 佳世子 松井 美穂
実践英語B(看護学部)	演習・30時間	2年次 前期・後期	★バマイ モクター ★山田 パトリシア
健康とスポーツ(看護学部)	講義・30時間	2年次後期	★出町 道代
中国語(看護学部)	演習・30時間	2年次後期	★照井 はるみ
ロシア語(看護学部)	演習・30時間	2年次後期	★ジダーノフ ウラジーミル
教育を考える	講義・30時間	2年次後期	★光本 滋
日本国憲法を学ぶ	講義・30時間	2年次後期	★岡田 信弘
韓国語	演習・30時間	2年次後期	★松田 由紀

◎印：科目責任者(オムニバス形式等の場合)

★印：非常勤講師

3 デザイン学部

1) 平成27年度時間割

① 1年前期

		月	火		水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	情報リテラシーⅡ	造形基礎 実習Ⅰ	表現基礎 実習	情報リテラシーⅠ	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ～ 12:10	情報リテラシーⅡ			情報リテラシーⅠ	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	哲学と倫理
3	13:10 ～ 14:40	デザイン史	色彩設計論		英語ⅠA 英語ⅠC 日本語表現法	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	札幌を学ぶ
4	14:50 ～ 16:20	造形基礎 実習Ⅰ	表現基礎 実習	デザイン原論	英語ⅠA 英語ⅠC 日本語表現法	スタートアップ演習	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 基礎カウンセリング
5	16:30 ～ 18:00			リメディアル	自然科学を学ぶ		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 基礎カウンセリング

② 1年後期

		月	火		水	木	金	
1	9:00 ～ 10:30	デザイン方法論	プログラミングⅠ		芸術と文化	工学基礎	手話	
2	10:40 ～ 12:10	感性科学	プログラミングⅠ		宗教と思想	現代社会と家族	手話	
					動物のくらし	心のしくみ		
3	13:10 ～ 14:40	コンピュ ータ基礎 実習Ⅰ	造形基礎 実習Ⅱ	コンピュ ータ基礎 実習Ⅰ	造形基礎 実習Ⅱ	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	現代社会と経済
4	14:50 ～ 16:20					英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション
5	16:30 ～ 18:00					統計の世界	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション	

③ 2年前期

		月	火	水	木	金	
1	9:00 ～ 10:30	デザイン 材料加工 実習 I	コンピュータ基礎 実習 II A (3D)	現代社会と国際関係	感性デザイン論	創造産業論	デザイン解析論
2	10:40 ～ 12:10			ロシア語	デザイン法規	設計製図基礎	健康とスポーツ
		実践英語A	実践英語B				
3	13:10 ～ 14:40	プログラミング II	ロシア語	認知科学	デザイン 材料加工 実習 I	コンピュ ータ基礎 実習 II A (3D)	実践英語B
			実践英語A				
4	14:50 ～ 16:20	ヒューマンファク ターズ入門	環境を考える	中国語	デザイン 材料加工 実習 I	コンピュ ータ基礎 実習 II A (3D)	ユニバーサルデザイン論
			ジェンダーと文化 (ジェンダーを考 える)※				
5	16:30 ～ 18:00	近現代建築史	グループ・ダイナ ミックス	中国語	現代芸術論		
			ボランティア活動 を考える				

※ () 内の科目名は、平成23年度（編入学生は平成25年度）以前入学生用の科目名

④ 2年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	エコロジーデザイン論	生活と文化	コンピュータグラ フィクス		
		情報社会論				
2	10:40 ～ 12:10	空間デザイン史	韓国語	日本国憲 法を学ぶ	コンピュータ基礎実 習 II C (CAD)	コンピュータ基礎実 習 II B (ムービー)
		製品デザイン論				
		コンテンツデザイン論				
		メディアデザイン論				
3	13:10 ～ 14:40	デザイン材料加工 実習 II	家具・インテリア デザイン ※前半7.5週で終了	コンピュータ基礎実 習 II B (ムービー)	広告デザイン	ダイナミックオブ ジェクトデザイン
					製品造形論	空間デザイン論
4	14:50 ～ 16:20				デザイン総合実習 I	デザイン材料加工 実習 II
5	16:30 ～ 18:00	キャリアガイダンス	実践英語A	教育を考える		

⑤ 3年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30		生涯学習概論	景観デザイン論	一般構造	物語デザイン論
					アニメーション I	環境計画論 インタラクシ ョンデザイン
2	10:40 ～ 12:10	博物館資料論 ※1～8回目		メディア文化史	都市計画論	マルチメディアコ ンテンツデザイン
		博物館概論 ※9～15回目			製品計画論	
3	13:10 ～ 14:40		プロトタイプシ ミュレーション I		建築計画論	メディア芸術論
			出版メディアデザイン		感性情報学	
4	14:50 ～ 16:20	コンテンツ制作シ ステム論	学外実習A インターンシ ップ	博物館概論 ※1～8回目	知的財産権論	デザイン総合実習 II
			学外実習B フィールドスタ ディ	博物館資料論 ※9～15回目		
5	16:30 ～ 18:00		キャリアガイダ ンス	博物館教育論		

⑥ 3年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	寒冷地デザイン論	バーチャルリア リティ	建築構法	構造・材料実験	観光とデザイン
					メカトロニクス	
					インターネットメ ディアデザイン	
2	10:40 ～ 12:10	博物館展示論 ※8～15回目	空間デザイン法規	博物館情報・メ ディア論	構造・材料実験	構造力学
			製品デザイン史		感性インタラクシ ョンデザイン	デジタル映像コ ンテンツデザイン
			アニメーション II		アートマネジメント論	
			デジタルアーカイ ブ			
3	13:10 ～ 14:40	博物館展示論 ※1～7回目		地場産業振興論	建築生産	プロトタイプシ ミュレーション II
					デジタル映像史	ブランド構築
4	14:50 ～ 16:20	博物館経営論	学部連携演習	博物館資料保存論		デザイン総合実習 III
5	16:30 ～ 18:00	キャリアガイダ ンス				

⑦ 4年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ~ 10:30		デジタル音響デザイン	起業論		
2	10:40 ~ 12:10		建築設備計画	ネットワークシステムデザイン	コンテンツ流通技術	構造力学Ⅱ
			放送メディアデザイン			ヒューマンケア機器デザイン
3	13:10 ~ 14:40	博物館実習	住宅論	デザイン英語	デザインマネジメント	ロボティクス
4	14:50 ~ 16:20					
5	16:30 ~ 18:00		キャリアガイダンス			

⑧ 4年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ~ 10:30					
2	10:40 ~ 12:10					
3	13:10 ~ 14:40					
4	14:50 ~ 16:20					
5	16:30 ~ 18:00	キャリアガイダンス				

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成21年度（編入学生は平成23年度）入学生用

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件 単位				
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次						
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	2			○										2単位		
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義	2			○										4単位以上	
		宗教と思想	講義	2				○										
		芸術と文化	講義	2				○										
		環境を考える	講義	2					○									
		教育を考える	講義	2						○								
		生活と文化	講義	2		2				○								
	人間に対する理解	心のしくみ	講義	2				○									4単位以上	
		体のしくみ	講義	2				○										
		ジェンダーを考える	講義	2						○								
		人間関係を考える	講義	2				○										
		健康とスポーツ	講義	2						○								
		自然科学を学ぶ	講義	2		2		○										
	社会に対する理解	動物のくらし	講義	2		2		○									6単位以上	
		現代社会と家族	講義	2				○										
		現代社会と国際関係	講義	2						○								
		現代社会と経済	講義	2					○									
		札幌を学ぶ	講義	2				○										
		ボランティア活動を考える	講義	2						○								
	外国語	英語 I A	演習	1				○									8単位以上	
		英語 I B	演習	1				○										
		英語 I C	演習	1				○										
		英語 II A	演習	1					○									
		英語 II B	演習	1					○									
		英語 II C	演習	1					○									
		実践英語A	演習	1	1					○	○							
		実践英語B	演習	1	1					○	○							
		韓国語	演習	1							○	○						
		中国語	演習	1							○	○						
		ロシア語	演習	1							○	○						
コミュニケーション・情報技術		日本語表現法	演習	1	1			○										4単位以上
		プレゼンテーション	演習	1					○									
		基礎カウンセリング	演習	1	1			○										
	対人コミュニケーション	演習	1					○										
	グループ・ダイナミックス	演習	1						○									
	手話	演習	1	1				○										
	情報リテラシー I	演習	1					○										
デザイン基礎	デザイン原論	講義	2				○									16単位以上 さらに基本科目から10単位以上		
	デザイン史	講義	2				○											
	デザイン方法論	講義	2					○										
	色彩設計論	講義	2				○											
	感性科学	講義	2					○										
	感性デザイン論	講義	2						○									
	ユニバーサルデザイン論	講義	2						○									
	創造産業論	講義	2						○									
	現代芸術論	講義	2	2					○									
	デザイン解析論	講義	2	2					○									
	ヒューマンファクターズ入門	講義	2	2					○									
	近現代建築史	講義	2	2					○									
	設計製図基礎	演習	2	2					○									
	認知科学	講義	2	2					○									
	デザイン法規	講義	2	2					○									
	エコロジーデザイン論	講義	2	2						○								
	情報社会論	講義	2	2						○								
造形基礎	造形基礎実習 I	実習	2				○								6単位以上			
	造形基礎実習 II	実習	2					○										
	デザイン材料加工実習 I	実習	2						○									
	デザイン材料加工実習 II	実習	2	2						○								
情報基礎	コンピュータ基礎実習 I	実習	2					○							8単位以上			
	コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習	2	2					○									
	コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)	実習	2	2						○								
	コンピュータ基礎実習 II C (CAD)	実習	2	2						○								
	プログラミング I	演習	2					○										
プログラミング II	演習	2	2						○									

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位								
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次										
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
専門教育科目	展開科目	空間デザイン系	空間デザイン論		2																	
			空間デザイン史		2								○									
			景観デザイン論		2									○								
			都市計画論		2										○							
			空間デザイン法規		2											○						
			構造力学	講義+演習	2												○					
			建築構法	講義+演習	2													○				
			構造・材料実験	実習	2														○			
			建築設備計画	講義+演習	2															○		
			建築計画論	講義	2											○						
			環境計画論	講義	2												○					
			家具・インテリアデザイン	講義+演習	2										○							
			住宅論	講義	2																○	
			製品デザイン論	講義	2										○							
			製品デザイン史	講義	2																○	
			製品造形論	講義	2										○							
			製品計画論	講義	2											○						
			感性情報学	講義	2												○					
	ヒューマンファクターズ	講義+演習	2											○								
	インタラクティブデザイン	講義+演習	2												○							
	メカトロニクス	講義+演習	2														○					
	ロボティクス	講義+演習	2															○				
	感性インタラクティブデザイン	演習	2														○					
	プロトタイプシミュレーションⅠ	演習	2														○					
	プロトタイプシミュレーションⅡ	演習	2															○				
	ヒューマンケア機器デザイン	演習	2																○			
	コンテンツデザイン論	講義	2											○								
	デジタル映像史	講義	2																○			
	コンテンツ制作システム論	講義	2																○			
	物語デザイン論	講義	2																○			
	バーチャルリアリティ	講義	2																○			
	コンピュータグラフィクス	講義+演習	2												○							
	アニメーションⅠ	講義+演習	2													○						
	アニメーションⅡ	講義+演習	2														○					
	デジタル音響デザイン	講義+演習	2																○			
	ダイナミックオブジェクトデザイン	演習	2											○								
	マルチメディアコンテンツデザイン	演習	2														○					
	デジタル映像コンテンツデザイン	演習	2															○				
	ネットワークシステムデザイン	演習	2																○			
	メディアデザイン論	講義	2												○							
	メディア文化史	講義	2																○			
	知的財産権論	講義	2																○			
	メディア芸術論	講義	2																○			
	アートマネジメント論	講義	2																○			
	広告デザイン	講義+演習	2											○								
	ブランド構築	講義+演習	2													○						
	デジタルアーカイブ	講義+演習	2																○			
	コンテンツ流通技術	講義+演習	2																○			
	メディアビジネス	演習	2											○								
	出版メディアデザイン	演習	2																○			
	インターネットメディアデザイン	演習	2																○			
	放送メディアデザイン	演習	2																○			
	発展科目	デザイン応用	一般構造	講義+演習	2											○						
			寒冷地デザイン論	講義	2															○		
			観光とデザイン	演習	2															○		
			地場産業振興論	講義	2															○		
			建築生産	講義+演習	2															○		
			デザインマネジメント	演習	2															○		
			起業論	講義	2															○		
			デザイン英語	演習	2															○		
			構造力学Ⅱ	講義+演習	2															○		
			学外実習A(インターンシップ)	実習	2															◎		
			学外実習B(フィールドスタディ)	実習	2															◎		
			学部連携	学部連携演習	2																○	
			デザイン総合実習Ⅰ	実習	2										○							
			デザイン総合実習Ⅱ	実習	2													○				
	デザイン総合実習Ⅲ	実習	2															○				
	卒業研究	演習	6																○	○		
	自由科目	学芸員課程 関連科目 ※この他に共通 教育科目の「教育を 考える」の 単位修得が必要	生涯学習概論	講義			1								○							
			博物館概論	講義			2									○						
			博物館経営論	講義			1										○					
			博物館資料論	講義			2										○					
			博物館情報論	講義			1										○					
			博物館実習	実習			3										◎					
			視聴覚教育メディア論	講義			1									○						

展開科目から一つの系の全科目を含め34単位以上を修得

8単位以上

2単位

6単位

6単位

11単位

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目(単位数の網掛け部分)：所属コース内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。

平成22～23年度（編入学生は平成24～25年度）入学生用

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件 単位	
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	2			○									2単位
	文化に対する理解	哲学と倫理		2		○									4単位以上
		宗教と思想		2			○								
		芸術と文化		2			○								
		環境を考える		2					○						
		教育を考える		2						○					
	人間に対する理解	生活と文化			2				○						4単位以上
		心のしくみ		2			○								
		体のしくみ		2			○								
		ジェンダーを考える		2					○						
		人間関係を考える		2			○								
		健康とスポーツ		2					○						
	社会に対する理解	自然科学を学ぶ			2		○								6単位以上
		動物のくらし			2		○								
		現代社会と家族		2			○								
		現代社会と国際関係		2					○						
		現代社会と経済		2			○								
		札幌を学ぶ		2			○								
	外国語	ボランティア活動を考える		2					○						8単位以上
		統計の世界		2			○								
		日本国憲法を学ぶ			2					○					
		英語 I A	演習	1			○								
		英語 I B	演習	1			○								
		英語 I C	演習	1			○								
		英語 II A	演習	1				○							
		英語 II B	演習	1				○							
		英語 II C	演習	1				○							
		実践英語A	演習		1					○	○				
	コミュニケーション科目	実践英語B	演習		1					○					4単位以上
		韓国語	演習		1						○				
		中国語	演習		1						○				
		ロシア語	演習		1						○				
		日本語表現法	演習		1		○								
		プレゼンテーション	演習	1				○							
		基礎カウンセリング	演習		1				○						
		対人コミュニケーション	演習		1				○						
		グループ・ダイナミクス	演習		1					○					
		手話	演習		1					○					
	専門教育科目	デザイン基礎	情報リテラシー I	演習	1			○							16単位以上
			情報リテラシー II	演習	1			○							
			デザイン原論	講義	2			○							
			デザイン史	講義	2			○							
			デザイン方法論	講義	2				○						
			色彩設計論	講義	2			○							
			感性科学	講義	2				○						
工学基礎			講義		2				○						
感性デザイン論			講義	2						○					
ユニバーサルデザイン論			講義	2						○					
創造産業論			講義	2						○					
現代芸術論			講義		2					○					
デザイン解析論			講義		2					○					
ヒューマンファクターズ入門			講義		2					○					
近現代建築史			講義		2					○					
設計製図基礎		演習		2					○						
認知科学		講義		2					○						
デザイン法規		講義		2					○						
エコロジーデザイン論		講義		2						○					
情報社会論		講義		2						○					
造形基礎		造形基礎実習 I	実習	2				○						6単位以上	
		表現基礎実習	実習	2				○							
		造形基礎実習 II	実習	2					○						
		デザイン材料加工実習 I	実習		2					○					
		デザイン材料加工実習 II	実習		2						○				
情報基礎	コンピュータ基礎実習 I	実習	2					○					8単位以上		
	コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習		2					○						
	コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)	実習		2						○					
	コンピュータ基礎実習 II C (CAD)	実習		2						○					
	プログラミング I	演習	2					○							
プログラミング II	演習		2						○						

さらに基本科目から10単位以上

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位				
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次						
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
展開科目 専門教育科目	空間デザイン系	空間デザイン論		2					○									
		空間デザイン史		2					○									
		景観デザイン論		2							○							
		都市計画論		2								○						
		空間デザイン法規		2									○					
		構造力学	講義+演習	2										○				
		建築構法	講義+演習	2										○				
		構造・材料実験	実習	2											○			
		建築設備計画	講義+演習	2												○		
		建築計画論	講義	2									○					
		環境計画論	講義	2									○					
	家具・インテリアデザイン	講義+演習	2								○							
	住宅論	講義	2												○			
	製品デザイン系	製品デザイン論	講義	2						○								
		製品デザイン史	講義	2										○				
		製品造形論	講義	2						○								
		製品計画論	講義	2								○						
		感性情報学	講義	2								○						
		ヒューマンファクターズ	講義+演習	2							○							
		インタラクションデザイン	講義+演習	2								○						
		メカトロニクス	講義+演習	2									○					
		ロボティクス	講義+演習	2										○				
		感性インタラクションデザイン	演習	2									○					
		プロトタイプシミュレーションⅠ	演習	2									○					
	プロトタイプシミュレーションⅡ	演習	2										○					
	ヒューマンケア機器デザイン	演習	2											○				
	コンテンツデザイン系	コンテンツデザイン論	講義	2						○								
		デジタル映像史	講義	2											○			
		コンテンツ制作システム論	講義	2									○					
		物語デザイン論	講義	2									○					
		バーチャルリアリティ	講義	2										○				
		コンピュータグラフィクス	講義+演習	2							○							
		アニメーションⅠ	講義+演習	2								○						
		アニメーションⅡ	講義+演習	2										○				
		デジタル音響デザイン	講義+演習	2												○		
		ダイナミックオブジェクトデザイン	演習	2							○							
		マルチメディアコンテンツデザイン	演習	2									○					
	デジタル映像コンテンツデザイン	演習	2										○					
	ネットワークシステムデザイン	演習	2											○				
	メディアデザイン系	メディアデザイン論	講義	2							○							
		メディア文化史	講義	2								○						
		知的財産権論	講義	2									○					
		メディア芸術論	講義	2										○				
アートマネジメント論		講義	2											○				
広告デザイン		講義+演習	2							○								
ブランド構築		講義+演習	2								○							
デジタルアーカイブ		講義+演習	2										○					
コンテンツ流通技術		講義+演習	2												○			
メディアビジネス		演習	2							○								
出版メディアデザイン		演習	2									○						
インターネットメディアデザイン	演習	2										○						
放送メディアデザイン	演習	2											○					
デザイン応用	一般構造	講義+演習	2								○							
	寒冷地デザイン論	講義	2										○					
	観光とデザイン	演習	2											○				
	地場産業振興論	講義	2											○				
	建築生産	講義+演習	2											○				
	デザインマネジメント	演習	2												○			
	起業論	講義	2												○			
	デザイン英語	演習	2												○			
	構造力学Ⅱ	講義+演習	2												○			
	学外実習A(インターンシップ)	実習	2											◎				
	学外実習B(フィールドスタディ)	実習	2											◎				
学部連携	学部連携演習		2									○					2単位	
デザイン総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	実習	2							○								6単位
	デザイン総合実習Ⅱ	実習	2								○							6単位
	デザイン総合実習Ⅲ	実習	2									○						6単位
卒業研究	卒業研究		6										○	○			6単位	
自由科目	学芸員課程 関連科目 ※この他に共通 教育科目の「教 育を考える」の 単位修得が必要	生涯学習概論	講義			1					○							11単位
	博物館概論	講義			2					○								
	博物館経営論	講義			1						○							
	博物館資料論	講義			2						○							
	博物館情報論	講義			1						○							
	博物館実習	実習			3							◎						
	視聴覚教育メディア論	講義			1						○							

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目(単位数の網掛け部分):所属コース系内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。
 注3) 平成24年度の編入学生の学芸員課程関連科目は、平成24年度以降入学生用の授業科目一覧を参照。

平成24年度（編入学生は平成26年度）以降入学生用

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位			
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次					
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	演習	2		○										2単位	
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義		2		○										4単位以上
		宗教と思想	講義		2			○									
		芸術と文化	講義		2			○									
		教育を考える	講義		2					○							
		生活と文化	講義		2					○							
		ジェンダーと文化	講義		2					○							
	人間と自然に対する理解	心のしくみ	講義		2			○									4単位以上
		体のしくみ	講義		2		○										
		人間関係を考える	講義		2		○										
		健康とスポーツ	講義		2					○							
		環境を考える	講義		2					○							
		自然科学を学ぶ	講義		2		○										
	社会に対する理解	動物のくらし	講義		2			○									6単位以上
		現代社会と家族	講義		2			○									
		現代社会と国際関係	講義		2					○							
		現代社会と経済	講義		2			○									
		札幌を学ぶ	講義		2		○										
		ボランティア活動を考える	講義		2					○							
	外国語	統計の世界	講義		2			○									8単位以上
		日本国憲法を学ぶ	講義		2					○							
		英語 I A	演習		1		○										
		英語 I B	演習		1		○										
		英語 I C	演習		1		○										
		英語 II A	演習		1			○									
		英語 II B	演習		1			○									
		英語 II C	演習		1			○									
		実践英語A	演習		1					○	○						
		実践英語B	演習		1					○	○						
		韓国語	演習		1						○						
		中国語	演習		1						○						
	コミュニケーション・情報技術	ロシア語	演習		1					○							4単位以上
		日本語表現法	演習		1		○										
		プレゼンテーション	演習	1				○									
		基礎カウンセリング	演習		1		○										
		対人コミュニケーション	演習		1		○										
		グループ・ダイナミクス	演習		1					○							
		手話	演習		1				○								
		情報リテラシー I	演習	1			○										
	情報リテラシー II	演習	1			○											
	専門教育科目	デザイン基礎	デザイン原論	講義	2			○									16単位以上
			デザイン史	講義	2			○									
			デザイン方法論	講義	2				○								
			色彩設計論	講義	2				○								
			感性科学	講義	2				○								
工学基礎			講義		2			○									
感性デザイン論			講義	2						○							
ユニバーサルデザイン論			講義	2						○							
創造産業論			講義	2						○	○						
現代芸術論			講義		2					○	○						
デザイン解析論			講義		2					○	○						
ヒューマンファクターズ入門			講義		2					○	○						
近現代建築史			講義		2					○	○						
設計製図基礎			演習		2					○	○						
認知科学			講義		2					○	○						
デザイン法規			講義		2					○	○						
エコロジーデザイン論			講義		2						○						
情報社会論			講義		2						○						
造形基礎		造形基礎実習 I	実習	2			○									6単位以上	
		表現基礎実習	実習	2			○										
		造形基礎実習 II	実習	2				○									
		デザイン材料加工実習 I	実習		2					○							
		デザイン材料加工実習 II	実習		2						○						
		情報基礎	コンピュータ基礎実習 I	実習	2				○								8単位以上
コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習		2					○									
コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)	実習		2						○								
コンピュータ基礎実習 II C (CAD)	実習		2						○								
プログラミング I	演習	2				○											
プログラミング II	演習		2					○									

さらに基本科目から10単位以上



区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位			
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次					
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
展開科目 専門教育科目	空間デザイン系	空間デザイン論		2						○							
		空間デザイン史		2						○							
		景観デザイン論		2							○						
		都市計画論		2								○					
		空間デザイン法規		2									○				
		構造力学	講義+演習	2										○			
		建築構法	講義+演習	2										○			
		構造・材料実験	実習	2										○			
		建築設備計画	講義+演習	2											○		
		建築計画論	講義	2								○					
	環境計画論	講義	2								○						
	家具・インテリアデザイン	講義+演習	2							○							
	住宅論	講義	2											○			
	製品デザイン系	製品デザイン論	講義	2						○							
		製品デザイン史	講義	2								○					
		製品造形論	講義	2						○							
		製品計画論	講義	2							○						
		感性情報学	講義	2							○						
		ヒューマンファクターズ	講義+演習	2						○							
		インタラクティブデザイン	講義+演習	2							○						
		メカトロニクス	講義+演習	2								○					
		ロボティクス	講義+演習	2									○				
		感性インタラクティブデザイン	演習	2									○				
	コンテンツデザイン系	コンテンツデザイン論	講義	2						○							
		デジタル映像史	講義	2									○				
		コンテンツ制作システム論	講義	2								○					
		物語デザイン論	講義	2								○					
		バーチャルリアリティ	講義	2									○				
		コンピュータグラフィクス	講義+演習	2						○							
		アニメーションI	講義+演習	2							○						
		アニメーションII	講義+演習	2									○				
		デジタル音響デザイン	講義+演習	2										○			
		ダイナミックオブジェクトデザイン	演習	2						○							
	メディアデザイン系	メディアデザイン論	講義	2						○							
		メディア文化史	講義	2							○						
知的財産権論		講義	2							○							
メディア芸術論		講義	2								○						
アートマネジメント論		講義	2								○						
広告デザイン		講義+演習	2						○								
ブランド構築		講義+演習	2							○							
デジタルアーカイブ		講義+演習	2									○					
コンテンツ流通技術		講義+演習	2										○				
メディアビジネス		演習	2						○								
デザイン応用	一般構造	講義+演習	2								○						
	寒冷地デザイン論	講義	2									○					
	観光とデザイン	演習	2									○					
	地場産業振興論	講義	2									○					
	建築生産	講義+演習	2									○					
	デザインマネジメント	演習	2										○				
	起業論	講義	2										○				
	デザイン英語	演習	2										○				
	構造力学II	講義+演習	2										○				
	学外実習A(インターンシップ)	実習	2									◎					
学部連携	学部連携演習	演習	2									○				2単位	
	デザイン総合実習I	実習	2						○							6単位	
	デザイン総合実習II	実習	2							○						6単位	
	デザイン総合実習III	実習	2								○					6単位	
卒業研究	演習	6										○	○		6単位		
自由科目 学芸員課程 関連科目	生涯学習概論	講義			2						○					19単位	
	博物館概論	講義			2						○						
	博物館経営論	講義			2							○					
	博物館資料論	講義			2							○					
	博物館資料保存論	講義			2							○					
	博物館展示論	講義			2								○				
	博物館博物館情報・メディア論	講義			2								○				
	博物館教育論	講義			2							○					
	博物館実習	実習			3									◎			

展開科目から一つの系の全科目を含め34単位以上を修得

8単位以上

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目(単位数の網掛け部分):所属コース内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
(基本科目)	(26)	(14)	(40)
(展開科目)	—	(34)	(34)
(発展科目)	(14)	(8)	(22)
合 計	53	71	124

3) 教育活動

授業科目	授業 形態	年次	担当教員
デザイン原論	講義・30時間	1年次前期	◎吉田 恵介 原田 昭 城間 祥之 石井 雅博
デザイン史	講義・30時間	1年次前期	◎細谷 多聞 金子 晋也
色彩設計論	講義・30時間	1年次前期	★中井 和子
造形基礎実習 I	実習・60時間	1年次前期	◎石崎 友紀 ★外崎 由香
表現基礎実習	実習・60時間	1年次前期	◎齋藤 利明 金子 晋也
デザイン方法論	講義・30時間	1年次後期	酒井 正幸
感性科学	講義・30時間	1年次後期	張 浦華
工学基礎	講義・30時間	1年次後期	◎斉藤 雅也 細谷 多聞 ★菊池 規雄 ★和田 義則
造形基礎実習 II	実習・60時間	1年次後期	◎上遠野 敏 上田 裕文 須之内 元洋
コンピュータ基礎実習 I	実習・60時間	1年次後期	★児玉 潤二郎
プログラミング I	演習・30時間	1年次後期	大淵 一博
感性デザイン論	講義・30時間	2年次前期	張 浦華
ユニバーサルデザイン論	講義・30時間	2年次前期	酒井 正幸
創造産業論	講義・30時間	2年次前期	★安田 光孝
現代芸術論	講義・30時間	2年次前期	上遠野 敏
デザイン解析論	講義・30時間	2年次前期	中原 宏
ヒューマンファクターズ入門	講義・30時間	2年次前期	小宮 加容子
近現代建築史	講義・30時間	2年次前期	◎羽深 久夫 山田 良 金子 晋也 ★池上 重康 ★小澤 丈夫 ★武田 明純 ★中渡 憲彦
設計製図基礎	演習・30時間	2年次前期	山田 良
認知科学	講義・30時間	2年次前期	片山 めぐみ
デザイン法規	講義・30時間	2年次前期	★津幡 笑
デザイン材料加工実習 I	実習・60時間	2年次前期	◎上遠野 敏 石崎 友紀 齋藤 利明
コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習・60時間	2年次前期	◎松永 康佑 ★増田 直也

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
プログラミングⅡ	演習・30時間	2年次前期	石井 雅博
エコロジーデザイン論	講義・30時間	2年次後期	矢部 和夫
情報社会論	講義・30時間	2年次後期	武田 亘明
デザイン材料加工実習Ⅱ	実習・60時間	2年次後期	◎石崎 友紀 ★川上 理恵
コンピュータ基礎実習ⅡB (ムービー)	実習・60時間	2年次後期	◎松永 康佑 ★河原 大 ★松崎 祐哉
コンピュータ基礎実習ⅡC (CAD)	実習・60時間	2年次後期	◎城間 祥之 金子 晋也
空間デザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎吉田 恵介 山田 良
空間デザイン史	講義・30時間	2年次後期	羽深 久夫
家具・インテリアデザイン	講義+演習・ 30時間	2年次後期	◎片山 めぐみ ★中村 昇 ★澤口 将達
製品デザイン論	講義・30時間	2年次後期	安齋 利典
製品造形論	講義・30時間	2年次後期	石崎 友紀
ヒューマンファクターズ	講義+演習・ 30時間	2年次後期	小宮 加容子
コンテンツデザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎細谷 多聞 城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明 大淵 一博 福田 大年 松永 康佑
コンピュータグラフィクス	講義+演習・ 30時間	2年次後期	松永 康佑
ダイナミックオブジェクトデザイン	演習・30時間	2年次後期	◎齋藤 利明 細谷 多聞
メディアデザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎須之内 元洋 上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也 杉本 達應
広告デザイン	講義+演習・ 30時間	2年次後期	吉田 和夫
メディアビジネス	演習・30時間	2年次後期	杉本 達應
デザイン総合実習Ⅰ (空間デザインコース)	実習・60時間	2年次後期	◎片山 めぐみ 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 山田 良 上田 裕文 金子 晋也
デザイン総合実習Ⅰ (製品デザインコース)	実習・60時間	2年次後期	◎石崎 友紀 酒井 正幸 安齋 利典 張 浦華 柿山 浩一郎 小宮 加容子 三谷 篤史
デザイン総合実習Ⅰ (コンテンツデザインコース)	実習・60時間	2年次後期	◎細谷 多聞 大淵 一博
デザイン総合実習Ⅰ (メディアデザインコース)	実習・60時間	2年次後期	◎吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也 杉本 達應
景観デザイン論	講義・30時間	3年次前期	◎吉田 恵介 ★原口 征人 ★三宅 理一
都市計画論	講義・30時間	3年次前期	中原 宏
建築計画論	講義・30時間	3年次前期	片山 めぐみ
環境計画論	講義・30時間	3年次前期	◎齋藤 雅也 矢部 和夫 吉田 恵介
製品計画論	講義・30時間	3年次前期	柿山 浩一郎
感性情報学	講義・30時間	3年次前期	張 浦華

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
インタラクティブデザイン	講義+演習・ 30時間	3年次前期	柿山 浩一郎
プロトタイプシミュレーション I	演習・30時間	3年次前期	三谷 篤史
コンテンツ制作システム論	講義・30時間	3年次前期	福田 大年
物語デザイン論	講義・30時間	3年次前期	松永 康佑
アニメーション I	講義+演習・ 30時間	3年次前期	福田 大年
マルチメディアコンテンツデザイン	演習・30時間	3年次前期	細谷 多聞
メディア文化史	講義・30時間	3年次前期	武田 亘明
知的財産権論	講義・30時間	3年次前期	◎★安河内 正文 ★上野 純子 ★久保 雅一 ★濱口 英樹 ★渡邊 泰師
メディア芸術論	講義・30時間	3年次前期	須之内 元洋
出版メディアデザイン	演習・30時間	3年次前期	◎吉田 和夫 杉本 達應
一般構造	講義+演習・ 30時間	3年次前期	羽深 久夫
学外実習A (インターンシップ)	実習・60時間	3年次前期 (学外での実 習は集中)	◎山田 良 柿山 浩一郎 大淵 一博 須之内 元洋
学外実習B (フィールドスタディ)	実習・60時間	3年次前期 (学外での研 修は集中)	◎福田 大年 安齋 利典 杉本 達應 金子 晋也
デザイン総合実習 II (空間デザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎金子 晋也 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 斉藤 雅也 山田 良 上田 裕文 片山 めぐみ
デザイン総合実習 II (製品デザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎三谷 篤史 酒井 正幸 安齋 利典 石崎 友紀 柿山 浩一郎 張 浦華 小宮 加容子
デザイン総合実習 II (コンテンツデザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎城間 祥之 齋藤 利明 松永 康佑
デザイン総合実習 II (メディアデザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎上遠野 敏 杉本 達應 須之内 元洋
空間デザイン法規	講義・30時間	3年次後期	★小林 宏
構造力学	講義+演習・ 30時間	3年次後期	★石丸 修二
建築構法	講義+演習・ 30時間	3年次後期	金子 晋也
構造・材料実験	実習・60時間	3年次後期	羽深 久夫
製品デザイン史	講義・30時間	3年次後期	安齋 利典
メカトロニクス	講義+演習・ 30時間	3年次後期	三谷 篤史
感性インタラクティブデザイン	演習・30時間	3年次後期	◎三谷 篤史 張 浦華
プロトタイプシミュレーション II	演習・30時間	3年次後期	柿山 浩一郎
デジタル映像史	講義・30時間	3年次後期	石田 勝也

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
バーチャルリアリティ	講義・30時間	3年次後期	石井 雅博
アニメーションⅡ	講義+演習・ 30時間	3年次後期	松永 康佑
デジタル映像コンテンツデザイン	演習・30時間	3年次後期	福田 大年
ブランド構築	講義+演習・ 30時間	3年次後期	杉本 達應
アートマネジメント論	講義・30時間	3年次後期	上遠野 敏
デジタルアーカイブ	講義+演習・ 30時間	3年次後期	須之内 元洋
インターネットメディアデザイン	演習・30時間	3年次後期	須之内 元洋
寒冷地デザイン論	講義・30時間	3年次後期	◎斉藤 雅也 山田 良
観光とデザイン	演習・30時間	3年次後期	◎上田 裕文 ★貝澤 珠美 ★久保 純一 ★今野 一彦 ★敷田 麻美 ★鈴木 宏一郎 ★結城 幸司
地場産業振興論	講義・30時間	3年次後期	★内田 純一
建築生産	講義+演習・ 30時間	3年次後期	★中村 欣嗣
学部連携演習	演習・60時間	3年次後期	◎細谷 多聞 矢部 和夫 吉田 和夫 武田 亘明 張 浦華 大淵 一博 小宮 加容子 杉本 達應 松永 康佑 金子 晋也 ◎定廣 和香子 猪股 千代子 小田 和美 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 村松 真澄 守村 洋 櫻井 繭子 田中 広美 中田 亜由美 藪谷 祐介
デザイン総合実習Ⅲ (空間デザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎山田 良 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 斉藤 雅也 上田 裕文 片山 めぐみ 金子 晋也
デザイン総合実習Ⅲ (製品デザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎張 浦華 酒井 正幸 安齋 利典 石崎 友紀 柿山 浩一郎 小宮 加容子 三谷 篤史
デザイン総合実習Ⅲ (コンテンツデザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎石井 雅博 福田 大年
デザイン総合実習Ⅲ (メディアデザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也 杉本 達應 須之内 元洋
建築設備計画	講義+演習・ 30時間	4年次前期	斉藤 雅也
住宅論	講義・30時間	4年次前期	山田 良
ロボティクス	講義+演習・ 30時間	4年次前期	三谷 篤史
ヒューマンケア機器デザイン	演習・30時間	4年次前期	◎小宮 加容子 張 浦華
デジタル音響デザイン	講義+演習・ 30時間	4年次前期	◎★久保 壽光 ★伊藤 博之
ネットワークシステムデザイン	演習・30時間	4年次前期	大淵 一博

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
コンテンツ流通技術	講義+演習・ 30時間	4年次前期	石田 勝也
放送メディアデザイン	演習・30時間	4年次前期	杉本 達應
デザインマネジメント	演習・30時間	4年次前期	安齋 利典
起業論	講義・30時間	4年次前期	★小林 元
デザイン英語	演習・30時間	4年次前期	松井 美穂
構造力学Ⅱ	講義+演習・ 30時間	4年次前期	★石丸 修二
卒業研究（空間デザインコース）	演習・90時間	4年次全期	◎中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 斉藤 雅也 山田 良 上田 裕文 片山 めぐみ 金子 晋也
卒業研究（製品デザインコース）	演習・90時間	4年次全期	◎石崎 友紀 酒井 正幸 安齋 利典 柿山 浩一郎 張 浦華 小宮 加容子 三谷 篤史
卒業研究 （コンテンツデザインコース）	演習・90時間	4年次全期	◎細谷 多聞 城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明 大淵 一博 福田 大年 松永 康佑
卒業研究 （メディアデザインコース）	演習・90時間	4年次全期	◎吉田 和夫 上遠野 敏 武田 亘明 石田 勝也 杉本 達應 須之内 元洋
生涯学習概論	講義・30時間	3年次前期	★木村 純
博物館概論	講義・30時間	3年次前期	◎矢部 和夫 ★岩崎 直人 ★山田 悟郎
博物館資料論	講義・30時間	3年次前期	◎★岩崎 直人 ★天野 哲也
博物館教育論	講義・30時間	3年次前期	★細川 健裕
博物館経営論	講義・30時間	3年次後期	★佐藤 幸宏
博物館資料保存論	講義・30時間	3年次後期	★福岡 孝
博物館展示論	講義・30時間	3年次後期	◎★亀谷 隆 ★吉崎 元章
博物館情報・メディア論	講義・30時間	3年次後期	武田 亘明
博物館実習	実習・90時間	4年次前期 (学外での実 習は集中)	矢部 和夫

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4 看護学部

1) 平成27年度時間割

① 1年前期

		月		火	水	木	金
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)				
1	9:00 ~ 10:30				情報リテラシー I	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ~ 12:10	看護観察技術論			情報リテラシー I	英語 I A 英語 I B 日本語表現法	哲学と倫理
3	13:10 ~ 14:40	形態機能学 I	形態機能学 I	形態機能学 II	英語 I A 英語 I C 日本語表現法	英語 I A 英語 I B 日本語表現法	札幌を学ぶ
4	14:50 ~ 16:20	形態機能学 I	形態機能学 I	形態機能学 II	英語 I A 英語 I C 日本語表現法	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C
5	16:30 ~ 18:00	看護学原論	地域保健学概論	人間発達援助論	自然科学を学ぶ		基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C

② 1年後期

		月		火		水	木	金
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)			
1	9:00 ~ 10:30	病理病態学	看護過程論	看護過程論		芸術と文化		情報リテラシー II
								手話
2	10:40 ~ 12:10	病理病態学	看護理論	看護過程論		宗教と思想 動物の暮らし	現代社会と家族 心のしくみ	情報リテラシー II
								手話
3	13:10 ~ 14:40	基礎看護技術論		薬理学		英語 II A 英語 II B 英語 II C プレゼンテーション	英語 II A 英語 II B 英語 II C プレゼンテーション	現代社会と経済
4	14:50 ~ 16:20	基礎看護技術論		感染予防論		英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション
5	16:30 ~ 18:00						統計の世界	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション

③ 2年前期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30			現代社会と国際関係 生活と文化	生命科学		成人看護学概論	家族社会学	老年看護学概論	環境保健
2	10:40 ~ 12:10	疾病治療学B		実践英語A 実践英語B	医療情報				臨床栄養学	
3	13:10 ~ 14:40	精神看護学概論	成人看護援助論	実践英語A 実践英語B	生命倫理	社会福祉学	疾病治療学概論		症状マネジメント論	
4	14:50 ~ 16:20		成人看護援助論	環境を考える ジェンダーと文化	公衆衛生学	社会福祉学			症状マネジメント論	
5	16:30 ~ 18:00		人間工学	グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える	公衆衛生学		疾病治療学A			

④ 2年後期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30		精神看護援助論				臨床薬理学			
2	10:40 ~ 12:10	母性看護学概論	精神看護援助論	日本国憲法を学ぶ	疾病治療学C		小児看護学概論	看護倫理学	臨床心理学	
3	13:10 ~ 14:40	感染管理論		中国語 ロシア語 実践英語B	健康とスポーツ		老年看護援助論	がん看護学	援助の人間関係論	在宅看護援助論
4	14:50 ~ 16:20	在宅看護学概論		中国語 ロシア語	韓国語		老年看護援助論	がん看護学	援助の人間関係論	在宅看護援助論
5	16:30 ~ 18:00	教育を考える			公衆衛生看護学概論			チーム医療論		

⑤ 3年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30	認知症ケア		在宅看護 技術論		成人看護 技術論		保健医療 福祉行政 論 I		保健統計	
2	10:40 ~ 12:10	認知症ケア		在宅看護 技術論		成人看護 技術論		保健医療 福祉行政 論 I		保健統計	
3	13:10 ~ 14:40			母性看護 援助論		疫学 I		リハビリ テーショ ン看護学		精神看護 技術論	
4	14:50 ~ 16:20	小児看護 援助論		母性看護 援助論				リハビリ テーショ ン看護学		精神看護 技術論	
5	16:30 ~ 18:00	小児看護 援助論									

⑥ 3年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30	研究方法論		健康教育 指導法		看護教育学		公衆衛生看護 援助論 (前半I/後半II)		老年看護 技術論	
2	10:40 ~ 12:10	研究方法論		健康教育 指導法		透析ケア		公衆衛生看護 援助論 (前半I/後半II)		老年看護 技術論	
3	13:10 ~ 14:40	公衆衛生看護 援助論 (前半I/後半II)						小児看護 技術論		重症集中ケア	
4	14:50 ~ 16:20	公衆衛生看護 援助論 (前半I/後半II)						小児看護 技術論		母性看護 技術論	
5	16:30 ~ 18:00	救急看護学		学部連携演習				放射線医 療管理論		母性看護 技術論	



⑦ 4年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ∩ 10:30	国際保健学		バリアテ ィブケア		看護管理学				ヘルスプロ モーション 活動論	
2	10:40 ∩ 12:10	現代専門職論		災害看護学		看護管理学				ヘルスプロ モーション 活動論	
3	13:10 ∩ 14:40	公衆衛生看 護技術論		医療経営学		看護情報学		卒業研究		医療安全 管理論	
4	14:50 ∩ 16:20	公衆衛生看 護技術論		寒冷地医療				卒業研究		ペリネイ タルケア	
5	16:30 ∩ 18:00			国際看護学							

⑧ 4年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ∩ 10:30	保健医療福祉行政論Ⅱ				公衆衛生看護管理論					
2	10:40 ∩ 12:10	保健医療福祉行政論Ⅱ				公衆衛生看護管理論					
3	13:10 ∩ 14:40					疫学Ⅱ		卒業研究			
4	14:50 ∩ 16:20							卒業研究			
5	16:30 ∩ 18:00										

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成21～23年度（編入学生は23～25年度）入学生用

区分	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数			配当年次（◎は集中で開講）								卒業 要件 単位			
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次					
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	10	演習	2				○								2単位	
	文化に 対する 理 解	哲学と倫理	11	講義		2			○									4単位 以上
		宗教と思想	26	講義		2			○									
		芸術と文化	27	講義		2			○									
		環境を考える	39	講義		2					○							
		教育を考える	51	講義		2						○						
	人間に 対する 理 解	生活と文化	40	講義			2				◎							4単位 以上
		心のしくみ	28	講義		2			○									
		体のしくみ	12	講義		2			○									
		ジェンダーを考える	41	講義		2					○							
		人間関係を考える	13	講義		2			○									
	社会に 対する 理 解	健康とスポーツ	42	講義		2						○						6単位 以上
		自然科学を学ぶ	14	講義			2		○									
		動物のくらし	29	講義			2		○									
		現代社会と家族	30	講義		2			○									
		現代社会と国際関係	43	講義		2					○							
	外国語	現代社会と経済	31	講義		2				○								8単位 以上
		札幌を学ぶ	15	講義		2			○									
		ボランティア活動を考える	44	講義		2					○							
		統計の世界	32	講義	2					○								
日本国憲法を学ぶ		52	講義			2					○							
コミュニケーション科目	英語 I A	16	演習	1				○									4単位 以上	
	英語 I B	17	演習	1				○										
	英語 I C	18	演習	1				○										
	英語 II A	33	演習	1					○									
	英語 II B	34	演習	1					○									
	英語 II C	35	演習	1					○									
	実践英語A	45	演習		1					○								
	実践英語B	46	演習		1					○	○							
	韓国語	53	演習	1							○							
	中国語	48	演習	1							○							
ロシア語	49	演習	1							○								
情報技術	日本語表現法	19	演習	1				○									5単位 以上	
	プレゼンテーション	36	演習	1					○									
	基礎カウンセリング	21	演習	1				○										
	対人コミュニケーション グループ・ダイナミックス	37	演習	1					○									
	グループ・ダイナミックス	50	演習	1						○								
	手話	38	演習	1						○								
人間と命	情報リテラシー I	22	演習	1				○									10単位	
	情報リテラシー II	24	演習	1					○									
	形態機能学 I	182	演習	2				○										
	形態機能学 II	183	演習	2					○									
	生命科学	196	講義		1					○								
	生命倫理	197	講義		1					○								
	環境保健	198	講義		1					○								
	人間工学	199	講義		1					○								
	薬理学	189	講義		1					○								
	臨床薬理学	214	演習		1						○							
	臨床栄養学	200	演習		1						○							
	病理病態学	190	演習		2					○								
	疾病治療学概論	201	演習		1						○							
	疾病治療学A	202	演習		1						○							
	疾病治療学B	203	演習		1						○							
疾病治療学C	215	演習		1						○								
感染予防論	191	講義		1					○									
保健と医 療と福祉	公衆衛生学	204	演習		1					○							7単位 以上	
	社会福祉学	205	講義		1					○								
	家族社会学	206	講義			1					○							
	チーム医療論	216	講義			1					○							
	感染管理論	217	講義			1					○							
	臨床心理学	218	講義			1					○							
	地域保健学概論	184	講義		1				○									
	保健医療福祉行政論	—	演習		1							○						
	保健統計	231	演習		1							○						
医療情報	207	演習		1						○								

※自由科目は卒業要件単位に含まれません。



区分	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数			配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位		
				必修	選択	保健師 コース 必修	1年次		2年次		3年次		4年次				
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
看護の基礎となるもの	看護学原論	185	講義	1			○										7単位
	看護理論	192	講義	1				○									
	援助的人間関係論	219	演習	1						○							
	人間発達援助論	186	演習	1			○										
	看護初期実習	187	実習	1			◎										
	看護倫理学	220	講義	1						○							
	健康教育指導法	244	演習	1							○						
	看護過程論	193	演習	1				○									
	看護観察技術論	188	演習	1			○										
	看護の基本的展開	症状マネジメント論	208	演習	2				○								
	基礎看護技術論	194	演習	2				○									
	基礎看護学臨床実習 I	195	実習	1				◎									
	基礎看護学臨床実習 II	209	実習	2					◎								
	研究方法論	245	演習	1							○						
	小児看護学概論	221	講義	1						○							
	小児看護援助論	233	演習	1							○						
健康レベルに応じて生活を援助するもの	小児看護学技術論	246	演習	1								○				5単位	
	小児看護学臨床実習	247	実習	2								◎					
	母性看護学概論	222	講義	1						○							
	母性看護援助論	234	演習	1							○						
	母性	母性看護技術論	248	演習	1								○			5単位	
		母性看護学臨床実習	249	実習	2								◎				
		成人看護学概論	210	講義	1					○							8単位
		成人看護援助論	211	演習	1					○							
	成人看護技術論	235	演習	1						○							
	成人看護学臨床実習 I	223	実習	3						◎							
成人看護学臨床実習 II	236	実習	2							◎							
成人	老年看護学概論	212	講義	1					○						6単位		
	老年看護援助論	224	演習	1						○							
	老年看護技術論	250	演習	1								○					
	老年看護学臨床実習 I	237	実習	1							◎						
老年	老年看護学臨床実習 II	251	実習	2								◎			5単位		
	精神看護学概論	213	講義	1				○									
	精神看護援助論	225	演習	1						○							
	精神看護技術論	238	演習	1							○						
精神	精神看護学臨床実習	239	実習	2								◎			5単位		
	在宅看護学概論	226	講義	1						○						5単位	
	在宅看護援助論	227	演習	1						○							
	在宅看護技術論	240	演習	1							○						
在宅看護学臨床実習	241	実習	2								◎						
健康問題への対応	リハビリテーション看護学	242	演習	1							○				5単位以上		
	がん看護学	228	演習	1						○							
	認知症ケア	243	演習	1							○						
	透析ケア	252	講義		1							○					
	重症集中ケア	253	講義		1							○					
	救急看護学	254	講義		1							○					
	放射線医療管理論	255	講義		1							○					
	ペリネイタルケア	260	講義		1								○				
	バリアティブケア	261	講義		1									○			
	寒冷地医療	262	講義		1												
コミュニティケアに関するもの	地域看護学概論	—	講義	1							○				9単位		
	地域看護援助論	—	演習	2								○					
	地域看護技術論	263	演習	1									○				
	ヘルスプロモーション活動論	264	演習	1									○				
	地域看護学臨床実習 I	265	実習	2									◎				
	地域看護学臨床実習 II	266	実習	2									◎				
発展・統合に関するもの	看護管理学	267	演習	1									○		11単位以上		
	看護教育学	258	講義	1							○						
	卒業研究	276	演習	4									○	○			
	ヘルスケアマネジメント実習	275	実習	3										◎			
	看護情報学	268	講義		1								○				
	災害看護学	269	講義		1								○				
	国際看護学	270	講義		1								○				
	国際保健学	271	講義		1								○				
	医療経営学	272	講義		1								○				
	医療安全管理論	273	講義		1								○				
現代専門職論	274	講義		1								○					
学部連携	学部連携演習	259	演習	2								○		2単位			



平成24～25年度（編入学生は26～27年度）入学生用

区分	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数		配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位				
				必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次						
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	10	演習	2		○										2単位	
	文化に 対する 理解	哲学と倫理	11	講義		2		○										4単位 以上
		宗教と思想	26	講義		2			○									
		芸術と文化	27	講義		2			○									
		教育を考える	51	講義		2					○							
		生活と文化	40	講義		2					○							
	人間と 自然に 対する 理解	ジェンダーと文化	41	講義		2					○							4単位 以上
		心のしくみ	28	講義		2			○									
		体のしくみ	12	講義		2			○									
		人間関係を考える	13	講義		2			○									
		健康とスポーツ	42	講義		2						○						
		環境を考える	39	講義		2					○							
	社会に 対する 理解	自然科学を学ぶ	14	講義		2			○									6単位 以上
		動物の暮らし	29	講義		2				○								
		現代社会と家族	30	講義		2				○								
		現代社会と国際関係	43	講義		2					○							
		現代社会と経済	31	講義		2					○							
		札幌を学ぶ	15	講義		2			○									
	外国語	ボランティア活動を考える	44	講義		2					○							8単位 以上
		統計の世界	32	講義	2					○								
		日本国憲法を学ぶ	52	講義		2						○						
		英語 I A	16	演習	1				○									
		英語 I B	17	演習	1				○									
		英語 I C	18	演習	1				○									
	コミュニ ケーション 科目	英語 II A	33	演習	1					○								4単位 以上
		英語 II B	34	演習	1					○								
		英語 II C	35	演習	1					○								
		実践英語A	45	演習		1					○							
		実践英語B	46	演習		1					○							
		韓国語	53	演習		1						○						
中国語		47	演習		1						○							
ロシア語		49	演習		1						○							
日本語表現法		19	演習		1			○										
プレゼンテーション		36	演習		1				○									
情報技術	基礎カウンセリング	21	演習		1			○									5単位 以上	
	対人コミュニケーション	37	演習		1				○									
	グループ・ダイナミクス	50	演習		1					○								
	手話	38	演習		1					○								
	情報リテラシー I	22	演習		1			○										
	情報リテラシー II	24	演習		1				○									
専門基礎科目	形態機能学 I	182	演習	2				○									5単位 以上	
	形態機能学 II	183	演習	2					○									
	生命科学	196	講義		1					○								
	生命倫理	197	講義		1					○								
	環境保健	198	講義		1					○								
	人間工学	199	講義		1					○								
	健康と健康 障害と予防	薬理学	189	講義	2				○									12単位
		臨床薬理学	214	演習	1						○							
		臨床栄養学	200	演習	1						○							
		病理病態学	190	演習	2					○								
		疾病治療学概論	201	演習	1						○							
		疾病治療学A	202	演習	1						○							
		疾病治療学B	203	演習	1						○							
		疾病治療学C	215	演習	1						○							
	感染予防論	191	講義	2				○										
保健と医 療と福祉	公衆衛生学	204	演習	1						○							9単位 以上 (保健師 コース 11単位 以上)	
	社会福祉学	205	講義	1						○								
	家族社会学	206	講義		1					○								
	チーム医療論	216	講義		1						○							
	感染管理論	217	講義		1						○							
	臨床心理学	218	講義		1						○							
	地域保健学概論	184	講義	1				○										
	保健医療福祉行政論 I	230	演習	1							○							
	保健医療福祉行政論 II	-	演習		1							○						
	保健統計	231	講義	2							○							
疫学 I	232	講義	1							○								
疫学 II	-	講義		1							○							
医療情報	207	演習	1						○									

区分	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数			配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位			
				必修	選択	保健師 コース 必修	1年次		2年次		3年次		4年次					
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門 教育科目	看護の基礎となるもの	看護学原論	185	講義	1													7単位
		看護理論	192	講義	1			○										
		援助的人間関係論	219	演習	1						○							
		人間発達援助論	186	演習	1			○										
		看護初期実習	187	実習	1			◎										
		看護倫理学	220	講義	1						○							
		健康教育指導法	244	演習	1							○						
	看護の基本的展開	看護過程論	193	演習	1				○									10単位
		看護観察技術論	188	演習	1			○										
		症状マネジメント論	208	演習	2					○								
		基礎看護技術論	194	演習	2					○								
		基礎看護学臨地実習Ⅰ	195	実習	1						◎							
		基礎看護学臨地実習Ⅱ	209	実習	2						◎							
		研究方法論	245	演習	1								○					
	小児	小児看護学概論	221	講義	1						○							5単位
		小児看護援助論	233	演習	1							○						
		小児看護技術論	246	演習	1								○					
		小児看護学臨地実習	247	実習	2								◎					
	母性	母性看護学概論	222	講義	1						○							5単位
		母性看護援助論	234	演習	1							○						
		母性看護技術論	248	演習	1								○					
		母性看護学臨地実習	249	実習	2								◎					
	成人	成人看護学概論	210	講義	1					○								8単位
		成人看護援助論	211	演習	1						○							
成人看護技術論		235	演習	1								○						
成人看護学臨地実習Ⅰ		223	実習	3							◎							
成人看護学臨地実習Ⅱ		236	実習	2								◎						
老年	老年看護学概論	212	講義	1						○							6単位	
	老年看護援助論	224	演習	1							○							
	老年看護技術論	250	演習	1									○					
	老年看護学臨地実習Ⅰ	237	実習	1								◎						
精神	精神看護学概論	213	講義	1						○							5単位	
	精神看護援助論	225	演習	1							○							
	精神看護技術論	238	演習	1								○						
	精神看護学臨地実習	239	実習	2								◎						
在宅	在宅看護学概論	226	講義	1							○						5単位	
	在宅看護援助論	227	演習	1								○						
	在宅看護技術論	240	演習	1									○					
	在宅看護学臨地実習	241	実習	2									◎					
健康問題への対応	リハビリテーション看護学	242	演習	1								○					5単位以上	
	がん看護学	228	演習	1								○						
	認知症ケア	243	演習	1									○					
	透析ケア	252	講義		1									○				
	重症集中ケア	253	講義		1									○				
	救急看護学	254	講義		1									○				
	放射線医療管理論	255	講義		1									○				
	パリエイタルケア	260	講義		1										○			
	パリアティブケア	261	講義		1										○			
寒冷地医療	262	講義		1										○				
コミュニ ティケア に関する もの	公衆衛生看護学概論	229	講義	1							○						2単位 (保健 師コース10単位)	
	公衆衛生看護援助論Ⅰ	256	演習	1								○						
	公衆衛生看護援助論Ⅱ	257	演習		1								○					
	公衆衛生看護技術論	—	演習		1									○				
	ヘルスプロモーション活動論	264	演習		1										○			
	公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ	—	実習		2										◎			
発展・統 合に 関する もの	看護管理学	267	演習	1											○		12単位 以上	
	看護教育学	258	講義	1											○			
	卒業研究	276	演習	4											○	○		
	ヘルスケアマネジメント実習	275	実習	3												◎		
	公衆衛生看護管理論	—	講義		1											○		
	看護情報学	268	講義		1										○			
	災害看護学	269	講義		1										○			
	国際看護学	270	講義		1										○			
	国際保健学	271	講義		1										○			
	医療経営学	272	講義		1										○			
	医療安全管理論	273	講義		1										○			
	現代専門職論	274	講義		1										○			
	学部連携	学部連携演習	259	演習	2										○			2単位

※単位数(選択)の網掛け部分と保健師コース必修部分は、保健師コース選択の学生の必修科目です。
(保健師コース必修部分は看護師コースの学生は履修できません。)

平成26年度（編入学生は28年度）以降入学生用

区分	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数			配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位			
				必修	選択	保健師 必修	1年次		2年次		3年次		4年次					
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	10	演習	2			○									2単位	
	文化に 対する 理解	哲学と倫理	11	講義		2			○									4単位 以上
		宗教と思想	26	講義		2			○									
		芸術と文化	27	講義		2			○									
		教育を考える	51	講義		2					○							
		生活と文化	40	講義		2					○							
	人間と 自然に 対する 理解	ジェンダーと文化	41	講義		2					○							4単位 以上
		心のしくみ	28	講義		2			○									
		体のしくみ	12	講義		2			○									
		人間関係を考える	13	講義		2			○									
		健康とスポーツ	42	講義		2						○						
		環境を考える	39	講義		2					○							
	社会に 対する 理解	自然科学を学ぶ	14	講義		2			○									6単位 以上
		動物の暮らし	29	講義		2					○							
		現代社会と家族	30	講義		2					○							
		現代社会と国際関係	43	講義		2						○						
		現代社会と経済	31	講義		2					○							
		札幌を学ぶ	15	講義		2			○									
	外国語	ボランティア活動を考える	44	講義		2						○						8単位 以上
		統計の世界	32	講義	2						○							
		日本国憲法を学ぶ	52	講義		2							○					
		英語 I A	16	演習	1				○									
		英語 I B	17	演習	1				○									
		英語 I C	18	演習	1				○									
	コミュニ ケーション 科目	英語 II A	33	演習	1					○								4単位 以上
		英語 II B	34	演習	1					○								
		英語 II C	35	演習	1					○								
		実践英語A	45	演習		1						○						
		実践英語B	46	演習		1						○						
		韓国語	53	演習		1							○					
中国語		47	演習		1							○						
ロシア語		49	演習		1							○						
日本語表現法		19	演習		1			○										
プレゼンテーション		36	演習		1				○									
情報技術	基礎カウンセリング	21	演習		1			○									5単位 以上	
	対人コミュニケーション	37	演習		1				○									
	グループ・ダイナミクス	50	演習		1					○								
	手話	38	演習		1					○								
	情報リテラシー I	22	演習		1			○										
	情報リテラシー II	24	演習		1				○									
専門基礎科目	人間と命	形態機能学 I	182	演習	2			○									5単位 以上	
		形態機能学 II	183	演習	2			○										
		生命科学	196	講義		1					○							
		生命倫理	197	講義		1					○							
		環境保健	198	講義		1					○							
	健康と健康 障害と予防	人間工学	199	講義		1					○							
		薬理学	189	講義		2				○								
		臨床薬理学	214	演習		1						○						
		臨床栄養学	200	演習		1					○							
		病理病態学	190	演習		2				○								
		疾病治療学概論	201	演習		1					○							
		疾病治療学A	202	演習		1						○						
		疾病治療学B	203	演習		1						○						
		疾病治療学C	215	演習		1						○						
		感染予防論	191	講義		2			○									
保健と医 療と福祉	公衆衛生学	204	演習		1					○							9単位 以上 (保健師 コース 11単位 以上)	
	社会福祉学	205	講義		1					○								
	家族社会学	206	講義		1					○								
	チーム医療論	216	講義		1						○							
	感染管理論	217	講義		1						○							
	臨床心理学	218	講義		1						○							
	地域保健学概論	184	講義		1			○										
	保健医療福祉行政論 I	230	演習		1							○						
	保健医療福祉行政論 II	-	演習		1								○					
	保健統計	231	講義		2						○							
疫学 I	232	講義		1						○								
疫学 II	-	講義		1							○							
医療情報	207	演習		1					○									

区分	授業科目	授業計画 (シラバス) 掲載頁	授業形態	単位数			配当年次 (◎は集中で開講)								卒業 要件 単位			
				必修	選択	保健師 コース 必修	1年次		2年次		3年次		4年次					
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
看護の基礎となるもの	看護学原論	185	講義	1			○											7単位
	看護理論	192	講義	1				○										
	援助的人間関係論	219	演習	1						○								
	人間発達援助論	186	演習	1			○											
	看護初期実習	187	実習	1			◎											
	看護倫理学	220	講義	1						○								
	健康教育指導法	244	演習	1							○							
	看護の基本的展開	看護過程論	193	演習	1			○										10単位
		看護観察技術論	188	演習	1			○										
		症状マネジメント論	208	演習	2					○								
		基礎看護技術論	194	演習	2				○									
		基礎看護学臨地実習Ⅰ	195	実習	1					◎								
		基礎看護学臨地実習Ⅱ	209	実習	2					◎								
		研究方法論	245	演習	1								○					
	小児	小児看護学概論	221	講義	1						○							5単位
		小児看護援助論	233	演習	1							○						
		小児看護技術論	246	演習	1								○					
		小児看護学臨地実習	247	実習	2								◎					
	母性	母性看護学概論	222	講義	1						○							5単位
		母性看護援助論	234	演習	1							○						
		母性看護技術論	248	演習	1								○					
		母性看護学臨地実習	249	実習	2								◎					
	成人	成人看護学概論	210	講義	1				○									8単位
		成人看護援助論	211	演習	1					○								
成人看護技術論		235	演習	1								○						
成人看護学臨地実習Ⅰ		223	実習	3						◎								
成人看護学臨地実習Ⅱ		236	実習	2							◎							
老年	老年看護学概論	212	講義	1					○								6単位	
	老年看護援助論	224	演習	1						○								
	老年看護技術論	250	演習	1								○						
	老年看護学臨地実習Ⅰ	237	実習	1							◎							
精神	精神看護学概論	213	講義	1				○									5単位	
	精神看護援助論	225	演習	1						○								
	精神看護技術論	238	演習	1								○						
	精神看護学臨地実習	239	実習	2								◎						
在宅	在宅看護学概論	226	講義	1						○							5単位	
	在宅看護援助論	227	演習	1							○							
	在宅看護技術論	240	演習	1								○						
	在宅看護学臨地実習	241	実習	2								◎						
健康問題への対応	リハビリテーション看護学	242	演習	1							○						5単位以上	
	がん看護学	228	演習	1						○								
	認知症ケア	243	演習	1								○						
	透析ケア	252	講義		1								○					
	重症集中ケア	253	講義		1								○					
	救急看護学	254	講義		1								○					
	放射線医療管理論	255	講義		1								○					
	パリエイタルケア	260	講義		1									○				
	バリアティブケア	261	講義		1									○				
寒冷地医療	262	講義		1									○					
コミュニティケアに関するもの	公衆衛生看護学概論	229	講義	1						○							2単位 (保健師コース10単位)	
	公衆衛生看護援助論Ⅰ	256	演習	1								○						
	公衆衛生看護援助論Ⅱ	257	演習		1								○					
	公衆衛生看護技術論	—	演習		1									○				
	ヘルスプロモーション活動論	264	演習		1									○				
	公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ	—	実習			2								◎				
発展・統合に関するもの	看護管理学	267	演習	1											○		12単位以上	
	看護教育学	258	講義	1										○				
	卒業研究	276	演習	4											○	○		
	ヘルスクエアマネジメント実習	275	実習	3											◎	◎		
	公衆衛生看護管理論	—	講義		1										○			
	看護情報学	268	講義		1										○			
	災害看護学	269	講義		1										○			
	国際看護学	270	講義		1										○			
	国際保健学	271	講義		1										○			
	医療経営学	272	講義		1										○			
	医療安全管理論	273	講義		1										○			
	現代専門職論	274	講義		1										○			
学部連携	学部連携演習	259	演習	2									○			2単位		

※単位数 (選択) の網掛け部分は保健師コース必修部分、保健師コース選択の学生の必修科目です。
(保健師コース必修部分は看護師コースの学生は履修できません。)

② 卒業要件

平成21～23年度（編入学生は23～25年度）入学生

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	94	6	100
(専門基礎科目)	(20)	(2)	(22)
(専門科目)	(74)	(4)	(78)
合 計	106	22	128

平成24年度（編入学生は26年度）以降入学生

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	91	7	98
(専門基礎科目)	(24)	(2)	(26)
(専門科目)	(67)	(5)	(72)
合 計	103	23	126

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
形態機能学Ⅰ	演習・60時間	1年次前期	★高野 廣子
形態機能学Ⅱ	演習・60時間	1年次前期	★高野 廣子
地域保健学概論	講義・15時間	1年次前期	◎清水 光子 河原田 まり子
看護学原論	講義・15時間	1年次前期	◎定廣 和香子 猪股 千代子
人間発達援助論	演習・30時間	1年次前期	◎山本 勝則 中村 恵子 松浦 和代 宮崎 みち子
看護初期実習	実習・45時間	1年次前期	◎村松 真澄 上村 浩太 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 清水 光子 菅原 美樹 古都 昌子 守村 洋 神島 滋子 櫻井 繭子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 矢野 祐美子
看護観察技術論	演習・30時間	1年次前期	◎檜山 明子 大野 夏代 田中 広美 小田嶋 裕輝
薬理学	講義・30時間	1年次後期	★松本 真知子
病理病態学	演習・60時間	1年次後期	★小林 正伸
感染予防論	講義・30時間	1年次後期	★永坂 敦
看護理論	講義・15時間	1年次後期	定廣 和香子 檜山 明子
看護過程論	演習・30時間	1年次後期	◎古都 昌子 大野 夏代 田中 広美 小田嶋 裕輝 檜山 明子
基礎看護技術論	演習・60時間	1年次後期	◎田中 広美 樋之津 淳子 大野 夏代 古都 昌子 小田嶋 裕輝 檜山 明子



授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
基礎看護学臨地実習 I	実習・45時間	1年次後期	◎田中 広美 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 古都 昌子 工藤 京子 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 坂東 奈穂美 檜山 明子 星 幸江 御厩 美登里 横川 亜希子
生命科学	講義・15時間	2年次前期	★山田 恵子
生命倫理	講義・15時間	2年次前期	★市毛 幹彦
環境保健	講義・15時間	2年次前期	★齋藤 健
人間工学	講義・15時間	2年次前期	◎樋之津 淳子 檜山 明子 ★佐藤 秀一
臨床栄養学	演習・30時間	2年次前期	★高野 良子
疾病治療学概論	演習・30時間	2年次前期	◎★高野 廣子 ★伊東 義忠
疾病治療学A	演習・30時間	2年次前期	◎★甲谷 哲郎 ★秋江 研志 ★和田 典男
疾病治療学B	演習・30時間	2年次前期	★永坂 敦
公衆衛生学	演習・30時間	2年次前期	★築島 恵理
社会福祉学	講義・15時間	2年次前期	★大内 高雄
家族社会学	講義・15時間	2年次前期	◎原 俊彦 小田 和美 松浦 和代
医療情報	演習・30時間	2年次前期	★小笠原 克彦
症状マネジメント論	演習・60時間	2年次前期	◎貝谷 敏子 菅原 美樹 村松 真澄 神島 滋子 工藤 京子 藤井 瑞恵 柏倉 大作
基礎看護学臨地実習 II	実習・90時間	2年次前期	◎大野 夏代 定廣 和香子 樋之津 淳子 古都 昌子 工藤 京子 田中 広美 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 坂東 奈穂美 檜山 明子 星 幸江 横川 亜希子
成人看護学概論	講義・15時間	2年次前期	◎川村 三希子 中村 恵子 小田 和美
成人看護援助論	講義・30時間	2年次前期	◎藤井 瑞恵 小田 和美 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 工藤 京子 柏倉 大作
老年看護学概論	講義・15時間	2年次前期	村松 真澄
精神看護学概論	講義・15時間	2年次前期	山本 勝則
臨床薬理学	演習・30時間	2年次後期	★唯野 貢司 ★後藤 仁和
疾病治療学C	演習・30時間	2年次後期	★三澤 一仁
チーム医療論	講義・15時間	2年次後期	◎坂東 奈穂美 猪股 千代子 矢野 祐美子
感染管理論	講義・15時間	2年次後期	◎スーディ神崎和代 ★土佐 理恵子
臨床心理学	講義・15時間	2年次後期	◎山本 勝則 ★菊池 浩光
援助の人間関係論	演習・30時間	2年次後期	◎守村 洋 山本 勝則 古都 昌子 藤井 瑞恵
看護倫理学	講義・15時間	2年次後期	宮崎 みち子 古都 昌子
小児看護学概論	講義・15時間	2年次後期	松浦 和代
母性看護学概論	講義・15時間	2年次後期	宮崎 みち子



授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
成人看護学臨地実習 I	実習・135時間	2年次後期	◎菅原 美樹 小田 和美 川村 三希子 貝谷 敏子 神島 滋子 工藤 京子 藤井 瑞恵 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 坂東 奈穂美 檜山 明子 星 幸江 御厩 美登里 横川 亜希子
老年看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎村松 真澄 原井 美佳 ★川人 由美子
精神看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎守村 洋 山本 勝則 ★武村 史 ★松原 良次
在宅看護学概論	講義・15時間	2年次後期	スーディ神崎和代
在宅看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代 ★石崎 剛
がん看護学	演習・30時間	2年次後期	◎川村 三希子 松浦 和代 貝谷 敏子
公衆衛生看護学概論	講義・15時間	2年次後期	◎河原田 まり子 清水 光子
保健医療福祉行政論 I	演習・30時間	3年次前期	◎櫻井 繭子 清水 光子 守村 洋 田仲 里江
保健統計	講義・30時間	3年次前期	◎★片倉 洋子 ★榎 洋一
疫学 I	講義・15時間	3年次前期	★喜多 歳子
小児看護援助論	演習・30時間	3年次前期	◎上村 浩太 松浦 和代 三上 智子 ★川村 信明
母性看護援助論	演習・30時間	3年次前期	◎山本 真由美 渡邊 由加利 石引 かずみ ★菅原 照夫
成人看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎工藤 京子 小田 和美 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 藤井 瑞恵 柏倉 大作
成人看護学臨地実習 II	実習・90時間	3年次前期	◎神島 滋子 小田 和美 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 工藤 京子 藤井 瑞恵 柏倉 大作
老年看護学臨地実習 I	実習・45時間	3年次前期	◎原井 美佳 村松 真澄
精神看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎守村 洋 山本 勝則
精神看護学臨地実習	実習・90時間	3年次前期	◎守村 洋 山本 勝則 星 幸江
在宅看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代
在宅看護学臨地実習	実習・90時間	3年次前期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代
リハビリテーション看護学	演習・30時間	3年次前期	◎神島 滋子 柏倉 大作 ★山中 康裕 ★石井 陽史
認知症ケア	演習・30時間	3年次前期	スーディ神崎和代
健康教育指導法	演習・30時間	3年次後期	◎田仲 里江 清水 光子 櫻井 繭子 近藤 圭子
研究方法論	演習・30時間	3年次後期	◎貝谷 敏子 松浦 和代 神島 滋子
小児看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎三上 智子 松浦 和代 上村 浩太
小児看護学臨地実習	実習・90時間	3年次後期	◎上村 浩太 松浦 和代 三上 智子
母性看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎石引 かずみ 渡邊 由加利 山本 真由美



授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
母性看護学臨地実習	実習・90時間	3年次後期	◎山本 真由美 渡邊 由加利 石引 かずみ 宮崎 みち子
老年看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎原井 美佳 村松 真澄
老年看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	3年次後期	◎村松 真澄 原井 美佳
透析ケア	講義・15時間	3年次後期	◎藤井 瑞恵 ★木村 剛
重症集中ケア	講義・15時間	3年次後期	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★高橋 正浩
救急看護学	講義・15時間	3年次後期	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★三上 剛人
放射線医療管理論	講義・15時間	3年次後期	◎★池田 光 ★神島 保
公衆衛生看護援助論Ⅰ	演習・30時間	3年次後期	◎櫻井 繭子 清水 光子 田仲 里江
公衆衛生看護援助論Ⅱ	演習・30時間	3年次後期	◎清水 光子 櫻井 繭子 近藤 圭子 田仲 里江
看護教育学	講義・15時間	3年次後期	◎定廣 和香子 田中 広美
学部連携演習	演習・60時間	3年次後期	◎定廣 和香子 猪股 千代子 小田 和美 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 村松 真澄 守村 洋 櫻井 繭子 田中 広美 ◎細谷 多聞 矢部 和夫 吉田 和夫 武田 亘明 張 浦華 大淵 一博 小宮 加容子 杉本 達應 松永 康佑 金子 晋也 中田 亜由美 藪谷 祐介
ペリネイタルケア	講義・15時間	4年次前期	◎三上 智子 渡邊 由加利 田仲 里江
パリアティブケア	講義・15時間	4年次前期	◎川村 三希子 菊地 ひろみ ★石垣 靖子
寒冷地医療	講義・15時間	4年次前期	◎原井 美佳 ★前沢 政次 ★坂倉 恵美子
公衆衛生看護技術論	演習・30時間	4年次前期	◎田仲 里江 清水 光子 櫻井 繭子 近藤 圭子
ヘルスプロモーション活動論	演習・30時間	4年次前期	◎清水 光子 小田 和美 宮崎 みち子 山本 勝則 菊地 ひろみ 櫻井 繭子 近藤 圭子 田仲 里江
公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ	実習・90時間	4年次前期	◎櫻井 繭子 河原田 まり子 清水 光子 近藤 圭子 田仲 里江
公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	4年次前期	◎清水 光子 河原田 まり子 櫻井 繭子 近藤 圭子 田仲 里江
看護管理学	演習・30時間	4年次前期	◎猪股 千代子 矢野 祐美子 坂東 奈穂美
看護情報学	講義・15時間	4年次前期	★佐藤 ひとみ
災害看護学	講義・15時間	4年次前期	◎猪股 千代子 矢野 祐美子 ★浅井 康文 ★太田 晴美
国際看護学	講義・15時間	4年次前期	◎大野 夏代 スーディ神崎和代
国際保健学	講義・15時間	4年次前期	★玉城 英彦
医療経営学	講義・15時間	4年次前期	◎猪股 千代子 スーディ神崎和代 坂東 奈穂美
医療安全管理論	講義・15時間	4年次前期	◎猪股 千代子 古都 昌子 檜山 明子
現代専門職論	講義・15時間	4年次前期	◎樋之津 淳子 中村 恵子

授業科目	授業・時数 形態	年次	担当教員
保健医療福祉行政論Ⅱ	演習・30時間	4年次後期	◎清水 光子 櫻井 繭子 近藤 圭子 田仲 里江
疫学Ⅱ	講義・15時間	4年次後期	★喜多 歳子
ヘルスケアマネジメント実習	実習・135時間	4年次後期	◎矢野 祐美子 猪股 千代子 上村 浩太 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 菅原 美樹 古都 昌子 村松 真澄 守村 洋 神島 滋子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 三上 智子 坂東 奈穂美
公衆衛生看護管理論	講義・15時間	4年次後期	◎河原田 まり子 清水 光子 櫻井 繭子 田仲 里江
卒業研究	演習・120時間	4年次全期	◎菊地 ひろみ 猪股 千代子 小田 和美 河原田 まり子 川村 三希子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 上村 浩太 大野 夏代 貝谷 敏子 清水 光子 菅原 美樹 古都 昌子 村松 真澄 守村 洋 神島 滋子 工藤 京子 櫻井 繭子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 三上 智子 矢野 祐美子 山本 真由美 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 近藤 圭子 田仲 里江 坂東 奈穂美 檜山 明子

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師



4) 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成27年6月1日～5日	医療機関	83名
		障がい児通園施設	35名
		老人福祉センター	83名
		地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	21名
		保健所・保健センター	19名
		その他	8名
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成27年10月19日～23日	医療機関	328名
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成27年5月18日～29日	医療機関	840名
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成27年10月26日～11月13日	医療機関	1,105名
老年看護学臨地実習Ⅰ	平成27年5月11日～15日	老人福祉センター	246名
成人看護学臨地実習Ⅱ	平成27年6月15日～7月24日	医療機関	803名
精神看護学臨地実習	平成27年6月15日～7月24日	医療機関	719名
在宅看護学臨地実習	平成27年6月15日～7月24日	医療機関	16名
		訪問看護ステーション	315名
		地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	298名
母性看護学臨地実習	平成27年11月24日～12月18日 平成28年1月18日～29日	医療機関	719名
小児看護学臨地実習	平成27年11月24日～12月18日 平成28年1月18日～29日	医療機関	477名
		保育所	229名
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成27年11月24日～12月18日 平成28年1月18日～29日	医療機関	392名
		介護老人保健施設	175名
公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ	平成27年6月8日～7月17日	保健所・保健センター	627名
		事業所	71名
		教育機関	76名
ヘルスケアマネジメント実習	平成27年9月28日～10月16日	医療機関	1,183名
		介護老人保健施設	52名

5 デザイン研究科

1) 平成27年度時間割

① 前期

		月		火	水	木		金	土
		芸森キャンパス		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		博士前期1年生	博士後期課程	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期2年生	博士前期1年生	博士前期1年生
1	9:00 ~ 10:30								国際関係特論
2	10:40 ~ 12:10	環境マネジメント特論				製品造形特論			コミュニケーション特論
3	13:10 ~ 14:40			景観デザイン特論		形状情報処理特論			少子高齢社会特論
4	14:50 ~ 16:20	環境共生デザイン特論		インターシッピⅠ (事前講義)	インタラクティブデザイン特論				連携プロジェクト演習
				インターシッピⅡ (事前講義)					
5	16:30 ~ 18:00		人間空間デザイン研究法	ビジュアルデザイン特論	建築構造デザイン特論	地域創成デザイン特別セミナーA			
6	18:10 ~ 19:40	デザイン特論※1	人間情報デザイン研究法		メディアプロデュース特論		地域プロジェクト演習	デザイン研究法	
7	19:50 ~ 21:20								

※建築計画特論は集中開講。

※デザイン特別演習、特別研究、横断型連携特別演習、博士デザイン特別演習および博士特別研究Ⅰ～Ⅲの開講時期は担当教員により異なる。

※1 平成26年以前入学生は「ソシオデザイン特論」

② 後期

		月		火	水	木		金	土
		芸森キャンパス		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		博士前期1年生	博士後期課程	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期1年生		博士前期1年生	博士前期1年生
1	9:00 ~ 10:30			建築環境学特論					健康福祉政策特論
2	10:40 ~ 12:10			製品評価特論		造形表現特論		デザインマネジメント特論	地域経済政策特論
3	13:10 ~ 14:40			認知・感性科学特論		インタフェースデザイン特論	映像デザイン特論		ヒューマニティ特論
4	14:50 ~ 16:20	日本建築史特論			地域ブランド構築特論			地域創成デザイン特別セミナーB	
5	16:30 ~ 18:00	地域環境評価特論				メカトロニクス特論			
6	18:10 ~ 19:40	現代芸術特論	人間空間デザイン特講						
			人間情報デザイン特講						
7	19:50 ~ 21:20								

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

< 博士前期課程 >

科目区分	授業科目の名称	配当年次 (時期)	単位数			空間デザイン分野		製品デザイン分野		コンテンツ・メディア デザイン分野	
			必修	選択	自由	建築デザイン	環境デザイン	プロダクト デザイン	インタフェース デザイン	コンテンツ 制作	メディア展開
研究科 連携科目	国際関係特論	1・2 前期		2					△		△
	少子高齢社会特論	1・2 前期		2							
	健康福祉政策特論	1・2 後期		2		△	△				
	地域経済政策特論	1・2 後期		2			△	△			△
	コミュニティ特論	1・2 後期		2						△	
	コミュニケーション特論	1・2 前期		2					△	△	
	連携プロジェクト演習	1 通年		2		△		△			
小計 (7科目)	-	-	14	-	4	4	4	4	4	4	
基本 科目	デザイン特論	1 前期	2			◎	◎	◎	◎	◎	◎
	デザイン研究法	1 前期		2			△		△		
展開 科目	デザインマネジメント特論	1 後期		2		△		△			△
	小計 (3科目)	-	2	4	-	4	4	4	4	4	4
専門 教育 科目	建築計画特論	1・2 前期		2		△■					
	建築環境学特論	1・2 後期		2		△■					
	建築構造デザイン特論	1・2 前期		2		△■					
	日本建築史特論	1・2 後期		2		△					
	景観デザイン特論	1・2 前期		2			△				
	地域環境評価特論	1・2 後期		2		△					
	環境共生デザイン特論	1・2 前期		2			△				
	環境マネジメント特論	1・2 前期		2			△	△			
	製品造形特論	1・2 前期		2				△			
	製品評価特論	1・2 後期		2				△	△		
	メカトロニクス特論	1・2 後期		2				△	△		
	インタフェースデザイン特論	1・2 後期		2				△	△		
	認知・感性科学特論	1・2 後期		2					△	△	
	インタラクションデザイン特論	1・2 前期		2					△	△	
	形状情報処理特論	1・2 前期		2						△	
	造形表現特論	1・2 後期		2							△
	映像デザイン特論	1・2 後期		2						△	△
	ビジュアルデザイン特論	1・2 前期		2							△
	現代芸術特論	1・2 後期		2							△
	メディアプロデュース特論	1・2 前期		2							△
	地域ブランド構築特論	1・2 後期		2				△			△
	デザイン特別演習	1 前・後	2			◎■	◎	◎	◎	◎	◎
小計 (22科目)	-	2	42	-	12	12	12	12	12	12	
実践 科目	地域プロジェクト演習	2 前期	2			◎■	◎	◎	◎	◎	◎
	地域創成デザイン特別セミナーA	1・2 前期		2							△
	地域創成デザイン特別セミナーB	1・2 後期		2					△		
	インターンシップI	1・2 集中		2		△■	△	△			
	インターンシップII	1・2 集中			4	△■					
小計 (5科目)	-	2	6	4	8	4	4	4	4	4	
研究 了	特別研究	1~2 通年	6	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	小計 (1科目)	-	6	-	-	6	6	6	6	6	6
合計 (38科目)			12	66	4	34	30	30	30	30	30

< 博士後期課程 >

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基本 科目	横断型連携特別演習	1 通	2				○	
	人間空間デザイン研究法	1 前		2			○	
	人間情報デザイン研究法	1 前		2			○	
小計 (3科目)			-	2	4	0	-	
展開 科目	人間空間デザイン特講	1 後		2			○	
	人間情報デザイン特講	1 後		2			○	
	博士デザイン特別演習	2 前		2			○	
小計 (3科目)			-	2	4	0	-	
研究 指導 科目	博士特別研究 I	1 通	2				○	
	博士特別研究 II	2 通	2				○	
	博士特別研究 III	3 通	4				○	
小計 (3科目)			-	8	0	0	-	
合計 (9科目)			-	12	8	0		

② 修了要件

<博士前期課程>

科目区分		修了要件	
研究科連携科目		4単位以上	
専門教育科目	基本科目	4単位以上	
	展開科目	空間デザイン分野	12単位以上
		製品デザイン分野	
		コンテンツ・メディアデザイン分野	
実践科目	4単位以上		
修了研究		6単位	
合計		30単位以上	

※「研究科連携科目」から4単位以上、「基本科目」から4単位以上（必修2単位を含む）、「展開科目」から12単位以上（必修2単位を含む）、「実践科目」から4単位以上（必修2単位を含む）、「特別研究」を6単位、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文等の審査及び最終試験に合格したものに学位を授与する。

<博士後期課程>

科目区分	修了要件
基本科目	4単位以上
展開科目	4単位以上
研究指導科目	8単位以上
合計	16単位以上

※「基本科目」から4単位以上（必修2単位を含む）、「展開科目」から4単位以上（必修2単位を含む）、「研究指導科目」から8単位、合計16単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格したものに学位を授与する。

3) 教育活動

<博士前期課程>

研究科連携科目

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
国際関係特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎スーディ神崎和代 城間 祥之 石井 雅博 大野 夏代 ★玉城 英彦
少子高齢社会論	講義・30時間	1・2年次前期	原 俊彦
コミュニケーション特論	講義・30時間	1・2年次前期	町田 佳世子
健康福祉政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 守村 洋 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義・30時間	1・2年次後期	★藤尾 均（学内調整者 松浦 和代）
連携プロジェクト演習	演習・30時間	1年次通年	◎城間 祥之 張 浦華 山田 良 松永 康佑 ◎猪股 千代子 清水 光子 神島 滋子

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

専門教育科目

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
デザイン特論	講義・30時間	1年次前期	蓮見 孝
デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎中原 宏 矢部 和夫 柿山 浩一郎
デザインマネジメント特論	講義・30時間	1年次後期	★近藤 公彦
建築計画特論	講義・30時間	1・2年次集中	★那須 聖
建築環境学特論	講義・30時間	1・2年次後期	齊藤 雅也
建築構造デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	★渡邊 和之
日本建築史特論	講義・30時間	1・2年次後期	羽深 久夫
景観デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	吉田 恵介
地域環境評価特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎中原 宏 矢部 和夫
環境共生デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎上田 裕文 山田 良
環境マネジメント特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎上田 裕文 片山 めぐみ
製品造形特論	講義・30時間	1・2年次前期	石崎 友紀
製品評価特論	講義・30時間	1・2年次後期	柿山 浩一郎
メカトロニクス特論	講義・30時間	1・2年次後期	三谷 篤史
インタフェースデザイン特論	講義・30時間	1・2年次後期	酒井 正幸
認知・感性科学特論	講義・30時間	1年次後期	石井 雅博
インタラクションデザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	細谷 多聞
形状情報処理特論	講義・30時間	1・2年次前期	城間 祥之
造形表現特論	講義・30時間	1・2年次後期	齋藤 利明
映像デザイン特論	講義・30時間	1・2年次後期	松永 康佑
ビジュアルデザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	吉田 和夫
現代芸術特論	講義・30時間	1・2年次後期	上遠野 敏
メディアプロデュース特論	講義・30時間	1・2年次前期	★久保 俊哉
地域ブランド構築特論	講義・30時間	1・2年次後期	★内田 純一
デザイン特別演習	演習・30時間	1年次 前期・後期	◎城間 祥之 蓮見 孝 石井 雅博 石崎 友紀 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 吉田 和夫 吉田 恵介 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良 松永 康佑 三谷 篤史
地域プロジェクト演習	演習・30時間	2年次前期	◎城間 祥之 羽深 久夫 細谷 多聞 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 片山 めぐみ 三谷 篤史
地域創成デザイン特別セミナーA	演習・30時間	1・2年次前期	◎羽深 久夫 中原 宏 齊藤 雅也 山田 良
地域創成デザイン特別セミナーB	演習・30時間	1・2年次後期	酒井 正幸
インターンシップ I	実習・60時間	1・2年次集中	◎中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 山田 良 上田 裕文 片山 めぐみ



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
インターンシップⅡ	実習・120時間	1・2年次集中	◎羽深 久夫 中原 宏 齊藤 雅也 山田 良 片山 めぐみ
特別研究	演習・90時間	1~2年次通年	◎城間 祥之 蓮見 孝 石井 雅博 石崎 友紀 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 細谷 多聞 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 三谷 篤史 山田 良

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

< 博士後期課程 >

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
人間空間デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫
人間情報デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎城間 祥之 細谷 多聞 石井 雅博
横断型連携特別演習	演習・30時間	1年次通年	◎齊藤 雅也 石井 雅博 町田 佳世子 柿山 浩一郎 山田 良 矢部 和夫 スーディ神崎和代
人間空間デザイン特講	講義・30時間	1年次後期	◎羽深 久夫 中原 宏 矢部 和夫 齊藤 雅也 山田 良
人間情報デザイン特講	講義・30時間	1年次後期	◎酒井 正幸 城間 祥之 石井 雅博 細谷 多聞
博士デザイン特別演習	演習・30時間	2年次前期	城間 祥之 石井 雅博 石崎 友紀 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良
博士特別研究Ⅰ	演習・30時間	1年次通年	城間 祥之 石井 雅博 石崎 友紀 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良
博士特別研究Ⅱ	演習・30時間	2年次通年	城間 祥之 石井 雅博 石崎 友紀 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良
博士特別研究Ⅲ	演習・60時間	3年次通年	城間 祥之 石井 雅博 石崎 友紀 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

6 看護学研究科

1) 平成27年度時間割

<博士前期課程>

		月		火		水	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 ～ 10:30						
2	10:40 ～ 12:10						
3	13:10 ～ 14:40						
4	14:50 ～ 16:20	看護理論特論	看護コンサルテーション特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学特論	看護専門職教育特論 クリティカルケア看護学特論 小児看護学特論D がん看護学・緩和ケア特論 精神看護学特論IV	臨床哲学特論 がん看護学・緩和ケア援助特論 クリティカル精神看護学演習
5	16:30 ～ 18:00	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論Ⅰ 看護技術学特論Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論B 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論Ⅱ 看護技術学特論Ⅱ 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	継続教育特論 D402
6	18:10 ～ 19:40	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論Ⅰ 看護技術学特論Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論B 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論Ⅱ 看護技術学特論Ⅱ 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学特論	看護専門職教育特論 クリティカルケア看護学特論 小児看護学特論D がん看護学・緩和ケア特論 精神看護学特論IV	臨床哲学特論 がん看護学・緩和ケア援助特論 クリティカル精神看護学演習
7	19:50 ～ 21:20	看護理論特論	看護コンサルテーション特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	継続教育特論

木		金		土	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
				国際関係特論	健康福祉政策特論
				コミュニケーション特論	地域経済政策特論
				少子高齢社会特論	ヒューマニティ特論
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学演習		特別研究 課題研究		連携プロジェクト演習	
		小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルアセスメント 看護学演習 腫瘍学特論 精神看護学特論Ⅵ	小児看護学特論C 急性期病態管理学特論 病態治療特論 精神看護学特論Ⅴ	リハビリテーション 精神看護学演習	小児看護学演習B クリティカルケア看護学演習 がん看護学演習Ⅱ
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学演習		小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルアセスメント 看護学演習 腫瘍学特論 精神看護学特論Ⅵ		小児看護学特論C 急性期病態管理学特論 病態治療特論 精神看護学特論Ⅴ	
		特別研究 課題研究			

<博士後期課程>

		月		火		水	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 ∩ 10:30						
2	10:40 ∩ 12:10						
3	13:10 ∩ 14:40						
4	14:50 ∩ 16:20			後期特別研究 I II III			
5	16:30 ∩ 18:00			(横断型連携特別演習)			
6	18:10 ∩ 19:40			後期特別研究 I II III			
7	19:50 ∩ 21:20			(横断型連携特別演習)			

木		金		土	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
看護学特講				横断型連携特別演習	
看護技術学特別演習 実践看護学特別演習 機能看護学特別演習					
看護学特講					
看護技術学特別演習 実践看護学特別演習 機能看護学特別演習					

2) カリキュラム

① 授業科目一覧
 < 博士前期課程 >

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			修了要件	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前		2		○			4単位以上	
	少子高齢社会特論	1・2 前		2		○				
	健康福祉政策特論	1・2 後		2		○				
	地域経済政策特論	1・2 後		2		○				
	ヒューマニティ特論	1・2 後		2		○				
	コミュニケーション特論	1・2 前		2		○				
	連携プロジェクト演習	1 通		2			○			
専門基礎科目	看護理論特論	1 前	2			○			8単位以上	
	看護研究法特論	1 前	2			○				
	看護倫理学特論	1 前		2		○				
	看護管理学特論	1 前		2		○				
	臨床哲学特論	1 後		2		○				
	看護コンサルテーション特論	1 後		2		○				
	看護専門職教育特論	1 前		2		○				
	継続教育特論	1 後		2		○				
	寒冷地生活支援看護学特論	1 後		2		○				
	家族看護学特論	1 後		2		○				
専門実履	地域生活看護学特論	1 前		2		○			1つの領域から8単位以上(専門看護師認定希望者16単位以上)	
	老年看護学特論	1・2 後		2		○				
	在宅看護学特論	1・2 後		2		○				
	地域看護学特論	1・2 後		2		○				
	地域生活看護学演習	1 通		2			○			
	老年看護学演習	1・2 通		2			○			
	在宅看護学演習	1・2 通		2			○			
	地域看護学演習	1・2 通		2			○			
	母子看護学領域	母子看護学特論	1 前		2		○			
		母性看護学特論	1・2 後		2		○			
		小児看護学特論A	1 前		2		○			
		小児看護学特論B	1 後		2		○			
		小児看護学特論C	1 後		1		○			
		小児看護学特論D	2 前		1		○			
		母子看護学演習	1 通		2			○		
		母性看護学演習	1・2 通		2			○		
		小児看護学演習A	1 通		2			○		
		小児看護学演習B	1・2 通		2			○		
	成人看護学領域	成人看護学特論	1 前		2		○			
		急性期看護学特論	1・2 後		2		○			
		慢性期看護学特論	1・2 後		2		○			
		がん看護学特論	1・2 後		2		○			
		急性期病態管理学特論	1・2 後		2		○			
		クリティカルケア看護学特論	1 前		1					
		がん看護学・緩和ケア特論	1 前		1		○			
		がん看護学・緩和ケア援助特論	1 後		1		○			
		腫瘍学特論	1 前		2		○			
		病態治療特論	1 後		2		○			
	看護技術学領域	成人看護学演習	1 通		2			○		
		急性期看護学演習	1・2 通		2			○		
アドバンス・フィジカルアセスメント演習		1 前		1			○			
クリティカルケア看護学演習		1 通		2			○			
慢性期看護学演習		1・2 通		2			○			
がん看護学演習 I		1・2 通		2			○			
がん看護学演習 II		2 通		2			○			
急性期看護学実習		1・2 通		6			○			
がん看護学実習 I		1 後		2			○			
がん看護学実習 II		2 通		4			○			
精神看護学領域	精神看護学特論 I	1 前		2		○				
	精神看護学特論 II	1・2 後		2		○				
	精神看護学特論 III	1・2 前		2		○				
	精神看護学特論 IV	1・2 前		1		○				
	精神看護学特論 V	1 後		2		○				
	精神看護学特論 VI	2 前		2		○				
	精神看護学演習 I	1 通		2			○			
	精神看護学演習 II	1・2 通		2			○			
	精神看護学演習 III	1・2 通		2			○			
	クリティカル精神看護学演習	1 後		1			○			
看護技術学領域	リハビリテーション精神看護学演習	2 前		1			○			
	精神看護学実習 I	1 後		2			○			
	精神看護学実習 II	2 通		4			○			
	看護技術学特論 I	1 前		2		○				
	看護技術学特論 II	1・2 後		2		○				
	看護技術学演習 I	1 通		2			○			
	看護技術学演習 II	1・2 通		2			○			
	専門教育科目	看護教育・看護マネジメント学特論	1 前		2		○			
		看護教育学特論	1・2 後		2		○			
		看護マネジメント学特論	1・2 後		2		○			
看護教育・看護マネジメント学演習		1 通		2			○			
看護教育学演習		1・2 通		2			○			
看護マネジメント学演習		1・2 通		2			○			
研究	特別研究	1~2 通		8			○	8単位(専門看護師認定希望者4単位)		
	課題研究	1~2 通		4			○			

< 博士後期課程 >

科目区分	授業科目の名称	シラバス掲載頁	配当年次	単位数			授業形態			修了要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
連携科目 博士後期	横断型連携特別演習	146	1 通	2				○		2 単位
博士後期専門科目	看護学特講	148	1 前	2			○			4 単位以上
	看護技術学特別演習	149	1 通		2			○		
	実践看護学特別演習	150	1 通		2			○		
	機能看護学特別演習	151	1 通		2			○		
博士後期研究指導科目	後期特別研究 I	154	1 通	2				○		8 単位
	後期特別研究 II	158	2 通	2				○		
	後期特別研究 III	162	3 通	4				○		

② 修了要件

< 博士前期課程 >

※修士論文コース

区分	必修科目	選択科目	自由科目	合計
研究科連携科目	—	4	—	4
専門教育科目	4	20	—	24
専門基礎科目	4	4	—	8
専門科目	—	16	—	16
選択する領域・分野から	—	8	—	8
研究	—	8	—	8
合計	4	26	—	30

※専門看護師コース

区分	必修科目	選択科目	自由科目	合計
研究科連携科目	—	4	—	4
専門教育科目	4	24	—	28
専門基礎科目	4	4	—	8
専門科目	—	20	—	20
選択する領域・分野から	—	16	—	16
研究	—	4	—	4
合計	4	30	—	34

< 博士後期課程 >

区分	必修科目	選択科目	自由科目	合計
博士後期連携科目	2	—	—	2
博士後期専門科目	2	2	—	4
博士後期研究指導科目	8	—	—	8
合計	12	2	—	14

3) 教育活動

< 博士前期課程 >

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
国際関係特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎スーディ神崎和代 城間 祥之 石井 雅博 大野 夏代 ★玉城 英彦
少子高齢社会特論	講義・30時間	1・2年次前期	原 俊彦
健康福祉政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 守村 洋 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義・30時間	1・2年次後期	★藤尾 均
コミュニケーション特論	講義・30時間	1・2年次前期	町田 佳世子
連携プロジェクト演習	演習・30時間	1年次通年	◎猪股 千代子 清水 光子 神島 滋子 ◎城間 祥之 張 浦華 山田 良 松永 康佑
看護理論特論	講義・30時間	1年次前期	◎中村 恵子 ★黒田 裕子 菅原 美樹
看護研究法特論	講義・30時間	1年次前期	◎松浦 和代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ
看護倫理学特論	講義・30時間	1年次前期	◎宮崎 みち子 川村 三希子 古都 昌子
看護管理学特論	講義・30時間	1年次前期	◎猪股 千代子 中村 恵子
臨床哲学特論	講義・30時間	1年次後期	★尾形 敬次
看護コンサルテーション特論	講義・30時間	1年次後期	◎猪股 千代子 古都 昌子 ★藤野 智子
看護専門職教育特論	講義・30時間	1年次前期	定廣 和香子
継続教育特論	講義・30時間	1年次後期	◎古都 昌子 ★佐藤 紀子 ★舟島 なをみ ★中山 登志子
寒冷地生活支援看護学特論	講義・30時間	1年次後期	◎村松 真澄 ★池田 貴夫 ★前沢 政次 ★鈴木 英樹 ★坂倉 恵美子
家族看護学特論	講義・30時間	1年次後期	◎菊地 ひろみ 河原田 まり子 ★柳原 清子 ★吉川 由希子
地域生活看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎河原田 まり子 スーディ神崎和代
老年看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	
在宅看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	スーディ神崎和代
地域看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	河原田 まり子
地域生活看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎スーディ神崎和代 河原田 まり子 菊地 ひろみ 清水 光子 村松 真澄
老年看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	村松 真澄



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
在宅看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代
地域看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎河原田 まり子 清水 光子
母子看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎宮崎 みち子 松浦 和代
母性看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	宮崎 みち子
小児看護学特論A	講義・30時間	1年次前期	松浦 和代
小児看護学特論B	講義・30時間	1年次後期	松浦 和代
小児看護学特論C	講義・15時間	1年次後期	松浦 和代
小児看護学特論D	講義・15時間	2年次前期	松浦 和代
母子看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎宮崎 みち子 松浦 和代 上村 浩太 山内 まゆみ
母性看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎宮崎 みち子 山内 まゆみ
小児看護学演習A	演習・60時間	1年次通年	◎松浦 和代 上村 浩太
小児看護学演習B	演習・60時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 上村 浩太
小児看護学実習Ⅰ	実習・180時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 上村 浩太
小児看護学実習Ⅱ	実習・90時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 上村 浩太
成人看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎中村 恵子 小田 和美 川村 三希子
急性期看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	中村 恵子
慢性期看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	小田 和美
がん看護特論	講義・30時間	1・2年次後期	川村 三希子
急性期病態管理学特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎★田中 秀治 ★浅井 康文 ★山口 芳裕
クリティカルケア看護学特論	講義・15時間	1年次前期	◎中村 恵子 菅原 美樹
がん看護学・緩和ケア特論	講義・15時間	1年次前期	川村 三希子
がん看護学・緩和ケア援助特論	講義・15時間	1年次後期	◎川村 三希子 ★荒尾 晴恵
腫瘍学特論	講義・30時間	1年次前期	★小林 正伸
病態治療学特論	講義・30時間	1年次後期	◎★小林 正伸 ★鈴木 恵士郎 ★福原 敬
成人看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎小田 和美 中村 恵子 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 藤井 瑞恵
急性期看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎中村 恵子 菅原 美樹 ★平尾 明美 ★伊藤 伸子
アドバンスト・フィジカルアセスメント演習	演習・30時間	1年次前期	◎菅原 美樹 中村 恵子 神島 滋子
クリティカルケア看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎中村 恵子 菅原 美樹
慢性期看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	小田 和美 貝谷 敏子 藤井 瑞恵
がん看護学演習Ⅰ	演習・60時間	1・2年次通年	◎川村 三希子 菊地 ひろみ 松永 直子
がん看護学演習Ⅱ	演習・60時間	2年次通年	◎川村 三希子 菊地 ひろみ 松永 直子 ★田村 恵子 ★石岡 明子 ★田中 いづみ
急性期看護学実習	実習・270時間	1・2年次通年	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★藤野 智子

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
がん看護学実習Ⅰ	実習・90時間	1年次後期	◎川村 三希子 松永 直子 ★石岡 明子 ★田中 いずみ
がん看護学実習Ⅱ	実習・180時間	2年次通年	◎川村 三希子 松永 直子 ★石岡 明子 ★田中 いずみ
精神看護学特論Ⅰ	講義・30時間	1年次前期	◎山本 勝則 ★阿保 順子
精神看護学特論Ⅱ	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学特論Ⅲ	講義・30時間	1・2年次前期	山本 勝則
精神看護学特論Ⅳ	講義・15時間	1・2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学特論Ⅴ	講義・30時間	1年次後期	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学特論Ⅵ	講義・30時間	2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎守村 洋 山本 勝則
精神看護学演習Ⅱ	演習・60時間	1・2年次通年	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅲ	演習・60時間	1・2年次通年	◎守村 洋 山本 勝則
クリティカル精神看護学演習	演習・30時間	1年次後期	◎山本 勝則 守村 洋
リハビリテーション精神看護学演習	演習・30時間	2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅰ	実習・90時間	1年次後期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅱ	実習・180時間	2年次通年	◎守村 洋 山本 勝則
看護技術学特論Ⅰ	講義・30時間	1年次前期	樋之津 淳子
看護技術学特論Ⅱ	講義・30時間	1・2年次後期	◎樋之津 淳子 大野 夏代
看護技術学演習Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎樋之津 淳子 大野 夏代 ★山内 豊明
看護技術学演習Ⅱ	演習・60時間	1・2年次通年	◎大野 夏代 樋之津 淳子
看護教育・マネジメント学特論	講義・30時間	1年次前期	◎定廣 和香子 猪股 千代子
看護教育学特論	講義・30時間	1・2年次後期	定廣 和香子
看護マネジメント学特論	講義・30時間	1・2年次後期	猪股 千代子
看護教育・看護マネジメント学演習	演習・60時間	1年次後期	◎定廣 和香子 猪股 千代子 古都 昌子
看護教育学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎定廣 和香子 古都 昌子
看護マネジメント学演習	演習・60時間	1・2年次通年	猪股 千代子
特別研究	演習・240時間	1～2年次通年	◎中村 恵子 猪股 千代子 小田 和美 河原田 まり子 川村 三希子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 樋之津 淳子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 菊地 ひろみ 大野 夏代 古都 昌子 村松 真澄 上村 浩太 大野 夏代 貝谷 敏子 菅原 美樹 守村 洋 神島 滋子 藤井 瑞恵 山内 まゆみ
課題研究	演習・120時間	1～2年次通年	◎中村 恵子 川村 三希子 松浦 和代 山本 勝則 上村 浩太 守村 洋 菅原 美樹 松永 直子

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師



< 博士後期課程 >

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
横断型連携特別演習	演習・30時間	1年次通年	◎松浦 和代 中村 恵子 河原田 まり子 川村 三希子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則
看護学特講	講義・30時間	1年次前期	◎中村 恵子 河原田 まり子 スーディ神崎和代 松浦 和代 ★真田 弘美 ★木村 純 ★松下 博宣
看護技術学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎樋之津 淳子 村松 真澄
実践看護学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎山本 勝則 中村 恵子 川村 三希子 スーディ神崎和代 松浦 和代 宮崎 みち子 菊地 ひろみ 村松 真澄 守村 洋
機能看護学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎定廣 和香子 河原田 まり子
後期特別研究Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎中村 恵子 樋之津 淳子 村松 真澄 川村 三希子 スーディ神崎和代 山本 勝則 菊地 ひろみ 守村 洋 松浦 和代 宮崎 みち子 ◎定廣 和香子 河原田 まり子
後期特別研究Ⅱ	演習・60時間	2年次通年	◎中村 恵子 樋之津 淳子 村松 真澄 川村 三希子 スーディ神崎和代 山本 勝則 菊地 ひろみ 守村 洋 松浦 和代 宮崎 みち子 ◎定廣 和香子 河原田 まり子
後期特別研究Ⅲ	演習・120時間	3年次通年	◎中村 恵子 樋之津 淳子 村松 真澄 川村 三希子 スーディ神崎和代 山本 勝則 菊地 ひろみ 守村 洋 松浦 和代 宮崎 みち子 ◎定廣 和香子 河原田 まり子

7 助産学専攻科

1) 平成27年度時間割

① 前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ～ 10:30	妊娠期助産診断・技術学		分娩期助産診断・技術学		周産期ハイリスク援助論		分娩期助産診断・技術学		産褥期助産診断・技術学	
2	10:40 ～ 12:10	妊娠期助産診断・技術学		分娩期助産診断・技術学		周産期ハイリスク援助論		分娩期助産診断・技術学		産褥期助産診断・技術学	
3	13:10 ～ 14:40	助産学総論		助産学フィールド演習		周産期医学論		乳幼児支援論		助産管理論	
4	14:50 ～ 16:20	助産学総論		助産学フィールド演習		周産期医学論		乳幼児支援論			
5	16:30 ～ 18:00			地域母子保健論							

※開講曜日時間は週によって変更する場合がある。

② 後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ～ 10:30	助産学演習									
2	10:40 ～ 12:10	助産学演習									
3	13:10 ～ 14:40	助産学課題研究									
4	14:50 ～ 16:20	助産学課題研究									
5	16:30 ～ 18:00										

※開講曜日時間は週によって変更する場合がある。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	授業形態	単位数 (全科目：必修)
基礎助産学	助産学総論	講義	2
	周産期医学論	講義	2
	乳幼児支援論	講義	2
	妊娠期助産診断・技術学	演習	1
	分娩期助産診断・技術学	演習	2
	産褥期助産診断・技術学	演習	1
実践助産学	助産学フィールド演習	演習	1
	周産期ハイリスク援助論	演習	1
	地域母子保健論	講義	1
	助産管理論	講義	1
	助産学実習Ⅰ	実習	3
	助産学実習Ⅱ	実習	3
	助産学実習Ⅲ	実習	3
	助産学実習Ⅳ	実習	2
	助産学実習Ⅴ	実習	1
統合助産学	助産学演習	演習	2
	助産学課題研究	演習	2
合計			30

② 修了要件

30単位（全科目必修）

3) 教育活動

授業科目	授業 形態・時数	年次	担当教員
助産学総論	講義・30時間	前期	宮崎 みち子
周産期医学論	講義・30時間	前期	◎山内 まゆみ ★堀本 江美 ★小泉 基生 ★高野 良子 ★唯野 貢司 ★西 基 渡邊 由加利 山本 真由美
乳幼児支援論	講義・30時間	前期	◎渡邊 由加利 ★小林 正樹 ★渡辺 大地 木田 妙
妊娠期助産診断・技術学	演習・30時間	前期	◎山内 まゆみ 石引 かずみ 木田 妙
分娩期助産診断・技術学	演習・60時間	前期	◎渡邊 由加利 ★堀本 江美 山内 まゆみ 山本 真由美 石引 かずみ 木田 妙
産褥期助産診断・技術学	演習・30時間	前期	◎山本 真由美 渡邊 由加利 木田 妙
助産学フィールド演習	演習・30時間	前期	◎山内 まゆみ 木田 妙

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
周産期ハイリスク援助論	演習・30時間	前期	◎★平山 恵美 ★川原田 修義 ★鈴木 伸和 ★紅粉 睦男 ★佐野 敬夫 ★中島 健夫 ★水島 正人 ★山田 俊 ★林 桐代 ★城戸 真紗美
地域母子保健論	講義・15時間	前期	◎宮崎 みち子 ★山中 洋子 大野 夏代
助産管理論	講義・15時間	前期	◎宮崎 みち子 ★荻田 ヒロミ ★山原 和恵 ★水野 栄子 中村 恵子
助産学実習 I	実習・135時間	通年	◎山内 まゆみ 渡邊 由加利 山本 真由美 石引 かずみ 木田 妙
助産学実習 II	実習・135時間	通年	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 石引 かずみ 木田 妙
助産学実習 III	実習・135時間	通年	◎山内 まゆみ 渡邊 由加利 山本 真由美 石引 かずみ 木田 妙
助産学実習 IV	実習・90時間	後期	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 石引 かずみ 木田 妙 宮崎 みち子
助産学実習 V	実習・45時間	後期	◎山本 真由美 渡邊 由加利 山内 まゆみ 多賀 昌江 宮崎 みち子 石引 かずみ 木田 妙
助産学演習	演習・60時間	通年	◎宮崎 みち子 羽深 久夫 渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 石引 かずみ 木田 妙
助産学課題研究	演習・60時間	通年	◎宮崎 みち子 渡邊 由加利 山内 まゆみ 木田 妙 山本 真由美

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4) 実習概要

(単位：名)

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
助産学実習	平成27年7月6日～平成28年2月26日	医療機関	633
	平成27年11月30日～12月8日	母子健康センター	12

8 デザインと看護の連携教育

「デザイン」・「看護」という、異なる学部の学生たちが、共に学ぶことが札幌市立大学の特色である。常識にとらわれない多彩なカリキュラムと自由な雰囲気での授業で、地域社会に根ざした豊かな人間性と柔軟な感性を育む。

1年次前期「スタートアップ演習」（共通教育科目）では、「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や少人数編成によるグループ活動、地域調査を通じ、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的な学習方法や課題解決の手法などを学ぶ。また、調査・分析プロジェクトを通じ、地域社会に対する関心や貢献の姿勢を育てる。

平成27年度（2015年度）「スタートアップ演習」

テーマ	チーム名
あそぶってなんだ？	Uut.まで50cm
コンパニオンプランツ ～いただきますでつながる“わ”	Night In Gale
COCナビ大作戦 ～おいでよCOCキャンパス～	COCナビゲーターズ
キタキツネ食堂 ～いつでも、だれでも病院食堂～	やる気があるので帰りません
R.Y.O.K.U.C.H.I. ～世界の石山緑地へ～	くまさん代目D×N Brothers
まこまるあつまる ～生きることって生きがいだ～	テクスチャーズ
さんさんさんぼ ～これを始めたなら心も体も健康になりました！～	sept couleur
杉田玄パーク ～『健康』についてみんなで遊んで学ぶ1日限りのテーマパーク～	チョウチンアンコウ ～I wanna be your star～
Hi!Baby ～君が生まれてくるまでの物語～	COCORE
For 遊 ～世代の交わる遊び場～	十九人行

3年次後期「学部連携演習」（専門教育科目）では、スタートアップ演習から2年を経て、基本的な専門教育の上に、相互の専門性を尊重し合い、それぞれがデザイン・看護の専門家として積極的に取り組む姿勢を身につける。両学部生を少人数グループに編成し、デザイン・看護相互に関わりのあるテーマや課題を、札幌市南区の地域に見出し、相互の学生が共同・協力しながら、課題発見・解決に取り組む。

平成27年度（2015年度）「学部連携演習」

地区	テーマ	チーム名
石山	「軟石灯 一灯りがつなげる人と文化ー」	軟石を継ぐ者たち
	石山えほんでつながるストーリー	なんせきくん
澄川	燈す澄川	SUMIKAWA INSIDE
	スミカタ×スミカワ	SUMIKAWA OUT
藻岩下	もいわ山 マウンテンハンター	モイワ人
	地域交流サロンリニューアル企画	もいなび

地区	テーマ	チーム名
簾舞	ばすとらん ～住民間の交流を目的としたイベントシステムの提案～	らあめんず 1
		らあめんず 2
芸術の森	芸術の森地区の活性化を図る新たなツールの提案	芸術の森体操班
		あるこつと班
藤野	そこがい～のふじ～の －藤野の魅力を発信するPR映像コンテンツの制作－	9D×N 1
		9D×N 2
真駒内	WALK&MEAL=HEALTH－歩いて食べて健康になろう！－	真駒撫子 1
		真駒撫子 2
藻岩	「ワイワイもいわ体操」 ～藻岩地区をもっと楽しくする体操の提案～	プレッツェル体操班
	藻岩地区の世代間交流を促すイベント提案	プレッツェルいちごチョコ班
定山溪	じょうねつ学校 定山溪における宿泊型交流プログラムの提案	杉中旅館1
		杉中旅館2
南沢	地域資源の活用	矢部と守のカーニバル1
		矢部と守のカーニバル2

9 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（テーマB）

1) 概要

文部科学省補助事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」について、平成24年度から平成26年度までの3ヵ年事業として、本学を含む北海道・東北ブロックの17校が採択されていた。

平成26年度からは、当該事業のインターンシップに関する取組を拡大するための【テーマB インターンシップ等の取組拡大】に採択されており、平成27年度は、「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）」として、デザイン学部において継続的に事業を推進した。

なお、道内国公立5大学共同で「循環型地域人材育成プラットホーム（若者が育つ大地：北海道）」をテーマに事業が進められ、そのうち、本学では下記の体制の下実施した。

2) 実施体制

- ① テーマB運営会議
- ② テーマB推進チーム

3) 平成27年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成27年4月6日	ポートフォリオ作成率アンケート調査①
平成27年7月5日	SUMMER JOB FESTA（インターンシップ説明会）参加
平成27年9月25日	ポートフォリオ作成率アンケート調査②
平成27年12月4日	ワークショップ型インターンシップ体験開催 （講師：三菱電機株式会社 中居創氏、参加者32名）
平成27年12月10日・11日	スケッチ・ポートフォリオ講習会（講師：株式会社東芝 佐川崇氏、参加者44名）
平成27年12月19日	スケッチ講習会・アフターフォロー（講師：安齋利典教授、参加者8名）
平成27年12月20日	SPRING JOB FESTA（インターンシップ説明会）参加
平成28年3月10日	ITバスツアー参加
平成28年3月18日	スケッチ講習会（講師：安齋利典教授、参加者6名）

Ⅲ 研究活動

1 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
蓮見 孝	ウェルネスに着目した療養環境改善と地域創生に関する研究
酒井 正幸	生態展示施設のグランドデザイン ユニバーサルデザイン研究
城間 祥之	デザイン価値の測定・評価方法に関する研究 —日本/西洋由来加工食品のパッケージデザインの印象評価—
上遠野 敏	現代美術創作研究 同時代の美術研究 日本の美意識研究
安齋 利典	製品デザインとデザインマネジメントに関する研究 デザインとデザイナーの役割に関する研究
石井 雅博	三次元世界における視覚の認知・感性に関する研究
石崎 友紀	地域型デザイン製品の開発研究
齋藤 利明	オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出
中原 宏	都市機能の多様性と地域ポテンシャルに関する研究
羽深 久夫	北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 米国・東欧・北欧及び東アジア（中国・韓国・台湾）における木造建築の保存・再生・活用 日本および世界における医療施設・福祉施設の調査 世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原 俊彦	ドイツと日本における無子の増加に関する研究（継続） 超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン（継続） 地域社会の人口減少・少子高齢化に対する施策の研究
細谷 多聞	視覚的環境情報の電子化とその活用に関する研究
町田 佳世子	会話の進展構造に関する研究
矢部 和夫	地域の湿原やその他の生態系における生物多様性の保全・再生と創出に関する研究
吉田 和夫	組織活性化におけるV I（ビジュアル・アイデンティティ）の役割とその生成について
吉田 恵介	コミュニティデザイン手法によるエリアマネジメントの可能性に関する研究
柿山 浩一郎	学生のインタラクションに関する学びを誘発するシミュレータに関する研究
斉藤 雅也	非定常温熱環境下の人体エクセルギー収支の解明
武田 亘明	クリエイティブ人材育成のための実践的学びのデザイン
張 浦華	北の風土に適した生活道具の提案
山田 良	環境芸術の北方圏地域に果たす役割
石田 勝也	サウンドアンドビジュアルを使用した空間的創造性の構築
上田 裕文	風景イメージスケッチ手法を用いた風景計画に関する研究
大淵 一博	感性評価アプリケーション開発と評価に関する基礎研究
片山 めぐみ	福祉事業者が支援する高齢者の共助コミュニティ
小宮 加容子	子どもを対象にした身体・認知の発達に適したデザインに関する研究
杉本 達應	情報の視覚化に関する技術調査と教材開発

教員名	研究課題
福田 大年	スケッチを活用した協創型グループディスカッションの手法の構築
松井 美穂	アメリカ南部文学研究
松永 康佑	身体への映像投影表現に関する研究
三谷 篤史	メカトロ積み木を応用した視覚的記憶トレーニングツールの実証実験
金子 晋也	tiny spaceに関する研究
須之内 元洋	文化資産のオープンソースデジタルアーカイブプラットフォームの開発 音響特徴量を活用したフィールド・レコーディング用アプリケーションの開発

看護学部

教員名	研究課題
中村 恵子	大学院教育における高度実践看護に関する研究（継続）
樋之津 淳子	針刺し切創による感染を防止するための教育プログラムの開発
山本 勝則	精神看護学におけるシミュレーション教育 患者体験の理解
宮崎 みち子	女性の健康保護と婚姻
猪股 千代子	自然治癒力を惹起させる時空間・コミュニティの設計に関する研究
小田 和美	慢性期看護に携わる熟練看護師の療養支援の実践知の可視化に関する研究
河原田 まり子	ソーシャルキャピタルを活用した公衆衛生看護活動の推進
川村 三希子	人生の最終段階にある患者のリアルニーズを聴くためのコミュニケーションスキルプログラムの開発と効果
定廣 和香子	実習安全に向けた教授活動自己評価尺度の開発
スーディ神崎 和代	医療事前指示書に関する認識の国際比較 認知症状遅延に関する研究 ICTを用いたE-KANGO及びE-KURASHI研究
松浦 和代	低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラムへの適用
上村 浩太	北海道の小児がん医療に携わる看護師へ向けた動画教材の開発と評価
大野 夏代	マッサージなど看護技術や統合医療に関する研究 国際的活動の計画や評価に関する研究
貝谷 敏子	創傷看護学におけるヘルス・テクノロジーアセスメントの構築
菊地 ひろみ	訪問看護ステーションの看護師教育プログラム開発に係る研究
清水 光子	都市に暮らす高齢者のソーシャル・キャピタルの実態と今後の地域保健福祉活動
菅原 美樹	高度実践看護師の教育と評価に関する研究
古都 昌子	看護学を学ぶ学生および看護職として生きる看護師の生涯発達に関連した研究 看護学生の臨地実習における環境の実態と改善策の検討に関連した研究
村松 真澄	介護保険施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの介入が対象者（入院、入所者）の心身に及ぼす影響に関する調査
守村 洋	メンタルヘルスに関する研究（主として精神障害セルフヘルプ・グループへの地域生活支援および自殺予防に関する研究）
渡邊 由加利	妊娠期・育児期にある家族を対象とした親準備教育プログラムの検討 助産技術の実践力を高めるための教育内容の検討

教員名	研究課題
神島 滋子	高次脳機能障害家族の生活の実態と支援に関する研究 大学教員の支援による一般病院看護指導の効果
工藤 京子	呼吸器疾患患者の栄養に関する想いと食行動の実態
田中 広美	看護教育と学習に関する研究
原井 美佳	中年期女性の尿失禁リスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究
藤井 瑞恵	血液透析患者の地域差とうつ傾向の関係
三上 智子	小学校児童の「いのち」の教育の実践と課題の検討
森川 由紀	生殖補助医療によって出産した女性の育児期の体験
矢野 祐美子	看護師のエンパワーメント経験の分析
山内 まゆみ	助産学専攻科生1～5期終了生の助産業務能力、およびキャリアの実態調査
山本 真由美	母性看護学における実践能力を強化するための教材の開発
石引 かずみ	わが国の正常出産におけるマタニティケアシステムの違いによる経済効率の比較 －助産師主導の院内助産と医師主導の医療施設に焦点をあてて－
小田嶋 裕輝	2型糖尿病患者の首尾一貫感を高める患者教育プログラムの開発と検証
柏倉 大作	術後回復強化プロトコルを活用した看護ケアガイドラインの構築 動画を活用した自己学習支援型の注射のシミュレーション教育に関する研究
近藤 圭子	地域在住高齢者の自己効力感と保健行動の関連
田仲 里江	地域保健分野におけるソーシャル・キャピタルに関する研究
坂東 奈穂美	多職種で構成されたチームにおける協働
檜山 明子	入院患者に対する転倒予防対策に関する研究
星 幸江	長期入院統合失調症患者の退院好機を見定める臨床判断要素 ～熟練看護師の関わりに焦点を当てて～
御厩 美登里	在宅死を促進する要因に関する研究 訪問看護師の職務継続意向に関連する要因
横川 亜希子	就職後早期に医療事故の当事者となった看護師の職業経験に関する研究 －医療事故の克服過程で生じた経験に焦点を当てて－ 夕張市清水沢地区の炭鉱遺産をめぐるウォーキングマップの活用状況と改善
木田 妙	出産前の女性の骨盤の緩み・ゆがみの実態と骨盤ケアによる変化

2 学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
古都 昌子	看護職のワークキャリアとライフキャリアの融合を目指す『子育て経験活用術』の提案に向けての検討
上田 裕文	森林を活用した健康保養地形成に関する北海道とラップランドの比較研究
杉本 達應	映像アーカイブを活用するためのモバイルアプリ開発研究
松永 康佑	身体計測システムを用いた地域の新伝統芸能のアーカイブ化に関する研究
金子 晋也	建築構法からみる北海道農山漁村の建築文化の固有性に関する研究
横川 亜希子	就職後早期に医療事故の当事者となった看護師の職業経験に関する研究 －医療事故の克服過程で生じた経験に焦点を当てて－

共同研究

教員名	研究課題
◎定廣 和香子 山田 良	空間的療養効果を重視したArt in Hospital モデルの構築
◎樋之津 淳子 中村 恵子 田中 広美 藤井 瑞恵 矢野 祐美子 樋口 春美 勝見 真澄	看護コンソーシアムの構築に関する開発研究
山田 良	北欧都市の市街地・景勝地における地域活性化を目的とした環境芸術に関する研究－ノルウェー・オスロ市、トロンハイム市の最新事例調査とワークショップ実践を通じて－
◎原井 美佳 村松 真澄 近藤 圭子	寒冷な特別豪雪地帯に居住する高齢者の健康と暮らしについての研究
◎福田 大年	デジタルファブリケーションと参加型デザインを取り入れた、札幌の資源を豊かに体験するコンテンツ制作キット構築の基礎研究
◎藤井 瑞恵	維持透析患者の地域格差と精神的健康との関係 －治療のため転居・長期入院を選択したケースに焦点をあてて－
◎三谷 篤史 蓮見 孝 細谷 多聞 守村 洋	能動アート型ナースコールへの話しかけ行動や触知行動を検出するデバイスの開発

◎印：代表者

田村ICT基金

教員名	研究課題
◎松永 康佑	雪像三次元を用いたデジタルアーカイブの構築～VR技術を利用した仮想札幌雪まつりの制作～

◎印：代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		田村ICT基金		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
7	6	7	7	1	1	15	14



3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費助成事業（科研費）

研究代表者	研究課題	研究種目	金額（円）
羽深 久夫	明治期以降の北海道における枠内構法の民家の歴史的展開過程	基盤研究（C）	650,000
石井 雅博	視対象への能動的関与による視聴覚の変調	基盤研究（C）	780,000
河原田 まり子	地域保健活動評価のためのソーシャル・キャピタル測定尺度の開発	基盤研究（C）	1,430,000
川村 三希子	認知症高齢がん患者の疼痛マネジメントの質の向上を目指した疼痛アセスメント指標の開発	基盤研究（C）	910,000
定廣 和香子	学生による医療事故防止に向けた実習安全FD展開モデルの開発	基盤研究（C）	1,430,000
スーディ神崎 和代	在宅死を可能にするための在宅ケア基盤づくりの方略・フィンランドと日本の比較	基盤研究（C）	780,000
原 俊彦	北海道・札幌市の人口減少、その未来への対応・地域人口分析システムの構築	基盤研究（C）	1,300,000
貝谷 敏子	看護経済学の構築に向けた基盤研究 —褥瘡患者立脚型QOL評価指標の開発—	基盤研究（C）	1,560,000
柿山 浩一郎	無意識動作で測るポジティブ感・ネガティブ感に関する研究	若手研究（B）	390,000
菊地 ひろみ	多発性硬化症患者に対する認知行動療法の導入およびアウトカム評価	基盤研究（C）	520,000
斉藤 雅也	小学児童の想像温度に基づく地域住育プログラムの開発研究	挑戦的萌芽研究	910,000
清水 光子	都市に暮らす高齢者のソーシャル・キャピタルの実態と今後の地域保健福祉活動	基盤研究（C）	1,820,000
菅原 美樹	高度実践看護師の臨床推論・判断能力を強化するシミュレーション教育プログラムの開発	基盤研究（C）	1,170,000
村松 真澄	口腔ケアシミュレーションモデルの開発	挑戦的萌芽研究	2,990,000
石田 勝也	地域の精密な環境情報を使用したデータビジュアライズの公共空間への応用	基盤研究（C）	2,210,000
上田 裕文	森林利用型樹木葬墓地の導入可能性と課題に関する研究	若手研究（B）	910,000
片山 めぐみ	高揚感記録モバイルアプリ開発による新しい景観資源収集と観光客誘致の仕掛けづくり	若手研究（A）	780,000
工藤 京子	北海道における患者を主体とした自助行動としてのHOT患者災害時避難システム	基盤研究（C）	650,000
小宮 加容子	散剤に適した子どもの服用動作分析および処方薬分包袋のデザイン提案	基盤研究（C）	1,300,000
田中 広美	看護職者の職務遂行困難状況に対するレジリエンス向上支援の研究	基盤研究（C）	520,000
原井 美佳	中年期女性の尿失禁リスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究	基盤研究（C）	780,000
福田 大年	スケッチを活用した協創型グループディスカッションの手法の構築	若手研究（B）	1,170,000
松永 康佑	仮想身体における筋肉の隆起と揺れ表現のための全身筋電計開発に関する研究	基盤研究（C）	780,000
三上 智子	小児看護OSCEにおける課題のピアレビューとネットワークの構築	基盤研究（C）	1,430,000



研究代表者	研究課題	研究種目	金額 (円)
小田嶋 裕輝	2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための患者教育プログラムの作成と検証	若手研究 (B)	520,000
柏倉 大作	術後回復強化プロトコルを活用した看護ケアガイドラインの構築	若手研究 (B)	910,000
田仲 里江	市町村保健師との協働によるタブレット型保健指導教材システムのプロトタイプ開発	若手研究 (B)	1,820,000
檜山 明子	患者の活動を妨げない転倒予防看護一転倒リスク行動アセスメントツールの有用性検証	若手研究 (B)	780,000
平尾 明美	コーパス分析に基づく救急看護教育支援のためのデータベースの構築及び解析	基盤研究 (C)	2,860,000
望月 由美子	ヴェスパシアーノ・ゴンザーガの肖像研究：16世紀スペイン統治下のイタリア美術政策	研究活動 スタート支援	1,430,000
湯川 崇	積雪寒冷地における住宅地の雪処理に配慮した住宅設計システムの開発	基盤研究 (C)	650,000

※課題番号順

科学研究費助成事業基盤研究A (科研A)

研究代表者	研究課題	研究種目	金額 (円)
蓮見 孝	タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究	基盤研究 (A)	3,510,000

①概要

本研究は、地方市町村と大都市の双方における暮らしの質の維持、および魅力創出のための手法の構築を目的として、平成25年度からの3カ年の計画で、アート&デザインを核に地方市町村と大都市を相補・連携させる「タイム・スペースシェアリング (略称：TSS)」手法による地域創成活動の実証実験を行い、その効果を検証するものです。

平成25年度の複数のフィールドでの活動をもとに、「人」「事」「場」「物」が地域の魅力のキーになる4要素になるとの仮説を構築しました。これを受け平成26年度は、北海道札幌市南区、三笠市、夕張市、寿都郡寿都町、虻田郡喜茂別町、沙流郡平取町で継続活動を行い、北海道有珠郡壮瞥町の全面的な協力を得て、夏期と冬期の札幌ー壮瞥町間の5組7名のシェアリング「居住実験」を行うと共に、延べ60名の3回に亘る「井戸端寺子屋WS」を実施しました。

以上を受け平成27年度には、居住実験で得られたデータをさらに補完するため、短期居住型ワークショップを開催しました。具体的には、若者の視点から地域を評価し、魅力や課題を浮き彫りにする必要があると考え、壮瞥町をフィールドに、20代の若年世代 (全41名) を中心とした短期居住ワークショップとしました。その内容は、若者自身が地域を評価し魅力を活用し課題を解決する案を提案できるワークショップ型実験で、参加者は札幌在住の本学学生、東京在住の学生、台湾在住の台湾人学生により、複数の混成チームを編成するものでした。結果、以下の知見を得ました。

I：「若者が地方に対してどのような魅力を抱くのか、そしてどのような課題を見出すのか」という問題に対して、今回の実験では主にモノとしての地域資源を高く評価しているということが示されました。また、課題としては交通機関に関する問題など、ワークショップの中で実際に体験した内容を基に問題意識を内在させていることが示唆されました。

II：「若者による地域の魅力活用案・課題解決案は地元住民にどのように判断されるのかを明らかにする」という目的に対しては、地元住民が比較的高く評価する内容と外部民が高く評価する内容とでは異なっていることが示唆されました。

III：「若者・中高年・地元民・外部民という対比の中に何か特殊な相関関係が見えてくるかを明らかにする」という目的に対しては、部分的ではありますが相関関係を見出すに至りました。特に若年層や外部民による評価は地域が持つ実在するモノ要素によって高く評価されやすい傾向をうかがうことができました。

本研究では壮瞥町を対象としたワークショップ型短期居住実験を実施しましたが、このような実験をおこなうことによって、年齢や居住地の違いで地域への評価基準が異なることを示すデータを得ることが出来ました。サンプル数や実験地域といった点で、非常に限定的であり、一般性の低い結果と言わざるを得ず、次回以降の実験では、より実験的性質を強め実験環境の統制・統計的信頼性の向上を目指し研究計画と遂行を行っていく必要があるといえます。しかしながら、これまでに行われたことのないワークショップ型の短期居住実験をある程度統制した実験参加者を対象として実施した本研究は今後の地域創成デザイン研究にとって有意義な研究手法を提案・実施することができたと

いう点で十分な結果を残したといえると考えます。

以上のワークショップ型短期居住実験に加え、本科研費の最終年度にあたることから、全95ページにおよぶ報告書「地域創生をデザインする 都会と地方の魅力相乗モデル開発 (ISBN978-4-9908926-0-9 C3036)」を「札幌市立大学 地域創生デザイン研究会」を発行元として発行しました。本報告書は、3年間の研究成果を、「地域創生に興味がある一般の方に読み易いものとする」をコンセプトに研究者等が執筆したものであり、地域創生デザイン学の構築に向けた本研究の成果や今後の課題に言及する内容としました。

②実施体制
 研究代表者：蓮見 孝
 研究分担者：酒井 正幸、城間 祥之、中原 宏、上遠野 敏、原 俊彦、石井 雅博、斉藤 雅也、山田 良、柿山浩一郎、上田 裕文、片山めぐみ
 研究補助員：矢久保空遥、南部 麻子

③研究組織
 統括、大都市（札幌市）の魅力分析班、過疎市町村の魅力分析班、地域創成先行事例分析班、暮らし満足度定量化手法班、事務局

④主な事業実績

年月日	事業実績
平成27年8月26日～9月1日	若者を対象とした国際ワークショップ型二地域居住実証実験（調査対象者：41名）
平成27年10月24日～10月25日	「考えよう！地域の新しい暮らし方と未来」札幌デザインウィーク 2015 出展（参加者：約45名）
平成28年3月30日	「地域創生をデザインする 都会と地方の魅力相乗モデル開発」タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究報告書発行（全95ページ）ISBN978-4-9908926-0-9 C3036

受託研究費

研究代表者	研究課題	委託者	金額（円）
中原 宏	創成東地区におけるアーバンデザインセンター（UDC）のあり方と創出方法に関する研究	札幌市（市民まちづくり局）	2,892,780
矢部 和夫	キウシト湿原植生調査研究	登別市	500,000
矢部 和夫	円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究	札幌市（環境局）	500,000
吉田 和夫	ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究—地下鉄円山公園駅からのアプローチ誘導サイン—	札幌市（環境局）	500,000
吉田 恵介	芸術文化導入によるまちづくりに関する研究	美瑛町	2,000,000
斉藤 雅也	大型商業施設における省エネルギー型建設環境システムのエコツアーのデザイン研究	㈱札幌副都心開発公社	960,000
斉藤 雅也	温熱環境・環境負荷に配慮したゾウ舎（仮称）のデザイン研究	札幌市（環境局）	500,000
斉藤 雅也	森林保全・資源循環のための地域レベルのエネルギー解析	㈱竹中工務店技術研究所	160,000
斉藤 雅也	生き物のハビタットとしての里山環境・都市公園のエネルギー環境の調査・解析	㈱竹中工務店技術研究所	100,000
片山 めぐみ	動物福祉に配慮した動物愛護管理施設のハードとソフトのデザインに関する研究	札幌市（保健福祉局）	500,000
福田 大年	ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）の飼育展示・サイン計画のデザイン監修	札幌市（環境局）	500,000

共同研究費

研究代表者	研究課題	委託者	金額 (円)
安齋 利典	非開示	三菱電機(株)	非開示

4 寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額 (円)
中村 恵子	札幌市民のニーズに応じた教育活動支援のため	(医)鳩仁会札幌中央病院	80,000
中村 恵子	看護研究の促進及び看護の質の向上のため	(医)溪仁会 手稲溪仁会病院	105,000
中村 恵子	看護研究の促進及び看護の質向上のため	(公財)北海道勤労者医療協会	200,000
中村 恵子	看護研究の促進及び看護の質向上のため	JA北海道厚生連札幌厚生病院	210,000
スーディ神崎 和代	スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する	新陽パソコン倶楽部	430,000
スーディ神崎 和代	スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する	田村 いく子	3,500,000
スーディ神崎 和代	スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する	(株)中村縫製	30,000
スーディ神崎 和代	スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する	奈良 賢	10,000
スーディ神崎 和代	スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する	鷺尾 友信	30,000
矢部 和夫	釧路湿原生態系保全に関する研究	環境コンサルタント(株)	488,960
矢部 和夫	「ウトナイ湖北岸における湿生草原の再生手法検討—現地での堰上げ実験を想定した事前調査—」に対する研究助成	(公財)リバーフロント研究所	800,000
村松 真澄	看護・福祉などにおけるボランティア活動を含む御校の教育研究および地域連携活動に賛同し、教員および学生のさらなる活躍、地域の発展のため	フィールド・クラブ(株)	200,000

5 海外出張記録

期間	教員名	目的国	目的
平成27年5月7日 ～13日	川村 三希子	デンマーク、 フランス	第14回 ヨーロッパ緩和医療学会 ポスター発表、ホスピス施設視察
平成27年5月14日 ～22日	石井 雅博	アメリカ合衆国	Vision Sciences Society 15th Annual Meeting参加
平成27年6月10日 ～15日	スーディ神崎 和代	フィンランド	7 th KUOPIO Alzheimer Symposium (国際学会参加・発表)
平成27年6月27日 ～28日	金子 晋也	韓国	Kookmin UniversityのGiljae Ahnとアジアの建築に関する研究打合せ、韓国のデザインに関する視察
平成27年7月28日 ～8月2日	町田 佳世子	ベルギー	第14回国際語用論学会大会 (The 14th International Pragmatics Conference) にて成果発表
平成27年7月31日 ～8月7日	宮崎 みち子	ポルトガル	第21回世界医事法学会参加
平成27年8月4日 ～12日	上田 裕文	フィンランド	学術奨励研究費「北海道とラップランドの健康保養地に関する比較研究」現地調査
平成27年8月18日 ～21日	河原田 まり子	韓国	第6回国際地域看護学会参加
平成27年8月18日 ～21日	田仲 里江	韓国	第6回ICCHNR参加
平成27年9月9日 ～17日	金子 晋也	アメリカ合衆国	入植期の木造建築・納屋の調査、近代建築の調査
平成27年10月6日 ～13日	山田 良	ロシア	国際会議およびワークショップ指導
平成27年10月22日 ～24日	宮崎 みち子	韓国	10th International Nursing Conferenceに参加
平成27年10月31日 ～11月5日	松浦 和代	オーストラリア	The International Association of Societies of Design Research 2015参加、発表
平成27年10月31日 ～11月6日	安齋 利典	オーストラリア	The International Association of Societies of Design Research 2015参加、発表
平成27年10月31日 ～11月7日	三谷 篤史	オーストラリア	国際会議IASDR2015への参加・発表
平成27年11月5日 ～6日	山田 良	韓国	空間デザイン研究会打合せ
平成27年11月5日 ～12日	定廣 和香子	アメリカ合衆国	sigma theta tau international 43rd Biennial Convention (研究発表)
平成27年11月11日 ～15日	張 浦華	中国	NBD (アジアネットワークビヨンドデザイン組織) 展覧会の関連打合せ、開会準備、作品見学及びオープニングセレモニー参加
平成27年11月18日 ～24日	杉本 達應	アメリカ合衆国	国際会議MES2015発表、ハーバード大学・マサチューセッツ工科大学視察
平成27年12月2日 ～9日	張 浦華	中国	清華大学芸術と科学研究センターと廣東省仏山市、順徳区北窖鎮人民政府により合同開催されたデザインワークショップの引率
平成27年12月9日 ～15日	スーディ神崎 和代	フィンランド	現地調査および研究協力者との打ち合わせ

期間	教員名	目的国	目的
平成28年1月12日 ～15日	原 俊彦	ドイツ	日独シンポジウム「少子高齢化対策戦略」での報告・参加
平成28年1月25日 ～27日	山田 良	韓国	空間デザイン研究会参加
平成28年2月4日 ～9日	須之内 元洋	ドイツ	transmediale及び創造産業拠点調査 産学官共同研究（北翔大、札幌大、民間企業、札幌市）
平成28年3月6日 ～11日	上田 裕文	フィンランド、スウェーデン	ヌークシオ国立公園及びスコグスシュルコガーデン現地調査
平成28年3月6日 ～14日	原 俊彦	ドイツ	招聘講演と共同研究打ち合わせ、学会参加
平成28年3月9日 ～13日	守村 洋	台湾	平成27年度台湾医療関係施設訪問・見学ツアー参加
平成28年3月16日 ～22日	山田 良	ノルウェー、フィンランド	北欧都市の環境芸術 共同研究
平成28年3月22日 ～25日	金子 晋也	台湾	World Design Capital 2016視察
平成28年3月22日 ～28日	羽深 久夫	中国	武漢市のアーバンデザインセンター機能の事例調査
平成28年3月23日 ～27日	上田 裕文	中国	北京オリンピック都市構造の視察

IV 社会活動

1 地域貢献諸活動

1) 受託研究一覧

研究課題	期間	概要	委託者
芸術文化導入によるまちづくりに関する研究	平成27年4月16日 ～平成28年2月27日	ポケットパークの実施設設計資料作成への協力、町並みの魅力発見マップの活用を通して美瑛町の市街地活性化やまちづくりへ貢献した。	美瑛町
森林保全・資源循環のための地域レベルのエネルギー解析	平成27年6月10日 ～平成27年8月31日	持続可能な地域に賦存する森林資源の活用のため、供給と需要（インフラ・建物）を最適化するためのエネルギー収支およびエクセルギー収支の評価システムを、北海道下川町での調査・実測データに基づき構築することを目的とした。	㈱竹中工務店 技術研究所
大型商業施設における省エネルギー型建設環境システムのエコツアーのデザイン研究	平成27年6月10日 ～平成28年2月29日	省エネルギー型の建築環境・設備システムの市民啓蒙・普及の一環としてそれらを巡るエコツアーを企画・実践した。今後、照明・空気調和・衛生システムなどの働きに対する市民の理解を深める一つの手法として活用する。	㈱札幌副都心 開発公社
キウシト湿原植生調査研究	平成27年7月22日 ～平成28年3月10日	キウシト湿原の群落と水文化環境の現状をモニタリングし、順応的管理の原則に基づき、適切な保全策を提言することを目的とした。	登別市
温熱環境・環境負荷に配慮したゾウ舎（仮称）のデザイン研究	平成27年9月9日 ～平成28年2月29日	札幌市円山動物園の生体展示として新規に導入されるアジアゾウの飼育展示施設（以下、ゾウ舎）の基本設計および実施設計に関わるデザイン監修を行ない、市民に親しまれる寒冷地の動物園施設のデザイン研究を実施した。	札幌市 （環境局）
ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究—地下鉄円山公園駅からのアプローチ誘導サイン—	平成27年9月9日 ～平成28年2月29日	札幌市円山動物園を対象に、ユニバーサルデザイン視点からのサイン計画を監修した。	札幌市 （環境局）
ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）の飼育展示・サイン計画のデザイン監修	平成27年9月9日 ～平成28年2月29日	札幌市円山動物園の新施設ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）の飼育展示・サイン計画のデザイン監修を行い、市民に親しまれる寒冷地の動物園施設のデザイン研究を実施した。	札幌市 （環境局）
円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究	平成27年9月9日 ～平成28年2月29日	円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のために以下のことを行なった。 ・ササ除去による山野草回復試験 ・外来種除去による山野草回復試験 ・導入候補小動物の現状把握と地図化 ・小動物の生育環境のモニタリングと導入予備実験 ・ガイドボランティアの技術向上 ・動物園の森全体管理方針検討会議への出席	札幌市 （環境局）



研究課題	期間	概要	委託者
動物福祉に配慮した動物愛護管理施設のハードとソフトのデザインに関する研究	平成27年9月9日 ～平成28年3月18日	札幌市動物管理センターの機能充実・強化、さらなる動物愛護管理の推進に向け、動物福祉に配慮した施設のあり方や魅力的な動物愛護センターの検討を行った。	札幌市 (保健福祉局)
生き物のハビタットとしての里山環境・都市公園のエネルギー環境の調査・解析	平成27年11月20日 ～平成27年12月3日	公園の樹木・芝生・水辺の計画への活用を目的とし、日除け・樹木によって短波長日射を遮蔽しても、レンガ・コンクリートなどに起因する長波長放射により暑熱不快感が厳しくなる温熱環境をMRTを用いて評価した。	(株)竹中工務店 技術研究所
創成東地区におけるアーバンデザインセンター(UDC)のあり方と創出方法に関する研究	平成27年10月15日 ～平成28年3月25日	創成東地区を対象として、「まちづくり」のための新たな方法・体制・拠点として最近注目されている「アーバンデザインセンター(UDC)」(以下UDC)について、あり方や、創出に向けた調査・分析・検討を行なった。	札幌市 (市民まちづくり局)

2) 共同研究(学外との連携) 一覧

事業名	期間	概要	担当教員	共同研究者
該当なし				

3) 受託事業一覧

事業名	期間	概要	担当教員	委託者
該当なし				

4) 地域連携研究センターへの協力依頼一覧

事業名	依頼元	担当教員
「浮世絵師 歌川国芳展」ポスター制作に関わる宣伝事業	(公財)札幌市芸術文化財団 札幌芸術の森美術館	羽深 久夫
エントランスアートNEXT	(一財)STVグループみらい財団	上遠野 敏
三吉神社例大祭	札幌大通まちづくり(株)	上遠野 敏
南区オリジナルうちわの作成事業	札幌市(南区)	大淵 一博
まこまるグリーンカーテンプロジェクト	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ	斉藤 雅也
メディア社会における新聞情報の在り方に関する共同研究	朝日新聞北海道支社	武田 亘明
眺望ギャラリー〔テラス計画〕企画展 「Art Student League in SAPPORO -美術学生選抜展-」	札幌駅前通まちづくり(株)	上遠野 敏 須之内 元洋
札幌国際芸術祭ウェブサイトリニューアルのためのプロポーザル募集要項等作成協力	創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会	須之内 元洋
札幌国際芸術祭2014管理運営ログの抽出とアーカイブ化	創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会	須之内 元洋
「(仮称)札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015」の表紙デザイン制作	札幌市(市長政策室)	上遠野 敏
Connekid! in そらのガーデン「風の子 Go!Go!」	札幌駅総合開発(株)	小宮 加容子 福田 大年
札幌市グリーティングカード作成事業	札幌市(総務局)	大淵 一博
「(仮称)さっぽろ未来創生プラン」の表紙デザイン制作について	札幌市(市長政策室)	杉本 達應
食物アレルギーピクトグラム作成事業	札幌市(保健福祉局)	吉田 和夫
JR琴似駅直結 空中歩廊 デジタルサイネージ及びサイン計画	(株)コーポレーション・ミヤ	柿山 浩一郎
第6回ミニ大通お散歩まつり	ミニ大通お散歩まつり実行委員会	村松 真澄
平成27年度札幌広域圏組合共同研究事業「広域圏を深掘り！研究会」	札幌広域圏組合	上田 裕文
キッズフォレスト	北海道新聞 東京支社	石田 勝也
そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2015関連催事「健康セミナー歯輝歯輝-お口から健康に-」	宮前集会所多機能交流拠点化推進委員会	村松 真澄
竹あかり	ふるさとを歌う会in札幌 森の時間	三谷 篤史
みんなのハロウィン	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ	松永 康佑 藪谷 祐介
第21回 芸術の森地区文化祭 出展協力	芸術の森地区連合会	羽深 久夫
第21回 芸術の森地区文化祭 ポスター協力	芸術の森地区連合会	羽深 久夫
喜茂別町開町100周年記念PRロゴ作成事業	喜茂別町	吉田 和夫
北広島芸術文化ホール2015ギャラリー事業 美術・デザインを学ぶ学生による作品展への出展	北広島芸術文化ホール運営委員会	福田 大年



事業名	依頼元	担当教員
市立札幌病院 ホスピタルアート	札幌市（病院局）	上田 裕文
消臭材商品開発デザインコンペ	空知単板工業㈱	小宮 加容子
桑園まちおこしプロジェクト	桑園まちおこしプロジェクト	吉田 和夫
南区まちナカアート（自動販売機ポスター）	札幌市（南区）	吉田 和夫 大淵 一博
病室用木材インフィル モニタリング調査	渡島地域病院木材化検討委員会	松浦 和代
0さいからのげいじゅつのもり「ハコ×マチ×あそびlab！」	(公財)札幌市芸術文化財団 札幌芸術の森美術館	小宮 加容子
文科庁委託事業 平成27年度戦略的芸術文化創造推進事業「すごいぞ、これは！」展 関連事業ワークショップ	(公財)札幌市芸術文化財団 札幌芸術の森美術館	小宮 加容子
地域紹介（HP等含む）活動に使用するキャラクターの作成	簾舞まちづくり協議会	石田 勝也
2017冬季アジア札幌大会参加記念メダルデザイン制作	(公財)第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会	吉田 和夫 大淵 一博
喜茂別町開町100周年記念新町章制定事業	喜茂別町	吉田 和夫
ツール・ド・北海道2016（第30回大会）ポスターデザイン募集	(公財)ツール・ド・北海道協会	福田 大年
竹あかり しま専科	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ	三谷 篤史
発寒クラフト通りプロジェクト	発寒商店街振興組合	山田 良
ベロタクシーデザイン しま専科	NPO法人 エコ・モビリティ サッポロ	福田 大年 石崎 友紀 安齋 利典 藪谷 祐介
南区まちナカアート（自動販売機ラッピング）	札幌市（南区）	吉田 和夫 大淵 一博
チ・カ・ホ北2条広場番組投稿促進ワークショップ（中級者向け）	特定非営利活動法人 札幌市IT振興普及推進協議会	石田 勝也
イラストデザイン制作業務	(一財)さっぽろ健康スポーツ財団	福田 大年
北海道アールブリュットフォーラム	(福)ゆうゆう 北海道アールブリュットネットワーク協議会	小宮 加容子
(仮称) えほん図書館開館前イベント	札幌市（教育委員会）	小宮 加容子
札幌版次世代住宅認定証デザイン修正	札幌市（都市局）	吉田 和夫 斉藤 雅也
発寒クラフト通りプロジェクト チラシデザイン制作	発寒商店街振興組合	山田 良



5) 高大連携

① デザイン学部 第7回高大連携公開講座

開催日	高校名	受講生徒数	テーマ・科目名	担当教員
平成27年9月20日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校	38名	デザイナーの発想力を身につける！アイデア発想ワークショップ	福田 大年

② 看護学部 高大連携講座

開催日・期間	高校名	受講生徒数	テーマ・科目名	担当教員
平成27年4月7日 ～平成28年1月28日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌開成高等学校	5名	看護学原論 (講義・15時間)	◎定廣 和香子 猪股 千代子
		5名	地域保健学概論 (講義・15時間)	◎清水 光子 河原田 まり子
		5名	人間発達援助論 (演習・30時間)	◎山本 勝則 中村 恵子 松浦 和代 宮崎 みち子
		5名	チーム医療論 (講義・15時間)	◎坂東 奈穂美 猪股 千代子 矢野 祐美子
		5名	国際看護学 (講義・15時間)	◎大野 夏代 スーディ神崎 和代

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

③ 看護学部 模擬授業

開催日・期間	高校名	受講生徒数	テーマ・科目名	担当教員
平成27年9月22日	北海道札幌旭丘高等学校 市立札幌大通高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌啓北商業高等学校 北海道札幌藻岩高等学校	114名	小児への接近方法	上村 浩太
			妊娠期にある女性と家族の身体的、心理・社会的特性と看護	渡邊 由加利



6) 高校出前講義

デザイン学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成27年6月29日	北海道札幌厚別高等学校	メディアデザインとは何か？	須之内 元洋
平成27年7月23日	北海道帯広緑陽高等学校	技術文化三角測量/7100型SLのデザイン	石崎 友紀
平成27年8月25日	北海道旭川北高等学校	デザイナーの発想力を身につける！アイデア発想ワークショップ	福田 大年
平成27年11月4日	北海道札幌新川高等学校	人と人を結びつけるコミュニティ・デザイン	片山 めぐみ
平成27年11月10日	北海道札幌旭丘高等学校	デザインでつながる世界	石田 勝也
平成27年11月11日	北海道札幌清田高等学校	人はなぜデザインするのかーデザインの歴史と身の回りのデザインについてー	安齋 利典
平成27年12月10日・17日、平成28年1月21日・28日	北海道札幌手稲高等学校	人々に優しい食器のデザインを考えよう	張 浦華

看護学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成27年9月18日	北海道札幌新川高等学校	家庭看護・医療	スーディ神崎 和代
平成27年10月30日	北海道札幌藻岩高等学校	小児看護と国際支援 ーモンゴル国における乳児の股関節脱臼を予防するための看護プロジェクトー	松浦 和代
平成27年11月4日	北海道札幌新川高等学校	小児看護学 子どもへの接近法	上村 浩太
平成27年11月11日	北海道札幌国際情報高等学校	「看護職としての『私』」として学ぶ・育つ☆ ー看護職生涯発達学の視座からー	古都 昌子
平成27年11月11日	北海道札幌開成高等学校	小児看護と国際支援 ーモンゴル国における乳児の股関節脱臼を予防するための看護プロジェクトー	松浦 和代
平成27年12月3日	北海道大麻高等学校	助産師の仕事について	宮崎 みち子

7) その他の地域貢献諸活動

デザイン学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
蓮見 孝	SAPPOROハロウィン	SAPPOROハロウィン実行委員会		平成27年10月2日 ～10月31日
城間 祥之	理事として、IT事業の普及事業等の選定・決定	NPO法人札幌ITフロント		平成27年6月29日
	講演会参加/運営	札幌なにかかができる経済人ネットワーク		平成27年12月17日
上遠野 敏	炭鉱の記憶推進事業団運営委員、各種活動に参加	NPO法人炭鉱の記憶推進事業団		平成27年4月 ～平成28年3月
安齋 利典	ペロタクシーデザイン しま専科	NPO法人エコ・モビリティ サッポロ	20名	平成28年1月23日
齋藤 利明	理事	NPO法人 テレビ日本美術家協会		平成27年4月 ～平成28年3月
羽深 久夫	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会 委員	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会		平成27年4月 ～平成28年3月
	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議 特別委員	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議		平成27年4月 ～平成28年3月
	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会 委員	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会		平成27年4月 ～平成28年2月
	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会 委員	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会		平成27年4月～9月
	札幌市南区石山地区まちづくり協議会 委員（石山商店街振興組合理事として）	札幌市南区石山地区まちづくり協議会		平成27年4月 ～平成28年3月
	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会 会員	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会		平成27年4月 ～平成28年3月
	札幌市南区芸術の森地区文化祭実行委員会 委員	札幌市南区芸術の森連合町内会		平成27年8月～11月
	札幌市保養センター駒岡運営協議会 委員	札幌市環境福祉事業団		平成27年4月 ～平成28年3月
	北海道中小企業家同友会札幌支部南地区会 会員	北海道中小企業家同友会		平成27年4月 ～平成28年3月
札幌市南区商店街連絡協議会 会員	札幌市南区商店街連絡協議会		平成27年4月 ～平成28年3月	
町田佳世子	育児と仕事両立の実践例の講演の企画・実施	NPO法人日本BPW連合会 BPW札幌クラブ		平成27年7月
	マイナンバー制度の理解を促す講演の企画・実施	NPO法人日本BPW連合会 BPW札幌クラブ		平成27年11月
矢部 和夫	湿原再生のアドバイザーとしての役割	NPO法人ふらっと南幌		平成27年4月 ～平成28年3月
	道内の自然を守る活動（常務理事）	(一社)北海道自然保護協会		平成27年4月 ～平成28年3月
	湿原植生のアドバイザーとしての役割	NPO法人キウシト湿原の会		平成27年4月 ～平成28年3月
	副理事長として活動を推進した	(一社)湿原研究所		平成27年4月 ～平成28年3月



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
吉田 和夫	2017冬季アジア札幌大会参加記念メダルデザイン制作	(公財)第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会	13名	平成27年12月21日 ～平成28年3月31日
	喜茂別町開町100周年記念PRロゴ作成事業	喜茂別町	2名	平成27年10月23日 ～平成28年11月3日
	喜茂別町開町100周年記念新町章制定事業	喜茂別町	5名	平成28年1月 ～平成29年10月(予定)
	南区まちナカアート/自動販売機ラッピング	札幌市南区市民部地域振興課まちづくり推進係	7名	平成28年2月10日 ～3月18日
	桑園まちおこしプロジェクトロゴマークデザイン	桑園まちおこしプロジェクト	5名	平成27年10月16日 ～平成28年3月31日
	食物アレルギーピクトグラム作成事業	札幌市保健所	11名	平成27年8月18日 ～12月21日
斉藤 雅也	建築環境分野 専門委員	北海道トップランナーネットワーク構築会議 (HTNC)		平成27年4月 ～平成28年3月
	グリーンカーテン栽培のアドバイザー	子どもの体験活動の場 Coミドリ		平成27年6月～9月
武田 亘明	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	情報と教育フォーラム「オンコの木」		平成27年4月 ～平成28年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ハイパー風土記札幌 InterCityOroppas運営委員会		平成27年4月 ～平成28年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ネットワークコミュニティフォーラム事務局		平成27年4月 ～平成28年3月
	理事、会運営に関する活動	北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会		平成27年4月 ～平成28年3月
	副会長、北海道支部長、web・ドメイン管理およびメディア教育に関する情報交流	教育とコンピュータ利用研究会		平成27年4月 ～平成28年3月
	代表、障害者就労支援、人材育成支援およびメディア戦略検討プロジェクト等の主催	北海道企画デザイン研究会	9名	平成27年4月 ～平成28年3月
張 浦華	コンチネンタルギャラリーにてチャリティー陶芸展の販売陶芸作品の提供	北海道陶芸作家協会&NPO法人「さっされん」		平成27年11月3日 ～8日
	第37回北海道陶芸作家協会展のポスター・ハガキのデザイン制作	北海道陶芸作家協会		平成28年2月
	心身障害者に対する支援のチャリティー展のポスター・ハガキのデザイン制作	北海道陶芸作家協会&NPO法人「さっされん」		平成28年3月1日 ～6日
山田 良	商店街活性化	発寒クラフト通り		平成27年11月 ～平成28年3月
石田 勝也	広報活動支援(キャラクター制作)	簾舞まちづくりセンター		平成28年2月
大淵 一博	南区オリジナルうちわのデザイン制作指導等	札幌市南区役所	2名	平成27年6月
	法語カレンダーの挿絵デザイン制作指導等	浄土真宗本願寺派善住寺	9名	平成27年7月～12月
	2017札幌冬季アジア大会 参加記念メダルのデザイン制作指導等	第8回札幌冬季アジア競技大会実行委員会	13名	平成27年10月 ～平成28年3月
	南区まちナカアート/自動販売機ラッピング	札幌市南区市民部地域振興課まちづくり推進係	7名	平成28年2月10日 ～3月18日



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
片山めぐみ	コミュニティレストラン広報活動支援	任意団体「風のごはんや」(寿都町)		平成27年4月 ～平成28年3月
	高齢者福祉施設におけるまちづくり拠点化プロジェクト支援	社会福祉法人悠生会	3名	平成27年4月 ～平成28年3月
小宮加容子	厚生労働省障害者の芸術活動支援モデル事業における北海道協力委員	北海道アールブリュット協議会		平成27年6月 ～平成28年3月
三谷 篤史	二足歩行ロボット・受動歩行ロボットに関する講義およびワークショップ	はなぶさ児童館		平成27年8月23日
	北海道内の学生を対象としたロボットコンテストの実施	ロボット・トライアスロン実行委員会	2名	平成27年9月13日
	竹あかりへの支援	森の時間	4名	平成27年10月22日 ～25日
	竹のランプシェードづくり	Co.ミドリ	1名	平成28年1月30日

看護学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
宮崎みち子	外部顧問として運営に従事	NPO法人ゆいネット北海道		平成27年4月 ～平成28年3月
	運営委員	性暴力被害者支援センター北海道SACRACH		平成27年4月 ～平成28年3月
猪股千代子	北海道を拠点に年間20回程度、こころのケアを患者さまや看護職者に実践	統合医療ヘルスケアシステム開発機構ハマナス・音楽&看護療法研究会		平成27年4月24日、5月17日、7月17日、8月1日・2日、9月2日、18日、10月2日、11月6日、20日、24日、12月12日～13日、平成28年1月22日、2月19日
	第6回ミニ大通りお散歩まつり	SCU音楽で遊ぼう同好会		平成27年9月13日
	看護管理学領域の概要	札幌市立大学模擬患者会「桑の会」定例学習会		平成27年9月17日
	クリスマスコンサート/ホスピタルスノー	市立札幌病院ボランティアの会やさしさジェントル		平成28年2月8日
川村三希子	街中ちえのわ がんと暮らしの智恵いろいろ	市民と共に創るホスピスケアの会		平成27年6月14日
	リンパ浮腫のセルフケア	市民と共に創るホスピスケアの会		平成27年7月30日
	緩和ケア病棟見学会	市民と共に創るホスピスケアの会		平成27年10月5日
	札幌市駅地下歩行空間でがん相談実施	市民と共に創るホスピスケアの会		平成28年2月27日
スーディ神崎和代	ボランティア活動	市立札幌病院ボランティアの会		平成27年4月 ～平成28年3月



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
松浦 和代	出展：低学年児童用転倒予防マットレス	環境広場さっぽろ2015	1名	平成27年7月31日 ～8月2日
	出展：メカトロ積木を用いた記憶力テストの実施	環境広場さっぽろ2015	1名	平成27年7月31日 ～8月2日
	出展：低学年児童用転倒予防マットレス（貸出）	みんなでみに区る健康まつり2015		平成27年9月30日
	出展：低学年児童用転倒予防マットレス	健康フェスタ2015 in ちゅうおう		平成27年10月10日
大野 夏代	看護師によるマッサージボランティア活動	手稲溪仁会病院ボランティア		平成27年4月10日、 5月8日、6月19日、 6月26日、7月31 日、8月21日、10月 30日、11月13日、 12月11日、平成28 年1月8日、1月29 日、2月26日、3月 18日
菊地ひろみ	幹事	札幌ホスピス緩和ケアネットワーク		平成27年4月 ～平成28年3月
清水 光子	子宮頸がん普及啓発プロジェクト実行委員会	子宮頸がん普及啓発プロジェクト実行委員会		平成27年5月28日、 平成28年3月17日
	子宮頸がん普及啓発プロジェクトワークショップ	子宮頸がん普及啓発プロジェクト実行委員会	9名	平成27年6月16日
	札幌市中央区社会福祉協議会評議員	社会福祉法人 札幌市中央区社会福祉協議会		平成27年9月25日、 平成28年3月24日
菅原 美樹	第6回ミニ大通りお散歩まつり 健康講話救護班	第6回ミニ大通りお散歩まつり実行委員会		平成27年9月13日
古都 昌子	幹事	北海道看護教育施設協議会		平成27年6月20日 ～平成28年3月
村松 真澄	健康セミナー、農林水産省スマイルケア食（介護食）の紹介、子供への歯磨き支援	第6回ミニ大通りお散歩まつり実行委員会	13名	平成27年9月13日
	健康セミナー、農林水産省スマイルケア食（介護食）の紹介、地域見守り機能のある宅配食の紹介	みんなでみに区る健康まつり2015		平成27年9月30日
	関連催事「健康セミナー 歯輝歯輝セミナー お口から健康に？」農林水産省スマイルケア食（介護食）の紹介	そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2015	5名	平成27年10月3日
	お口の健康（スポンジブラシの使い方）と農林水産省スマイルケア食（介護食）の紹介、宅配食の紹介	けんこうフェスタ2015 in ちゅうおう	15名	平成27年10月10日
	札幌市市民活動サポートセンター「子供記者」事業の取材	札幌市市民活動サポートセンター	5名	平成27年12月19日
渡邊由加利	マタニティママと育児ママを応援する「おしゃべりサロン」	個人		平成27年4月25日
	大切なパートナーとともに考える妊娠から育児期を安心して過ごすためにしておきたいこと	アイナロハ 渡辺大地		平成27年5月30日
	ママサポートタクシー 妊産褥婦を乗車させる際の留意点について	第一交通(株)		平成27年6月18日



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
渡邊由加利	平成27年度「赤ちゃんがやってくる～先輩パパ・ママと話そう」	保健所・札幌市子育て総合支援センター		平成27年8月12日
	子育て未来フェスタさっぽろ	札幌市子育て支援総合センター		平成27年11月8日
	性暴力被害者支援センター北海道 運営委員	NPO法人ゆいネット北海道		平成27年4月 ～平成28年3月
神島 滋子	講演会の講師紹介などのサポート	日本脳外傷友の会コロポックル		平成28年1月26日
工藤 京子	役員会出席、医療講演会の企画と運営、会報誌発行の補助	北海道低肺の会（患者団体）		平成27年4月 ～平成28年3月
藤井 瑞恵	けんこうフェスタ2015inちゅうおう 出展	札幌市中央区保健福祉局	3名	平成27年10月10日
	食育ネットワーク委員	札幌市中央区保健福祉局		平成28年2月16日
三上 智子	試合大会の救護活動	グリーンイーグルスサッカースポーツ少年団		平成27年7月28日
	出展：低学年児童用転倒予防マットレス	環境広場さっぽろ2015	1名	平成27年7月31日 ～8月2日
	出展：低学年児童用転倒予防マットレス（貸出）	みんなでみに区る健康まつり2015		平成27年9月30日
	出展：低学年児童用転倒予防マットレス	健康フェスタ2015 in ちゅうおう		平成27年10月10日
近藤 圭子	桑園地区の地域行事への学生ボランティア協力の引率・支援（大運動会）	桑園まちづくりセンター	22名	平成27年9月6日
田仲 里江	桑園地区のまちづくりセンターでの行事に学生と参加	桑園地区ボランティア		平成27年10月17日・18日、平成28年1月30日
御厩美登里	事務局担当	北海道ホームヘルスケア研究会		平成27年4月 ～平成28年3月

教育支援プロジェクトセンター

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
藪谷 祐介	まこまるグリーンカーテンプロジェクト	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ		平成27年4月27日 ～平成28年3月31日
	みんなのハロウィン	NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ	11名	平成27年10月24日、10月31日
	ベロタクシーしま専科 講師	NPO法人エコ・モビリティさっぽろ		平成28年1月23日



8) マスメディアへの掲載

デザイン学部

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
上遠野 敏	札幌国際芸術祭 (SIAF) 2年後開催へ準備本格化 芸術監督 今秋にも発表 実行委に専門家チーム/市民浸透へ事前イベント	北海道新聞	平成27年7月27日
	炭鉱はいま 「歴史村」 舞台12日開幕 アートプロジェクト コンクリート群活用検討「記憶を掘り起こす」	北海道新聞	平成27年8月25日
	炭鉱はいま 夕張アートプロジェクトあす開幕 炭都の盛衰 表現 7回目、作家ら準備着々	北海道新聞	平成27年9月11日
	探る見る札幌プラス 掘り起こす炭鉱の記憶 夕張で今年もアートプロジェクト 炭鉱の歴史村 残照探す	北海道新聞	平成27年9月13日
	きょうのドキュメント「幻の遊園地 楽しい記憶に警告メッセージ」「みんなのテレビ」	UHB	平成27年11月15日
	ほっかいどう 知研人66 炭鉱遺産=札幌国際大学観光学部 吉岡宏高さん 歴史、記憶を発信する観光地に	北海道新聞	平成27年11月15日
齋藤 利明	どさんこワイド「東京オリンピックエンブレムの白紙撤回」	STV	平成27年8月6日
羽深 久夫	土曜街あるき「厚真町散歩」	NHK	平成27年9月19日
原 俊彦	創生プラン「新視点を」初の有識者会議 市の骨子案に批判も	北海道新聞【札幌】	平成27年7月24日
	弟子屈版総合戦略を議論	北海道新聞【釧路】	平成27年8月11日
	産業創出 発想大胆に	北海道新聞	平成27年10月28日
	南区 シニア世代鍵 市立大学・原教授 人口減テーマに講演	北海道新聞	平成28年2月20日
	高校を守り、地域を守る おはよう日本	NHK	平成28年2月28日
吉田 和夫	中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会：顔写真、審査風景、審査コメントの掲載	広報さっぽろ(中央区版) / 平成28年1月号	平成27年1月号
柿山浩一郎	なるか 都会と地方の「いいとこ取り」2地域居住、可能性探る 札幌市立大 市内と壮瞥で実験	北海道新聞朝刊	平成27年4月11日
	札幌市立大 壮瞥町調査し提案 シェアハウスで交流増	北海道新聞朝刊(室蘭・胆振版)	平成27年9月1日
斉藤 雅也	季節感じられる空間に 交流施設カリンパニホール 新得農場	北海道建設新聞	平成27年6月6日
	地球にちょっといいはなし エコなひと 動物たちの住環境	エコチル(札幌版6月号)	平成27年6月15日
	よりよい療養環境の実現 断熱性・遮光性・通風性を高める空間デザイン	ベストナース (best Nurse) 9月号	平成27年9月15日
武田 亘明	イベントリポート「6.6 みんなとえがおのひろば」	AFCプレミアムプレス	平成27年7月
	「関連事業を一目で確認―道教委が生涯学習カレンダー」	北海道通信	平成28年3月31日
張 浦華	2015「第7回清華大学国際芸術・設計学術月間」で開催されたデザインワークショップの祭、インタビューを受けた	广东新聞频道	平成27年12月



教員名	内容	掲載媒体	掲載日
山田 良	住宅設計作品 中ノ沢川の家	Architectural Review	平成27年6月28日
	芸森地区での作品展	北海道新聞	平成27年9月26日
	ひと 環境芸術家	北海道新聞	平成27年10月19日
大淵 一博	札幌市長グリーンディングカード制作	札幌市Webサイト	平成27年12月21日
大淵 一博	南区まちなかアート（南区をイメージした手ぬぐい展）	北海道新聞	平成28年2月20日
	2017 冬季アジア札幌大会 参加記念メダル制作	2017 冬季アジア札幌大会 Webサイト	平成28年3月7日
片山めぐみ	スパコ内装リフォームへー9日ワークショップー砂川	北海道新聞朝刊地方（空知）	平成28年3月2日
	どんなスパコにすればいい？改装へワークショップー砂川	北海道新聞朝刊地方（空知）	平成28年3月19日
小宮加容子	授産施設「かたるべの森」への木工製品提案の関連内容	北海道新聞	平成27年12月3日
松 永康 佑	電話取材「札幌乙女ごはん。」	HBC	平成28年1月11日
	南区まちなかアート（3DCG展）	読売新聞	平成28年3月12日
三谷 篤史	「ほっとニュース北海道」においてロボット講習会の様子が放映された	NHK	平成27年7月27日
	COCキャンパスにて実施したロボット競技会・WRO2015札幌大会の記事が掲載された	北海道新聞	平成27年8月17日
金子 晋也	知活ゼミナール	北海道新聞	平成27年10月18日
須之内元洋	思春期の男子知って札幌の助産師ら 動画や冊子制作	北海道新聞 夕刊12面	平成27年10月7日

看護学部

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
川村三希子	がんの相談 街中で 専門家ら30人 札幌でカフェ	北海道新聞	平成27年6月17日
	がん情報 看護師らが提供 札幌街なかカフェ開催	北海道医療新聞	平成27年6月19日
スーディ神崎和代	貴方の意思と願を叶える医療事前指示書：市立大教授が講演	BEST NURSE p32-33	平成27年8月号
	基調講演：いのちの支え合い	市立札幌病院ボランティア機関誌GENTLE p1-2	平成27年50号
	医療事前指示書に関する講演会	BEST NURSE	平成27年9月号
	「良く生きるとはどのようなことか」共生社会を創る愛の基金による講演会	社地研ニューズレター	平成28年3月第2号
大野 夏代	医療通訳ボランティア研修2015第2回研修報告	外国人医療を考え積極的な国際交流を实践するNPO法人エスニコの会報第48号	平成27年9月
清水 光子	子宮頸がん検診普及に学生一役 啓発アイデア協議へ	北海道新聞	平成27年7月9日
	がんを防ごう「子宮頸がん漫画で学んで」冊子作成	北海道新聞	平成27年7月16日



教員名	内容	掲載媒体	掲載日
清水 光子	子宮頸がん早期発見を札幌の学生29日催して同世代に発信	読売新聞	平成28年1月20日
	イチオシモーニング「大学生が子宮頸がん検診を啓発」	HTB	平成28年1月21日
村松 真澄	第18回日本在宅ホスピス協会全国大会in奄美「在宅療養患者コンフォート口腔ケアのために多職種で共有できる口腔アセスメント」	奄美新聞	平成27年9月24日
村松 真澄	札幌市市民活動サポートセンター「子供記者」事業の取材	ボランティア新聞	平成27年12月19日
	料理人と異業種連携摂食嚥下食開発のみこみ安心ネット札幌	介護新聞	平成28年3月10日
	摂食嚥下で他職種連携のみこみ安心ネット札幌公開研修会	北海道医療新聞	平成28年3月10日
	介護専門職等研修会「口腔ケアの重要性を学ぶ」が紹介された。	南海日日新聞	平成28年3月29日
守村 洋	こころの健康（4回シリーズで被災者支援者のこころの健康を書き下ろし）	北海道広域避難アシスト協会会報誌	平成27年9月10日 Vol.2 平成27年11月5日 Vol.3 平成28年1月5日 Vol.4 平成28年3月4日 Vol.5
渡邊由加利	安心して子どもを産み育てられる町づくりを目指して	子育てさっぽろ63号	平成28年1月
田中 広美	注射針廃棄容器の取材・掲載	北海道医療新聞	平成27年12月18日
	注射針廃棄容器の取材・放映	NHK札幌	平成28年1月1日
田仲 里江	子宮頸がん 漫画で学んで	北海道新聞朝刊	平成27年7月16日
	26日に道新ニュースサロン*専門医が「子宮頸がん」解説	北海道新聞朝刊	平成27年8月20日
	大学生が予防啓発プロジェクト CM・リーフレット作成「自分の問題 勉強に」	北海道新聞朝刊	平成27年8月25日
	子宮頸がん早期発見を札幌の学生29日、催して同世代に発信	読売新聞朝刊	平成28年1月20日
	低い無料検診受診率*子宮頸がん*29日、市内で啓発	北海道新聞朝刊	平成28年1月21日
檜山 明子	針廃棄ボックスの開発に関する取材	北海道医療新聞	平成27年12月18日
	針廃棄ボックスの開発に関する取材	NHK	平成28年1月3日

教育支援プロジェクトセンター

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
中田 亜由美	日高晤郎ショー さっぽろ散歩「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」	STVラジオ	平成27年4月25日
	「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」	北海道新聞朝刊	平成27年6月2日
	「まちの健康応援室」	北海道新聞朝刊	平成27年10月1日



2 公開講座開催実績

1) 札幌市立大学主催

開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成27年5月9日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 「都市の時代」から「地域の時代」へ	蓮見 孝 (デザイン学部 教授)	38
平成27年5月14日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 真駒内駅花いっぱい花壇づくり	吉田 恵介 (デザイン学部 教授)	51
平成27年6月6日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 訪問看護スキルアップ講座 2015	菊地 誠志 (国立病院機構 北海道医療センター 院長)	160
平成27年6月21日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会①	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	26
平成27年6月27日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	30
平成27年7月4日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 昆虫のデザイン「多様なかたちに意味はあるのか？」	酒井 正幸 (デザイン学部 教授)	11
平成27年7月5日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会②	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	22
平成27年7月12日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会③	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	26
平成27年7月20日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 「風の子Go!Go!」 in Coミドリ	小宮加容子 (デザイン学部 講師)	27
平成27年7月26日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会④	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	15
平成27年8月1日・2日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑤	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	11
平成27年8月8日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 「コネキッド (connexid) ! In そらのガーデン2015」 (遊びのデザインワークショップ)	小宮加容子 (デザイン学部 講師)	213
平成27年8月8日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ①	杉本 達應 (デザイン学部 講師)	25
平成27年8月8日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ②	杉本 達應 (デザイン学部 講師)	21
平成27年8月9日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ③	藍 圭介 (株スマイルブーム)	20
平成27年8月9日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ④	藍 圭介 (株スマイルブーム)	20
平成27年8月16日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑥	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	20
平成27年8月22日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ⑤	田所 淳 (東京芸術大学 非常勤講師)	25
平成27年8月22日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ⑥	石田 勝也 (デザイン学部 講師)	24
平成27年8月22日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ⑦	石田 勝也 (デザイン学部 講師)	22
平成27年8月22日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 夏休みメカトロ教室・ロボットカーを走らせよう	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	10



開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成27年8月22日	札幌国際短編映画祭10周年記念「まこまるミニ・シアター」(児童向け)	本間 隆士(札幌国際短編映画祭実行委員会) 武田 亘明(デザイン学部 准教授)	92
平成27年8月22日	札幌国際短編映画祭10周年記念「まこまるミニ・シアター」(大人向け)	本間 隆士(札幌国際短編映画祭実行委員会) 武田 亘明(デザイン学部 准教授)	24
平成27年8月23日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ⑧	田所 淳(東京芸術大学 非常勤講師)	27
平成27年8月23日	クリエイティブ・コーディング・スクールin さっぽろ⑨	杉本 達應(デザイン学部 講師) 石田 勝也(デザイン学部 講師) 田所 淳(東京芸術大学 非常勤講師) 藍 圭介(株スマイルブーム)	28
平成27年9月8日	「気持ち良い体験」をしよう～呼吸法・マッサージによる医療者のセルフケアのススメ～	大野 夏代(看護学部 准教授) 山本 勝則(看護学部 教授) 鶴木 恭子(天使大学 講師) 山本礼美子(看護師)	41
平成27年10月18日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑦	三谷 篤史(デザイン学部 講師)	29
平成27年10月25日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 すこやかに生きるための知恵1	村松 真澄(看護学部 准教授) 法邑美智子	11
平成27年10月26日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 シミュレーション教育の先進的施設の紹介ーアメリカにおける視察報告: BarrowとUCLA	村松 真澄(看護学部 准教授) 三谷 篤史(デザイン学部 講師)	13
平成27年11月7日	訪問看護スキルアップ講座 2015	スーディ神崎 和代(看護学部 教授)	65
平成27年11月8日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑧	三谷 篤史(デザイン学部 講師)	42
平成27年11月22日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 すこやかに生きるための知恵2	村松 真澄(看護学部 准教授) 法邑 美智子	15
平成27年11月28日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 生活習慣予防講座「少量の飲酒は本当に健康に良いのか?」	藤井 瑞恵(看護学部 講師) 大西 浩文(札幌医科大学医学部公衆衛生学講座 准教授)	11
平成27年11月29日	性暴力被害者支援に関わる看護職の養成講座	宮崎みち子(看護学部 教授) 渡邊由加利(看護学部 准教授) 須田布美子(須田弁護士事務所 弁護士) 堀本 江美(ゆいネット北海道 代表、苗穂レディースクリニック 院長) 平山 恵美(ゆいネット北海道 理事、市立札幌病院 医師) 小野寺るみ子(性暴力被害者支援センターSACRACH センター長)	21
平成27年12月5日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 「学び舎」で考える、障がい者アートから地域創生へ	上遠野 敏(デザイン学部 教授) ト部奈穂子(合同会社ペン具(ペンギンアート)代表) 加納 尚明((一社)北海道チャレンジドアート&プロダクツ 代表理事)	26



開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成27年12月19日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 昆虫のデザイン Part II 「かたちの進化とヒトとの関わり」	酒井 正幸 (デザイン学部 教授)	11
平成28年1月6日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 老活 (ろうかつ) ゼミナール～すこやかに暮らす知恵～	村松 真澄 (看護学部 准教授) 田中 広美 (看護学部 講師) 田頭 正一 ((財)さっぽろ健康スポーツ財団中央健康づくりセンター健康運動指導士)	26
平成28年1月9日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 老活 (ろうかつ) ゼミナール～すこやかに暮らす知恵～	村松 真澄 (看護学部 准教授) 田中 広美 (看護学部 講師) 田頭 正一 ((財)さっぽろ健康スポーツ財団中央健康づくりセンター健康運動指導士)	26
平成28年1月9日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 冬休みメカトロ教室・ロボットカーを走らせよう	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	32
平成28年1月13日	大学・COC合同企画 おもちの季節の「のどつまりの予防、すばやい発見と対応」	松浦 和代 (看護学部 教授) 上村 浩太 (看護学部 准教授) 三上 智子 (看護学部 講師) 柏倉 大作 (看護学部 助教) 岩倉 由幸 (手稲溪仁会病院看護部) 佐藤 環 (手稲溪仁会病院看護部) 若本 彩子 (手稲溪仁会病院看護部) 佐川 雄一 (手稲溪仁会病院看護部)	123
平成28年1月30日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 手で描く、手で創るデザイン	石崎 友紀 (デザイン学部 教授)	22
平成28年1月30日	事前指示書の意味と書き方	スーディ神崎 和代 (看護学部 教授)	19
平成28年2月19日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 南区の人口減少とその将来を考える	原 俊彦 (デザイン学部 教授)	29
平成28年2月27日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 冬場に多い高齢者の救急疾患とセルフトラージ (緊急度自己判定)	菅原 美樹 (看護学部 准教授)	11
平成28年2月27日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 北海道の建築の魅力	金子 晋也 (デザイン学部 助教)	19
平成28年3月4日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 『風と共に去りぬ』とアメリカ南部社会1	松井 美穂 (デザイン学部 講師)	4
平成28年3月5日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える1	藪谷 祐介 (教育支援プロジェクトセンター 特任助教) 植田 俊 (東海大学)	26
平成28年3月12日	大学・COC合同企画 事前指示書の意味と書き方	スーディ神崎 和代 (看護学部 教授)	18
平成28年3月13日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑨	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	14
平成28年3月18日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 『風と共に去りぬ』とアメリカ南部社会2	松井 美穂 (デザイン学部 講師)	15
平成28年3月21日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑩	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	18
平成28年3月21日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 ロボット競技会講習会⑪	三谷 篤史 (デザイン学部 講師)	10



開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成28年3月26日	COC事業・SCUまちの教室公開講座 コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える2	藪谷 祐介 (教育支援プロジェクトセンター 特任助教) 植田 俊 (東海大学)	31
平成28年3月28日	オリンピック・パラリンピック開催に向けて ユニバーサルツーリズム都市札幌を考える	児玉 芳明 (コンサドーレ札幌元社長) 我妻 武 (北海道ユニバーサルツーリズム推進協議会 代表) 小谷 晴子 (北海道ユニバーサル観光センター・札幌 センター長) 五十嵐真幸 (NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所) 酒井 正幸 (デザイン学部 教授)	16

2) 共催講座：「さっぽろ市民カレッジ」連携講座

開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成27年7月21日	札幌市の文化財建造物をたどる<夏> ～時計台と清華亭～	羽深 久夫 (デザイン学部 教授) 松本 優 ((公財)文化財建造物保存技術協会 技術主任)	15
平成27年7月28日	札幌市の文化財建造物をたどる<夏> ～時計台と清華亭～	羽深 久夫 (デザイン学部 教授) 松岡 洋一 (札幌市観光文化局文化部文化財課文化財保護指導員)	15
平成27年10月20日	札幌の文化財建造物をたどる<秋>～植物園と第二農場	羽深 久夫 (デザイン学部 教授) 松岡 洋一 (札幌市観光文化局文化部文化財課文化財保護指導員)	13
平成27年10月27日	札幌の文化財建造物をたどる<秋>～植物園と第二農場	羽深 久夫 (デザイン学部 教授) 松岡 洋一 (札幌市観光文化局文化部文化財課文化財保護指導員)	13
平成28年3月1日	札幌の文化財建造物探訪<冬>～札幌市資料館の建築を学ぶ	羽深 久夫 (デザイン学部 教授) 松岡 洋一 (札幌市観光文化局文化部文化財課文化財保護指導員)	15
平成28年3月8日	札幌の文化財建造物探訪<冬>～旧永山武四郎邸の建築を学ぶ	羽深 久夫 (デザイン学部 教授) 松岡 洋一 (札幌市観光文化局文化部文化財課文化財保護指導員)	15

3) 共催講座：「知活(ちいき)ゼミナール」

開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成27年10月17日	北海道の魅力再発見『海のある風景・暮らし』	金子 晋也 (デザイン学部 助教) 石井 旭 (北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所 研究主任)	15
平成27年10月24日	ものづくり、ひとづくり、まちづくり『北海道の食材で元気に!』	小田 和美 (看護学部 教授) 小宮山誠一 (北海道立総合研究機構 中央農業試験場 主査)	14

3 国・自治体審議会等への就任状況

デザイン学部

教員名	名称/役職	自治体名・主催団体名
蓮見 孝	「いばらきデザインセレクション2015」審査委員会/委員	茨城県
	札幌市強靱化計画策定検討会議/委員	札幌市
	ふるさと商店街元気再生支援事業「活性化方策検討会議」/委員	北海道（経済部地域経済局）
	茨城県民文化センター指定管理者選定委員会/委員	茨城県
	地下鉄南北線さっぽろ駅コンコース部空間整備検討会議/委員	札幌市
城間 祥之	「札幌市敬老優待乗車証チャージ端末開発業務」業者選定委員会/委員	札幌市
	IT産業海外展開支援事業ローカライズ支援補助金審査委員会/委員	札幌市
	「札幌型ITイノベーション人材育成に向けた調査事業」企画競争実施委員会/委員	札幌市
	札幌市証明書コンビニ交付システム構築業務/審査委員	札幌市
	平成28年度情報処理技術専門スタッフ業務の業務発注に係る審査委員/委員	札幌市（総務局）
	札幌市公共交通情報提供システム再構築業務の発注に係る総合評価審査委員会/委員	札幌市
	「地域をつなげるネットワーク構築事業契約」に係る学識経験者意見聴取/委員	北海道
	アスベスト台帳整備に向けた建築行政業務支援システム再構築業務の落札者決定のための評価基準への意見聴取/委員	札幌市
上遠野 敏	「そらち『炭鉱（やま）の記憶』で地域づくり推進会議」/委員	北海道（空知総合振興局）
	札幌市屋外広告物審議会/委員	札幌市
	札幌国際芸術祭専門部会/委員	札幌市
	札幌国際芸術祭企画メンバー/委員	札幌市
齋藤 利明	第2回生物多様性さっぽろ絵コンテスト選考委員会/委員	札幌市
中原 宏	北海道住宅対策審議会/会長	北海道
	北海道建築士審査会/会長	北海道
	旧職員住宅跡地公募提案審査委員会/委員長	札幌市
	真駒内緑小跡地施設・企業選考審査委員会/委員	札幌市
羽深 久夫	札幌市豊平館指定管理者選定委員会/委員	札幌市
	喜茂別町民間賃貸住宅建設促進事業公募型プロポーザル選定委員会/委員	喜茂別町
	北海道建築審査会/委員長	北海道
	北海道地域づくり/アドバイザー	北海道
	札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓定山溪ルート運営代表者会議/副会長	札幌市（南区）



教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
羽 深 久 夫	厚真町古民家再生推進協議会／委員長	厚真町
	喜茂別町水の郷喜茂別まちづくり振興基金事業選定審査会／委員	喜茂別町
	喜茂別町地域防災委員会／委員	喜茂別町
	厚真町空き家対策協議会／委員	厚真町
	札幌市定山溪温泉魅力アップ構想検討委員会／委員	札幌市
	全道建築審査会連絡会議／会長	北海道
	全国建築審査会協議会／世話人	国土交通省
原 俊 彦	石狩市総合戦略推進懇話会／委員	石狩市
	てしかが創生委員会／委員長	弟子屈町長
	札幌市高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会／委員長	札幌市
	国立社会保障・人口問題研究所 研究評価委員会／委員長	国立社会保障・人口問題研究所
	厚真町まちづくり委員会／アドバイザー	厚真町
	さっぽろ未来創生プラン策定検討有識者会議／委員	札幌市
細 谷 多 聞	札幌スタイル認証審査委員会／委員長	札幌市
	札幌スタイルブランドマネジメント委員会／委員	札幌市
町 田 佳 世 子	家庭裁判所／参与員	裁判所
	北海道立近代美術館協議会／委員	北海道
	(一社)札幌市水道サービス協会評議員会／委員	札幌市
矢 部 和 夫	美々川自然再生技術検討委員会及びアクションプログラムワーキング・グループ／委員	北海道（胆振総合振興局）
	舞鶴遊水地の利活用に関する勉強会／委員	国土交通省（北海道開発局）
	平成27年度植生調査ブロック会議委員／委員	環境省（自然環境局）
	石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ／委員長	国交省・江別河川事務所
	平岡公園原っぱ会議／委員	札幌市緑化推進部
	円山動物園の森協議会／委員	円山動物園
	成東・東金食虫植物群落 保護検討会 作業部会／委員	千葉県山武市
芸術の森札幌芸術の森運営協議会／委員	札幌市芸術文化財団	
吉 田 和 夫	とくとく健診PRポスター図案選考／委員長	札幌市（保健福祉局）
	札幌市食品衛生管理認証制度新ロゴマーク選考委員会／委員	札幌市
	平成27年度中央区広報PR用ロゴデザイン選考委員会／委員	札幌市（中央区）
	アレルギー食品ピクトグラム作成に係る選考委員会／委員	札幌市
	サッポロスマイルフォトCMコンテスト／審査員	札幌市（市長政策室）
	札幌市広告アドバイザ会議／委員	札幌市
吉 田 恵 介	美瑛町まちづくり委員会／特別委員	美瑛町
斉 藤 雅 也	第10次札幌市環境保全協議会／委員	札幌市



教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
斉藤 雅也	札幌市資料館保存活用検討委員会／委員	札幌市
	総務局 中高層建築物紛争調整委員会／委員	札幌市
	都市局 円山動物園（仮称）ゾウ舎新築工事に係る建築設計プロポーザル検討委員会／委員	札幌市
武田 亘明	平成27年度北海道学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業推進委員会／委員長	北海道教育委員会
	平成27年度視聴覚教育・情報教育功労者表彰に掛かる候補者選考委員会／委員	北海道教育庁生涯学習推進局
	優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰推薦活動選考委員会／委員	北海道教育庁学校教育局
	第12期北海道生涯学習審議会／副会長	北海道
	北海道札幌藻岩高等学校学校評議員会／委員	札幌市
	札幌市立西岡小学校学校評議員会／委員	札幌市
張 浦 華	最高裁判所家事調停／委員	札幌家事裁判所
山田 良	札幌定山溪地区まちづくり審議会／委員	札幌市（南区）
	札幌南区シーニックバイウェイ／委員	札幌市（南区）
石田 勝也	SIAFラボ／プロジェクトメンバー	札幌市（市民文化局）
上田 裕文	札幌市緑の審議会／委員	札幌市
片山 めぐみ	地域活動の場整備支援事業審査委員会／委員	札幌市
	札幌市資料館保存活用検討委員会／委員	札幌市
	札幌市動物愛護管理推進協議会／委員	札幌市
	札幌市都市景観審議会委員会／委員	札幌市
福田 大年	札幌スタイル認証審査委員会／委員	札幌市
	札幌スタイルブランドマネジメント委員会／委員	札幌市
	（仮称）食の安全・安心イベント企画運営業務に係る企画競争実施委員会／委員	札幌市
須之内 元洋	札幌国際芸術祭2017 ウェブサイト構築及び保守管理業務 審査委員会／委員	札幌市

看護学部

教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
中村 恵子	道央医療圏救急医療システム 救急安心センターさっぽろ相談員研修カリキュラム作成委員会／委員	札幌市（消防局）
	救急業務検討委員会／委員	札幌市（消防局）
	プロトコール専門委員会／委員	札幌市（保健福祉局）
	医道審議会 保健師助産師看護師分科会／委員	厚生労働省
宮崎 みち子	科学研究費委員会／専門委員	独立行政法人日本学術振興会
河原田 まり子	建築審査会／委員	北海道
	科学研究費委員会／専門委員	独立行政法人日本学術振興会
川村 三希子	科学研究費委員会／専門委員	独立行政法人日本学術振興会



教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
松浦 和代	科学研究費委員会／専門委員	独立行政法人日本学術振興会
	札幌市都市計画審議会／委員	札幌市
清水 光子	札幌市桑園地区民生児童委員準備会／委員	札幌市
	子宮頸がん普及啓発プロジェクト実行委員会／委員長	札幌市
守村 洋	精神医療審査会／委員	北海道
	札幌市自殺対策実務担当者意見交換会／委員	札幌市（保健福祉局）
	札幌市社会福祉協議会権利擁護審査会／委員長	札幌市
	札幌市社会福祉総合センター管理運営委員会／委員長	札幌市
藤井 瑞恵	平成27年度中央区食育ネットワーク会議／委員	札幌市（中央区）
山内 まゆみ	保健師助産師看護師試験委員	厚生労働省
田仲 里江	子宮頸がん普及啓発プロジェクト実行委員会／監査委員	札幌市

教育支援プロジェクトセンター

教員名	名称／役職	自治体名・主催団体名
中田 亜由美	みんなでみに区る 健康まつり実行委員会／委員	札幌市（南区）
	まこ×まちSOCIAL DESIGN PROJECT／参加者	札幌市
藪谷 祐介	平成27年度真駒内地域エリアマネジメント推進業務に係るプロポーザル選定委員会／委員	札幌市
	まこ×まちSOCIAL DESIGN PROJECT／参加者	札幌市



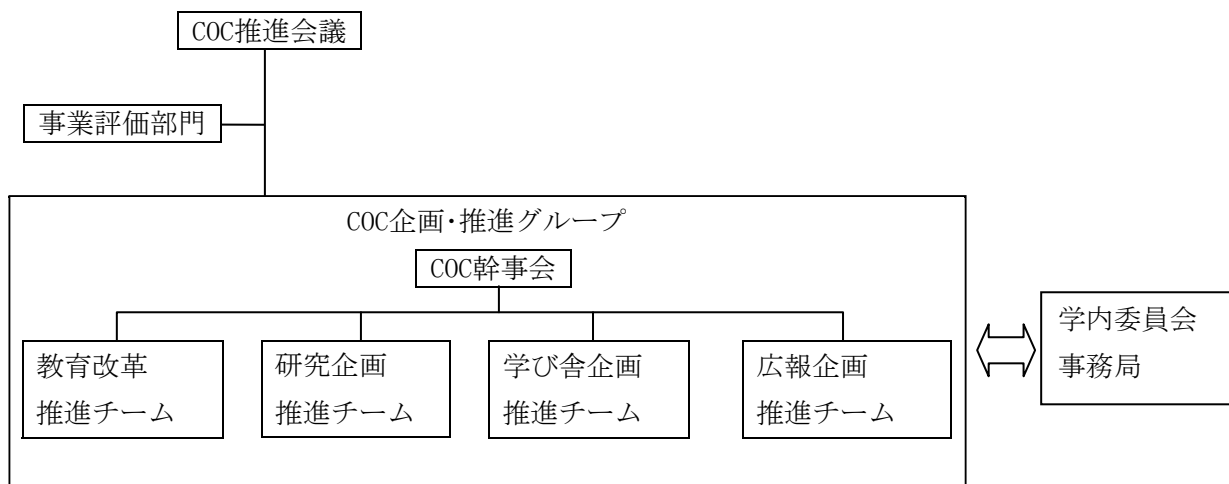
4 ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業（COC事業）

1) 概要

平成25年度に採択された文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC）」であり、本学における事業名が「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成『学び舎』事業」である（事業期間：平成25～29年度）。

本事業は、地域住民や札幌市などと連携して地域を「学び舎」とした「地域志向のカリキュラム」を展開し、デザインと看護の専門性を活かした協奏型地域社会のウェルネス支援、地域の活性に貢献する人材の育成を行う。各取組は、廃校となった旧真駒内緑小学校の跡施設「まこまる」内に設置した「COCキャンパス」を中心に行う。

2) 実施体制



3) 平成27年度の主な事業実績

【教育】

- ・1年次前期に「スタートアップ演習」を開講し、「D×N（デザインと看護）の連携」をテーマに3コースに分かれ、南区各地に学生・教員チームを派遣し、「D×N連携」「地域に親しむ」を活かしたプロジェクト活動を企画・実施した。
- ・3年次後期に「学部連携演習」を開講し、南区の10地区を対象とした演習授業を行い、「デザインと看護の連携」及び「地域課題の発見と提案」を目指したプロジェクト学習を行った。

【研究】

- ・COC共同研究の公募を実施し、応募があった4件について審査した結果、3件を採択した。
- ・平成25年度に実施した65歳以上の南区民が対象の「高齢者ニーズ調査」について、アンケートデータを活用した2次解析を行い、日本看護科学会で4つのテーマを発表した。

【地域貢献】

- ・COCキャンパスを中心に公開講座（合計25企画、40回）・授業公開（3科目、15回）を実施した。
- ・COCキャンパス内に「まちの談話室」を設置し、図書用書架や椅子・テーブル等を整備のうえ寄附による受入図書（平成27年10月31日現在の蔵書数4,177冊）を配架した。
- ・市民が講師となる「まちの先生」について、17講座の企画応募があり、全10講座を開講した（プレ開講1件（延べ30名）、夏季1件（延べ6名）、秋季2件（延べ35名）、冬季6件（延べ90名））。
- ・COCキャンパス内に「まちの健康応援室」を設置し、有資格ボランティア（保健医療系国家資格、福祉系国家資格、介護支援専門員）を募り16名の有資格者を登録のうえ、看護学部教員と共に、血圧・骨密度・体組成測定などの健康チェックと健康相談を週3～4日、継続的に実施した。また、札幌市保健福祉部などと連携を図り、地域の健康イベント等に赴くアウトリーチ活動



を2回実施した。

【その他】

- ・5月9日にCOCキャンパスのオープニングイベント「まちの学校にあつまれ！」を実施し、正式オープンした。
- ・まこまる入居者による合同イベント「まこ×まち2016」に併せて、COCキャンパスにおいて平成27年度成果報告会「まちの学校でまなぼう！」を実施し、本学関連イベントとして484名、イベント全体で約700名の過去最大の来場があった。
- ・外部委員を含むCOC評価部門会議を開催し、平成26年度の本事業について評価を受けた。
- ・本事業の活動を広くPRするため、COCウェブサイトを活用したほか、「まちの学校新聞」の発行（8月、11月、12月、3月）やイベントごとにチラシ配布などを行った。

5 専門職支援・セミナー講師等

1) 専門職支援

①認定看護管理者教育課程サードレベル

平成27年度受講者30名（修了者29名）

開催期間	教科目/時間	単元	講義・演習 (時間数)	講師
第Ⅰ期（12日間） 平成27年8月24日 ～9月8日 第Ⅱ期（14日間） 平成27年11月2日 ～11月20日 第Ⅲ期（12日間） 平成28年1月5日 ～1月21日	保健医療福祉政策論/36時間	1.社会保障の概念	講義(3)	★花岡 祐志
		2.諸外国の保健医療福祉	講義(3)	スーディ神崎和代
		3.保健医療福祉政策	講義(6)	★矢野 公一 ★石田 宗博
		4.看護制度・政策	講義(6)	★齋藤 訓子
		5.制度・政策に影響を及ぼす看護管理者	講義(3)	★齋藤 訓子
		6.保健医療福祉政策演習	演習(9)	★工藤 昭子 ★佐藤 美貴子 ★須田 倫子 ★辻崎 ゆり子 ★仁木 恵美子 ★野中 浩美 ★松田 久代 猪股 千代子 古都 昌子
		7.小論文プレゼンテーション	演習(6)	中村 恵子 猪股 千代子 古都 昌子
	保健医療福祉組織論/30時間	1.保健医療福祉サービスのマーケティング	講義(6)	★松下 博宣
		2.組織デザイン論	講義(6)	★永池 京子
		3.ヘルスケアサービスの創造	講義(6)	★砂山 圭子 スーディ神崎和代
		4.保健医療福祉組織論統括演習	演習(12)	★勝見 真澄 ★小澄 悦子 ★佐々木 純子 ★孰賀 愛子 ★土井 正子 ★中村 敦子 猪股 千代子 古都 昌子
	経営管理論/60時間	1.医療福祉と経済論	講義(6)	★大内 講一
		2.医療福祉経営	講義(6)	★工藤 高
3.財務管理		講義(6)	★玉川 真弓	
4.経営分析		講義(6)	★富永 誠	
5.ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性		講義(9)	★河野 總子 ★児玉 真利子 ★宮城 領子	



開催期間	教科目/時間	単元	講義・演習 (時間数)	講師
第Ⅰ期(12日間) 平成27年8月24日 ～9月8日 第Ⅱ期(14日間) 平成27年11月2日 ～11月20日 第Ⅲ期(12日間) 平成28年1月5日 ～1月21日	経営管理論/60時間	6.看護経営の今後のあり方	講義(6)	★齋竹 一子 ★深澤 優子
		7.労務管理	講義(6)	★楡引 久丸 ★和田 昌代
		8.人材フローのマネジメント	講義(3)	★樋口 春美
		9.危機管理	講義(3)	★加藤 久美子
		10.経営管理論演習	演習(9)	★生江 裕子 ★佐藤 ひとみ ★中野 りか ★萩原 直美 ★樋渡 ひとみ ★本庄 睦子 猪股 千代子 古都 昌子
	看護経営者論/51時間	1.経営者論	講義(6)	★河野 總子 中村 恵子
		2.管理者の倫理的意識決定	講義(6)	★近藤 ときえ 中村 恵子
		3.看護事業の開発と起業	講義(6)	★鈴木 英樹 ★原田 典子
		4.実習	実習(27)	猪股 千代子 古都 昌子
		5.特別講義	演習(6)	★中村 明恵
	統合演習/15時間	1.統合演習	演習(15)	★伊藤 リカ ★加藤 久美子 ★近藤 ときえ ★齋藤 香奈恵 ★斉藤 潤子 ★佐々木 衿子 ★中山 日登美 ★的場 由紀子 猪股 千代子 古都 昌子

★印：非常勤講師

2) セミナー講師等

① デザイン学部

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者等
蓮見 孝	平成27年6月24日	平成27年度「筑波大学特別講義」講師	筑波大学
	平成27年12月10日	「札幌市立大学における最近の産官学連携の取組状況について」講師	札幌卸商連盟
	平成28年2月13日	平成27年度いばらき子ども大学講師	いばらき子ども大学県北キャンパス運営委員会
	平成28年3月16日	都心まちづくりフォーラム2016 パネリスト	札幌市
城間 祥之	平成27年8月21日 ～本構築事業の契約締結の日	地域をつなげるネットワーク構築事業契約手続に係る学識経験者の意見聴取	北海道
	平成27年8月21日 ～本構築事業の契約締結の日	総合文書管理システムASPサービス提供業務契約手続きに係る学識経験者の意見聴取	北海道
	平成28年2月中旬・ 平成28年4月下旬	アスベスト台帳整備に向けた建築行政業務支援システム再構築業務に係る意見聴取	札幌市
羽深 久夫	平成27年4月1日 ～平成28年3月31日	NHK文化センター新さっぽろ教室開催講座 講師	NHK文化センター 新さっぽろ教室
	平成27年7月21日 ～28日	さっぽろ市民カレッジ2015春・夏期講座 講師	(公財)札幌市生涯学習振興財団
	平成27年10月20 ～27日	さっぽろ市民カレッジ2015秋期講座 講師	(公財)札幌市生涯学習振興財団
	平成28年3月1日、 3月8日	さっぽろ市民カレッジ2016冬期講座 講師	札幌市生涯学習センター
原 俊彦	平成27年6月1日 ～平成28年3月31日	厚真町まちづくり委員会/アドバイザー	厚真町
	平成27年7月24日	北海道中小企業家同友会札幌支部中央四地区合同例会講演 講師	(一社)北海道中小企業家同友会札幌支部
	平成27年9月9日	平成27年度道南ブロック社会教育主事等研修会胆振大会 講師	胆振管内社会教育主事会
	平成27年9月11日	石狩振興局「地方創生セミナー」講演	北海道(石狩振興局)
	平成27年9月29日	「GISコミュニティフォーラム」講演	ESRIジャパンユーザ会
	平成27年10月23日、 10月30日	いしかり市民カレッジ 講師	いしかり市民カレッジ運営委員会
	平成28年2月18日	第2回北のシニアビジネス交流会 in 札幌 講師	北のシニアビジネス交流会実行委員会
矢部 和夫	平成27年4月29日	キウシト湿原に関する基調講演 講師	登別市
	平成27年6月11日 ～平成28年3月31日	美々川自然再生事業の具体的な実施計画の策定に関わる美々川及びウトナイ湖周辺における環境変化の要因とその対策についての指導助言	北海道
	平成27年7月4日	観察会「平岡公園春の湿生植物観察ツアー」講師	(公財)札幌市公園緑化協会
	平成27年7月30日	トライ☆アス☆カル2015講師	江別市教育委員会



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者等
吉田 恵介	平成27年6月24日 ～ 8月21日	民族共生の象徴となる空間における民族共生公園に関する周辺環境等の条件整理 意見照会	(株)オリエンタルコンサルタンツ北海道支店
	平成27年10月23日	「そらのガーデン」の環境整備/アドバイザー	札幌市総合開発(株)
斉藤 雅也	平成27年5月30日	日本脳神経看護研究学会研修会 講師	日本脳神経看護研究学会北海道部会
	平成27年9月16日	産総研コンソーシアム「建築物低炭素化材料評価システム技術コンソーシアム」第9回セミナー 講演	(国研)産業技術総合研究所構造材料研究部門
	平成27年12月3日	平成27年度北海道旭川西高等学校「SS特別講座」講師	北海道旭川西高等学校
武田 亘明	平成27年8月21日	第63回日本PTA全国研究大会札幌大会 パネリスト	第63回日本PTA全国研究大会札幌大会実行委員会
	平成28年2月25日	講演「情報社会における現状と課題(青少年を取りまく)」 講師	北海道女性団体連絡協議会
山田 良	平成28年2月1日 ～3月31日	新病院への建築計画及びインテリアデザイン	(医)溪仁会
片山 めぐみ	平成27年6月18日	かしまみらいカフェinかみす 講師	(公財)かしま青年会議所
	平成27年7月28日	第96回北海道市議会議長会職員研修会 講師	北海道市議会議長会
	平成27年10月27日	福祉のまちづくり講演会 講師	歌志内市
	平成28年3月9日	リニューアル後のSuBACoのイメージを考えるーSuBACo改装計画 WORKSHOP 講師	砂川市
福田 大年	平成28年1月21日	「看板商品・人気商品を作り出す研修会」講師	北海道社会就労センター協議会
金子 晋也	平成28年2月29日、 3月10日	札幌市子ども発達支援センター中庭整備検討に係る研修会 講師	札幌市子ども発達支援総合センター
須之内 元洋	平成28年3月11日	雪がたなぐスポーツと異文化フォーラム 講師	札幌市(観光文化局)

② 看護学部

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村 恵子	平成27年7月26日	救急看護(基礎病態)セミナー(東京会場)の講師「救急看護師の役割」	(一社)日本救急看護学会
	平成27年9月20日	救急看護(基礎病態)セミナー(福岡会場)の講師「救急看護師の役割」	(一社)日本救急看護学会
	第1回 平成27年9月24日、 28日	平成27年度認定看護管理者ファーストレベル教育課程の講師	(公社)北海道看護協会
	第2回 平成27年11月25日、 26日	第1回「看護管理概論 看護管理の概要」 第2回「看護管理概論 看護管理者の役割と活動」	
	平成27年9月29日、 30日	平成27年度看護師救急医療業務実地修練の講師 講義「救急患者への対応とトリアージ」 ワークショップ「救急トリアージの実際」	(一社)日本救急医療財団 (一社)日本救急医学会
	平成27年10月6日、 平成28年2月2日	平成27年度看護職復職支援講習会の講師「看護職をめぐる最近の動向」	札幌市(保健福祉局)



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村 恵子	平成28年2月13日	看護OSCE講演の講師	帝京大学福岡医療技術学部
樋之津 淳子	平成27年7月～8月	平成27年度北海道専任教員養成講習会の講師「看護論」	北海道保健福祉局
山本 勝則	平成27年11月14日	公益社団法人北海道看護協会札幌第一支部看護研究発表会の講師	(公)北海道看護協会札幌第一支部
猪股 千代子	平成27年9月3日	パーキンソン病医療個別相談会と癒し&ケアの講師「オーダーメイドの医療の紹介」～潔く・しなやかに・優雅に生きるセルフヘルスケア～、「こころと体をやさしくほぐすヨーガケア」～ヨーガとアロマ～	全国パーキンソン病友の会 富山県支部
川村 三希子	平成27年6月20日	シンポジウム34看護ケアの最新エビデンスの演者「夢をかなえる～この20年、そして、あしたへ～」	第20回日本緩和医療学会学術大会
	平成27年9月4日、5日、6日	第14回ELNEC-J (End-of-Life Nursing Education Consortium Japan) コアカリキュラム指導者養成プログラムの講師	(特)日本緩和医療学会
	平成27年9月11日	第15回日本音楽療法学会学術大会の講師「癌看護・医療現場」	第15回日本音楽療法学会学術大会
	平成28年2月13日	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の講師及びファシリテーター	KKR札幌医療センター
定廣 和香子	平成27年5月11日	平成27年度看護職員研修 臨床指導者研修 I の講師「看護基礎教育における実習の意義と指導」	札幌市病院局市立札幌病院
	平成27年6月29日、30日	秋田県実習指導者講習会の講師「看護教育論」	秋田県立衛生看護学院
	平成27年7月～8月	平成27年度北海道専任教員養成講習会の講師「看護論」	北海道保健福祉部
	平成27年12月25日	新カリキュラム策定に向けた看護学科FD研修会の講師	旭川医科大学
スーディ神崎 和代	平成27年5月16日	看護の日イベント記念講演会の講師「看護の原点は陽光（ひかり）ですーひととつながり、地域へつなぐー」	(公)北海道看護協会
	平成27年5月21日、22日	平成27年度訪問看護師養成講習会（北海道委託事業）の講師「II 訪問看護対象論」	(公)北海道看護協会
	平成27年6月3日	新陽パソコン倶楽部の講師「高齢者介護の分野におけるICT利用活用について」	新陽パソコン倶楽部
	平成27年6月24日	北海道医療福祉産業研究会の講師「「終末医療」等について」	北海道医療福祉産業研究会
	平成27年9月11日	市立札幌病院ボランティアの会設立20周年記念講演の講師	市立札幌病院ボランティアの会やさしさ・ジェントル
	平成27年9月15日	先端技術フォーラム「超高齢化社会に果たす感性工学の役割」の講師「超高齢化社会とICT」	(一)日本機械学会2015年度年次大会
	平成27年10月6日 平成28年2月2日	平成27年度看護職復職支援講習会の講師「高齢者看護の特徴、在宅看護の実際」	札幌市（保健福祉局）
	平成27年10月16日	院内研修の講師「認知症の基本的理解に関する内容」	(福)延山会北成病院



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
スーディ神崎 和代	平成27年10月24日	北海道看護協会南空知支部 保健師・助産師・看護師職能委員会の講師	北海道看護協会南空知支部
	平成28年2月27日	平成27年度看護倫理講演会の講師	札幌市病院局市立札幌病院
	平成28年3月5日	北海道社会福祉士会道央地区支部研修の講師	(公)北海道社会福祉士会
	平成28年3月13日	公開講演会「よく生きるとはどのようなことか」の講師	社会的健康と地域づくりを支える研究会
	平成28年3月23日	北白石地区民生委員・児童委員協議会3月定例会議での講演の講師	北白石地区民生委員・児童委員協議会
松浦 和代	平成27年6月2日、11日	平成27年度新人看護職員研修制度における実地指導者研修の講師「新人看護職員の学習支援」	(大)札幌医科大学附属病院
	平成27年11月9日	帯広大谷高等学校思春期保健講演会の講師「10代を生きるみなさんへのメッセージ～見つめよう 心と体、そして性～」	(学)帯広大谷学園 帯広大谷高等学校
	平成28年2月5日	WOOD INFILL 病室ユニットの性能評価等についての講師	(株)ハルキ
上村 浩太	平成27年6月16日、7月24日、10月30日	緊急サポートネットワーク事業スタッフ会員研修の講師「病児・病後児保育の基礎A～代表的な症状や疾患への対応」「病児・病後児保育の基礎B～病気の子の心理とその対応」	(特)北海道子育て支援ワーカーズ
	平成28年2月5日	WOOD INFILL 病室ユニットの性能評価等についての講師	(株)ハルキ
大野 夏代	平成27年7月26日	エスニコ医療通訳ボランティア研修2015	(特)エスニコ
	平成27年7月、11月	IMSグループ看護部職員新卒入職者対象精神的サポート“ほっとライン”の面談講師	IMSグループ
貝谷 敏子	平成27年6月19日	平成27年度看護職員研修 看護研究基調講義の講師「看護研究の基礎：質的研究のクリティークからの学び」	札幌市病院局市立札幌病院
	平成28年3月1日	勉強会における看護技術の経済評価に関する講義の講師「看護技術を評価しよう・技術を導入し定着させるために」	東京大学大学院医学系研究科アドバンストナーシングテクノロジー
菊地 ひろみ	平成27年7月27日	看護研究導入研修の講師	JA北海道厚生連札幌厚生病院
	平成27年10月17日	新卒看護師の育成を考えるシンポジウムのシンポジスト(演者)	新卒看護師の労災認定・裁判を支援する会
	平成28年1月26日	看護研究のまとめ方とプレゼンテーション研修の講師	JA北海道厚生連札幌厚生病院
清水 光子	平成27年9月12日	北海道ブロック研修の講師「公衆衛生看護学実習と人材育成について～新カリキュラムの教育課程となり初めての实習を終えて考える～」	全国保健師長会北海道ブロック
	平成27年12月19日	平成27年度全国保健師教育機関協議会北海道・東北ブロック第2回北海道地区会議における研修会の講師	(一)全国保健師教育機関協議会
古都 昌子	平成27年6月23日、8月7日、9月、平成28年2月	看護部研修の講師	北海道社会福祉協会帯広病院



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
古都 昌子	平成27年7月～8月	平成27年度北海道専任教員養成講習会の講師「研究方法（演習）」	北海道保健福祉部
	平成27年10月1日	中堅看護師育成研修の講師	苫小牧市立病院
	平成27年11月10日	札幌保健医療大学の特別講師「臨地実習における事故防止と医療安全教育」	札幌保健医療大学
村松 真澄	平成27年6月13日	第26回一般社団法人日本老年歯科医学会学術大会合同シンポジウム7のシンポジスト	第26回一般社団法人日本老年歯科医学会学術大会
	平成27年7月31日	食・口腔・栄養の専門スタッフ養成コースセミナー特別講演の講師「多職種で共有できる口腔アセスメント」	食と健康支援ネットワーク
	平成27年9月6日	平成27年度口腔ケア研修会の講師	いわて口腔ケア研究会
	平成27年9月22日、23日	早朝セミナーの講師「在宅療養患者コンフォート口腔ケアのために」	第18回日本在宅ホスピス協会全国大会in奄美
	平成28年2月5日	WOOD INFILL 病室ユニットの性能評価等についての講師	(株)ハルキ
	平成28年3月12日、13日	第10回羊蹄地域ケアネットワーク研究会の講師	(一社)地域医療教育研究所
	平成28年3月19日	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会北海道ブロックセミナーの講師	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会
平成28年3月27日	看護専門職等研修会の講師	大島郡歯科医師会	
守村 洋	①平成27年5月21日、8月26日、10月8日、平成28年3月28日	生活支援員登録に向けた研修・説明会の講師	(福)札幌市社会福祉協議会
	平成27年8月28日	岩見沢地方ブロック勉強会の講師	北海道消防職員協議会岩見沢地方ブロック
	平成27年9月10日	平成27年度自殺未遂者支援研修会の講師「自殺未遂者支援～平成26年度札幌市自殺未遂者実態調査から～」	札幌市（保健福祉局）
	平成27年度10月28日	平成27年度清田区地域精神保健福祉協議会・自立支援協議会清田区地域部会共催研修会の講師	清田区地域精神保健福祉連絡協議会 自立支援協議会清田区地域部会
	平成27年12月1日	自殺未遂者支援研修会の講師	北海道帯広保健所
	平成27年12月3日	平成27年度東胆振自殺予防対策推進連絡会議の講師及び助言者	北海道胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室
	平成27年12月10日	札幌市市民後見人養成研修の講師	(福)札幌市社会福祉協議会
	平成28年2月5日	WOOD INFILL 病室ユニットの性能評価等についての講師	(株)ハルキ
	平成28年2月27日	平成27年度自殺総合対策事業 市民向けゲートキーパー養成研修（ほっとけない・ゲートキーパー研修会）の講師	札幌市（保健福祉局）
平成28年3月5日	平成27年度北海道自殺未遂者支援研修会の講師	北海道立精神保健福祉センター	
渡邊 由加利	平成27年7月18日	札幌第一交通グループ北海道ブロック講習会の講師「妊産婦送迎講習」	第一交通産業北海道ブロック



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
渡邊 由加利	平成27年8月23日	一般社団法人桶谷式乳房管理法研鑽会北海道ブロックワークショップの講師「考えよう！心の通う接遇～お母様方の満足度をたかめるために～」	(一社)桶谷式乳房管理法研鑽会北海道ブロック
神島 滋子	平成27年4月1日 ～平成28年3月31日	看護カンファレンスの指導と講義の講師	北海道済生会小樽病院
	平成27年8月 ～平成28年2月	平成27年度札幌市立大学看護学部OSCE体験コースの講師	手稲溪仁会病院
	平成28年2月5日	WOOD INFILL 病室ユニットの性能評価等についての講師	(株)ハルキ
工藤 京子	平成27年8月 ～平成28年2月	平成27年度札幌市立大学看護学部OSCE体験コースの講師	手稲溪仁会病院
田中 広美	平成28年2月5日	WOOD INFILL 病室ユニットの性能評価等についての講師	(株)ハルキ
原井 美佳	平成28年2月5日	WOOD INFILL 病室ユニットの性能評価等についての講師	(株)ハルキ
藤井 瑞恵	平成27年11月14日	北海道看護協会札幌第一支部看護研究発表会の講師	(公社)北海道看護協会 札幌第一支部
三上 智子	平成27年7月15日	北海道札幌平岸高等学校健康講話の講師「高校生としての性への対応について」	北海道札幌平岸高等学校
	平成27年8月24日、 10月26日	小樽市立最上小学校 生・性教育の講師「生命・性に関する健康講話」	小樽市立最上小学校
矢野 祐美子	平成27年7月5日	認定看護管理者教育課程ファーストレベルの講師「看護サービス提供論」	(公社)静岡県看護協会
山本 真由美	平成27年5月15日	独立行政法人国立病院機構北海道がんセンターの研修会講師「研究計画書の作成について」	(独)国立病院機構北海道がんセンター
	平成28年3月14日	独立行政法人国立病院機構北海道がんセンターの研修会講師「看護研究論文指導および看護研究発表会講評」	(独)国立病院機構北海道がんセンター
檜山 明子	平成28年3月8日、 9日	看護研究発表会の講評講師	札幌徳洲会病院

6 国際交流実績

教員名	内容	
平成27年4月23日	報告	スタートアップ演習での国際交流事業報告会を実施
平成27年5月25日	覚書 締結	台中科技大学（台湾）学術交流協定調印に向けた覚書式のため関係者来学（教員2名）
平成27年7月8日	受入	JICAベトナム研究員受入（研究員13名+ITフロント引率者3名）
平成27年7月10日	受入	ノボシビルスク日本語青年団受入（学生7名、引率：札幌国際プラザ9名）
平成27年8月4日 ～8月8日	協定 締結	ラップランド大学（フィンランド）にて学術交流協定調印締結のため派遣（学長、教員2名）
平成27年8月12日 ～9月30日	派遣	8月中旬～9月下旬の1ヵ月半：フィンランドロヴァニエミ市でインターンシップに参加（学生3名、ただし、渡航日程は個別調整）
平成27年8月26日 ～9月2日	受入	華梵大学（台湾）、台中科技大学（台湾）との合同ワークショップ実施 華梵大学（教員2名、学生12名）、台中科技大学（教員2名、学生8名）、本学（教員10名、学生15名）、その他 明星大学（教員2名、学生6名）
平成27年9月6日 ～9月12日	派遣	承德医学院大学（中国）短期派遣プログラムに派遣（教員2名、学生4名）
平成27年9月25日 ～平成28年8月30日	受入	華梵大学（台湾）から1年間特別聴講留学生受入（学生2名）
平成27年9月1日 ～平成28年3月31日	派遣	華梵大学（台湾）へ半年間特別聴講留学生として派遣（学生1名）
平成27年10月5日 ～10月22日	派遣	ノボシビルスク建築芸術大学（ロシア）ワークショップへ講師として参加（教員1名）
平成27年11月9日	受入	ラップランド大学（フィンランド）学長が北大でのサステナビリティウィーク来日に伴い本学に来学
平成27年11月26日	受入	フィンランドロヴァニエミ市からサンタクローズ来学。サンタクローズへのおもてなしを趣旨として、4チームがクリスマスをテーマにレゴ作品発表（学生4チーム3年9名、1年8名の17名、教員1名）
平成27年12月2日	報告	海外短期派遣プログラムおよび海外インターンシップ報告会（桑園キャンパス）を実施（学生 承德医学院大学4名、ロヴァニエミ市1名）
平成27年12月2日 ～12月9日	派遣	清華大学（中国）主催の「ワークショップ」に参加（教員1名、学生4名）
平成28年1月4日 ～2月14日	受入	清華大学（中国）美術学院学部長を研究交流のため受入（教員1名）
平成28年2月9日	受入	ラップランド大学（フィンランド）関係者研究打合せのため来学（教員3名）
平成28年2月9日 ～2月13日	派遣	PNCA（Pacific Northwest Collage of Art：アメリカ ポートランド）へ交流の可能性を検討するため教員を派遣（教員2名）
平成28年2月22日 ～2月26日	派遣 展示	Arctic Design weekがラップランドで開催。レゴワークショップについて映像作品展示（教員1名）
平成28年3月21日 ～3月26日	派遣	清華大学（中国）へ研究交流、特別講演、学生の交流のため訪問（教員2名、学生1名）
平成28年3月16日 ～3月18日	派遣	ラップランド大学（フィンランド）へ3月研究打合せのため派遣（教員1名）

7 JICA草の根技術協力事業

1) 概要

独立行政法人国際協力機構（以下、JICAという。）草の根技術協力事業は、日本の大学・地方自治体等の団体とJICAが共同で実施する、開発途上国の地域住民を対象とした協力活動である。平成25年度に本学がJICAに応募した草の根協力事業は、平成26年1月～平成28年3月までの2年3ヶ月間の事業として採択され、モンゴル国を対象として育児方法の指導の研修を実施した。

モンゴルでは、乳児の手足を伸展し身体全体をぐるぐると巻くような布おむつが伝統的に用いられている。このようなおむつの装着方法は、先天性股関節脱臼（developmental dysplasia of the hip）の原因となることが知られている。先天性股関節脱臼は、成人の変形性股関節症の原因にもなる代表的な股関節疾患であり、装具装着や手術による治療によっても痛みや可動域制限が生涯続くこともある。かつて日本は、布おむつを縦・横方向からきつく巻く習慣があったが、1960年代後半から乳児健診においてマスキングや育児方法等の啓発に取り組み、先天性股関節脱臼の発症率を大幅に低下させた実績を有する。

日本の経験に基づき、おむつのあて方を含む育児方法の指導を行い、先天性股関節脱臼の予防を行う国際的技術協力活動が、本事業の目的である。

平成27年度は、第2回専門技術研修を実施した。専門技術研修ではモンゴル国のこども病院において先天性股関節脱臼のマスキングと初期診療に従事している医療チームの育児指導担当者35名を対象とした。研修期間は1週間であり、モンゴル国立母子保健センターこども病院において講義およびワークショップ等の研修を行った。

2) 実施体制

【プロジェクトマネージャー】 中村 恵子

【担当者】 松浦 和代、上村 浩太、大野 夏代、清水 光子、三上 智子

【現地プログラムオフィサー】 BYAMBAA TSETSGEE（バヤンバ ツェツェゲー）氏

3) 平成27年度の主な事業実績

年月日	事業実績	開催地
平成27年8月24日 ～9月1日	第2回専門技術研修	モンゴル国（ウランバートル）

参加研修員

国籍：モンゴル国

所属：モンゴル国立母子保健センターこども病院

人数：35名

8 サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数
セミナー	31
会議	91 ※内訳 会議（学内者のみ）23 産学連携・会議（学外者を含む）68
学会	137
その他	43
合計	302

V キャリア支援活動

1 デザイン学部

1) 概要

デザイン学部キャリア支援委員会は、デザイン学部の学生を対象としたキャリア支援の取り組みを図る目的で平成20年4月に設立された。本委員会は、定例会議（毎月1回程度）において学生の支援方法及び企業へのPR・求人開拓活動などを協議し、コース毎の独自企画と連携しながら運営を行った。

平成20年4月には、キャリア支援室を開設し、教職員による就職相談体制を開始した。また、キャリア支援室は、後援会からの支援により、就職関連図書や什器などの備品・設備を整備した。平成21年5月には就職相談員1名を配置し、きめ細かく個別指導できる体制を整備した。活動実績の詳細については、下記のとおりである。

学部4年生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導（就職相談、面接・履歴書・ES対策など）（平成27年4月～） ・学内企業説明会（随時） ・求人情報の提供（随時）
学部3年生への支援 大学院1年生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンス（平成27年4月～平成28年2月） ・就職活動ハンドブックの配布（平成27年4月） ・進路希望調査（平成27年10月） ・学内業界セミナー（平成27年12月～平成28年2月） ・求人情報の提供（随時） ・インターンシップ・企業実習情報の提供（随時）
後援会からの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬面接（平成27年5月） ・エントリーシート個別相談会（平成27年11月） ・履歴書用証明写真撮影補助（平成27年11月～12月） ・デザイン系就職講話補助（平成28年2月）
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（文部科学省）による支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ型インターンシップ体験（平成27年12月） ・スケッチ講習会（平成27年12月、平成28年3月）

2) 支援体制

デザイン学部のキャリア支援は、同委員会の委員、4コースのゼミ担当教員及び事務局（学生課学生支援係、就職相談員）が行っている。主な役割分担として、事業の企画・運営は同委員会の委員が、就職先の開拓は全教員及び学生支援係が、学生相談のうち就職活動に関わることはキャリア支援室の就職相談員及び学生支援係がそれぞれ行っている。

3) 就職・進学結果

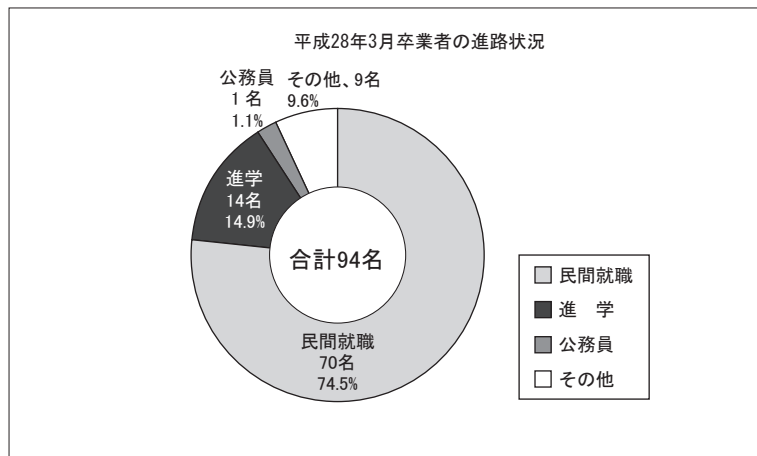
(7期生) 平成28年3月卒業生

就職先	■建設業 アステラス設計(株)/(株)一条工務店/(株)シーエーリーディング/昭和(株)/創建ホーム(株)/大和ハウス工業(株)/(株)土屋ホーム/(株)ロゴスホーム
	■製造業 アイセン(株)/(有)イリス/(有)小笠原工芸社/(株)北一硝子/(株)協同工芸社/三甲(株)/(株)写真工房/東洋印刷(株)/日本ケーブル(株)/(株)プリプレス・センター/北海紙管(株)/(株)パーペル/(株)ユニシス
	■情報通信業（放送・ゲームソフト・インターネット関連・映像制作等） (株)あたらす二十一/(株)アミクス/(株)エイチ・アイ・ディ/(株)HBA/(株)エスオーエルグループ/(株)スタジオ4℃/(株)総合商研/(株)ソーシャル・エイド・リサーチ/トランスコスモス(株)/(株)トレム
	■卸売業・小売業 (株)貴和製作所/(株)二葉屋/マックスバリュート北海道(株)/(株)ヨシモト
	■不動産業 (株)オープンハウス
	■専門・技術サービス業（デザイン業・広告業等） (株)アイワード/(株)イザ/(株)KITABA/クリンプトン・フューチャーメディア(株)/(株)グラフィニカ/(株)タケナカ/(株)丹青社札幌支店/株式会社テー・オー・ダブリュー/(株)トップ・クリエーション/トラス・デプト・プランニング/(株)ネイキッド/(株)ビヨゴンピクチャーズ/フォトクリエイトむらの/(株)文化アディック/(株)ホワイトパープル/(株)マーマー/(株)ユーメディア/(株)ランドマック/(株)ワンエイトクリエーション
	■教育・学習支援業 (株)クレオテック
	■サービス業 (株)インテリジェンスビジネスソリューション/(株)エコノス/(株)札幌ドーム/(株)ジーカンパニー(株)/ダイナム/野口観光(株)/(株)ピヴォ/(株)北海道キヨスク
■公務 札幌市役所（技術職：建築）	
進学先	札幌市立大学大学院/筑波大学大学院/千葉大学大学院

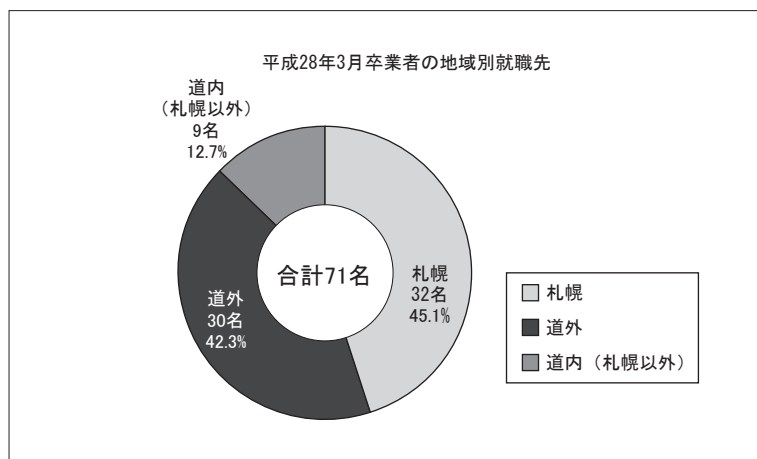
(7期生)

札幌市立大学デザイン学部 平成28年3月卒業者 就職状況 (平成28年5月1日現在)

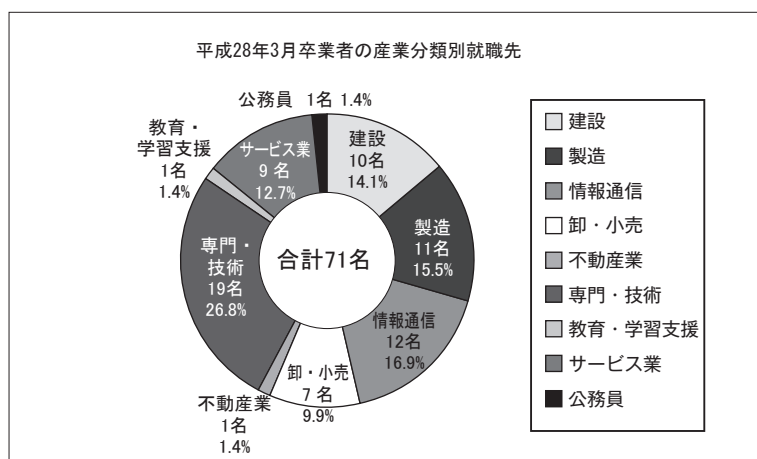
進路状況	人数(名)	割合(%)
民間就職	70	74.5
進学	14	14.9
公務員	1	1.1
その他	9	9.6
合計	94	—



地域別就職先	人数(名)	割合(%)
札幌	32	45.1
道外	30	42.3
道内(札幌以外)	9	12.7
合計	71	—



産業分類	人数(名)	割合(%)
建設	10	14.1
製造	11	15.5
情報通信	12	16.9
卸・小売	7	9.9
不動産業	1	1.4
専門・技術	19	26.8
教育・学習支援	1	1.4
サービス業	9	12.7
公務員	1	1.4
合計	71	—



4) コース別概要
(7期生) 平成28年3月卒業生

1. コース別進路状況

(単位: 名)

コース	卒業生数①	1. 就職希望者		就職者 (起業含)		2. 進学希望者		3. その他 ⑥※2
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤	
空間	27	14	1	14	1	10	10	1
製品	13	10	0	9	0	2	2	0
コンテンツ	26	23	0	20	0	2	2	0
メディア	35	29	0	28	0	0	0	3
合計	101	76	1	71	1	14	14	4
割合		75.2%	1.3%	93.4%(※1)	1.4%(※1)	13.9%	100.0%(※3)	4.0%

②÷①

③÷②

④÷①

⑤÷④

⑥÷①

(備考)

※1: 就職希望者に対する就職者の割合

※2: 就職希望・進学希望以外の者 (アルバイト・公務員浪人等、将来的な就職に関する進路選択をしたもの)

※3: 進学希望者に対する進学先決定者の割合

2. 内定先の内訳 (市内32社32名、道内8社10名、道外28社29名)

コース	道内企業 (札幌市内含む)		道外企業
空間	市内	(株)土屋ホーム [建設: 設計職] 札幌市 [公務: 建築職] (有)イリス [製造: デザイナー職] (株)丹青社札幌支店 [専門・技術: アシスタント]	(株)協同工芸社 [製造: デザイナー職] 大和ハウス工業(株) [建設: 設計職] (株)一条工務店 [建設: 設計職] 創建ホーム(株) [建設: 設計職]
	道内	(株)ロゴスホーム [建設: 設計職]	昭和(株) [建設: 都市計画職] (株)シーエーリーディング [建設: 店舗デザイナー職] (株)オープンハウス [不動産業: 設計職]
製品	市内	(株)ホワイトパープル [専門・技術: 総合職] (有)小笠原工芸社 [製造: アシスタント] (株)エスオーエルグループ [情報通信: SE職]	アイセン(株) [製造: 企画職] 日本ケーブル(株) [製造: 技術職] (株)ランドマック [専門・技術: モデラー] 三甲(株) [製造: デザイナー職]
	道内	(株)パーペル [製造: 企画職] (株)ヨシモト [卸・小売: 総合職] フォトクリエイトむらの [専門・技術: 総合職]	

コース	道内企業（札幌市内含む）		道外企業	
コンテンツ	市内	(株)イザ〔専門・技術：デザイナー職〕 (株)エコノス〔サービス業：総合職〕 (株)総合商研〔情報通信：デザイナー職〕 (株)トップ・クリエーション 〔専門・技術：デザイナー職〕 (株)ソーシャル・エイド・リサーチ 〔情報通信：デザイナー職〕 (株)ジーカンパニー〔宿泊、飲食：総合職〕 (株)マーマー〔専門・技術：ディレクター職〕 (株)プリプレス・センター〔製造：デザイナー職〕	(株)ネイキッド〔専門・技術：ディレクター職〕 トランスコスモス(株) 〔情報通信：Webインテグレーション〕 (株)スタジオ4℃〔情報通信：CGIスタッフ〕 (株)ビヨゴンピクチャーズ 〔専門・技術：ディレクター職〕 (株)ユニシス〔製造：デザイナー職〕 (株)二葉屋内定〔卸・小売：販売職〕 (株)あとらす二十一〔情報通信：WEB制作職〕 (株)タケナカ〔専門・技術：映像クリエイター職〕 (株)貴和製作所〔卸・小売：販売職〕 (株)グラフィニカ〔専門・技術：3DCGデザイナー〕 (株)文化アディック 〔専門・技術：グラフィックデザイナー〕	
	道内	東洋印刷(株)〔製造：デザイナー職〕 野口観光(株)〔宿泊、飲食：一般職〕		
メディア	市内	北海紙管(株)〔製造：総合職〕 (株)北海道キヨスク〔サービス業：総合職〕 (株)札幌ドーム〔サービス業：総合職〕 (株)ワンエイトクリエーション〔専門・技術：総合職〕 アステラス設計(株)〔建設：設計アシスタント〕 (株)トップ・クリエーション 〔専門・技術：アシスタント〕 トーラス・デプト・プランニング 〔専門・技術：デザイナー職〕 (株)アミクス〔情報通信：営業職〕 (株)アイワード〔専門・技術：営業職〕 (株)KITABA〔専門・技術：総合職〕 (株)写真工房〔製造：デザイナー職〕 マックスバリュー北海道(株)〔卸・小売：総合職〕 (株)エイチ・アイ・ディ〔情報通信：SE職〕 (株)ツルハ内定〔卸・小売：総合職〕 (株)ピヴォ〔サービス業：総合職〕 (株)HBA〔情報通信：SE職〕 クリンプトン・フューチャーメディア(株) 〔専門・技術：アシスタント〕 その他1社	(株)ダイナム〔サービス業：総合職〕 トランスコスモス(株) 〔情報通信：Webインテグレーション〕 (株)ユーメディア〔専門・技術：企画営業職〕 (株)インテリジェンスビジネスソリューション 〔サービス業：総合職〕 (株)クレオテック〔教育・学習支援：総合職〕 (株)テー・オー・ダブリュー 〔専門・技術：プロモーションプランナー〕 (株)トレム〔情報通信：SE職〕	
	道内	(株)北一硝子〔製造：総合職〕 (株)ヨシモト〔卸・小売：総合職〕		
小計	40社 42名		28社 29名	
合計	68社 71名			

3. 進学状況（大学院12名、その他1名）

コース	進学先	
空間	大学院	札幌市立大学大学院 8名、筑波大学大学院 1名、千葉大学大学院 1名
	研究生	
	その他	
製品	大学院	札幌市立大学大学院 2名
	研究生	
	その他	
コンテンツ	大学院	札幌市立大学大学院 2名
	研究生	
	その他	
メディア	大学院	
	研究生	
	その他	
合計		大学院 14名 研究生 0名 その他 0名



2 看護学部（助産学専攻科含む）

1) 概要

看護学部キャリア支援委員会は、学生の進路相談や就職活動、国家試験への支援だけでなく、就職後の支援も視野に入れ、学生を支援する体制を整えている。

看護学部における支援体制には、①進路相談、②就職活動支援、③国家資格試験対策、④卒業後のキャリア支援の4つの取組を軸に、次のような活動計画を定めている。①看護学部キャリア支援相談室の管理・運営、②進路希望調査の実施、③看護学部キャリア支援・進路活動ガイダンスの実施、④各種就職・進学説明会の開催、⑤国家試験自主ゼミの組織化、⑥国家試験受験に向けたガイダンスの実施。

学生のニーズ調査に基づき平成26年度から新たに「模擬面接プログラム」を実施した。経験豊富な看護管理者を模擬面接官として招聘し、4年生への面接トレーニングを行い、参加学生から好評価を得た。

卒業生を対象としたシャトル研修を実施し、卒後のキャリア支援を行った。

これらの活動が学生のニーズに適う内容であること及び学生の将来に有用な指針を示すものであることを念頭に、進路希望調査の結果など学生の声を重視し、計画立案に反映させながら支援を行っている。

2) 支援体制

看護学部キャリア支援委員7名により、次の表のとおり年間活動計画及び進路相談などを行った。また、学生による国家試験対策自主ゼミグループを組織し、自主ゼミリーダー会議を定期的に開催した。

月	4年次生、助産学専攻科生	3年次生
4月	前期ガイダンス	
	キャリアハンドブック配布（専攻科生） 進路希望調査	キャリアハンドブック配布（編入生）
5月		
6月	模試①（看護師） 模擬面接①	
7月	模擬面接②③④⑤	
8月	再学修セミナー（5回）	
9月	後期ガイダンス	
	模試②（保健師）	進路活動ガイダンス
10月	模試③（看護師） 模試④（助産師）	国家試験対策自主ゼミ結成
	11月	模試⑤（保健師） 国家試験説明会 シャトル研修（札幌・東京）
12月		
1月	模試⑥（看護師） 模試⑦（助産師） 模試⑧（保健師）	進路希望調査
2月	国家試験受験事前説明会 スキルアップトレーニング	特別講義（就職活動準備） 学内キャリア説明会 低学年用国家試験模試
3月	特別講義（労務支援） 卒業・修了前ガイダンス	

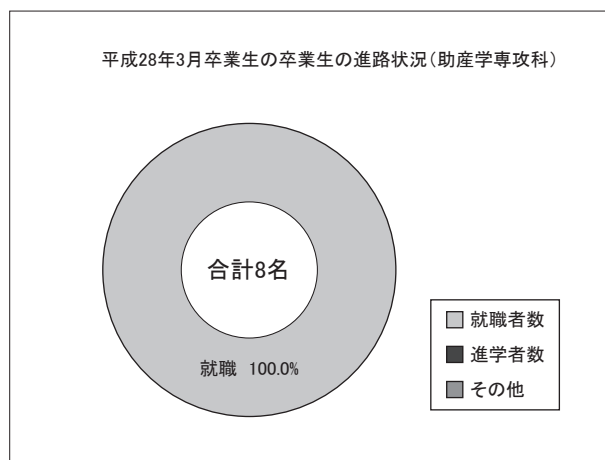
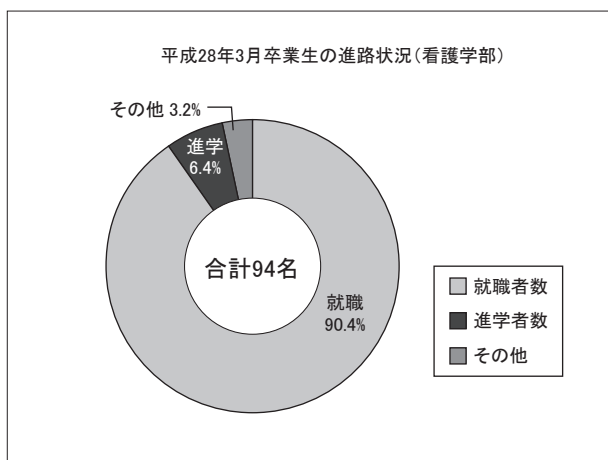


3) 就職・進学結果

① 進路状況

	在学数 (a)	就職希望者数			進学希望者数		左記以外の者 (a-b-c)
		就職希望者数	就職者数(b)	就職率 ※	進学希望者数	決定者数(c)	
看護学部	94	86	85	98.8%	6	6	3
うち編入学	10	9	9	100.0%	1	1	0
助産学専攻科	8	8	8	100.0%	0	0	0
合計	102	94	93	98.9%	6	6	3

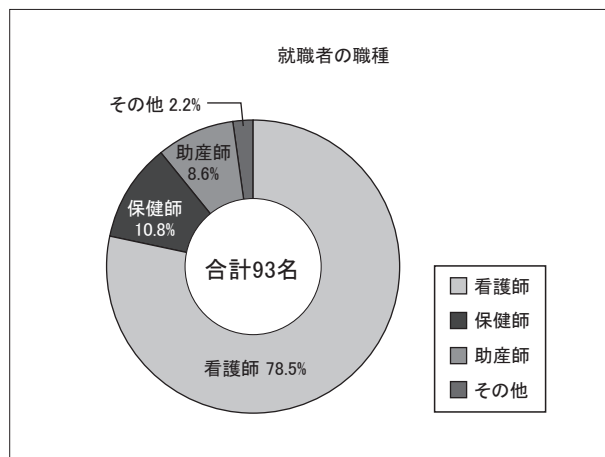
※就職希望者に対する就職者の割合



② 就職者の職種

(単位：名)

看護師	73
保健師	10
助産師	8
その他	2
合計	93



4) 国家試験の結果

	出願者数 (名)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)
看護師	83	83	81	97.5
保健師	38	38	38	100.0
助産師	8	8	8	100.0

3 デザイン研究科

1) 就職・進学結果

(5期生) 平成28年3月修了生

就職先	■建設業 (株)NTTファシリティーズ
	■専門・技術サービス業 (デザイン業・広告業等) 自然社(株)
	■サービス業 (株)祥和国際
	■公務 夕張市

2) 進路決定状況概要

1. 進路状況

(5期生) デザイン研究科博士前期課程 平成28年3月修了生

(単位:名)

	修了生数①	1. 就職希望		就職者 (起業含) ※1		2. 進学希望		3. その他
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3	⑥※2
博士前期課程	7	5	1	4	1	2	2	0
合計	7	5	1	4	1	2	2	0
割合	100.0%	71.4%	20.0%	80.0%	25.0%	28.6%	100.0%	0%
	①÷①	②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷④	⑥÷①

(1期生) デザイン研究科博士後期課程 平成27年3月修了生

(単位:名)

	修了生数①	1. 就職希望		就職者 (起業含) ※1		2. 進学希望		3. その他
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3	⑥※2
博士後期課程	2	0	0	0	0	0	0	2
合計	2	0	0	0	0	0	0	2
割合	100.0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100.0%
	①÷①	②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷④	⑥÷①

(備考)

※1: 就職希望者に対する就職者の割合

※2: 就職希望・進学希望以外の者 (アルバイト・公務員浪人等、将来的な就職に関する進路選択をしたもの、社会人学生)

※3: 進学希望者に対する進学先決定者の割合

2. 内定先の内訳

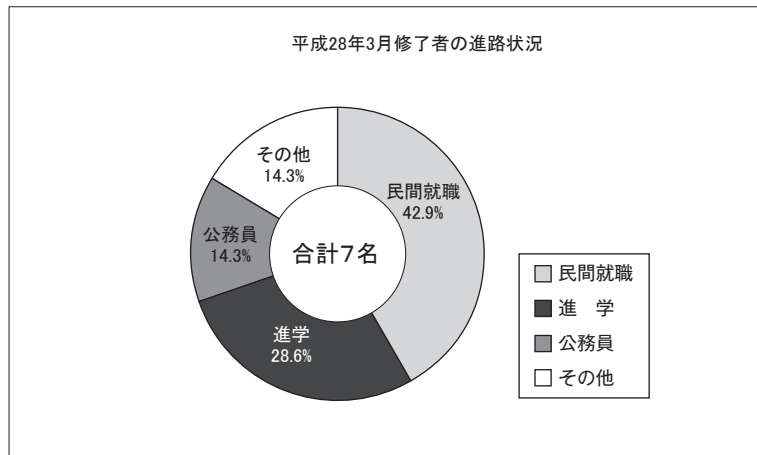
課程	道内企業 (札幌市内含む)		道外企業	
デザイン研究科博士前期課程	市内	自然社(株) [専門・技術: デザイナー職]	(株)祥和国際 [サービス業: スケジュールデザイナー]	
	道内	夕張市 (嘱託職員) [公務: 事務職]	(株)NTTファシリティーズ [建設: 設計職]	
小計	2社 2名		2社 2名	
合計	4社 4名			

3. 進学状況

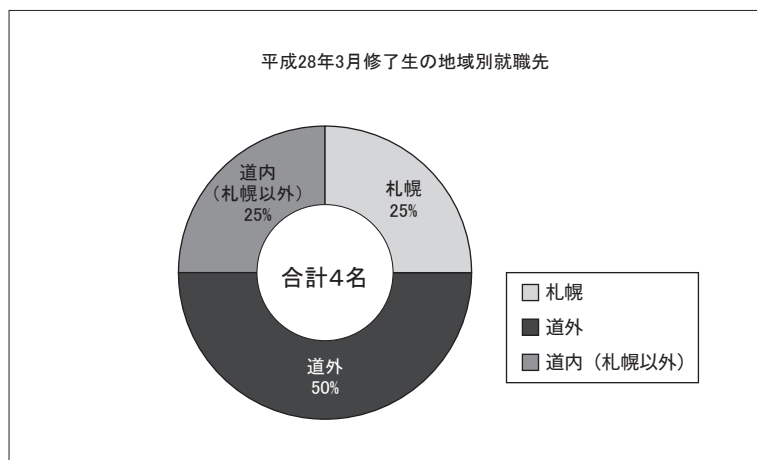
課程	進学先(名)		人数小計(名)
デザイン研究科博士前期課程	大学院	札幌市立大学大学院博士後期課程(1)、東北大学大学院博士後期課程(1)	2
	研究生		
	その他		
合計	大学院博士後期課程 2 研究生 0 その他 0		2

(5期生) デザイン研究科博士前期課程 平成28年3月修了者 就職状況

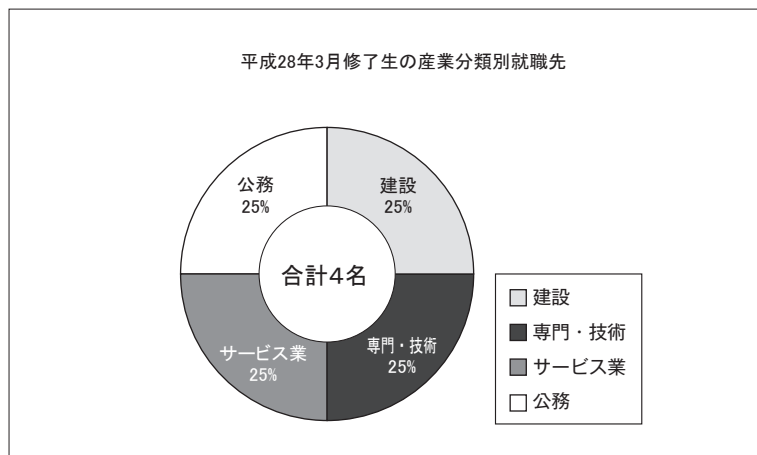
進路状況	人数(名)	割合(%)
民間就職	3	42.9
進学	2	28.6
公務員	1	14.3
その他	1	14.3
合計	7	—



地域別就職先	人数(名)	割合(%)
札幌	1	25.0
道外	2	50.0
道内(札幌以外)	1	25.0
合計	4	—



産業分類	人数(名)	割合(%)
建設	1	25.0
専門・技術	1	25.0
サービス業	1	25.0
公務	1	25.0
合計	4	—



VI 平成28年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

<教育研究の理念>

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とします。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成します。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果たしていくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求します。

<教育研究の特長>

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指します。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開します。

<デザイン学部の求める学生像>

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

このため、入学者には、日ごろから、人間及びその生活を豊かにするデザインに興味・関心を持ち、地域社会が抱える課題の発見や解決に向けて、日々の学習の中で幅広い基礎学力・思考力・発想力を身に付けるとともに、多くの人々と協働するためのコミュニケーション能力を備えていることが求められます。

<看護学部の求める学生像>

- 1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探究心を持って、柔軟に物事を考え、自主的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、積極的に地域に貢献する意志を備えた人

そのためには、高等学校における国語、英語、数学、理科などの基礎的な学力、及び課外活動等によって培われた協調性や責任感のある人を求めています。

② 平成28年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

(単位：名)

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	85名	59名	14名	12名	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80名	48名	—	32名	若干名	—

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成27年11月2日 ～11月5日	平成27年11月21日	平成27年12月8日 【入学手続期間】 平成27年12月8日～12月15日
	私費外国人留学生(※)	平成28年1月25日 ～2月3日	平成28年2月25日	平成28年3月7日 【入学手続期間】 平成28年3月7日～3月14日
一般選抜	前期日程	平成28年1月25日 ～2月3日	平成28年2月25日	平成28年3月7日 【入学手続期間】 平成28年3月7日～3月14日
	後期日程(※)	平成28年1月25日 ～2月3日	平成28年3月12日	平成28年3月22日 【入学手続期間】 平成28年3月22日～3月26日

(※) は、デザイン学部のみ実施

試験会場

学部・学科名	試験会場
デザイン学部デザイン学科	芸術の森キャンパス
看護学部看護学科	桑園キャンパス



選抜方法

選抜区分		学部・学科名	選抜方法
特別選抜	推薦入学	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	小論文（看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	社会人	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	総合問題（国語、英語、自然科学、論述）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	私費外国人留学生	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
一般選抜	一般選抜	デザイン学部 デザイン学科 看護学部 看護学科	入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等（※）の成績並びに調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。

一般選抜試験の大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科・科目

学部・学科名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等 科目名等
		教科	科目名等	
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国語	「国」（古文・漢文を含む。）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		地歴公民	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫理」「政・経」「倫理、政・経」から1科目	
		数学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」の2科目	
		理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	
	後期日程	国語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数学	「数Ⅰ・数A」	
看護学部 看護学科	前期日程	外国語	「英」（筆記及びリスニング）	面接
		国語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数学	「数Ⅰ・数A」	
		理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	

**※注1【デザイン学部（前期日程）】**

- ・地歴・公民について、2科目選択した場合は、第1解答科目を合否判定に利用します。
- ・理科について、「基礎を付した科目」（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」）2科目を選択せずに、「基礎を付していない科目」（「物理」「化学」「生物」「地学」）を選択した場合には、「基礎を付した科目」2科目のかわりに「基礎を付していない科目」1科目（100点満点）の得点を利用します。
ただし、「基礎を付していない科目」2科目を選択した場合には、第1解答科目の得点（100点満点）を利用します。

※注2【看護学部（前期日程）】

- ・理科について、「基礎を付した科目」（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」）2科目を選択せずに、「基礎を付していない科目」（「物理」「化学」「生物」「地学」）2科目を選択した場合には、「基礎を付した科目」2科目のかわりに「基礎を付していない科目」2科目の合計得点（200点満点）を利用します。

※注3【全試験区分共通】

- ・外国語について、「英語」の筆記及びリスニングの合計得点を利用します。いずれか一方を受験しなかった場合は、出願資格はありません。ただし、大学入試センター試験の受験上の配慮において、リスニングを免除された者を除きます。

③平成28年度3年次編入学者選抜概要

募集人員 (単位：名)

学部・学科名等	募集人員
デザイン学部デザイン学科	10
看護学部看護学科	10

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
デザイン学部 デザイン学科	平成27年6月19日 ～6月26日	平成27年7月18日	芸術の森キャンパス	平成27年7月31日
看護学部 看護学科	平成27年8月12日 ～8月18日	平成27年9月12日	桑園キャンパス	平成27年9月29日

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、本学が実施する小論文（課題解決型の論述問題）、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	入学者の選抜は、本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン学部

(単位：名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	59	154	151	63	63
	後期日程	14	159	83	14	12
特別選抜	推薦入学	12	43	43	13	13
	社会人	若干名	3	2	0	0
	私費外国人留学生	若干名	2	1	1	1

看護学部

(単位：名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	48	88	85	50	48
特別選抜	推薦入学	32	87	87	32	32
	社会人	若干名	20	20	4	4

b. 入学者の内訳

(単位：名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	89	47	31	11	23	66
看護学部	84	32	45	7	7	77
合計	173	79	76	18	30	143

② 編入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

(単位：名)

学部		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
デザイン学部	空間	10	13	13	5	5
	製品		1	1	1	0
	コンテンツ		4	4	2	1
	メディア		3	2	2	2
	計	10	21	20	10	8
看護学部		10	23	23	10	9

b. 入学者の内訳

(単位：名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	8	3	1	4	1	7
看護学部	9	2	7	0	1	8
合計	17	5	8	4	2	15

2 デザイン研究科・看護学研究科

1) 博士前期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科博士前期課程】

本課程は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業・芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

＜デザイン研究科博士前期課程の求める学生像＞

- 1 デザインに関する基礎的知識を備え、豊かな感性と深い見識を持ち、人間重視の視点からデザインの発展に寄与できる人
- 2 各種のデザインを統合し、先導的なプロジェクトを主体的・戦略的に展開することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域を創成していくリーダーとして文化・産業の発展に貢献する意思を持った人

【看護学研究科博士前期課程】

本課程では、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

＜看護学研究科博士前期課程が求める学生像＞

- 1 看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、自主的・意欲的に看護実践の向上に寄与できる人
- 2 柔軟で論理的な思考を持って保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた研究を遂行できる人
- 3 高い倫理観を有し、地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を持った人

② 平成28年度入学者選抜概要

募集人員

(単位：名)

研究科・専攻名	推薦選抜	一般選抜	特別選抜 (社会人)	特別選抜 (私費外国人留学生)
デザイン研究科 デザイン専攻	9	9	若干	若干
看護学研究科 看護学専攻		18 (一般選抜、特別選抜を含む)		

※デザイン研究科の特別選抜(社会人・私費外国人留学生)の若干名は推薦選抜及び一般選抜の合計18名を含む。



選抜日程

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	推薦選抜	平成27年6月19日 ～6月26日	平成27年7月18日	平成27年7月31日
	一般選抜	平成27年8月28日 ～9月4日	平成27年9月26日	平成27年10月13日 【入学手続期間】 平成27年10月13日～10月20日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			
	一般選抜 【第2次募集】	平成28年2月5日 ～2月12日	平成28年3月5日	平成28年3月15日 【入学手続期間】 平成28年3月15日～3月22日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生） 【第2次募集】			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成27年8月20日 ～8月26日	平成27年9月26日	平成27年10月13日 【入学手続期間】 平成27年10月13日～10月20日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			
	一般選抜 【第2次募集】	平成28年1月5日 ～1月12日	平成28年2月6日	平成28年2月26日 【入学手続期間】 平成28年2月26日～3月4日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生） 【第2次募集】			

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	推薦選抜	本学大学院が実施する面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	一般選抜	本学大学院が実施する学力検査（専門科目の筆記試験）、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。 ※英語はTOEICのスコアにより評価する。
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）	本学大学院が実施する学力検査（専門科目の筆記試験）、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験（英語、専門科目）、面接（口頭試問含む）及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）	



ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦選抜	9	6	6	6	6
一般選抜	9	8	8	7	6
特別選抜（社会人）	若干名	0	0	0	0
特別選抜 （私費外国人留学生）	若干名	5	5	5	5

看護学研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	25	24	15	15
特別選抜（社会人）					

b. 入学者の内訳

(単位：名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	17	16	1	0	9	8
看護学研究科	15	12	3	0	0	15
合計	32	28	4	0	9	23

2) 博士後期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科博士後期課程】

＜教育研究の理念＞

本課程は、人間重視を根幹とした高度な教育・研究を実践し、「知と創造の拠点」として地域からの負託に応え、高度の専門知識・技術を基盤に地域社会の発展に寄与します。さらに、高度で先進的な教育・研究の中核機関として機能し、新たな理論構築や技術開発に独創的に取り組み、新たな社会価値の創造を図ることを教育研究の理念とします。

＜教育研究の目的＞

本課程は、地域社会に内在する様々な課題をデザインの視点から幅広く発見するとともに、高度な教育・研究の成果を通じて、その解決策を見出し、より豊かな人間生活や地域社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

＜デザイン研究科博士後期課程の求める学生像＞

1 柔軟な思考と独創的な視点に立って地域課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて



- 旺盛な探究心を持って自立した研究を遂行できる人
- 2 豊かな感性と深い見識を持ち、高度な教育・研究による成果をもとにデザインの発展に貢献しようとする意識を有する人
 - 3 既成の概念にとらわれず、自立して独自のデザイン理論構築や技術開発に取り組み、新たな社会価値の創造を目指す意欲と実行力を有する人

【看護学研究科博士後期課程】

本課程では、高度な学識と豊かな実践経験を基礎に様々な看護現象の分析や評価を行い、その研究成果をもとに将来を見据えた看護の枠組みを再構築し、システム開発などを行うことができる人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

<看護学研究科博士後期課程が求める学生像>

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って、看護を軸とした諸課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて旺盛な探究心を持って自立した教育・研究を遂行できる人
- 2 保健医療福祉分野における新たな理論構築や技術開発等を通じて、より質の高い看護サービスのあり方を探求する意欲を有する人
- 3 卓越した看護知識と高い倫理観に基づく実践能力を有し、教育・管理能力の研鑽に励み、将来を見据えた保健医療福祉分野の指導者となりうる人

② 平成28年度入学者選抜概要

募集人員 (単位：名)

研究科・専攻名	一般選抜
デザイン研究科 デザイン専攻	3名
看護学研究科 看護学専攻	3名

選抜日程

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成28年2月5日 ～2月12日	平成28年3月5日	平成28年3月15日 【入学手続期間】 平成28年3月15日～3月22日
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成28年1月5日 ～1月12日	平成28年2月6日	平成28年2月26日 【入学手続期間】 平成28年2月26日～3月4日
	一般選抜 【第2次募集】	平成28年2月15日 ～2月19日	平成28年3月5日	平成28年3月15日 【入学手続期間】 平成28年3月15日～3月22日

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス



選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	本学大学院が実施する面接（研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む）の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜、一般選抜【第2次募集】	本学大学院が実施する筆記試験（英語）、面接（研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む）及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	3	3	3	3

看護学研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	1	1	1	1	1

b. 入学者の内訳

(単位：名)

研究科	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	3	3	0	0	2	1
看護学研究科	1	1	0	0	0	1
合計	4	4	0	0	2	2

3 助産学専攻科

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的としています。

これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりです。

<助産学専攻科の求める学生像>

- 1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
- 2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
- 3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追求できる人

② 平成28年度入学者選抜概要

募集人員 (単位：名)

専攻科名	募集人員
助産学専攻科	10

選抜日程

出願期間	試験日	合格発表等
平成27年8月12日 ～8月18日	平成27年9月12日	平成27年9月29日 【入学手続期間】 平成27年9月29日～10月6日

試験会場

専攻科名	試験会場
助産学専攻科	桑園キャンパス

選抜方法

専攻科名	選抜方法
助産学専攻科	入学者の選抜は、本学専攻科が実施する筆記試験（専門科目（看護学一般）、小論文）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

a. 選抜・入学状況

(単位：名)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
10	25	24	14	8

b. 入学者の内訳

(単位：名)

入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
	道内		道外	男	女
	札幌市内	札幌市外			
8	5	2	1	—	8



VI 附属図書館

1 概要

1) 施設規模

芸術の森キャンパス図書館…延べ床面積／1,500㎡

桑園キャンパス図書館…延べ床面積／500㎡

2) 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数

(平成28年3月31日現在)

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	視聴覚資料	計	和雑誌	洋雑誌	電子 ジャーナル
芸術の森 キャンパス図書館	68,205	9,228	3,460	80,893	382	57	549
桑園 キャンパス図書館	37,097	1,726	1,266	40,089	390	9	2,021
合計	105,302	10,954	4,726	120,982	772	66	2,570

3) 平成27年度年間受入状況

区分		和	洋	計	
芸術の森 キャンパス 図書館	図書 (冊)	購入	1,696	120	1,816
		寄贈	280	277	557
		計	1,976	397	2,373
	雑誌 (種)	購入	30	8	38
		寄贈	44	3	47
		計	74	11	85
桑園 キャンパス 図書館	図書 (冊)	購入	1,423	42	1,465
		寄贈	138	2	140
		計	1,561	44	1,605
	雑誌 (種)	購入	87	4	91
		寄贈	114	1	115
		計	201	5	206
合計		3,812	457	4,269	

2 利用状況

1) 開館時間・休館日

開館時間	平 日：午前9時～午後10時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時（平日）
休 館 日	日曜・祝日・年末年始

2) 利用資格

- ① 本学学部学生・大学院生及び教職員
- ② 札幌市に在住・在勤する18歳以上の方
- ③ 北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟館所属の方

3) 貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生 (科目等履修生を含む)	10冊	図書：2週間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可） 視聴覚資料：1週間
教職員	無制限	図書：2ヶ月間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可） 視聴覚資料：1週間
市民等学外者	3冊	図書：2週間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可）

4) 年間利用者数・貸出冊数等

図書館の 名称	利用者	開館 日数	入館 者数	貸出 人数	貸出 冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森 キャンパス図書館	学生・ 教職員	272	11,329	3,072	6,904	20	85
	市民等 学外者	272	1,630	403	824	—	—
桑 園 キャンパス図書館	学生・ 教職員	272	23,501	6,598	15,181	219	1,280
	市民等 学外者	272	2,377	555	1,237	—	—
合計		—	38,837	10,628	24,146	239	1,365

ILL：Inter-Library Loan（相互貸借）



VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況

回数	経営審議会	教育研究審議会	役員会
6月29日 第1回	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度事業報告及び決算について 平成26事業年度業務の実績に関する報告について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度事業報告及び決算について 平成26事業年度業務の実績に関する報告について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度事業報告及び決算について 平成26事業年度業務の実績に関する報告について
8月24日 第2回 持ち回り	<ul style="list-style-type: none"> 平成26事業年度の業務実績に関する評価結果案に対する意見について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26事業年度の業務実績に関する評価結果案に対する意見について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26事業年度の業務実績に関する評価結果案に対する意見について
10月26日 第3回	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度予算編成方針について 教員の再任について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度予算編成方針について 教員の再任について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度予算編成方針について
3月28日 第4回	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度年度計画及び予算について 規則等の制定及び改正等について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度年度計画及び予算について 規則等の制定及び改正等について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度年度計画及び予算について



2 役員及び審議会委員名簿（平成27年4月1日現在）

1) 役員

役職	氏名	現職
理事長	蓮見 孝	札幌市立大学 学長
理事（常勤）	中村 恵子	札幌市立大学 副学長
理事（非常勤）	横内 龍三	㈱北洋銀行 取締役会長
理事（非常勤）	山岸 正美	㈱マーケティング・コミュニケーションエルグ 代表取締役
理事（非常勤）	橋本 道政	（公助）札幌市芸術文化財団 副理事長
監事（非常勤）	橋場 弘之	田村・橋場法律事務所（札幌市任命）
監事（非常勤）	高松 謹也	公認会計士 高松謹也事務所（札幌市任命）

2) 経営審議会委員

役職	氏名	現職
理事長	蓮見 孝	
理事	中村 恵子	
理事	横内 龍三	㈱北洋銀行 取締役会長
理事	橋本 道政	（公助）札幌市芸術文化財団 副理事長
事務局長	大古 聡	
学外委員	菊嶋 明廣	札幌商工会議所 常務理事
学外委員	福井 知克	（一助）さっぽろ産業振興財団 専務理事
学外委員	秋野 豊明	溪仁会グループ 会長
学外委員	花井 秀勝	フュージョン㈱ 代表取締役会長
学外委員	町野 和夫	北海道大学大学院経済学研究科 教授 研究科長、経済学部長

3) 教育研究審議会委員

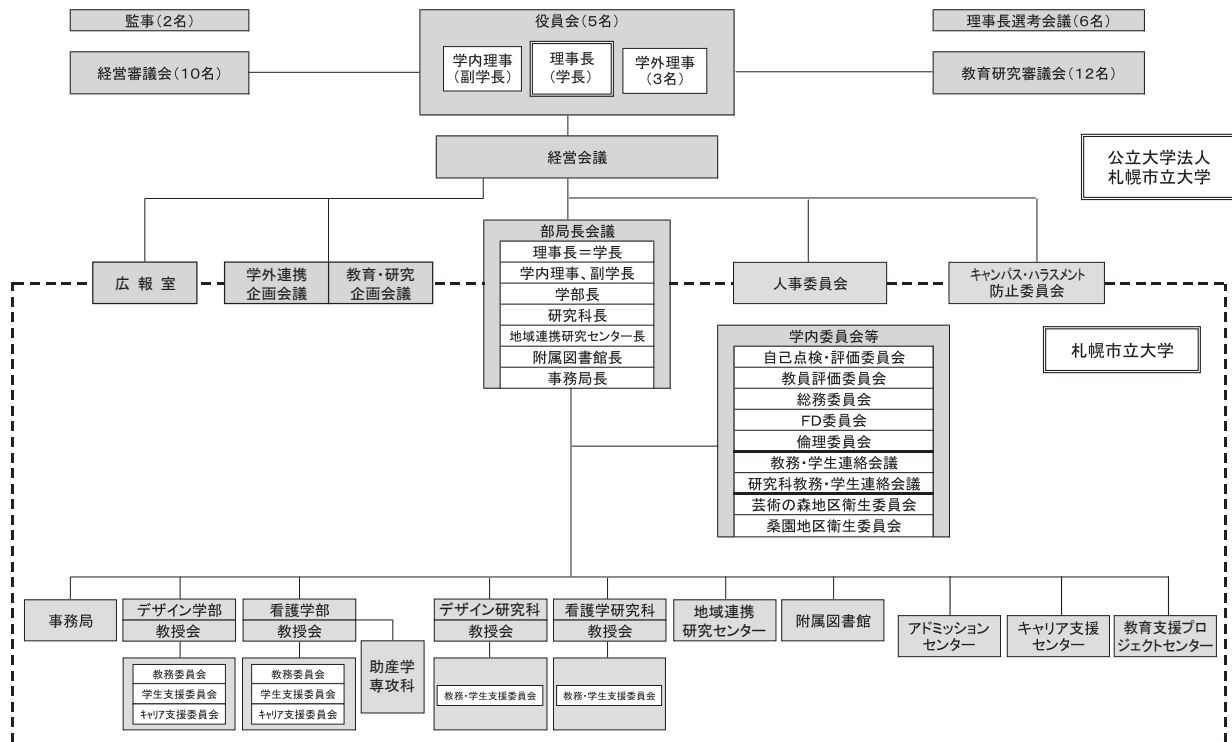
役職	氏名	現職
学 長	蓮見 孝	
理 事	中村 恵子	
理 事	山岸 正美	㈱マーケティング・コミュニケーションエルグ 代表取締役
デザイン学部長	酒井 正幸	
看護学部長	樋之津 淳子	
デザイン研究科長	城間 祥之	
附属研究所長	上遠野 敏	
附属図書館長	山本 勝則	
事務局 長	大古 聡	
学 外 委 員	山中 善夫	札幌市教育委員会 委員長
学 外 委 員	平山 妙子	（公社）北海道看護協会 会長
学 外 委 員	石垣 靖子	北海道医療大学 客員教授

任期：平成28年3月31日まで



Ⅸ 学内運営の概要

1 平成27(2015)年度公立大学法人札幌市立大学組織図



2 経営会議

平成27年度は13回の会議を開催した。

会議では、法人の経営及び札幌市立大学の教育研究に関する重要事項について協議を行った。

3 部局長会議

回数	開催日	議題
第1回	4月8日	(1)2015年度学内委員会について (2)平成27年度大学ポートレート参加意向確認について (3)デザイン研究科 博士前期課程 私費外国人留学生特別選抜に係る出願資格の変更について
第2回	5月8日	(1)平成29年度以降のデザイン学部一般選抜(後期日程)入学者選抜試験の変更について (2)外部監査報告に係る指摘事項に対する措置について
第3回	5月22日	外部監査報告に係る指摘事項に対する措置について
第4回	6月3日	(1)看護学研究科倫理審査会規程の改正について (2)平成26年度決算について (3)大学基準協会へ提出する改善報告書(案)について (4)平成27年度前期 授業料減額免除について (5)平成26年度年度計画の実績報告にかかる点検結果について
第5回	7月1日	研究倫理関連規程の改定について



回数	開催日	議題
第6回	7月16日	札幌市地方独立行政法人評価委員会によるヒアリングへの対応について
第7回	8月20日	法人評価結果案について
第8回	9月2日	なし
第9回	10月7日	(1)研究倫理関連手続について (2)図書館の予算について
第10回	11月4日	研究倫理関連手続について
第11回	12月2日	(1)(新)危機管理基本マニュアル(案)等について (2)平成28年度入学式及び卒・修了式の日程について (3)平成27年度後期 授業料減額免除について (4)リース期間満了に伴う次期図書館業務システムの導入及び旧システムからのデータ移行業務の委託について
第12回	1月6日	(1)会計関係規則の改正について (2)平成28年度年度計画の策定スケジュールについて (3)利益相反管理規程等の策定について (4)平成28年度卒業式・修了式スケジュールについて (5)平成28年度予算と収支不足対応について
第13回	2月3日	(1)芸術の森地区連合会と公立大学法人札幌市立大学との地域連携協定の締結について (2)知的財産規程及び細則の改正について (3)看護学研究科倫理審査会規程の改正について (4)重篤有害事象発生手順書の制定(看護学研究科の学生向け)について (5)公立大学法人札幌市立大学利益相反指針等関連規程類の策定について (6)サバティカル研修について (7)修学支援基金(開学10周年記念基金)について
第14回	2月15日	平成28年度年度計画(案)について
第15回	2月24日	平成28年度年度計画(案)について
第16回	3月2日	(1)2016年度札幌市立大学学内委員会等について (2)平成28年度主要会議予定表について (3)規則等の改正について (4)「KANAえる基金」について
第17回	3月18日	規則等改正について

4 教育・研究企画会議

教育・研究企画会議は、第二期経営戦略の3つの基本戦略のうち、「学内体制を充実・強化する戦略」を所管し、平成27年度は9回開催した。

平成27年度の主な活動として、サバティカル研修の制度設計を行ったほか、ループリックの試行状況の検証やCITI Japanプロジェクトへの参加について協議を行った。

5 広報室

広報室は、主に広報戦略の推進に関する事項等を所管しており、平成27年度は11回開催した。

平成27年度の主な活動として、2016年度版大学案内を21,000部発行し、2017年度版大学案内の検討・制作を行った。また、公式大学ウェブサイトを全面的にリニューアルし、スマートフォンによる閲覧をやすくしたほか、YouTubeを活用した動画「SCU-TV」を新たに制作するなど、大学の魅力がより伝わるサイトとした。

6 教授会

1) デザイン学部教授会

デザイン学部教授会は、平成27年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

2) 看護学部教授会

看護学部教授会は、平成27年度に臨時教授会1回を含む13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、進級卒業判定及びその他学部の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、助産学専攻科における教育課程の編成、修了判定及びその他専攻科の教育研究に関する事項などについても本教授会において、幅広く審議を行った。

教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

3) デザイン研究科教授会

デザイン研究科教授会は、平成27年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他研究科の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、デザイン研究科博士後期課程に関する事項について審議するため、博士後期課程会議（研究科教授会代議員会）を開催した。

4) 看護学研究科教授会

看護学研究科教授会は、平成27年度に臨時教授会1回を含む13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、修了判定及びその他研究科の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、各学内委員会等からの報告も行い、必要に応じて看護学研究科科目担当専任教員を構成員とする拡大会議として開催した。

7 地域連携研究センター

地域・産学連携部門、人材育成・継続教育部門、国際交流部門、紀要編集委員会の4セクションに構成員を配置して、研究活動、地域貢献および国内外ネットワーク形成の推進を担い、活動を行った。また、運営会議（計11回開催）で課題や情報を集約したほか、知的財産委員会を構成し、学内の知的財産に係わる管理・運営を行った。主な活動内容は以下のとおりである。

<地域・産学連携>

地域からの協力要請に対して、本学教員・学生が本来の活動の延長上で教育・研究の成果を地域に還元するため、地域連携活動の協力を行った。また、教員の研究成果を学外に周知し産官学連携のきっかけを探るために、「ビジネスEXPO」等の展示会へ出展したほか、産官学連携を目的とした学外向けの産学官研究交流会の開催や、北海道立総合研究機構との視察研究交流会を開催し、更なるネットワークづくりを図った。

<人材育成・継続教育>

大学が持つ知的資源をデザイン・看護の視点に基づき地域に還元し、地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献をすることを目的として、公開講座を開催した。専門職業人や市民を対象とした28コース（54コマ）【うちCOC関連21コース（36コマ）】の講座を、延べ1706名が受講した。また、ちえりあとの連携講座として6コマ86名の受講、今年度初の企画として、北海道立総合研究機構との共催講座「知活ゼミナール」を開催し2コマ29名が受講した。

平成27年度から公開講座を、体系的に整理することにより、全体の傾向を把握し、且つ、今後の公開講座の企画運営において、大学が保有する知的資源を有効に活用することを目的として、受講希望者及び企画運営における2つの視点から、公開講座の体系を大項目として「一般市民向け」「専門



職向け」を、中項目として「デザイン分野」「看護分野」「学際分野」を設けている。大項目・中項目に加え、小項目に「4コース9領域」と「共通教育」を加えることにより、分野別に講座の実施状況を把握し、企画運営を行った。

<国際交流>

国際化に関する基本方針および行動計画に基づき、4つの戦略を下記の通り、引き続き推進した。

・「学生の国際化」

本学、学生交流については、華梵大学と台中科技大学との合同企画として、デザイン学部生が主体的にワークショップに参加し交流を行った。看護学部生が承德医学院での短期派遣プログラムに参加した。デザイン学部生が清華大学主催のワークショップに参加した。また、華梵大学へ特別交換留学生として半年間留学をした。華梵大学からの特別聴講学生の受入も行っている。このことに加え、フィンランドとの交流を活発にしていることに伴い、1ヵ月半のインターンシップへデザイン学部生と看護学部生が参加した。さらに、ラップランドで開催したArctic Design Weekに本学学生がサンタワークショップで制作した作品展示をした。

・「教職員の国際化」

学術奨励研究において、教員の国際学会・国際展示会への発表を促すための補助制度を継続し、国際学会誌に発表した際の補助制度を推奨している。

・「提携校との交流の活性化」

国立台中科技大学と学術交流協定締結に向けて覚書を交わした。ラップランド大学と学術交流協定を締結した。共同研究の打ち合わせのため相互に交流を進めている。また、ラップランド大学で開催されたArctic Design Weekの大学展示に参加のため教員の派遣を行った。さらに、清華大学美術学院技術学部長を受入し研究交流を行った。また、本学教員を研究交流・授業視察・特別講演のため派遣した。

・「海外とのネットワーク化」

ポートランド（アメリカ、オレゴン州）のパシフィック・ノースウェスト・カレッジ・オブ・アート（PNCA）へ今後の交流の可能性を検討するために教員の派遣を行った。

また、JICAベトナム研究員（ITフロント）の本学視察の受入を行った。

<紀要編集>

前年度に発行準備をしていた研究論文集「SCU Journal of Design & Nursing 第9巻」を平成27年6月末に発行した。また、第10巻を平成28年6月末に発行することとし、投稿論文について査読を行い、発行の準備をした。

<研究推進>

地域や産業界から依頼された受託研究11件、共同研究1件、寄附金12件の受入れを行い、次年度の学内競争的研究費（学術奨励研究費・共同研究費・田村ICT基金）の公募と審査に係わる制度設計を行い、学術論文掲載料等補助の制度を改善した。また、両学部の教員の交流を図るため研究交流会を、産学官連携のシーズ創出を図るため産学官連携研究交流会を企画・実施した。

<知的財産>

「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業：（工業所有権情報・研修館主催）における広域大学知的財産ネットワーク」（①デザイン利活用による地域貢献ネットワーク②看工連携によるものづくりプロジェクト創出ネットワーク）に参加した。当該事業から派遣される大学知的財産アドバイザーによる知的財産セミナー（知的財産出前セミナー2件含む）をFDとして開催した。また、特許申請中の案件について、外部企業と専用実施権契約を締結し、製品化に向けた検討を開始した。

8 附属図書館

平成27年度は全11回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。主な協議内容は、図書館利用の活性化、図書館利用者アンケートの実施、図書館予算の考え方、後援会



からの寄附、データベース・電子ジャーナルの契約方針、購読雑誌の契約検討、修士論文の機関リポジトリの掲載ルール、新webサイトの掲載内容、図書館システム選考、等であった。

この他、北海道地区大学図書館協議会相互利用促進事業運営委員会の委員長館をつとめた。

芸術の森図書館では、札幌芸術の森美術館との連動企画展を開催（9月8日～10月30日）、アートブックフェアへ参加（11月9日～12月5日）した。

9 アドミッションセンター

入学者選抜試験及びそれに伴う入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成27年度は計10回の会議を開催し、前年度の入試結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの学生募集要項・選抜試験実施要領に関する審議、入学者選抜試験に係る現状分析を行った。なお、デザイン学部アドミッションポリシーの見直しもおこなった。

また、学生募集に係る具体的な取組として、オープンキャンパス、大学・大学院等説明会、高校訪問及び中学生向け広報活動等を企画・実施した。

10 キャリア支援センター

キャリア支援センター会議は、両学部に関係するキャリア支援に係る改善・充実を目的として、平成20年4月に設置された。両学部のキャリア支援委員会において各学部の特性や特徴及び社会情勢に応じたキャリア支援を行った。

11 教育支援プロジェクトセンター

教育プロジェクトセンターは、地（知）の拠点整備事業（COC）や産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（GP）など、文部科学省の補助事業や公的機関が実施する事業に係わるプロジェクト等を所管しており、平成27年度は4回開催した。

平成27年度の主な活動として、文部科学省の新たな補助事業である地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）への参加について協議を行った。

12 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

自己点検・評価委員会は、主に認証評価や年度計画の進捗管理に関する事項等を所管しており、平成27年度は8回開催した。

平成27年度の主な活動として、平成26年度年度計画の実績報告書（案）の作成を行ったほか、平成27年度年度計画について半期（一部の項目は四半期）ごとに取組状況の進捗管理を行った。

2) 教員評価委員会

平成27年度は3回の委員会のほか、ワーキングや専門部会を開催し、各教員から提出された教員活動実績申告書の確認作業や教員評価書の作成作業を行うとともに、次年度に向けた、記入要領及び申告書様式等の検証や教員評価制度の見直しを行った。

評価結果については、平成27年度末に任期満了を迎える教員の再任審査に活用し、また、研究費の追加配分にも活用した。

3) 総務委員会

平成27年度は9回の委員会を開催した。

委員会では、感染症集団発生時の対応に係る個別マニュアル案を策定し、全教職員へ周知を行っ

た。

なお、昨年に引き続き、夏季及び冬季の節電対策について検討を行い実施した。

4) FD委員会

FD委員会は、教員の資質向上、FDに関する情報の共有化・情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。委員会を8回開催し、FD活動の方針について論議するとともに、具体的な取り組みについて、内容を検討し、実施した。

平成27年度の具体的な活動として、FD委員会が主催・共催の全学FD研修会（3回）、学外研修会への教職員派遣（4回延べ4名）、授業評価アンケート集計結果に対する所見の公開を実施した。

なお、学内で実施されたFD研修会の実施状況については、FDマップを作成することで整理している。また、「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加し、北海道内の大学間のFD活動の交流にも関わっている。

5) 倫理委員会

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った十分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成27年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第4水曜日に委員会を開催した（計12回開催）。また、平成24年度から倫理委員会における審査の前段として、倫理委員が審査資料の確認をし、申請者へコメントを送付することにより、審査時間の短縮と研究倫理審査の申請から研究開始までの迅速化を図っている。年間の審査申請総数は32件であり、1回当たり平均2.7件の審査を実施した。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、倫理審査の社会的透明性及び客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、平成23年度から引き続き、法律家を外部委員として委嘱し、吉岡直樹弁護士が委員として審査に加わった。

また、平成26年12月に新たに「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省）が告示されたため、この指針をふまえて倫理審査の基準を見直してきた。当指針には、倫理審査委員会の成立要件として構成員には「倫理審査委員会の設置者の所属機関に所属しない者が複数含まれていること」とされていることから、2人目の外部委員として、札幌医科大学保健医療学部作業療法学科教授の今井富裕氏に委嘱し、人を対象とし介入を伴う医学系研究の倫理審査を扱う特別審査部門を設置した（平成27年度中には、特別審査部門の開催は0回）。

6) 教務・学生連絡会議

教務・学生連絡会議は、平成27年度に11回開催し、共通教育、デザイン・看護両学部の連携教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即した事項について審議した。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭、チューター制度に関すること等について審議したほか、年度計画に対応した取り組みとしては、共通教育科目の効果検証、授業評価アンケートの見直し、成績評価状況の確認等を行った。また、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を報告し、両学部の情報を共有した。

7) 研究科教務・学生連絡会議

研究科教務・学生連絡会議は、平成27年度に9回開催し、デザイン・看護学両研究科の連携教育に関する事項、研究科連携科目に関する事項及び学生生活に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即した事項について審議した。

具体的には、研究科連携科目である連携プロジェクト演習の効果検証、日本学生支援機構奨学金返還免除者の選考基準の策定、院生研究支援費、チューター制度等に関する事項について審議した。



構成員名簿

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	経営会議	◎蓮見 孝 中村 恵子 大古 聡	理事長 副学長 兼 看護学研究科長 事務局長
	部局長会議	◎蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 上遠野 敏 山本 勝則 大古 聡	理事長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	学外連携企画会議	◎蓮見 孝 上遠野 敏 山本 勝則 大古 聡	理事長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	教育・研究企画会議	◎中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之	副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長
	広報室	◎蓮見 孝 齋藤 利明 安齋 利典 スーディ神崎 和代 守村 洋 福田 大年 神島 滋子 吉田 雅博	理事長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 看護学部講師 事務局次長 兼 経営企画課長
	人事委員会	◎蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 事務局長
	キャンパス・ハラスメント防止委員会	◎蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 事務局長
	地域連携研究センター	◎上遠野 敏 石井 雅博 原 俊彦 矢部 和夫 小田 和美 松浦 和代	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	地域連携研究センター	張 浦華 菊地 ひろみ 松村 真澄 石田 勝也 松井 美穂 三谷 篤史 田中 広美 藤井 瑞恵 金子 晋也 坂東 奈穂美 飯塚 和恵 上田 理子	デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 デザイン学部助教 看護学部助教 桑園事務室長 兼 調整担当部長 事務局地域連携課長
	図書館	◎山本 勝則 矢部 和夫 定廣 和香子 張 浦華 町田 佳世子 松永 康佑 櫻井 繭子 原井 美佳 上田 理子	附属図書館長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局地域連携課長
	教育支援プロジェクトセンター	◎蓮見 孝 中村 恵子 中原 宏 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部教授 事務局長
	アドミッションセンター	◎酒井 正幸 樋之津 淳子 宮崎 みち子 石井 雅博 羽深 久夫 斉藤 雅也 上村 浩太 杉本 達應 工藤 京子 矢野 祐美子 丞野 直樹 布廣 成規	デザイン学部長 看護学部長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	キャリア支援センター	酒井 正幸 ◎樋之津 淳子 石井 雅博 スーディ神崎 和代 飯塚 和恵	デザイン学部長 看護学部長 デザイン学部教授 看護学部教授 桑園事務室長 兼 調整担当部長
学内委員会	常置委員会 自己点検・評価委員会	◎中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之	副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長



区分	委員会等	委員・構成員		
		教職員名	所属・職位等	
学 内 委 員 会	常 置 委 員 会	自己点検・評価委員会	吉田 和夫 松浦 和代 吉田 雅博	デザイン学部教授 看護学部教授 事務局次長 兼 経営企画課長
		教員評価委員会	◎蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 宮崎 みち子 矢部 和夫 大古 聡	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 事務局長
		総務委員会	吉田 恵介 河原田 まり子 杉本 達應 三谷 篤史 三上 智子 山内 まゆみ ◎大古 聡	デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局長
		FD委員会	◎上遠野 敏 中原 宏 川村 三希子 山田 良 貝谷 敏子 清水 光子 大淵 一博 檜山 明子 烝野 直樹 布廣 成規	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 看護学部助教 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
		倫理委員会	◎山本 勝則 石崎 友紀 猪股 千代子 武田 亘明 大野 夏代 菅原 美樹 片山 めぐみ 上田 理子	附属図書館長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 事務局地域連携課長
連絡調整会議	学部間	教務・学生連絡会議	◎酒井 正幸 樋之津 淳子 羽深 久夫 原 俊彦 細谷 多聞 河原田 まり子 川村 三希子 烝野 直樹 布廣 成規	デザイン学部長 看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
連絡調整会議	研究科間	研究科教務・学生連絡会議	中村 恵子	副学長 兼 看護学研究科長
			◎城間 祥之	デザイン研究科長
			中原 宏	デザイン学部教授
			猪股 千代子	看護学部教授
			丞野 直樹	事務局学生課長
			布廣 成規	事務局桑園担当課長
衛生委員会		芸術の森地区衛生委員会	町田 佳世子	デザイン学部教授
			武田 亘明	デザイン学部准教授
			金子 晋也	デザイン学部助教
			◎吉田 雅博	事務局次長 兼 経営企画課長
		桑園地区衛生委員会	清水 光子	看護学部准教授
			近藤 圭子	看護学部助教
			田仲 里江	看護学部助教
			◎飯塚 和恵	桑園事務室長 兼 調整担当部長
学部委員	デザイン学部	教務委員会	◎細谷 多聞	デザイン学部教授
			町田 佳世子	デザイン学部教授
			柿山 浩一郎	デザイン学部准教授
			山田 良	デザイン学部准教授
			大淵 一博	デザイン学部講師
			金子 晋也	デザイン学部助教
			須之内 元洋	デザイン学部助教
		学生支援委員会	◎羽深 久夫	デザイン学部教授
			上田 裕文	デザイン学部講師
			片山 めぐみ	デザイン学部講師
			小宮 加容子	デザイン学部講師
			杉本 達應	デザイン学部講師
			福田 大年	デザイン学部講師
			松井 美穂	デザイン学部講師
		キャリア支援委員会	◎石井 雅博	デザイン学部教授
			安齋 利典	デザイン学部教授
			斉藤 雅也	デザイン学部准教授
			石田 勝也	デザイン学部講師
			上田 裕文	デザイン学部講師
			小宮 加容子	デザイン学部講師
			福田 大年	デザイン学部講師
			松永 康佑	デザイン学部講師
看護学部	看護学部	教務委員会	◎河原田 まり子	看護学部教授
			定廣 和香子	看護学部教授
			上村 浩太	看護学部准教授
			古都 昌子	看護学部准教授
			守村 洋	看護学部准教授
			神島 滋子	看護学部講師
			原井 美佳	看護学部講師
			矢野 祐美子	看護学部講師
			山本 真由美	看護学部講師
			柏倉 大作	看護学部助教



区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
学部 看護 委員会	教務委員会	坂東 奈穂美 星 幸江 御厩 美登里	看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手
	学生支援委員会	◎川村 三希子 小田 和美 菊地 ひろみ 清水 光子 渡邊 由加利 工藤 京子 石引 かずみ 小田嶋 裕輝 近藤 圭子 田仲 里江	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教
	キャリア支援委員会	◎スーディ神崎 和代 貝谷 敏子 松村 真澄 櫻井 繭子 田中 広美 藤井 瑞恵 三上 智子 横川 亜希子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助手
研究科 デザイン 委員会	教務・学生支援委員会	◎中原 宏 安齋 利典 石井 雅博 羽深 久夫 細谷 多聞 町田 佳世子 矢部 和夫 柿山 浩一郎 斉藤 雅也	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授
	研究科倫理審査会	◎石崎 友紀 原 俊彦 片山 めぐみ 飯塚 和恵	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 桑園事務室長 兼 調整担当部長
研究科 看護学 委員会	教務・学生支援委員会	◎猪股 千代子 大野 夏代 菅原 美樹 古都 昌子 山内 まゆみ	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師
	研究科倫理審査会	◎定廣 和香子 猪股 千代子 村松 真澄 飯塚 和恵	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 桑園事務室長 兼 調整担当部長

◎印：所管部局長等

13 FD・SD活動

FD活動 年間活動概要

(単位：名)

全学FD・SD		研修会名（講師）	場所	参加者数
5月27日	FD/ SD	知的財産権について 研究成果や作品を守る為に 商標権と著作権を中心に（知財セミナー） （知的財産アドバイザー 丞村宏氏）	桑園:講義室1 芸森:C201 ※遠隔で芸森へ配信	19
6月12日① 7月13日②	FD	他学部授業参観（デザイン学部開講科目） （①城間祥之教授、②福田大年講師）	①芸森:コンテンツ3年 アトリエ ②芸森:常盤児童会館	2
7月29日	FD/ SD	利益相反マネジメントの目的と必要性について （東京医科歯科大学産学連携研究センター教授 飯田香緒里氏）	桑園:講義室1 芸森:C201 ※遠隔で芸森へ配信	37
8月6日	FD/ SD	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（研究倫理に関わるFD） （北海道大学大学院医学研究科社会医学講座公衆衛生学分野教授 玉腰暁子氏）	桑園:講義室1 芸森:C201 ※遠隔で芸森へ配信	58
8月25日	FD	2015年度札幌市立大学研究交流会 （各教員が研究成果を発表）	桑園キャンパス	86
9月15日	FD	教育活動の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザインの基本 （熊本大学教授 鈴木克明氏）	桑園:講義室5	35
9月25日	FD/ SD	地域間連携による、多世代共創コミュニティづくり （シェア奥沢について） （多摩美術大学教授 堀内正弘氏（シェア奥沢代表））	COC:まちの講堂	11
①10月14日 ②10月23日	FD	他学部授業参観（看護学部 後期開講科目） （①定廣和香子教授、②守村洋准教授）	①桑園:講義室2 ②桑園:体育館	5
1月14日	FD/ SD	知的財産出前セミナー「先生、勝手にかえないでください」と言われない様に ー学生創作物の権利化を尊重する為にはー （知的財産アドバイザー 丞村宏氏）	芸森:B棟ゼミ室	3
3月11日	FD/ SD	知的財産出前セミナー （知的財産アドバイザー 丞村宏氏） ①北見工科大学事件から学ぶ事「法人著作」 受託研究は誰が書いた事になるのか？ ②「STAP細胞あります」から学ぶ事 「適切な引用」とは 他人の論文から引用する場合の注意点	桑園:講義室4	16



(単位：名)

デザイン学部・研究科 FD・SD		研修会名（講師）	場所	参加者数
4月6日	FD/ SD	TAの心構えとTA受け入れについて （城間祥之教授）	芸森:レクチャールーム	6
①9月25日 ②10月2日	FD	TAの心構えとTA受け入れについて （城間祥之教授）	芸森:レクチャールーム	4
10月21日	FD	メンタルヘル스에配慮した学生指導 （山本勝則教授）	芸森:大講義室	33

(単位：名)

看護学部・研究科 FD・SD		研修会名（講師）	場所	参加者数
7月1日	FD	看護学研究科倫理審査会における研究倫理審査の概 要と今後の課題 （定廣和香子教授（看護学研究科倫理審査会長））	桑園:講義室1	51
12月16日	FD	模擬患者と教員の協働について考える （上村准教授、古都准教授、守村准教授、藤井講 師、原井講師、山本講師）	桑園:大会議室	28
3月8日	FD	模擬患者と教員の協働～これからの課題とその解決 策を共に考える （教務委員会SP班 坂東 奈穂美助教・上村浩太准 教授、模擬患者 長谷川峻氏、卒業生1名）	桑園:講義室5	59
3月15日	FD	「卒研研究倫理を審査しよう」—2015卒研倫理審 査の検討事項の整理に基づくワークショップ— （菊地ひろみ准教授）	桑園:講義室4、共同研 究室	27



(単位：名)

SD	研修名	形態	受講者数
5月14日	新任管理者研修 ～業務・風土改革のための革新型リーダーシップ研修～	外部	1
5月19日	クレーム電話対応セミナー	外部	1
7月14日	事例から学ぶクレーム対応基礎研修 ～クレームは期待のメッセージ～	外部	1
12月10日	ロジカルプレゼンテーションセミナー ～意見や主張をわかりやすく伝える～	外部	1
6月17日	タイムマネジメントセミナー 従来業務と新規業務を両立する	外部	1
10月6日	ロジカルシンキング強化セッション 職員の役割を論理的に考える	外部	1
7月30日	自立型社員養成研修	外部	1
7月4日	第8回若手職員研修会	外部	2
10月31日	大学行政管理学会 第41回北海道地区研究会	外部	1
1月7日	第1回 札幌市政策企画部との合同勉強会	外部	5
2月3日	第2回 札幌市政策企画部との合同勉強会	外部	5

X 資料

1 平成27年度年度計画

I 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

ア 特色ある教育の実施

- 卒業時の学生に対するアンケート等による、平成26年度までの共通教育科目の効果検証により抽出された課題を踏まえ、新カリキュラム導入に向けた共通教育科目の見直し案を策定する。

※指標：共通教育科目の効果検証の実施 27年度

- 平成26年度までの効果検証、授業実施状況から抽出された学部及び研究科ごとの課題を踏まえ、横断型連携教育を実施するとともに、公開発表会のアンケート等による効果検証を継続して行う。

- 博士前期課程における研究科連携科目について、授業評価アンケート等を用いて検証を行う。

※指標：学部及び研究科における横断型連携教育の効果検証の実施 27年度

- 博士後期課程の完成後においても、設置認可申請に基づいた教育を展開する。
- 博士前期課程を修了する学生に対するアンケートを実施し、博士前期課程教育の検証を行う。
- 平成26年度から継続して行われているグローバルな人材育成教育にかかる検討結果を踏まえ、新カリキュラム案を策定する。

イ 時代に即した教育課程の編成

- すでに公表されているアドミッションポリシー（入学者受入の方針）と併せて、策定されたディプロマポリシー（学位授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）を本学ホームページ等で公表する。

- 卒業時の学生に対するアンケート等に基づき、学部学生の卒業時の学習到達度の検証を継続して実施する。

- 体系的にカリキュラムを整理するため、学部に科目ナンバリングを導入する。

ウ 入学者選抜方法の検証と見直し

- 他大学調査の結果や明文化されたディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを踏まえ、アドミッションポリシーの見直しを行う。

※指標：アドミッションポリシー見直し 27年度

- 各入学者選抜方法を検証するため、入学者アンケート結果及び志願状況（小論文又は実技の科目選択状況を含む）の分析を行うとともに、平成19～26年度入学者の入学後の成績等をもとに、追跡調査を行う。

- 高校生、保護者等へ本学の活動内容を周知するため、オープンキャンパスの開催、進学相談会、出前授業等への参加により多様な機会を設けるとともに、高等学校の教員を対象とする大学説明会を継続して開催する。

※指標：オープンキャンパス受入計画数 延べ960名

- 本学に関心をもってもらうため、各学部において中学生を対象とした広報活動を継続して実施する。

エ 教育方法の改善等

- 平成25年度に導入した、1年次における半期ごとの登録単位の上限の適切性について、学生の履修状況及び単位修得状況を調査する。

- ・ 各学期で実施している、GPA¹制度を活用した履修指導について、平成26年度までの実施状況を踏まえ、継続する。
- ・ 公平かつ適切な成績評価を実施するため、各科目における成績評価基準や成績評価の状況を検証する。
- ・ 平成25年度に導入した学部連携演習の評価基準、評価方法について、継続して運用し、その活用状況について検証することで、その改善を図る。
※指標：成績評価の検証 27年度

(2) 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成26年度後期から調査項目を改善して導入した授業評価アンケートを継続して実施するとともに、卒業時の学生に対する調査を実施し、その結果を教員へフィードバックする。
※指標：授業評価アンケート 学期ごと実施
卒業時の学生に対する調査 年1回実施
- ・ 教育内容の充実や教員の資質向上を図るため、平成25～26年度に開催した教員ワークショップを含むFD²研修会、授業参観等の実施結果及びFDマップをもとに、平成27年度FD研修会実施計画を策定し、成績評価・授業方法等の改善に資するFD研修会を計画的に実施し検証を行う。
※指標：FD研修会開催 10回以上

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成24年度に採択された文部科学省の補助事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の3年間の取組の成果をもとに、両学部の特徴に合わせて教育改善を継続して行うとともに、平成26年度に採択された産業界ニーズ事業（テーマB）でインターシップ等の取組を拡大し、キャリア支援にかかるコンソーシアムの構築を図る。
※指標：キャリア支援にかかるコンソーシアム構築 27年度
- ・ 通年のキャリアガイダンスを継続し、各学部の特性・特徴や学生のニーズに合ったキャリア支援の取組を行う。
- ・ 平成26年度に試行的に導入したポータルシステムの運用方法等についての意見を集約し、平成27年度から本格的に導入する。
- ・ 留学生を対象にしたチューター³制度を継続して実施するとともに、留学生及びチューターとなった学生からの意見聴取等によって得られた課題に基づき、支援内容の充実を図る。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

- ・ ウェルネス等のデザイン分野と看護分野が連携した研究など、分野横断的な研究を推進する。
※指標：デザイン分野と看護分野が連携した研究数 6件
- ・ 今後の分野横断型連携を視野に入れながら、獲得済みの大型科研費（平成25～27年度）の研究を推進する。
- ・ 科学研究費補助金の新規応募及び継続申請を合わせた申請率75%を達成する。
※指標：科学研究費補助金の新規応募及び継続申請を合わせた申請率 75%
- ・ 学術奨励研究費の「国際学会・国際展示会等発表者補助」を継続し、教員の研究成果を、評価の高い学術誌や著書、国際学会・国際展示会等に積極的に発表することを促進する。
- ・ 「学術論文掲載料等補助」の制度改正及び周知徹底し、国際学会誌への発表を促進する。

1 GPA (Grade Point Average)

授業科目ごとの成績評価に対して、GP (グレードポイント) を付し (例えば、5段階 (A、B、C、D、E) の成績評価に対し、4、3、2、1、0 の GP)、この単位当たりの平均を算定し、その一定水準を卒業などの要件とする制度。

2 FD (ファカルティディベロップメント)

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

3 チューター

入学後間もない外国人留学生に教育面、研究面、生活面の様々な助言を行う者

※指標：国際学会等における発表件数 10件以上

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 地域連携の強化

- 産学連携に係る地域連携研究センターの機能強化を図るため、産学官の出会いの場となる展示会や交流会への出展・発表を地域連携専門員が支援し、本学のPR活動、産学官連携活動を促進する。また、「研究・活動事例集」ならびに「研究成果報告集」を継続して発刊し、地域連携の強化を図る。

※指標：共同研究・受託研究の数（研究支援目的の寄附金を含む） 14件/年

- 産学連携・社会貢献の促進、研究・教育の実践を進めるための外部機関や他大学等との連携の場として、地域連携研究センターならびに大学関係者がサテライトキャンパスを活用する。また、サテライトキャンパスの活用をさらに促進するため、利用要領を継続的に見直す。

※指標：外部機関や他大学等との連携の場としての活用 50件以上/年

II 地域貢献、国際化、大学間連携に関する目標を達成するための措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 札幌市等のまちづくりへの貢献に関する目標を達成するための措置

- 学内の地域貢献に関わる情報の集約と発信に積極的に取り組む。その際、本学の地域貢献の事例を分かりやすく学外に発信する。
- 産業界とのネットワークを活用し、産学連携等に関わる情報を入手し、学内に発信する。
- 学内のシーズ発掘に取り組むとともに、教員の研究成果の公表等、ネットワークづくりに向けた取り組みを進める。
- 北海道立総合研究機構や北海道医療福祉産業研究会等と連携して研究に取り組むとともにセミナーや講演会等を開催する。

※指標：まちづくりに貢献した事例数 100件以上/年

(2) 市民への学習機会の提供に関する目標を達成するための措置

- 公開講座の充実を図り、受講者の満足度をアンケート等で確認する。
- COC事業⁴として実施する公開講座と連携する。併せて、公開講座の体系化に基づき独自企画の内容を充実させ、大学の知的資源の地域への還元に取り組む。
- COC事業と連携し、デザイン及び看護の専門職向けの公開講座の継続的な実施を行う。また、認定看護管理者教育課程サードレベル等の専門職業人を対象とした支援講座等を実施する。

※指標：専門職業人支援講座等開催 190時間以上/年

2 国際化に関する目標を達成するための措置

- 国際化に関する方針で掲げた4つの戦略である「学生の国際化」、「教職員の国際化」、「提携校との交流の活性化」、「海外とのネットワーク化」を推進する。
- 「北方圏、積雪寒冷地」というキーワードの基に、交流が活発になっているラップランド大学（フィンランド）との提携を進める。
- 留学生の派遣・受入れ及び学生の国際意識の醸成につながるよう、海外提携校を中心とした学生及び教員の海外への派遣と受入れを実施する。

※指標：教員・学生派遣受入 10人以上

- 共同研究費募集の際に、海外提携校ならびに提携の可能性がある機関との取り組みについて積極的に募集する。

4 COC事業（地（知）の拠点整備事業。COC = Center of Community）

文部科学省が、自治体と連携し全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学等を支援する事業。本学の「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業」が平成25年度に採択された。

3 大学間連携に関する目標を達成するための措置

- ・ 「地（知）の拠点整備事業」及び「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（テーマB）」を活用し、第二期経営戦略で掲げた「地域創成の核となる大学づくり（Center of Community）」を推進するとともに、地域課題の解決に資するため、他大学と連携した取り組みを引き続き検討し、将来的な大学間ネットワークの形成につなげていく。

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成25年度に策定した実行プログラムを踏まえ、第二期経営戦略の計画的な推進に継続して取り組む。
- ・ 平成25年度に新設した経営会議、教育研究企画会議、学外連携企画会議を機動的に開催・運営し、理事長（学長）のリーダーシップが適切に発揮できるように引き続き取り組む。

(2) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

ア 教職員配置の適正化

- ・ 予算及びその基準となる定員計画等に基づき、適正に教職員を配置するとともに検証を行う。

イ 職員の育成

- ・ 平成27年度末に、市派遣職員を1名減員し、それに伴う職員の採用を行う。
※指標：札幌市派遣職員の引揚げ 1名／年
- ・ 平成24年度に策定した人材育成基本方針に基づき、研修受講機会を適切に提供する。
- ・ 研修受講履歴等を活用し、管理職から職員のスキルに合わせた研修受講の勧奨を行う。
- ・ 平成25年度に始めた研修成果発表会を継続して開催し、研修受講者が研修成果を自ら振り返る機会を設けるとともに、他の事務局職員へのフィードバックを行う。

(3) 教員評価制度に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成26年度に実施した教員評価を踏まえ、年度上半期中に教員評価を実施する。また、実施状況を踏まえ、随時改善を行う。

2 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- ・ 第二期経営戦略を踏まえ、効率的な事務執行に向けた職員配置・人事異動を行う。
- ・ 時間外労働を削減するための取り組みを事務局全課体制で実施する。
- ・ 各課毎に時間外削減案を策定し、ワークライフバランスの更なる推進を図る。
※指標：超過勤務時間の削減 前年度比減

3 広報の充実に関する目標を達成するための措置

- ・ 大学ウェブサイトのリニューアルを行い、学内情報の共有促進や学内外への情報発信力を強化するなど、広報戦略の行動計画に基づき広報の充実に引き続き取り組む。

Ⅳ 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- ・ 科学研究費補助金を含む外部資金の募集情報に関して、e-Rad⁵などの情報提供手段を教員に対して周知する。
※指標：教員向け情報提供 年3回実施
- ・ 科学研究費補助金の申請支援の強化策として、引き続き、以下の支援策を展開する。

5 e-Rad（府省共通研究開発管理システム）

研究開発管理に係る一連のプロセス（応募受付 → 審査 → 採択 → 採択課題管理 → 成果報告等）をオンライン化し、適切な研究費の配分を支援する府省横断的なシステム

- －科学研究費補助金採択者の了承を得た申請書の公開
- －原則全教員が参加する教員会議の場等を活用した申請の促進
- －事務局内の科学研究費補助金申請支援担当者による申請書の確認
- －科学研究費補助金獲得に向けたセミナーの実施
- ・ 寄附金等を活用した基金について、指標である平成28年度の設置に向けて継続して検討を行う。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ・ 引き続き、教育経費、教育研究支援経費、一般管理費について、その執行の際に義務的経費の抑制に努め、捻出された経費を優先度の高い事業等へ充当する。

V 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・ マネジメントサイクルに基づく自己点検・評価を実施し、半期（中期計画大項目第4、第5、第7にかかる計画は四半期ごと）の年度計画の進捗管理を行う。
- ・ 札幌市地方独立行政法人評価委員会の評価結果を受け、改善が必要な事項については、適宜大学運営に反映させる。
- ・ 自己点検・評価委員会は、認証評価機関の評価項目及び評価基準に基づき、次回の認証評価の実施に向け必要な資料を作成、蓄積する。

VI その他業務運営に関する目標を達成するための措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

(1) 教育研究環境の充実に関する目標

- ・ 施設整備費補助金による芸術の森キャンパス体育館、学生会館等の暖房給湯設備等更新工事を適正に実施する。
- ・ 桑園キャンパス空調設備等更新工事実施設計を適正に実施する。
- ・ 平成28年度施設整備費補助金の予算要求を行う。
- ・ 札幌市の次期中期計画の開始年度にあたることから、平成26年度に精査した保全費用・内容の実施状況等を踏まえ適時フォローアップを図る。
- ・ 年間2,000冊程度の図書を整備し、図書館の蔵書の充実を図る。
- ・ 電子ジャーナル、データベースの購読契約にかかわる方針に則り、引き続き契約内容を見直す。
- ・ 教育研究備品整備費（10,000千円）について、デザイン学部コース再編を踏まえた内容とすべく見直しを行い、経営会議において検討し適切に執行する。
- ・ 平成28年度の予算編成に向け、学内調整を行う。
- ・ 機関リポジトリの導入に伴い、博士後期課程修了者の学位論文を登録するなど、機関リポジトリの積極的な活用に取り組む。
- ・ 学内利用者に対する文献検索ガイダンス等を実施し、図書館利用に関する情報提供の機会を設ける。

(2) キャンパスの活用に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成26年度に策定したキャンパス活用等に関する「プラン骨子」を基に「プラン素案」を策定する。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

(1) 安全管理の徹底に関する目標を達成するための措置

- ・ 危機管理基本マニュアルに基づき、安全衛生管理に係る個別マニュアルを順次策定する。
- ・ キャンパスハラスメント⁶の防止に向けた周知、啓発等を継続的に実施する。
- ・ キャンパスハラスメントに関する相談や申出があった場合には適切に対応し、防止に向け

6 キャンパスハラスメント

教職員及び学生が、その権威、権限又は権力を背景に、教育、研究、修学又は職務遂行で他の構成員に不利益等を与えること

た改善策を実施する。

(2) 災害時の対応に関する目標を達成するための措置

- ・ 危機管理基本マニュアルに基づき、災害等に係る個別マニュアル策定を順次進める。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ 施設管理支援システム（CAFM）を活用し、施設でのエネルギー使用状況を把握するとともに、学生や教職員へ節電等の意識啓発を行うなど、省エネルギー対策の取り組みを継続する。

※指標：エネルギー消費量 前年度比減

VII 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙参照

VIII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

IX 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

X 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

XI 施設及び設備に関する計画

- ・ 経常的修繕 8,819千円
- ・ 芸術の森キャンパス学生会館ほか空調設備更新工事 95,414千円
- ・ 桑園キャンパス管理実習棟空調設備更新工事实施設計業務 3,312千円

（注）金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XII 人事に関する計画

1 教職員配置の適正化

- ・ 予算及びその基準となる定員計画等に基づき、適正に教職員を配置するとともに検証を行う。（再掲）

2 職員の育成

- ・ 平成27年度末に、市派遣職員を1名減員し、それに伴う職員の採用を行う。（再掲）

3 研修の充実

- ・ 平成24年度に策定した人材育成基本方針に基づき、研修受講機会を適切に提供する。（再掲）
- ・ 研修受講履歴等を活用し、管理職から職員のスキルに合わせた研修受講の勧奨を行う。（再掲）
- ・ 平成25年度に始めた研修成果発表会を継続して開催し、研修受講者が研修成果を自ら振り返る機会を設けるとともに、他の事務局職員へのフィードバックを行う。（再掲）

別紙 予算（人件費の見積りを含む）及び収支計画、資金計画

1. 予算

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,473
施設整備費補助金	99
授業料等収入	482
受託研究等収入及び寄附金収入	33
補助金収入	61
その他収入	23
目的積立金取崩	38
計	2,209
支出	
教育研究経費	437
受託研究等経費及び寄附金事業費等	33
人件費	1,243
一般管理費	336
施設整備費	99
補助金事業費	61
計	2,209

2. 収支計画 (単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	
経常費用	2,166
教育研究経費	450
受託研究等費	30
人件費	1,243
一般管理費	302
財務費用	5
減価償却費	136
収益の部	
経常収益	2,128
運営費交付金収益	1,455
授業料等収益	505
受託研究等収益	30
寄付金収益	3
補助金収益	61
資産見返運営費交付金戻入	39
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	6
資産見返補助金戻入	3
雑益	23
その他収益	23
純利益（純損失）	△38
目的積立金取崩益	38
総利益（総損失）	0

3. 資金計画 (単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,360
業務活動による支出	2,005
投資活動による支出	117
財務活動による支出	88
翌年度への繰越金	150
資金収入	2,360
業務活動による収入	2,073
運営費交付金による収入	1,473
授業料及び入学金検定料による収入	483
受託研究等による収入	30
補助金等による収入	61
寄付金による収入	3
その他収入	23
投資活動による収入	99
施設費による収入	99
前年度よりの繰越金	188

2 平成27年度決算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	1,473	1,473	—	
施設整備費補助金	99	97	△ 2	
授業料等収入	482	470	△ 12	(注1)
受託研究等収入及び寄附金収入	33	21	△ 12	(注2)
補助金収入	61	37	△ 24	(注3)
その他収入	23	29	6	
目的積立金取崩	38	5	△ 33	(注4)
前中期目標期間繰越積立金取崩	—	19	19	(注5)
計	2,209	2,151	△ 58	
支出				
教育研究経費	437	388	△ 49	(注6)
受託研究等経費及び寄附金事業費等	33	17	△ 16	(注2)
人件費	1,243	1,241	△ 2	
一般管理費	336	283	△ 53	(注6)
施設整備費	99	97	△ 2	
補助金事業費	61	33	△ 28	(注3)
計	2,209	2,059	△ 150	
収入-支出	—	92	92	

○予算と決算の差異について

- (注1) 予算積算における学生数に比べ実際の学生数が少なかったため、減少しました。
(注2) 受託研究・受託事業の契約額が減少しました。
(注3) COC（地（知）の拠点整備事業）等の補助金が減少しました。
(注4) 支出実績に応じて目的積立金の取崩し額を変更しました。
(注5) 退職手当の増加分を前中期目標期間繰越積立金から取崩しました。
(注6) 光熱費単価の下落やリース契約の見直し等により減少しました。



3 教職員数 (平成28年3月31日現在)

1) 学部別教員数 (単位:名)

学 長	1
副 学 長	1
デザイン学部	33
看護学部	43
合計	78

2) 職位別教員数 (単位:名)

		教授	准教授	講師	助教	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	15	4	7	3	0	29	33
	女	1	1	3	0	0	5	11
看護学部	男	1	2	0	2	0	5	34
	女	10	8	11	7	3	39	20
合計		29	27	15	21	12	3	78

3) 職員数 (単位:名)

	事務系	教務系	技術・技能系	医療系	その他	計
男	22	2	0	0	0	24
女	51	2	0	0	0	53
合計	73	4	0	0	0	77

4 管理職一覧表 (平成28年3月31日現在)

役職名	教職員名
学長	蓮見 孝
副学長 兼 看護学研究科長	中村 恵子
デザイン学部長	酒井 正幸
看護学部長	樋之津 淳子
デザイン研究科長	城間 祥之
地域連携研究センター長	上遠野 敏
附属図書館長	山本 勝則
事務局長	大古 聡
事務局次長	吉田 雅博
桑園事務室長 兼 調整担当部長	飯塚 和恵
事務局総務課長	東館 雅人
事務局地域連携課長	上田 理子
事務局学生課長	烝野 直樹
事務局桑園担当課長	布廣 成規



5 教員一覧表 (平成28年3月31日現在)

デザイン学部		看護学部		教育支援プロジェクトセンター	
職位	教員名	職位	教員名	職位	教員名
教授	蓮見 孝	教授	中村 恵子	特任助教	中田 亜由美
教授	酒井 正幸	教授	樋之津 淳子	特任助教	藪谷 祐介
教授	城間 祥之	教授	山本 勝則		
教授	上遠野 敏	教授	宮崎 みち子		
教授	安齋 利典	教授	猪股 千代子		
教授	石井 雅博	教授	小田 和美		
教授	石崎 友紀	教授	河原田 まり子		
教授	齋藤 利明	教授	川村 三希子		
教授	中原 宏	教授	定廣 和香子		
教授	羽深 久夫	教授	スーディ神崎 和代		
教授	原 俊彦	教授	松浦 和代		
教授	細谷 多聞	准教授	上村 浩太		
教授	町田 佳世子	准教授	大野 夏代		
教授	矢部 和夫	准教授	貝谷 敏子		
教授	吉田 和夫	准教授	菊地 ひろみ		
教授	吉田 恵介	准教授	清水 光子		
准教授	柿山 浩一郎	准教授	菅原 美樹		
准教授	斉藤 雅也	准教授	古都 昌子		
准教授	武田 亘明	准教授	村松 真澄		
准教授	張 浦華	准教授	守村 洋		
准教授	山田 良	准教授	渡邊 由加利		
講師	石田 勝也	講師	神島 滋子		
講師	上田 裕文	講師	工藤 京子		
講師	大渕 一博	講師	櫻井 繭子		
講師	片山 めぐみ	講師	田中 広美		
講師	小宮 加容子	講師	原井 美佳		
講師	杉本 達應	講師	藤井 瑞恵		
講師	福田 大年	講師	三上 智子		
講師	松井 美穂	講師	森川 由紀		
講師	松永 康佑	講師	矢野 祐美子		
講師	三谷 篤史	講師	山内 まゆみ		
助教	金子 晋也	講師	山本 真由美		
助教	須之内 元洋	助教	石引 かずみ		
		助教	柏倉 大作		
		助教	近藤 圭子		
		助教	田仲 里江		
		助教	坂東 奈穂美		
		助教	檜山 明子		
		助手	星 幸江		
		助手	御厩 美登里		
		助手	横川 亜希子		
		特任助教	木田 妙		

6 学生定員及び学生数（平成27年5月1日現在）

1) 学生定員 (単位：名)

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	85	10	355
看護学部	80	10	340
合計	165	20	695

2) 学生数 (単位：名)

学部	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン学部	1学年	27	63	90
	2学年	33	62	95
	3学年	19	71	90
	4学年	31	70	101
看護学部	1学年	8	75	83
	2学年	2	83	85
	3学年	9	83	92
	4学年	10	86	96
助産学専攻科		—	9	9
合計		139	593	741

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士前期課程	1学年	7	4	11
	2学年	9	9	18
看護学研究科 博士前期課程	1学年	2	11	13
	2学年	5	27	32
合計		23	51	74

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士後期課程	1学年	2	1	3
	2学年	2	2	4
	3学年	2	3	5
看護学研究科 博士後期課程	1学年	0	0	0
	2学年	0	2	2
	3学年	2	4	6
合計		8	12	20



3) 科目等履修生・聴講生・研究生 (単位：名)

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン学部	0	0	0	0
看護学部	2	0	0	2
合計	2	0	0	2

研究科	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン研究科	0	0	4	4
看護学研究科	4	0	4	8
合計	4	0	8	12

7 授業料等

(単位：名)

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部	17,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき 14,800
研究生	9,800	42,300	84,600	月額29,700

8 奨学金貸与・授業料減免実施状況 (平成28年3月31日現在)

奨学金貸与状況

(単位：名)

学年	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
学部1年生	36	29	2	67
学部2年生	52	50	4	106
学部3年生	49	43	3	95
学部4年生	50	62	3	115
助産学専攻科	2	0	0	2
研究科(博士前期)1年生	5	2	1	8
研究科(博士前期)2年生	12	3	2	17
研究科(博士後期)1年生	1	0	0	1
合計	207	189	15	411



授業料減免実施状況

(単位：名)

学年	学期	全額減免者	半額減免者	学長の定める額 免除者	計
学部1年生	前期	0	12	6	18
	後期	0	16	0	16
学部2年生	前期	0	13	3	16
	後期	0	16	0	16
学部3年生	前期	0	16	3	19
	後期	0	17	2	19
学部4年生	前期	0	21	7	28
	後期	0	24	0	24
助産学専攻科	前期	0	0	0	0
	後期	0	0	0	0
研究科（博士前期） 1年生	前期	0	0	2	2
	後期	0	1	1	2
研究科（博士前期） 2年生	前期	0	3	0	3
	後期	0	3	0	3
合計	前期	0	65	21	86
	後期	0	77	3	80

9 学生の入選・受賞（デザイン学部）

年月	氏名	内容	主催者
平成27年4月	吉光 優郁 宮尾 芙由子 八木橋 ひかり	「SCUオリジナル手ぬぐい」デザイン採用	札幌市立大学
平成27年4月	八木橋 ひかり	「第3回OAC学生アイデアで社会をよりよくするコンテスト」準入賞	(公社)日本広告制作協会 (OAC)
平成27年4月	山代 修平	「減災デザインプランニング・コンペ2015」最優秀賞	芸術工学会 特設委員会Ⅱ「減災と復興へのデザイン力」
平成27年4月	板山 果織 熊谷 奈織 高橋 由衣 福田 由季 松田 沙織 松谷 萌 山本 美優 渡辺 智美 佐藤 里映	北海道博物館開館記念ポスター・ロゴマークを制作	北のミュージアム活性化実行委員会
平成27年4月	佐藤 みづき 竹内 榛花 和平 実来 松下 奈生 野上 あかね	「さっぽろみどりマップ」制作	札幌市（建設局）
平成27年5月	石岡 葉子 小田部 剛 澤 成美 廣石 健太 堀田 蒨敏 山越 双葉 山代 修平 吉田 傑 北名 和宏	当麻かたるべの森製品のデザイン提案活動に参加	かたるべの森
平成27年6月	山崎 美咲	大倉山ジャンプ競技場キャラクターデザイン採用	(株)札幌振興公社
平成27年6月	和田 真梨菜	「離婚報告はがきデザインコンペ」商品採用	(株)インターライフ
平成27年6月	吉田 傑	JRタワー「アートボックス2015」優秀賞	札幌駅総合開発株式会社 文化事業部 アートボックス事業部
平成27年6月	畠山 慎吾	「北海道ガーデンショー2015大雪」コンペティションガーデン部門入選	北海道ガーデンショー2015大雪実行委員会
平成27年6月	八木橋 ひかり	「コンペF アイコンのデザイン」デザイン選抜	(株)アジタス
平成27年8月	田中 千晴	「とらのあなオリジナルキャラクター」の3Dモデリングコンテスト最優秀賞&DMM.make賞受賞	(株)虎の穴
平成27年8月	松崎 修（制作） 渡辺 一生（制作） 坂本 忍穂（出演）	第18回統一地方選挙への投票参加を促すための映像CM制作	札幌市選挙管理委員会



年月	氏名	内容	主催者
平成27年8月	中島 隆紀 田中 裕介 米澤 ゆか 金山 小桃 加藤 芽依 横山 航 澤出 有里 山崎 美咲 横田 龍一 諏訪 駿一 船山 哲郎	ICAF(Inter College Animation Festival)出品	Inter College Animation Festival
平成27年9月	小山 かえで 小原 まゆ 四辻 梨奈 渡邊 一生	「さっぽろ自転車押し歩きキャンペーン」屋外ポスター制作	札幌市
平成27年10月	伊藤 史織	「さっぽろ学生ITアイデアコンテスト2015」最優秀賞	(一財)さっぽろ産業振興財団
平成27年10月	川上 未紗	「さっぽろ学生ITアイデアコンテスト2015」優秀賞	(一財)さっぽろ産業振興財団
平成27年11月	渡邊 葵衣	「シードほるナビけしごむスタンプ作品コンテスト」優秀賞	(株)シード
平成27年12月	継田 彩乃	「札幌市グリーンティングカード」デザイン採用	札幌市
平成28年3月	坂口 遥佳 吉田 香織	「2015アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」 カテゴリーA 静止画部門入賞	2015アジアデジタルアート大賞展実行委員会
平成28年3月	塩田 茉利衣	「2015アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」 カテゴリーB 静止画部門入賞	2015アジアデジタルアート大賞展実行委員会
平成28年3月	柴野 未郷	「2015アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」 カテゴリーB 静止画部門入賞	2015アジアデジタルアート大賞展実行委員会

10 学生の課外活動

	公認団体	主な入選・受賞等
1	吹奏楽部「芸術の森音楽隊」	
2	バスケットボール部	
3	軽音楽部	
4	美術部「noumenon」	
5	YOSAKOIソーラン部「～真花～」	第24回YOSAKOIソーラン祭り 敢闘賞
6	デザイン部「GNING」	
7	服飾制作部「Alice」	
8	写真映像部「SEED」	
9	演劇部「デンコラ」	
10	茶道部「Cha部」	
11	野球部「ウップス！」	
12	絵本ボランティアサークル「しゃぼん玉」	
13	フットサルサークル「SCUギャラクシー」	
14	創作活動サークル「創-KIZ-」	
15	ダンスサークル「VOLUME」	
16	バドミントンサークル	
17	陶器模様研究会「ワレモノ」	
18	カレー研究サークル「SCUカレー研究会」	
19	スポーツサークル「すぼさ」	
20	アウトドアサークル「PEAK」	
21	バレーボールサークル	
22	国際協力／ボランティアを考える会「AMIGO」	
23	地域交流ボランティア同好会「act」	
24	アクティ部「ナースポ」～ナース+スポーツ（同好会）	
25	バドミントン同好会	
26	ハンドメイド同好会「はらっぱ」	
27	合唱同好会	
28	ダンス同好会「ROOM」	
29	天文観測同好会「スピカ」	
30	SCUテニス同好会	
31	空間作品制作同好会「The Global Workshop」	
32	自由展示同好会「ぼぷら」	
33	備災同好会「EZO学さいぼー」	
34	アルティメット同好会「Fly☆Fly」	
35	バレーボール同好会	



11 後援会

後援会（平成19年2月発足）は、学生の福利厚生への推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的として活動している。

（平成27年度）

役員	(会 長) 小林 宏史 (副会長) 中田 保之 (理 事) 今野 裕二、蛭谷 勝浩、藤島 健志、大西 和恵、高橋 節子、滝波 武仁、 佐々木 佳造 (監 事) 土屋 節子、五十嵐 明
主な事業	・ 課外活動（部活動、大学祭、地域ボランティア活動等）支援 ・ 就職対策（就職試験対策、就職講話、資格取得支援、国家試験対策） ・ 後援会報「SSA News」発行
後援会費	40,000円（ただし、編入学生は20,000円、助産学専攻科生は10,000円）

12 教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成27年4月	平成27年度履修要項（履修の手引き、授業計画）
平成27年4月	平成27年度学生生活ハンドブック
平成27年4月	2016大学案内
平成27年5月	平成28年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項
平成27年5月	平成28年度学生募集要項（デザイン研究科 博士前期課程 推薦選抜）
平成27年6月	平成28年度学生募集要項（デザイン研究科 博士前期課程 一般選抜・特別選抜）
平成27年6月	平成28年度学生募集要項（デザイン研究科 博士後期課程）
平成27年6月	平成28年度入学者選抜要項（デザイン学部・看護学部）
平成27年6月	平成28年度看護学部3年次編入学学生募集要項
平成27年6月	平成28年度学生募集要項（看護学研究科 博士前期課程）
平成27年6月	平成28年度学生募集要項（助産学専攻科）
平成27年6月	SCU JOURNAL OF DESIGN & NURSING2015 札幌市立大学研究論文集第9巻第1号
平成27年6月	札幌市立大学研究・成果事例集2014
平成27年7月	平成28年度学生募集要項（看護学研究科 博士後期課程）
平成27年7月	札幌市立大学教員研究紹介2014
平成27年8月	平成26年度COC共同研究費研究成果報告書
平成27年9月	平成28年度学生募集要項（デザイン学部・看護学部 特別選抜）
平成27年11月	平成28年度学生募集要項（デザイン学部・看護学部 一般選抜）
平成27年11月	平成28年度学生募集要項（デザイン研究科 博士前期課程 第2次募集）
平成27年11月	平成28年度学生募集要項（看護学研究科 博士前期課程 第2次募集）
平成28年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第9号
平成28年3月	デザイン学部・デザイン研究科卒業修了研究展（2016図録）
平成28年3月	平成27年度デザイン研究科修了研究梗概集
平成28年3月	平成27年度札幌市立大学看護学部キャリア支援委員会活動報告書
平成28年3月	ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業 平成27年度成果報告書

13 施設

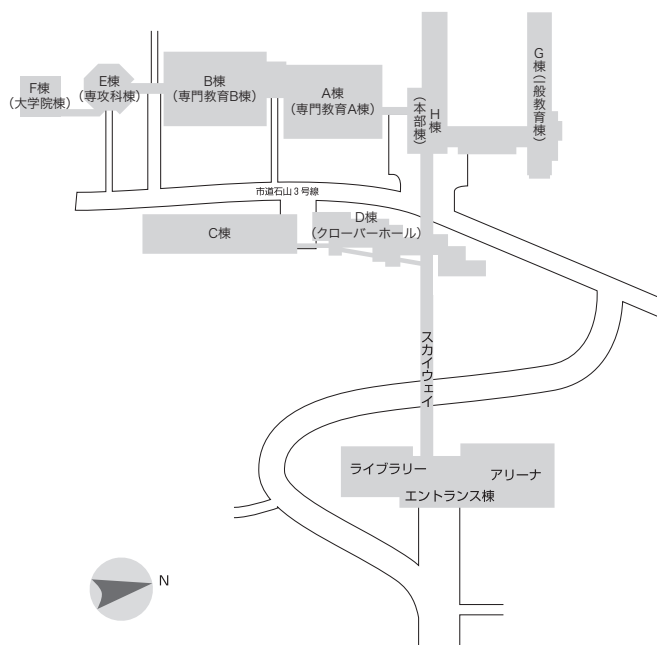
1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成28年3月31日現在)

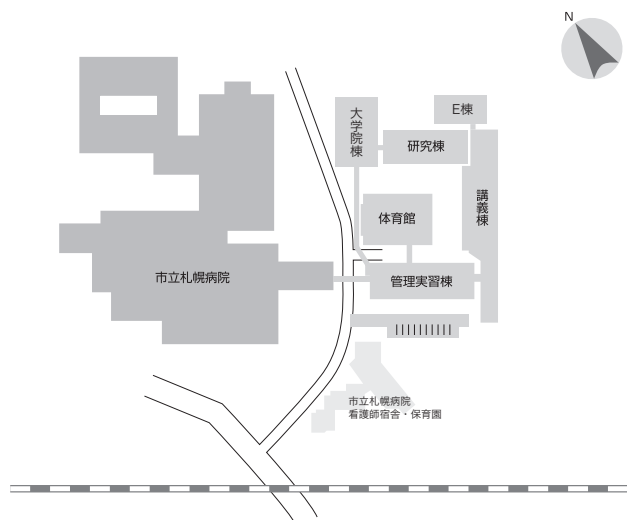
区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積 (㎡)	校舎面積 (㎡)	総数	面積 (㎡)
芸術の森キャンパス	167,617	23,087	53	5,696
桑園キャンパス	18,152	12,367	30	3,132
合計	185,769	35,454	83	8,828
サテライトキャンパス	178	178	2	152
COCキャンパス	764.43	764.43		

2) 芸術の森キャンパス・桑園キャンパス・サテライトキャンパス・COCキャンパス
(施設配置図・校舎配置図)

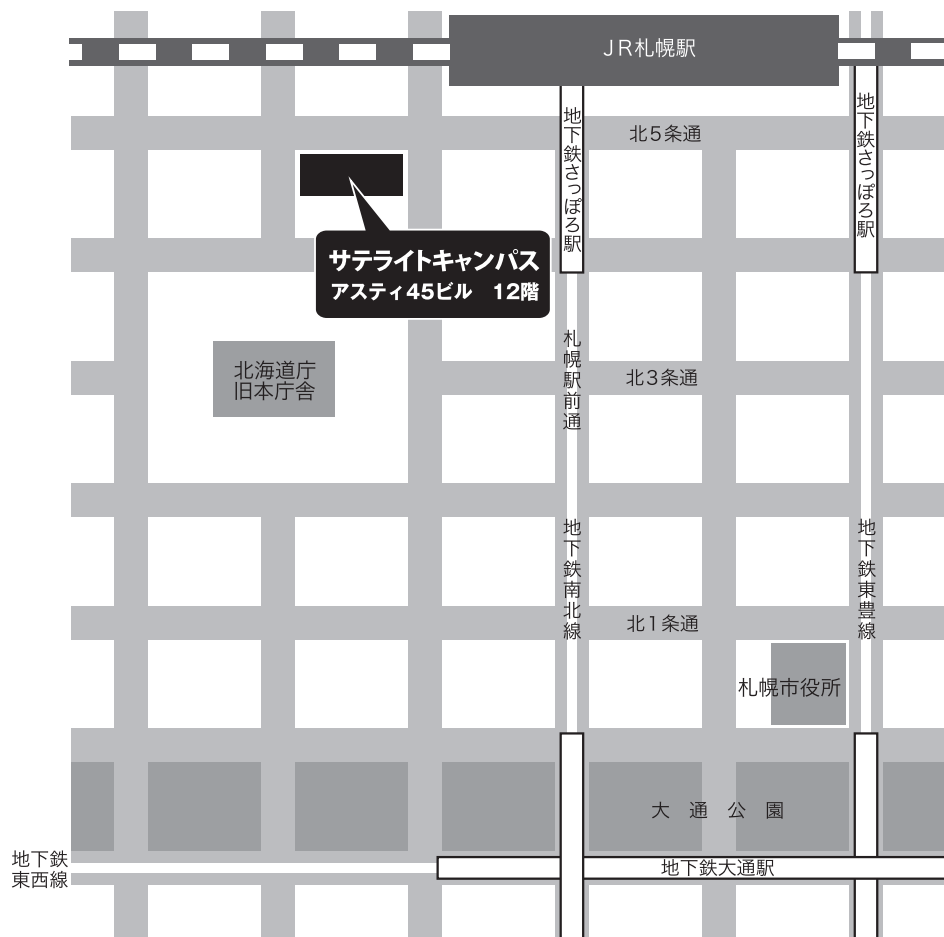
芸術の森キャンパス
〒005-0864
北海道札幌市南区芸術の森1丁目
TEL : 011-592-2300 (代)
FAX : 011-592-2369



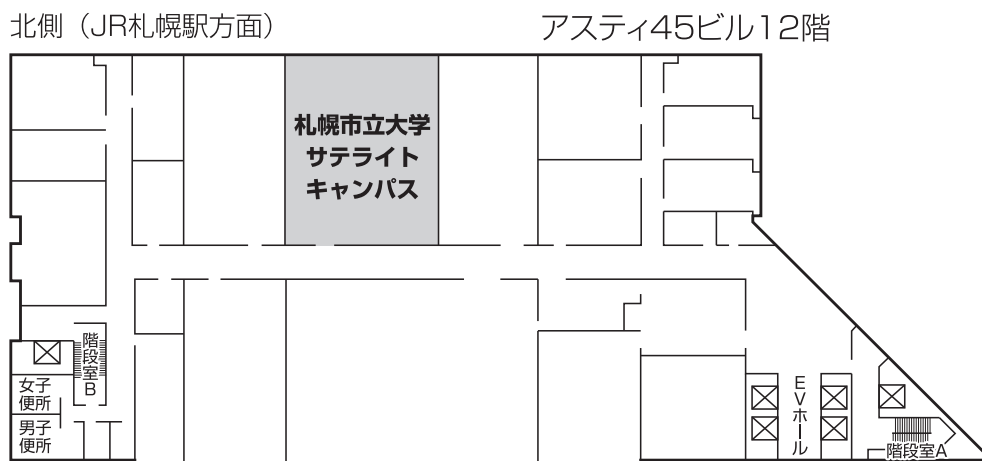
桑園キャンパス
〒060-0001
北海道札幌市中央区北11条西13丁目
TEL : 011-726-2500 (代)
FAX : 011-726-2506



サテライトキャンパス
 〒060-0004
 北海道札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階
 TEL : 011-218-7500 (代)
 FAX : 011-218-7507



〈施設配置図〉



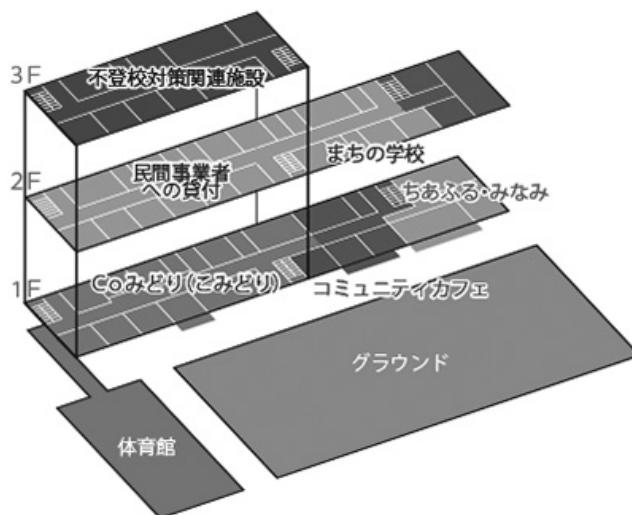
COCキャンパス

〒005-0014

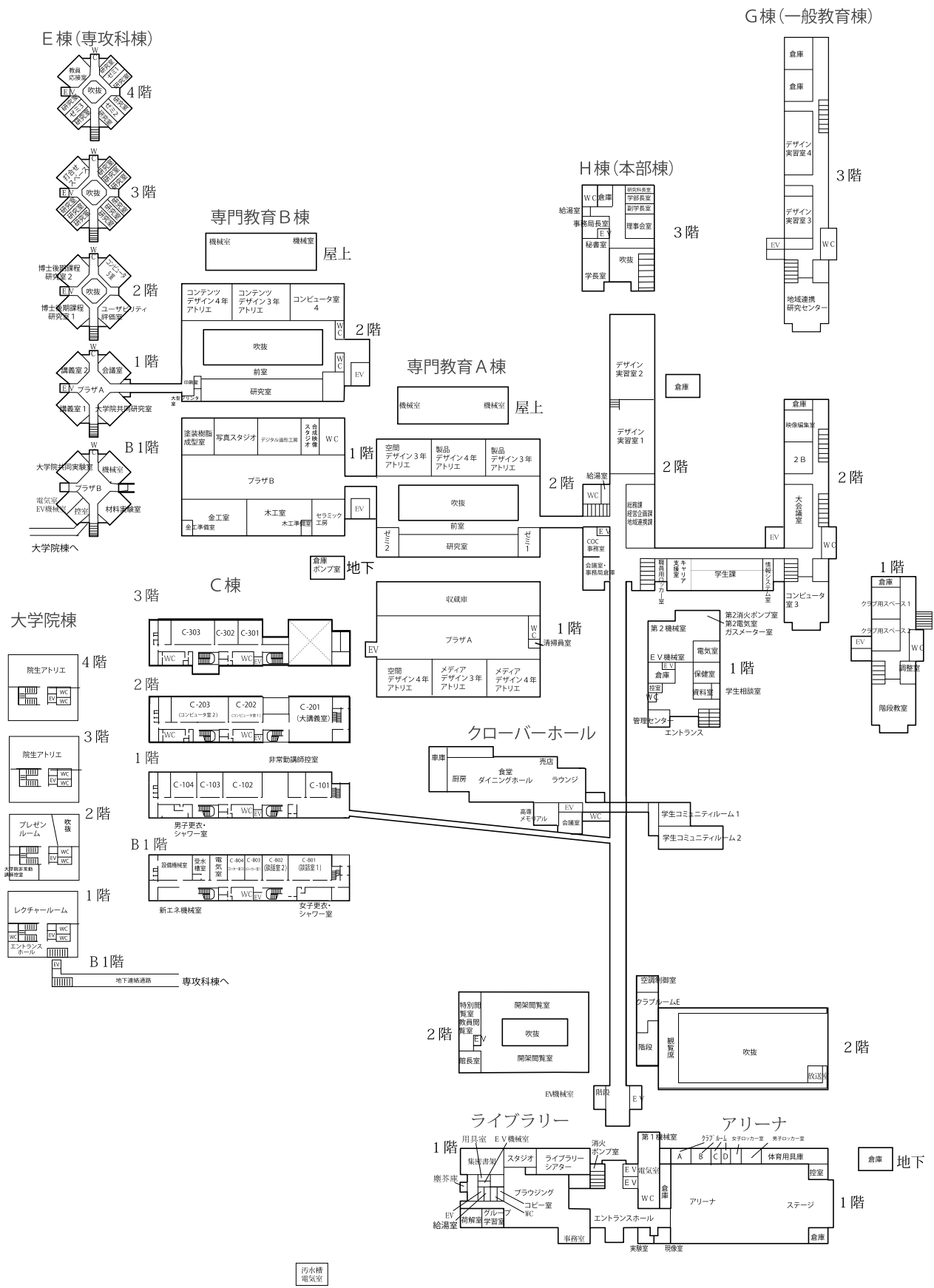
北海道札幌市南区真駒内幸町2丁目2-2 まこまる（旧真駒内緑小学校）内

TEL : 011-596-6675

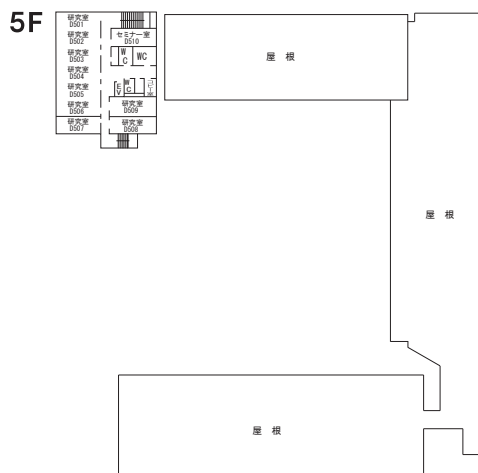
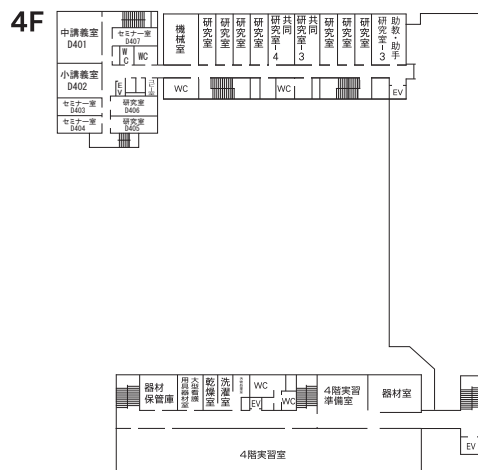
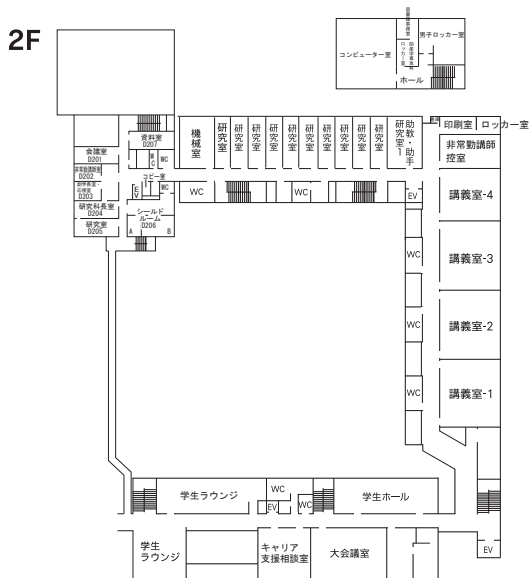
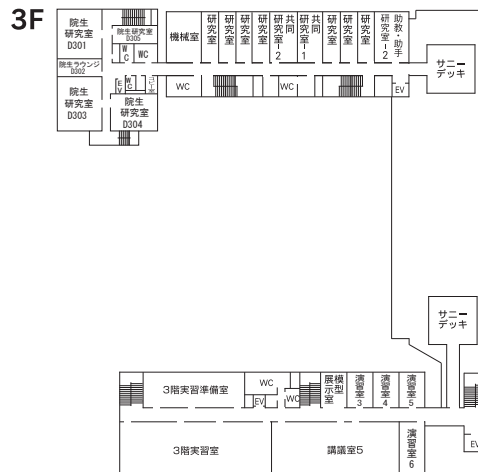
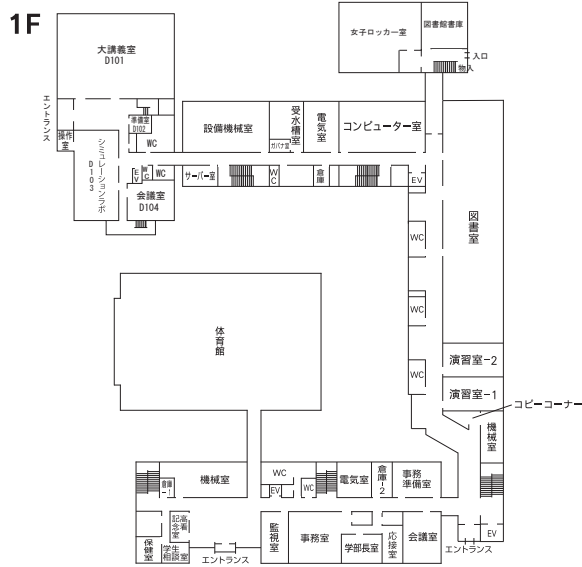
FAX : 011-596-6676



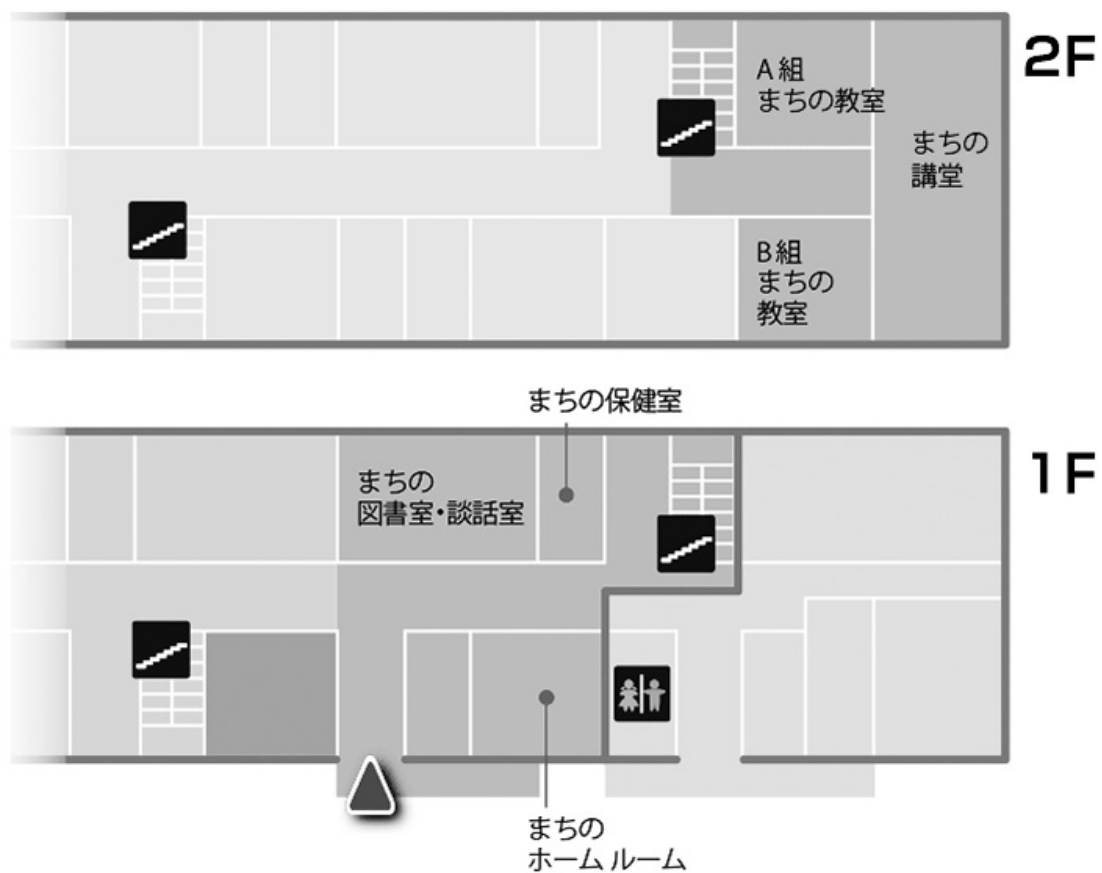
芸術の森キャンパス(校舎配置図)



桑園キャンパス〈校舎配置図〉

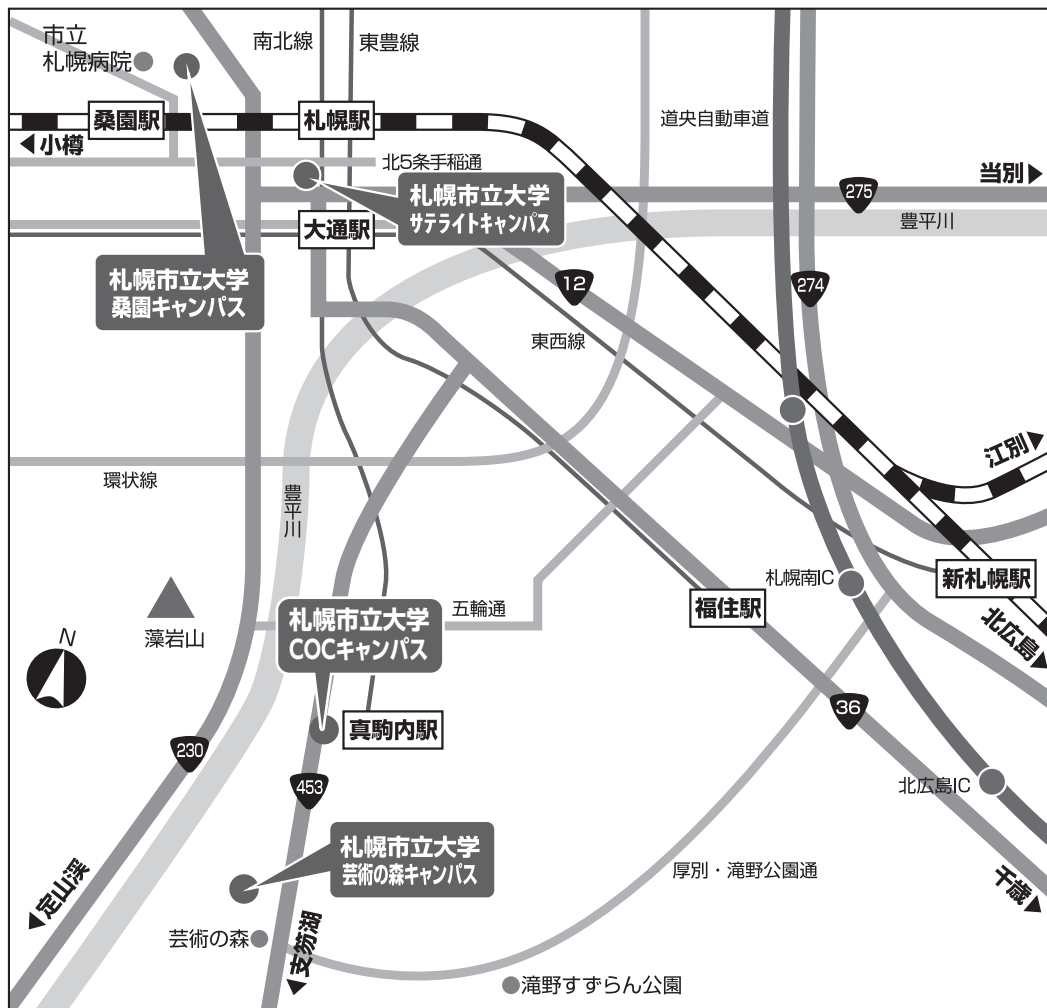


COCキャンパス〈校舎配置図〉

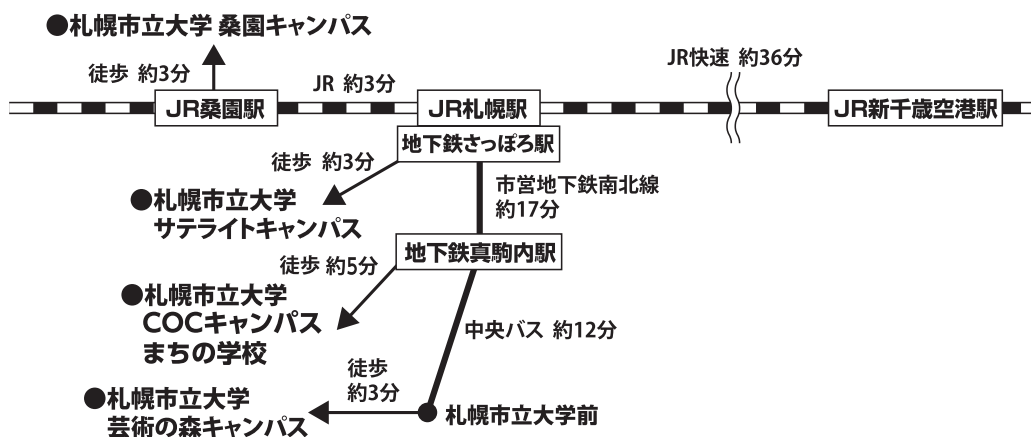


14 大学へのアクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内



15 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』

作詞:後藤優太・首藤翠(デザイン学部 第4期生)
作曲:堀 彩菜(デザイン学部 第3期生)

力強く風が吹き抜ける
新たな希望をたずさえて
さあ飛び出そう
翼広げて
光の指す方へと

ともに笑いともに競った仲間たち
これからは別々の道を往く
強い風に吹かれ
立ち止まりかけても
恐れず歩き続けて

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
同じ空の下には今も
走り続ける仲間がいるだろう

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
あの地平の彼方にはきっと
君の染める世界がある

僕らには導く能力(ちから)がある
僕らには差し伸べる精神(こころ)がある
その壁の向こうにはきっと
君を待つ世界がある

『みらいの手』

公立大学法人 札幌市立大学 大学歌

作詞:後藤 優・首藤 翠
作曲:堀 彩菜

♪ 93

A *Allegro*
からづよく かぜ が ぶ っ き ぬ け る 希 望 を た ず さ え て
さ あ と び 出 そ う 翼 ひ ら げ て 光 の 指 す 方 へ と

B
あ と び だ せ そ う つ ば さ り び て だ か り の 空 は へ と へ び け る
ら た な 雲 ぼ う を た ず さ え て

B
よ い か ぜ に ぶ か れ た ら ち ち せ り け っ て も お そ れ ず 歩 き 続 け て 往 け る

C
に は つ くり あ げ る 手 が あ る 希 望 を た ず さ え て 光 の 指 す 方 へ と

C
に は つ くり あ げ る 手 が あ る 希 望 を た ず さ え て 光 の 指 す 方 へ と

C
に は つ くり あ げ る 手 が あ る 希 望 を た ず さ え て 光 の 指 す 方 へ と

A *Allegro*
に は つ くり あ げ る 手 が あ る 希 望 を た ず さ え て 光 の 指 す 方 へ と

A *Allegro*
に は つ くり あ げ る 手 が あ る 希 望 を た ず さ え て 光 の 指 す 方 へ と

B
な し そ の し た に は い ま も は し り つ づ け る

C
に は つ くり あ げ る 手 が あ る 希 望 を た ず さ え て 光 の 指 す 方 へ と

C
に は つ くり あ げ る 手 が あ る 希 望 を た ず さ え て 光 の 指 す 方 へ と

XI 教員業績一覧

- ・研究業績
- ・社会貢献活動



デザイン学部

蓮見 幸

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／日本感性工学会／道具学会／（一社）日本デザインコンサルタント協会／（公社）日本インダストリアルデザイナー協会

＜講演会・講習会活動＞筑波大学特別講義：大学と学問「明日の社会をデザインする」（平成27年6月24日、筑波大学）／七栗リハビリテーションセミナー「アートによる日常リハビリテーション」（平成27年8月21日、藤田保健医療大学）／芦別市ふるさと商店街元気再生支援事業ミニ講演「暮らし合うしくみとしての商店街づくり」（平成27年9月30日、北海道経済部地域経済局中小企業課）／茨城県商工会議所連合会創立60周年記念講演「人口減少社会における地域と企業の未来－街・人・仕事創生にどう取り組むか－」（平成27年10月21日、茨城県商工会議所連合会）／芦別市ふるさと商店街元気再生支援事業ミニ講演「芦別の光を觀せよう！－人と社会をつなげる“おいふる商店街”」（平成27年10月27日、北海道経済部地域経済局中小企業課）／いばらきデザインセレクション2015表彰式「審査委員長による審査講評」（平成27年11月6日、茨城県デザインセンター）／シンポジウム「大学生、大学、地域を活性化するには？」：「大学生が地域づくりに取り組み活性化させる」（平成27年11月6日、筑波大学メンター会・筑波大学リサーチユニット共催）／南区の会講演会「未来に向けた生業の創生－コントラストティブ発想で描き出す－」（平成27年11月11日、南区の会）／札幌卸商連盟特別講話「札幌市立大学における最近の産学官連携の取組について」（平成27年12月10日、札幌卸商連盟）／平成27年度 いばらき子ども大学「さあ、大好きなまち「いばらき」をつくろう！」：「おとぎばなし」と「まちづくり」（平成28年2月13日、NPOまいづる19、NPOひたち親子の広場、NPOインパクト）／第1回・福祉&介護アイデアソン「ソーシャルケアの現場の課題をクリエイティブで解決しよう！」（平成28年2月19日、（公社）日本インダストリアルデザイナー協会）／都心まちづくりフォーラム2016「都心まちづくりフォーラム2016／パネルディスカッション」（平成28年3月16日、札幌市（市民まちづくり局））

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞茨城県総合計画審議会委員（副会長）、総合部会（部会長）（平成27年4月24日、6月25日、8月10日、9月1日、12月16日、12月25日、平成28年1月29日、2月22日、茨城県（企画部））／茨城県まち・ひと・しごと創生会議委員（座長）（平成27年6月2日、7月30日、10月9日、茨城県（政策審議室））／水郷筑波サイクリング環境整備総合計画策定委員会（平成27年7月24日、9月2日、11月16日、平成28年2月4日、茨城県（企画部、土木部））／東海旅客鉄道株式会社デザイン委員（嘱託）（平成27年8月13日、平成28年2月29日、3月7日、東海旅客鉄道株）／都心まちづくり計画策定協議会委員（8月20日、12月17日、平成28年3月8日、札幌市長）／土浦全国花火競技会審査委員（平成27年10月3日、10月4日、土浦全国花火競技会実行委員会）

酒井 正幸

＜学会発表＞Art&Designを活かした地域創生手法に関する研究－1（共同、平成27年6月、日本デザイン学会春季大会）

＜学会役員就任状況＞日本人間工学会（北海道支部役員）

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／日本人間工学会／日本感性工学会／ヒューマンインタフェース学会／日本人間工学会アーゴデザイン部会／日本人間工学会人間工学専門家認定機構

＜講演会・講習会活動＞円山動物園の森ボランティア講習会「動物園の森の目指すもの&昆虫とデザイン」（平成27年4月4日、札幌市円山動物園）／同友会大学「ビジネスとデザイン戦略」（平成27年5月21日、北海道中小企業家同友会）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞ものづくり日本大賞北海道地域選考分科会（平成27年4月23日、北海道経済産業局）／NPO北のユニバーサルデザイン協議会副理事長（平成27年4月～平成28年3月）／北海道共同募金会広報企画委員会委員長（平成27年4月～平成28年3月）／札幌市円山動物園の森協議会委員（平成27年4月～平成28年3月）

城間 祥之

＜調査研究報告書＞1.地域創生をデザインする－都会と地方の魅力相乗モデル開発－（平成28年3月、札幌市立大学 地域創生デザイン研究会）



＜学会発表＞1.Art & Design を活かした地域創生手法に関する研究－1－第1報－地域創生デザイン学の確立のためのTSS 研究（共同、日本デザイン学会第62回研究発表大会、平成27年6月）／2.Art & Designを活かした地域創生手法に関する研究－短期居住体験者の日報のテキストマイニング分析－（共同、第17回日本感性工学会大会、平成27年9月）／3.パッケージデザインの印象評価に関する日中比較研究－麻婆豆腐とカレーのパッケージデザインに対する印象度評価を通して－（共同、第17回日本感性工学会大会、平成27年9月）／4.聖地巡礼のすすめ－聖地の魅力を発信するアプリケーション制作－（共同、日本感性工学会北海道支部学生会第3回研究発表会、平成27年11月）／5.パッケージデザインの印象評価に関する日中比較研究（第3報）－麻婆豆腐とカレーのパッケージに対する印象度評価－（共同、日本感性工学会北海道支部学生会第3回研究発表会、平成27年11月）／6.パッケージデザインの印象評価に関する日中比較研究－家庭料理用加工食品のパッケージに対する印象度評価を通して－（共同、感性フォーラム札幌2016、平成28年2月）／7.オンラインアンケートを用いた回答者の理解度向上を通じた製品設計手法－死産児安置の為の棺の悲しみを癒す要素の解明－（共同、第11回日本感性工学会春季大会、平成28年3月）

＜学会招聘講演＞イノベーションへの道：デザイン思考－試作品製作事例に学ぶ－（平成28年2月、琉球大学工学部）／デザイン思考－試作品製作事例に学ぶ－（平成28年3月、清華大学美術学院）

＜論文査読・学会抄録査読＞日本感性工学会論文誌（3件日本感性工学会）／Tools and Methods of Competitive Engineering（3件、TMCE 2014 Symposium）

＜学会役員就任状況＞日本感性工学会（日本感性工学会第9期理事（平成25年9月～平成27年9月）、第10期理事（平成25年10月～））／芸術工学会（芸術工学会理事）／日本感性工学会（日本感性工学会北海道支部支部長（平成25年11月～平成27年11月）、（平成27年11月～））

＜学術集会運営＞感性フォーラム札幌2016（平成28年2月開催）／日本感性工学会北海道支部学生会第3回研究発表会／第17回日本感性工学会大会／第11回日本感性工学会春季大会

上遠野 敏

＜調査研究報告書＞1.炭鉱の記憶アートプロジェクトによる地域活性化 空知炭鉱遺産の活用を通じた魅了発見（単著、平成28年3月、札幌市立大学地域創成デザイン研究会、pp.34-37）

＜作品発表＞千の風 千の谷（地底からの風）（単独、平成27年9月～10月、そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2014）／千の風 千の谷（丘）他3作品（全5作品）（単独、平成27年9月～10月、そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2014）

＜講演会・講習会活動＞清華大学美術学院 講演アートはイマジネーションの宝庫 宝島への航海を始めるために（平成27年3月24日、清華大学美術学院）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞三吉神社例大祭を楽しくする会地域再生プロジェクト：キャラクターグッズ開発、ゲーム冊子 アートディレクター／nop炭鉱の記憶推進事業団そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2014アートディレクター

安齋 利典

＜調査研究報告書＞1.平成27年度共同研究 次期給湯器デザイン（共著、平成28年3月、札幌市立大学）

＜受賞等＞Best Paper Award（平成27年11月、IASDR2015）

＜学会発表＞1.企業ウェブサイトにおけるデザイン最適化に関する研究－その8（管理）（単独、平成27年6月、第62回日本デザイン学会春季研究発表大会）／2.An Analytic Study of Corporate Website HCD and Integrated Website Management（単独、平成27年11月、IASDR2015）／3.デザインマネジメントと感性（単独、平成28年2月、日本感性工学会 感性フォーラム札幌2016）

＜学会座長就任状況＞6/13土曜日口頭発表A7（平成27年6月、第62回日本デザイン学会春季研究発表大会）

＜論文査読・学会抄録査読＞札幌市立大学研究論集（1件、札幌市立大学）

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／日本感性工学会／芸術工学会／HCD-NET（Human Centered Design Organization）NPO法人人間中心設計推進機構

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞北海道デザインマネジメントフォーラムセミナー開催支援 「3×4@デザインマネジメントプログラム」を学ぶ!（道総研工業試験場、平成27年8月7日）



石井 雅博

＜調査研究報告書＞1.科研A共著（共著、平成28年3月）

＜受賞等＞1.EC2015口頭発表賞最優秀論文（平成27年9月、エンターテインメントコンピューティングシンポジウム実行委員会）

＜学会発表＞1.Disparity defined depth of a dynamic random noise patch within a static random dot field is easier to see than that of a normal random dot stereogram（共同、平成27年5月、Vision Sciences Society）／2.Apparent depth of a patch of dynamic random noise within a static field of random dots（共同、平成27年5月、Vision Sciences Society）／3.Modulation of line length judgment of Vertical Horizontal illusion by mathematical observation（共同、平成27年5月、Vision Sciences Society）

＜学会シンポジウム＞上肢運動が多義的視運動刺激の知覚に及ぼす影響（単独、平成27年9月、エンターテインメントコンピューティングシンポジウム）

＜研究会発表等＞運動視差による奥行き知覚における頭部運動方向の影響（単独、平成28年2月、電子情報通信学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.デザイン学会（1件、デザイン学会）／2.感性工学会（1件、感性工学会）／3.International Journal of Affective Engineering（1件、感性工学会）／4.映像情報メディア学会（1件、映像情報メディア学会）／5.電子情報通信学会（5件、電子情報通信学会）

＜学会役員就任状況＞電子情報通信学会（リエゾン委員）／電子情報通信学会（論文誌特集号編集委員）／電子情報通信学会（ヒューマン情報処理研究会副委員長）／バーチャルリアリティ学会（日本バーチャルリアリティ学会論文委員）／バーチャルリアリティ学会（VR心理学研究会委員）／日本視覚学会（世話人）

＜学術集会運営＞日本視覚学会夏季大会／電子情報通信学会研究会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞視覚科学技術コンソーシアム（幹事）

齋藤 利明

＜作品発表＞1.リラ（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／2.たまゆら（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／3.万葉（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／4.ネモフィラ（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／5.白藜（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／6.片鹿子（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／7.高野聖（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／8.撫子（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／9.苧環（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／10.胡桃（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／11.玉兔（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／12.若竹（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）／13.亜麻（単独、齋藤利明人形展、平成28年2月18日～2月23日）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞「生物多様性さっぽろ絵本コンテスト」（平成27年1月25日、札幌市環境局）／北海道建築学会賞審査委員（平成27年5月7日～10月30日、北海道建築学会）／一般公募「アート・ボックス」審査委員（平成28年1月14日～3月3日、札幌駅総合開発株式会社）／

中原 宏

＜学術論文＞1.札幌市の地域構造と生活・居住環境よりみた地域コミュニティの活性化に関する考察（共著、平成27年6月、日本建築学会技術報告集、21巻、48号、pp799-804）／2.札幌市における身近な生活環境の地域格差に関する考察・買い物・駅勢圏からみた充足率の分析（共著、平成27年11月、日本デザイン学会デザイン学研究、62巻、4号、pp11-16）／3.まちづくりのはじまりをデザインする 古建築群を核とした「よそ者デザイン集団」によるまちづくりプラットフォームの形成（共著、平成28年3月、日本デザイン学会デザイン学研究作品集、21巻、1号、pp2-7）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.札幌市立大学研究論文集 第10巻1号（1件、平成27年11月、札幌市立大学）

＜学会役員就任状況＞日本建築学会（論文審査委員会査読委員）／北海道都市地域学会（理事）

＜講演会・講習会活動＞芸術の森地区社会福祉協議会創立20周年記念事業「地域の拠点としての札幌市立大学の取組」（平成28年2月13日、芸術の森地区社会福祉協議会）



羽深 久夫

＜学術論文＞1.明治39年に行なわれた桐古天主堂改修工事における工事費受払の特徴（共著、平成27年10月、日本建築学会計画系論文集、80巻、716号、pp.2327-2337）／2.明治39年に行なわれた桐古天主堂改修工事（共著、平成27年10月、日本建築学会技術報告集、21巻、49号、pp.1273-1278）／3.函館市西部地区における建物と坂道の関係性（共著、平成28年3月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.59-66）／4.北海道沿岸部における漁業小屋の調査（共著、平成28年3月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.95-106）／5.産後の子宮触診技術に活用できる装着型産褥子宮モデルの開発（共著、平成28年3月、札幌市立大学、10巻、1号、pp.31-38）

＜学会発表＞1.北海道における戦後建築の変遷とその特徴 その2（共同、平成27年6月、日本建築学会北海道支部）／2.札幌農学校附属第八農場付属施設の種類とその特徴（共同、平成27年9月、日本建築学会）／3.母性看護学における看護実践能力を向上させるための教材開発（共同、平成27年10月、日本母性衛生学会）

＜学会シンポジウム＞1.道民の力で北海道の歴史的建造物をまもり、活かすために一國指定重要文化財豊平館の構造補強と附属棟新築を事例として－（単独、平成27年10月、日本建築学会）

＜学会招聘講演＞1.世界遺産の歴史学的意義（建築学史の視点から）（単独、平成27年8月、日本看護歴史学会）

＜研究会発表等＞1.北海道における戦後建築の変遷 その1（共同、平成27年10月、建築史意匠調査研究会）／2.北海道における戦後建築の変遷 その2（共同、平成27年12月、建築史意匠調査研究会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本建築学会計画系論文集（2件、日本建築学会）／2.日本建築学会技術報告集（1件、日本建築学会）

＜学会役員就任状況＞日本建築学会（建築歴史・意匠本委員会日本建築史小委員会委員）／日本建築学会北海道支部（日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会委員）

＜講演会・講習会活動＞NHK新さっぽろ文化講座2015特別講座 丹下健三と清家清の建築 2-3月／NHK新さっぽろ文化講座2015春・夏講座 全6回 西洋バロック建築 4-9月／NHK新さっぽろ文化講座2015春・夏講座 全6回 日本の近代建築 4-9月／NHK新さっぽろ文化講座2015秋・冬講座 全6回 西洋ロココ建築 10-3月

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座 講義（平成27年7月、北海道教育委員会・北海道建築士会）／市立大学とコラボして活性化（平成27年8月、北海道中小企業家同友会）／札幌市における文化財建造物の保存再生（平成27年11月、平成28年1月、アジア招提）／北海道における宗教建築の意義（平成27年11月、アカデミーフォーラム研究会）／「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム審査委員（日本技術者認定機構）／札幌芸術の森運営協議会 委員（札幌市芸術文化財団）／札幌芸術の森美術館専門員会 委員（札幌市芸術文化財団）／理事長・事務局（NPO法人北の民家の会）／北海道地区幹事（NPO法人日本民家協会）／君の椅子プロジェクトの推進活動（NPO法人アルテピアッツァ美唄）

原 俊彦

＜学術論文＞1.《地方創生》の結婚・出生促進効果（単著、平成27年5月、統計、66巻、5号、pp.56-59）／2.Unit 03-B: 地方創生における少子化対策の在り方とは？03_少子化対策と地方創成（単著、平成27年12月、SPACE NIRA、pp.1-3）／3.Unit 03-B: What is the Best Orientation for Measures targeting Low Fertility in Regional Revitalization Policy?（単著、平成28年1月、SPACE NIRA、pp.1-3）

＜調査研究報告書＞1.人口転換モデルの改良と拡張 その1：長寿化・少子化と経済成長の関係について 科学研究費助成事業：学術研究助成基金助成金 基盤研究（B）人口転換の現代的解析に基づく新たな人口潮流とライフコース変動に関する総合的研究 研究代表者：金子隆一 分担研究者 2014年度 報告書（単著、平成27年4月、国立社会保障・人口問題研究所、1巻、pp.55-69）

＜その他の論文＞1.視点論点「新しいステージに向かう超高齢社会」（単著、平成27年5月、開発こうほう、622巻、pp.20-21）／2.【往来】人口減少社会のゆくえー『地方消滅』報道以降の動き（単著、平成27年6月、現代社会学研究、28巻、pp.35-44）

＜学会発表＞1.北海道・札幌市の人口減少、その未来への対応・地域人口分析システムの構築【その1】：地域別将来推計人口とGIS（地理情報システム）のリンク（主共同発表者、平成28年1月、



2015年度第1回東日本地域部会)

<学会シンポジウム>1.「縮減する社会」としての日本：置換水準の出生力を回復するための条件（単独、平成28年1月、日独シンポジウム「少子高齢化対策戦略」）／2.日本の人口転換と地域社会の持続可能「シンポジウム：人口減少社会における家族と地域のゆくえ」（単独、平成27年6月、日本家族社会学会第25回大会）／3.「日本の人口転換と地域創生」「シンポジウム：人口減少社会のゆくえ」（単独、平成27年9月、北海道社会学会 第63回大会）

<学会招聘講演>1.政策科学としての人口学の可能性（会長講演）（単独、平成27年6月、日本人口学会）／2.Japan als schrumpfende Gesellschaft:Was sind die Voraussetzungen für die Wiederherstellung der Ausgleichsrate 2.07?（単独、平成28年3月、ドイツ人口学会）／3.Die Familienleitbilder in Japan—Überlegung von den bisherigen Untersuchungsergebnissen（単独、平成28年3月、BiB-Kolloquium）

<研究会発表等>1.ドイツの新しい家族観調査（2012）—低出生力の文化的背景（単独、平成27年10月、新人口転換科研 第3回研究会）

<学会座長就任状況>シンポジウム：地域人口は消滅するのか？（平成27年6月、日本人口学会）

<論文査読・学会抄録査読>1.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）

<学会役員就任状況>日本人口学会（日本人口学会会長）／北海道社会学会（北海道社会学会会長）

<講演会・講習会活動>第1回中央4地区合同例会：（一社）北海道中小企業家同友会札幌支部「超高齢社会の現状とシニアビジネスの可能性」（平成27年7月24日、北海道中小企業家同友会）／道南ブロック社会教育主事等研修会「道南ブロック（渡島・檜山・胆振・日高）の人口—その将来を考える」（平成27年9月9日、石狩市壮警町）／石狩振興局「地方創生セミナー」「日本の人口転換と札幌圏の少子化」（平成27年9月11日、石狩振興局）／第8回 GISコミュニティフォーラム in 北海道「北海道の地方創生におけるGISの活用」（平成27年9月29日、㈱ESRI JAPAN）／いしかり市民カレッジ 平成27年度 主催講座 14 「【第1回】日本の人口転換と『地域消滅』の危機」（平成27年10月23日、いしかり市民カレッジ）／いしかり市民カレッジ 平成27年度 主催講座 14 「【第2回】北海道の人口減少と『地域創生』の可能性」（平成27年10月30日、いしかり市民カレッジ）／第2回北のシニアビジネス交流会 in 札幌「地域創造性・一億総活躍時代のシニアビジネス」（平成28年2月18日、北のシニアビジネス交流会実行委員会）／北海道中小企業家同友会 札幌支部 南地区2月例会「高齢化先進地域 南区の現状とビジネスチャンス」（平成28年2月19日、北海道中小企業家同友会）

細谷 多聞

<学会発表>1.グループウォーキングの継続を促す要因の研究（共同、平成27年6月、第62回日本デザイン学会春季研究発表大会）／2.グループウォーキングを分析するための発話分析手法の開発（共同、平成27年9月、第17回日本感性工学会大会）／3.人工物に生命感を与える AI 声帯の研究（共同、平成27年9月、第17回日本感性工学会大会）

<学会役員就任状況>日本デザイン学会（概要集編集委員会委員）

<所属学会・研究会>日本デザイン学会／芸術工学会／日本感性工学会

町田 佳世子

<学会発表>1.知識を伝える工夫—専門家の大人と子どもに対する発話連鎖の比較から（共同、平成27年6月、全日本博物館学会第41回研究大会）／2.What do good small-talkers do to make their small talk active and smooth?（共同、平成27年7月、The 14th International Pragmatics Conference）／3.言葉の力を探る—人を喜ばせる言葉、不快にさせる言葉（単独、平成27年10月、日本質的心理学会第12回全国大会）

<研究会発表等>1.専門的実践家による知の伝達—会話分析を用いて（共同、平成27年9月、教育学研究集会）

<学会役員就任状況>一般社団法人大学英語教育学会北海道支部（研究企画委員）／日本コミュニケーション学会北海道支部（監事）

<学術集会運営>JACET 55th International Convention実行委員会／HELES・JCA北海道支部・JACET北海道支部2015年度合同研究会

<所属学会・研究会>日本コミュニケーション学会／International Pragmatics Association／一般社



団法人 大学英語教育学会／日本質的心理学会／日本語用論学会／産業・組織心理学会／全日本博物館学会／日本動物園水族館教育研究会

＜講演会・講習会活動＞株式会社アイティ・コミュニケーションズ フレッシュマンコミュニケーションセミナー「コミュニケーションとは」（平成27年4月1日、株式会社アイティ・コミュニケーションズ）／札幌医科大学保健医療学部 保健医療総論における講演「人をつなぐ私たちの営みーコミュニケーションについて考える」（平成27年4月8日、札幌医科大学保健医療学部）／北海道大学教育学部 健康教育学における講義「動物を介した人の心と知の変化」（平成27年6月22日、北海道大学教育学部）

矢部 和夫

＜調査研究報告書＞1. 科研成果報告 低地泥炭湿原の群落の景観と種組成における地理的変異の把握とその生成機構の解明（平成27年6月）／2. 円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究（平成28年1月）／3. ウトナイ湖北岸における湿生草原の再生手法検討（平成28年2月）／4. キウシト湿原植生調査研究（平成28年2月）

＜研究会発表等＞1. 幌向再生（石狩川下流幌向地区自然再生）事業の進捗と展望（宮島沼研究会）

＜学会役員就任状況＞日本湿地学会（理事、学術研究支援）

＜学術集会運営＞ウェットランドセミナー運営幹事

＜講演会・講習会活動＞藻岩高校 環境教育講座（デザイン学部で高校生5人対象に実施 平成25年9月）／環境教育（美々川）道胆振総合振興局 室蘭建設管理部主催／トライアスカル2015体験学習

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞専門職就任（植生管理アドバイザー）（北海道胆振総合振興局）

吉田 和夫

＜作品発表＞1. 千客万来「ヨが四つでヨシダ」父からむすめへ贈る家の印（単独、平成27年9月3～7日、2015 TGC展「プレゼント」東京グラフィックデザイナーズクラブ/銀座かねまつホール）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞広告電通賞 地区選考委員会 委員長（平成26年9月～平成28年8月、広告電通賞審議会）／駅前通地下広場広告デザイン審査会 委員（平成27年4月～平成28年3月、札幌駅前通まちづくり株式会社）／札幌版次世代住宅認定証デザイン修正（平成28年3月9日～3月31日、札幌市都市局市街地整備部住宅課）

柿山 浩一郎

＜学術論文＞1. オンラインアンケートを用いた回答者の理解度向上を通じた製品設計手法（共著、平成28年3月、日本感性工学会論文誌、15巻、3号、pp.337-343）

＜著書＞1. 地域創生をデザインする（共著、平成28年3月、978-4-9908926-0-9 C3036、札幌市立大学）

＜調査研究報告書＞1. 平成27年度 共同研究 次期給湯器デザイン（平成28年3月、札幌市立大学）／2. 地域住民を交えたデザイン・看護合同シュミレーション教育の基礎的研究（平成28年3月、札幌市立大学）／3. E-KANGO Project 2013&2014（平成28年3月、札幌市立大学）

＜学会発表＞1. Art&Designを活かした地域創生手法に関する研究-2（共同、平成27年7月、日本デザイン学会誌 第62回研究発表大会概要集）／2. 市民を交えたシミュレーション授業の効果計測手法の検討（単独、平成28年3月、日本感性工学会 第11回春季大会予稿集）

＜学会シンポジウム＞1. 超高齢社会に果たす感性工学の役割 高齢者と家電製品・サイン（平成27年9月、2015年度日本機械学会年次大会）

＜研究会発表等＞1. 科研「タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究」の紹介（平成27年7月、「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」公開研究会）

＜学会座長就任状況＞1. インタフェース、感性工学（平成27年6月、日本デザイン学会 第62回研究発表大会）

＜学会役員就任状況＞日本デザイン学会（日本デザイン学会 春季大会梗概集編集委員会 幹事長）／日本感性工学会（日本感性工学会 論文編集委員会 論文編集委員）／日本デザイン学会（日本デザイン学



会評議委員)

＜学術集会運営＞日本デザイン学会 第62回春季研究発表大会／感性フォーラム札幌2016／日本感性工学会北海道支部 学生会第3回研究発表会

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／日本感性工学会／日本教育工学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞ビジネスエクスポへの出展（平成27年11月5日～6日、北海道技術・ビジネス交流会 実行委員）／札幌デザインウィーク2015への出展（平成27年10月25日 ブース担当と搬出）「地域の新しい暮らし方と未来」（平成27年10月24日・25日、札幌デザインウィーク実行委員会、札幌市立大学）

斉藤 雅也

＜学術論文＞1.パッシブ換気住宅における薪ストーブを用いた全室暖房時のエクセルギー評価（共著、平成28年1月、日本建築学会環境系論文集、81巻、719号、pp.73-82）／2.木質バイオマスを活かす地域熱供給システムのエクセルギー解析 北海道下川町を事例として（共著、平成28年3月、日本建築学会環境系論文集、81巻、721号、pp.295-305）

＜著書＞1.北の住まいの熱環境計画2015（共著、平成27年11月、北海道建築技術協会、pp.90-117）／2.新得町都市農村交流施設 カリンパニ、新建築2015（10月号）（共著、平成27年10月、新建築社、pp.118-125）

＜調査研究報告書＞1.平成26年度受託研究報告書 森林保全・資源循環のための地域レベルのエネルギー解析（共著、平成27年10月、札幌市立大学）／2.平成26年度受託研究報告書 ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）のデザイン研究（共著、平成28年2月、札幌市立大学）／3.平成26年度受託研究報告書 大規模複合商業施設における商学連携による地域向け住環境教育のデザイン研究（共著、平成28年2月、札幌市立大学）／4.平成26年度受託研究報告書 札幌市円山動物園アフリカゾーンの飼育展示・サイン計画のデザイン監修（共著、平成28年2月、札幌市立大学）／5.平成26年度受託研究報告書 生き物のハビタットとしての里山環境・都市公園のエネルギー環境の調査・解析（共著、平成28年2月、札幌市立大学）

＜学会発表＞1.Art&Designを活かした地域創生手法に関する研究-2 第2報-地域を対象とした研究における仕掛けづくり（共同、平成27年6月、日本デザイン学会第62回研究発表大会）／2.地域で取り組むグリーンカーテン栽培の住民意識と行動（共同、平成27年6月、日本デザイン学会第63回研究発表大会）／3.木質バイオマス利用の建築生産と地域熱供給に関するエクセルギー解析（共同、平成27年8月、日本エネルギー学会第24回大会）／4.薪ストーブを利用したパッシブ換気住宅のエクセルギー収支（共同、平成27年9月、日本建築学会大会学術講演梗概集）／5. Thermal Adaptation of Elementary Students in Summer based on Cognitive Temperature Scale in the case of Sapporo and Kumamoto（共同、平成27年9月、日本建築学会大会学術講演梗概集）／6.木質バイオマスを活かす地域熱供給システムのエクセルギー解析-北海道下川町を事例として-（共同、平成27年9月、空気調和・衛生工学会大会）／7.トイレからの救急搬送と気象要因の関係（共同、平成27年11月、第74回日本公衆衛生学会総会）／8.北海道における特別養護老人ホームのエネルギー消費実態（共同、平成27年11月、第74回日本公衆衛生学会総会）／9.高齢者の人体エクセルギー消費と血圧に関する調査研究（共同、平成27年11月、第74回日本公衆衛生学会総会）／10.4疾患による死亡割合の季節性変動分析（共同、平成27年11月、第74回日本公衆衛生学会総会）／11.木質バイオマスをを用いた地域熱供給システムの評価とその計画設計方法への展開（共同、平成28年1月、日本エネルギー学会 バイオマス部会/第11回バイオマス科学会議）／12.住宅における夏季の住環境改善のための住まい方の提案（共同、平成28年2月、日本感性工学会感性フォーラム札幌2016）／13.熊本と東京における児童の教室内での暑熱不快感と環境調整行動の関係 小学児童の想像温度に基づく地域住育プログラムの開発研究（3）（共同、平成28年3月、日本建築学会九州支部）／14.積雪寒冷地における住宅群を対象としたコミュニティ暖房の検討（共同、平成28年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部 第50回学術講演会）／15.寒冷地における超高性能パッシブ換気住宅に関する実測調査（その1）夏期・中間期の室内環境評価（共同、平成28年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部 第50回学術講演会）／16.住宅における採冷空間デザイン（共同、平成28年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部 第50回学術講演会）

＜学会シンポジウム＞1.バイオクライマティックデザインの視点から地域・都市・建築の環境を考える（単独、平成27年10月、日本建築学会 環境工学委員会 第45回熱シンポジウム）／2.人の想像温度と温



熱環境適応（共同、平成27年10月、日本建築学会 環境工学委員会 第45回熱シンポジウム）／3.林業から住宅・バイオマスを利用した地域熱供給の事例紹介（共同、平成27年10月、日本建築学会 環境工学委員会 第45回熱シンポジウム）

＜学会招聘講演＞1.癒しの生活空間－患者さんが安心して暮らせる環境づくり－明・温・涼な室内気候を創る（単独、平成27年5月、日本脳神経看護研究学会）

＜研究会発表等＞1.第1回 北のケア環境改善フォーラム 明・温・涼な室内気候のデザイン（単独、平成27年7月、北のケア環境研究会）／2.産総研コンソーシアム 第9回セミナー エクセルギー消費の最適化と建築環境デザイン（単独、平成27年9月、建築物低炭素化材料評価システム技術コンソーシアム）

＜学会座長就任状況＞1.エコスクール（単独、平成27年9月、日本建築学会大会学術講演会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本建築学会環境系論文集（2件、日本建築学会）／2.日本建築学会技術報告集（2件、日本建築学会）／3.日本建築学会大会選抜梗概（5件、日本建築学会）

＜学会役員就任状況＞日本建築学会（バイオクライマティックデザイン小委員会委員長）／日本建築学会北海道支部（学術委員会委員長）／空気調和・衛生工学会北海道支部（運営委員）／Low Ex Network (LowEX. Net 委員)

＜学術集会運営＞日本建築学会環境工学委員会熱シンポジウム／空気調和・衛生工学会北海道支部地区セミナー「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」／日本建築学会北海道支部環境工学専門委員会主催 第9回環境工学系・卒業論文発表会

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／空気調和・衛生工学会／日本太陽エネルギー学会／日本感性工学会／日本デザイン学会／日本公衆衛生学会／北海道自然エネルギー研究会／住まい・環境教育学会

＜講演会・講習会活動＞文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）SS実験講座 環境科学実験「ペットボトルハウスで涼房と温房を考える」（平成27年12月3日、北海道旭川西高等学校）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞BIS試験講習委員会 委員（養成講習会 講師）「開口部の計画、防暑計画」（平成28年1月8日、1月20日、北海道建築技術協会）／バイオマスによるコミュニティ暖房・給湯のエクセルギー評価（平成27年4月～平成28年3月、下川町）／特別会員（学術的支援）

（平成27年4月～平成28年3月、特定非営利活動法人 外断熱推進会議（EiPC））／地域交流施設カリンパニホール オープンハウス（平成27年4月17日、共働学舎 新得農場）／平成26年度 建築作品選集委員会 北海道支部審査委員（平成27年6月～平成27年9月、日本建築学会）／看護臨床分野に対して

の室内温熱環境デザイン面に関する学術的支援「明・温・涼な室内気候のデザイン」（平成27年7月3日、北のケア環境研究会）／Hokkaido Nikken Sekkei July Forum「外からのインパクトを変換・調整するデザイン」（平成27年8月21日、㈱北海道日建設計 設計フォーラム委員会）／2015年大会関連行事 楽々都市・楽々建築@東京2015 小 中学校の授業や市民講座でつかえるワークショップの実践者育成講座「ワークショップ8 体感温度」（平成27年8月29日～30日、日本建築学会）／平成27年度

振興賞運営委員会技術振興賞北海道支部推薦小委員会（平成27年10月～12月、公益社団法人空気調和・衛生工学会）／国立大学法人北海道大学・北海道瓦斯株式会社・日本環境技研株式会社 北海道大学サステイナブルキャンパス・エネルギー構想調査検討委員会（平成27年10月～平成28年2月、国立大学法人北海道大学）／断熱住宅と札幌版次世代基準の目指すいえー基準改定を機に「断熱住宅と札幌版

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

次世代基準の目指すいえー基準改定を機に」（平成28年2月16日、エクセルシャノン・ジェイベック・トルネックス共催セミナー）／平成27年度セミナー（ファシリテーター・司会として）「CxF（コミショニング業務受託事業者）登録制度の創設とCxビジネスの展開」（平成28年3月4日、公益社団法人 空気調和・衛生工学会北海道支部）

武田 亘明

＜その他の論文＞1.クリエイティブ人材の実践的育成のためのICT教育環境（単著、平成27年7月、日本教育工学会、15巻、3号、pp.135-138）／2.新聞情報を活用した社会的課題の発見と解決の能力の開発（単著、平成28年3月、日本教育工学会、16巻、1号、pp.81-88）

＜学会座長就任状況＞1.教師教育・教育の情報化 D会場（平成27年7月、日本教育工学会）／2.教科指導におけるICT活用（平成27年9月、日本教育工学協会）／3.ICTを活用した学習支援環境・基盤 B会場（平成28年3月、日本教育工学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞札幌市立大学紀要（1件、札幌市立大学）



＜学会役員就任状況＞日本教育工学協会（理事）／教育とコンピュータ利用研究会（副会長、北海道支部長）／北海道企画デザイン研究会（代表）

＜所属学会・研究会＞情報処理学会／日本教育工学会／日本教育工学協会／北海道中国哲学会／教育とコンピュータ利用研究会／北海道企画デザイン研究科

＜講演会・講習会活動＞第63回日本PTA全国研究大会札幌大会第一分科会組織運営実践発表「改革・変化・協力-H22～23年に札幌市中央区三角山小PTA見直し委員会に携わった経験から」（平成27年8月21日、公益社団法人日本PTA全国協議会）／第63回日本PTA全国研究大会札幌大会第一分科会パネルディスカッション「「チーム力の育み方」～ともにふみだそう、ともに育てよう、ともにつなげようLet's enjoy PTA～」（平成27年8月21日、公益社団法人日本PTA全国協議会）／全日本中学高校Webコンテスト「第二次審査」（平成27年12月、特定非営利活動法人学校インターネット教育推進協会）／南幌町生涯学習推進基本構想研修会「生涯学習によるまちづくり～人材の育成を中心として～」（平成28年1月19日、南幌町教育委員会）／平成27年度富良野市家庭教育セミナー「メディア社会を生きる子どもと地域のかかわり方」（平成28年2月23日、富良野市教育委員会）／平成27年度青少年健全育成の集い「情報社会における青少年を取りまく現状と課題」（平成28年2月25日、北海道女性団体連絡協議会）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞「6. 6みんなとえがおのひろば」運営（平成27年6月6日、朝日新聞北海道支社）／第12期北海道生涯学習審議会副会長／平成27年度北海道学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業推進委員会会長／札幌市視聴覚センター意見を聞く会委員／北海道札幌藻岩高等学校評議員／札幌市立西岡小学校評議員／NPO法人学校インターネット教育推進協会主催全日本中学高校Webコンテスト審査員

張 浦華

＜調査研究報告書＞1.南区にお住まいの65歳以上の方の健康に関するニーズ調査（平成27年4月、pp.1-32）

＜実務関係報告書＞1.第七回清華国際芸術・デザイン学術月間デザインワークショップ報告書（平成27年12月、pp.1-9）

＜作品発表＞1.AUTUMN RAIN BASE（単独、平成27年9月26日～10月2日、アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）Tokyo 2015）／2.湧泉（単独、審査付、平成27年10月14日～11月1日、北海道美術協会90周年記念公募展（道展））／3.EGGPLANT DISH（単独、平成27年10月16日～21日、アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）Seoul 2015）／（平成27年11月3日～8日、チャリティー陶芸作品展示会）／4.ARGENTATION FISH BOWL（単独、平成27年11月5日～17日、アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）Kaoh Siung 2015）／5.DRY LEAF BOWL（単独、平成27年11月14日～21日、アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）Cheng Du 2015）／6.湧泉（単独、審査付、平成27年12月1日～13日、第90回道展・第60回釧路移動展）／7.湧泉（単独、審査付、平成28年1月21日～26日、第90回道展・第68回帯広移動展）／8.湧泉（単独、審査付、平成28年2月2日～7日、90周年記念道展 伊達移動展）／9.湧泉（単独、審査付、平成28年2月16日～21日、90周年記念道展・第55回北見移動展）／10.黒マット銀化四角花瓶（単独、平成28年3月1日～6日、第37回北海道陶芸作家協会展）／11.緑マット銀化四角花瓶（単独、平成28年3月1日～6日、第37回北海道陶芸作家協会展）

＜受賞等＞1.佳作賞（平成27年10月、第90回道展（北海道美術協会））

＜学会役員就任状況＞日本感性工学会（日本感性工学会評議員 第10期（平成27、28年度））／北海道陶芸作家協会（広報・インターネット担当役員）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞北海道陶芸作家協会（平成27年9月～10月、第37回北海道陶芸作家協会展の運営企画）／NPO法人「さっされん」（平成27年9月～11月、心身障害者に対する支援のチャリティー展の運営企画）／アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）（平成27年11月～平成28年3月、2017 冬季アジア札幌大会支援企画ANBD特別コラボレーションポスター展）

山田 良

＜作品発表＞1.小樽アートプロジェクト（平成27年7月）／2.ハルカヤマ藝術要塞（平成27年9月）

＜受賞等＞1.日本建築学会 北海道建築賞奨励賞（平成27年10月、日本建築学会）／2.Architectural



Review House 2015（平成27年10月、Architectural Review）

＜学会発表＞1.環境芸術における連続性（単独、平成27年11月、環境芸術学会大会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.環境芸術（2件、環境芸術学会）

＜学会役員就任状況＞環境芸術学会（理事、北海道支部長）／日本建築学会（作品選集委員会委員長）／北海道芸術学会（理事）

＜講演会・講習会活動＞風景と環境芸術／ryo yamada recent works

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞病院建替えにおけるデザインアドバイザー（円山病院）

石田 勝也

＜調査研究報告書＞1.「メディアアーツ」の産業での活用及び関連する産業人材の育成に向けた潜在ニーズ発掘型調査研究（共著、平成28年3月、札幌市）

＜学会発表＞1.思春期前の子どもを持つ親を対象とした性教育のためのインストラクショナルデザイン（共同、平成28年2月、感性フォーラム）

＜講演会・講習会活動＞北海道新聞主催親子向けイベントでのプログラミング言語スクラッチワークショップ講師（平成27年10月3日～4日、キッズフォレスト、北海道新聞）／クリエイティブコーディングスクール札幌（平成27年8月）

＜所属学会・研究会＞芸術科学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞サウンドアンドビジュアルイベントの企画運営（パーティカルホリゾンタル実行委員）／イベント映像の制作及びオペレーション（エレキネシス実行委員会）／映像演出ワークショップ（札幌市）／浦河インアートフェス「43d records」イベント内ビジュアルプログラミング（平成27年10月16日、浦河インアートフェス）／エレクトロニカアーティストJimanicaイベント内ビジュアルプログラミング（平成27年11月7日、PROVO）／アークティックデザインウィーク（平成28年2月23～24日、ラップランド大学）

大淵 一博

＜学会発表＞1.看護領域における口腔ケアの評価に関するデータベースの構築（共同、平成27年10月、看護理工学会）／2.タブレット型端末を活用した客観的臨床能力試験運営支援システムによる効率的な評価プロセス 第1報（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）／3.タブレット型端末を活用した客観的臨床能力試験運営支援システムによる効率的な評価プロセス 第2報（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）

＜研究会発表等＞1.タブレット型端末を活用した看護OSCE運営・評価システムの運用と検証（共同、平成27年11月、SCU産学官研究交流会）

＜学会役員就任状況＞日本感性工学会北海道支部（日本感性工学会北海道支部 幹事：会計担当、委員）

＜学術集会運営＞感性フォーラム札幌2016／日本感性工学会北海道支部 学生発表会

＜所属学会・研究会＞電子情報通信学会／日本教育工学会／日本感性工学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞所属メンバーへのソフトウェア利用に関する個別指導等「色彩分析ソフトウェアの活用方法」（平成27年8月28日、札幌イメージコーディネート研究会）／札幌市長グリーンディングカードデザイン審査会「札幌市長グリーンディングカードデザイン審査会」（平成27年11月4日、札幌市国際部）

片山 めぐみ

＜著書＞1.人を結び、未来を拓く世代間交流（世代間交流の理論と実践 1）（共著、平成27年4月、あけび書房、9.78487E+12、pp.25-40）

＜調査研究報告書＞1.動物福祉に配慮した動物愛護管理施設のハードとソフトのデザインに関する研究（単著、平成28年3月、札幌市立大学）／2.創成東地区におけるアーバンデザインセンターのあり方と創出方法に関する研究（共著、平成28年3月、札幌市立大学、pp.35-41）／3.三角屋根CB造住宅のストック価値再考と持続可能な居住システムに関する研究（共著、平成28年3月、室蘭工業大学、pp.255-267）

＜学会発表＞1.世代間交流施設のデザイン教育（単独、平成27年10月、日本世代間交流学会第6回全



国大会) / 2.白ゆり美術館プロジェクト“見たことがあるを発見する”作品の制作(共同、平成28年2月、感性フォーラム札幌2016)

＜学会座長就任状況＞1.日本建築学会北海道支部研究発表会(平成27年7月、日本建築学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.デザイン学研究(4件、日本デザイン学会) / 2.札幌市立大学紀要(1件、札幌市立大学)

＜学会役員就任状況＞日本建築学会(日本建築学会北海道支部都市計画専門委員会委員) / 人工知能学会(人工知能学会「仕掛学」オーガナイズドセッション組織委員) / 日本建築学会(日本建築学会北海道支部研究発表会実行委員)

＜学術集会運営＞日本建築学会北海道支部研究発表会

＜講演会・講習会活動＞かれらの思いを世界に発信!? 障害者アートのブランディング企画(2015年9月14日、北海道情報大学) / 人がつながる参加型まちづくり「かみすみらいカフェ」(平成27年6月18日、一般社団法人鹿島青年会議所) / 行政との連携による地域活性プロジェクト「第96回北海道市議会議長会職員研修会」(平成27年7月28日、北海道市議会議長会) / 高齢者と地域とを結ぶ「あつまりたくなる場」のデザイン(平成27年10月27日、歌志内市)

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞仕掛けコンテストin天王寺動物園 審査委員(天王寺動物園)

小宮 加容子

＜作品発表＞1.授産施設「かたるべの森」木工製品提案(共同、平成27年11月5日～6日、ビジネスEXPO) / 2.きになる!(共同、平成28年3月、キッズワークショップカーニバルinふくしま)

＜受賞等＞1.日本デザイン学会第62回春季研究発表大会グッドプレゼンテーション賞(平成27年6月、日本デザイン学会) / 2.第9回キッズデザイン賞復興支援デザイン部門 遊びのワークショップ「こすってでるでる!もようがいっぱい」(平成27年7月、キッズデザイン協議会) / 3.第9回キッズデザイン賞感性・創造性部門 絵本の世界で頭と体と心を連動させる遊びのワークショップ(平成27年7月、キッズデザイン協議会)

＜学会発表＞1.素材に対する多様な見方を活かした遊び「しゃぼん玉とんだ!」の活動報告ー頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド」の取組み事例の報告(10)ー(共同、平成27年6月、日本デザイン学会第62回研究発表会) / 2.子ども自身による発展を促す遊び「こすってでるでる!もようがいっぱい」の活動報告ー頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド」の取組み事例の報告(9)ー(共同、平成27年6月、日本デザイン学会第62回研究発表会) / 3.子どもの能動的参加を促し、遊び場を構築する道具や手法に関する基礎的研究(共同、平成27年6月、日本デザイン学会第62回研究発表会) / 4.屋外遊びへの発展を促す屋内遊びの試み「こすってでるでる!もようがいっぱい」の活動報告ー頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド」の取組み事例の報告(11)ー(共同、平成27年8月、日本福祉のまちづくり学会第18回全国大会(柏大会))

＜論文査読・学会抄録査読＞1.デザイン学研究(1件、日本デザイン学会)

＜学会役員就任状況＞日本デザイン学会(春季研究発表大会概要集編集委員会幹事)

＜所属学会・研究会＞ヒューマンインタフェース学会 / 日本科学看護学会 / 日本リハビリテーション工学協会 / 日本機械学会 / 日本福祉のまちづくり学会 / 玩具福祉学会

＜講演会・講習会活動＞0さいからのげいじゅつのもり「ハコ×マチ×あそびlab!」(平成27年12月5日～平成28年4月17日、札幌芸術の森(札幌市芸術文化財団)、札幌市立大学) / 文化庁委託事業平成27年度の戦略的芸術文化創造推進事業「すごいぞ!これは」展の関連ワークショップとして実施「「けいとでおえかき」」(平成27年12月20日、文化庁、心揺さぶるアート事業実行委員会、札幌芸術の森美術館) / 北海道アールブリュットフォーラムの関連ワークショップとして実施「「けいとでおえかき」「とうめいおえかき」」(平成28年2月27日、北海道アールブリュットネットワーク協議会、北海道医療大学) / えほんだいすき!inチ・カ・ホ「オリジナル絵本作りワークショップ」(平成28年3月13日、札幌市中央図書館)

福田 大年

＜調査研究報告書＞1.札幌市立大学E-KANGO Project 2013&2014 保健師と在宅療養者を対象としたE-KANGOの運用 / 都市部のサービス付き高齢者向け住宅でのE-KANGOの運用(看護・デザインの共同事業)(平成28年3月、札幌市立大学)



＜作品発表＞（平成27年11月、ウォーターフロート）

＜受賞等＞1.第62回日本デザイン学会春季研究発表大会グッドプレゼンテーション賞（平成27年6月、日本デザイン学会）／2.第9回キッズデザイン賞 復興支援デザイン部門（平成27年7月、キッズデザイン協議会）／3.第9回キッズデザイン賞 コミュニケーションデザイン分野 子どもの未来デザイン 感性・創造性部門（平成27年7月、キッズデザイン協議会）／4.ヒューマンインタフェース学会研究会賞（平成28年3月、ヒューマンインタフェース学会）

＜学会発表＞1.子どもの能動的参加を促し、遊び場を構築する道具や手法に関する基礎的研究ーデザイン系大学の資源を活かした遊びのデザイナー（共同、平成27年6月、第62回 日本デザイン学会春季研究発表大会）／2.子ども自身による発展を促す遊び「こすってでるでる！もようがいっぱい」の活動報告ー頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド（Connekid）」の取組み事例の報告（9）ー（共同、平成27年6月、第62回 日本デザイン学会春季研究発表大会）／3.素材に対する多様な見方を活かした遊び「しゃぼん玉とんだ！」の活動報告ー頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド（Connekid）」の取組み事例の報告（10）ー（共同、平成27年6月、第62回 日本デザイン学会春季研究発表大会）

＜研究会発表等＞1.多人数の知恵を「浮き彫らせ、紡ぐ」協創型アイデア生成法「クルクルスケッチ」の事例報告（単独、平成27年11月、第127回ヒューマンインタフェース学会研究会ユーザエクスペリエンス・サービスデザインおよび一般（SIG-UXSD-02））

＜学会役員就任状況＞日本デザイン学会 第1支部会（日本デザイン学会 第1支部会 平成26・27年度 幹事）

＜所属学会・研究会＞日本デザイン学会／ヒューマンインタフェース学会／日本福祉のまちづくり学会／情報文化学会

＜講演会・講習会活動＞ペロタクシーデザイン しま専科「ペロタクシーデザイン しま専科」（平成28年1月23日～2月20日、NPO法人エコ・モビリティサッポロ）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞障がい者就労支援施設で生産販売する商品のブランド力向上に関する支援「看板商品・人気商品を作り出す研修会～手に入れようヒット商品！～」平成28年1月21日、北海道社会就労センター協議会・北海道知的障がい福祉協会）

松井 美穂

＜学術論文＞1.オリジナル版『サンクチュアリ』におけるホレス・ベンボウの「黒さ」について（単著、平成28年3月、『北海道アメリカ文学』、32号、pp.78-94）

＜学会シンポジウム＞1.孤児としての南部淑女ーナーシサ再読（単独、平成27年10月、日本ウィリアム・フォークナー協会シンポジウム「フォークナーと家族」）／2.Will Connie Be a Christian? “Where Are You Going, Where Have You Been?”における罪と主体と誘惑という装置（単独、平成27年11月、日本アメリカ文学学会北海道支部シンポジウム「キリスト教の中のアメリカ文学：神の不在と介在」）

＜学会役員就任状況＞日本アメリカ文学学会北海道支部（幹事）／日本アメリカ文学学会（大会運営委員、広報委員）

＜所属学会・研究会＞日本アメリカ文学学会／日本英文学会／日本カナダ文学会／日本ウィリアム・フォークナー協会／アメリカ学会

松永 康佑

＜作品発表＞1.（平成28年2月、2015 ASIA DIGITAL ART AWARD FUKUOKA）／2.（平成28年3月、南区役所まちなかアート）

＜受賞等＞1.入賞（平成28年2月、2015アジアデジタルアート大賞展実行委員会）

＜学会発表＞1.セルオートマトン法を用いた雪の結晶形状の生成（共同、2015年度日本図学会春季大会、平成27年5月）／2.干渉縞を用いた人の動きに反応する映像表現（共同、2015年度日本図学会春季大会、平成27年5月）／3.北海道における図法幾何教育の現況と未来（共同、2015年度日本図学会春季大会、平成27年5月）

＜学会シンポジウム＞1.さっぽろ雪まつりアーカイブ～VR体験と比較評価～（平成28年2月、感性フォーラム札幌2016）／2.新人看護師の静脈穿刺部位選定のためのプロトタイプ的设计と検討（平成28年2月、感性フォーラム札幌2016）



＜論文査読・学会抄録査読＞adada2015（2件、adada）

三谷 篤史

＜学術論文＞1.小児医療施設における「能動アート」プログラムの実践と評価ー「ナースコール・アート」ワークショップの分析（共著、平成27年12月、日本デザイン学会 デザイン学研究、62巻、4号、pp.43-50、pp.2794-2803、pp.2999-3008）

＜学会発表＞1.能動アート「ナースコール・アート」ワークショップの実践と評価ープログラムのデザイン要素と作品の考察（共同、平成27年6月、日本デザイン学会第62回春季大会）／2.口腔ケアシミュレータおよびその手技記録ソフトウェアの開発（共同、平成27年10月、第3回看護理工学会学術集会）／3.操作に反応するメカトロ積木を用いた視覚性記憶訓練ツールの開発（共同、平成27年10月、第3回看護理工学会学術集会）／4.Evaluation of Playing Style with Mechatronics System Embedded Building Blocks（共同、平成27年11月、IASDR2015）／5.Implementation and Evaluation of an 'Active Art' Program in Pediatric Care Facilities:Analysis of Workshops on 'Nurse Call Button Art'（共同、平成27年11月、IASDR2015）／6.能動アート型コミュニケーションツール用モジュールの開発とその制作ワークショップの実施（共同、平成28年3月、第11回日本感性工学会春季大会）

＜研究会発表等＞口腔ケアシミュレータの開発（平成27年11月、SCU産学官連携研究発表会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.Proceedings of ROBIO2015（6件、ROBIO2015）

＜学会役員就任状況＞精密工学会（代議員）／精密工学会北海道支部（商議員）／日本機械学会（ロボティクス・メカトロニクス部門第2地区技術委員会委員長）／日本トライボロジー学会（北海道トライボロジー研究会主査）

＜学術集会運営＞精密工学会北海道支部学術講演会／感性フォーラム2016札幌／SI2016／SII2016

＜所属学会・研究会＞日本機械学会／日本ロボット学会／計測自動制御学会／精密工学会／日本デザイン学会／アメリカ電気電子学会（IEEE）／看護理工学会／北海道トライボロジー研究会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞サッポロ・ロボットコーナーへのロボット展示（通年（年2回入れ替え）、札幌市青少年科学館）／道内関連研究者を対象とした研究会・見学会の実施（2回）（平成27年7月8日、平成28年2月26日、北海道トライボロジー研究会）／環境ひろばへのメカトロ積み木関連の展示（平成27年7月31日～8月2日、環境ひろば）／ACUまなびシェアキッズワークショップ2015への講師としての参加「めざせロボットぎじゅつしゃープログラミングたいけん」（平成27年8月3日、ACU）／地域の専門職、関連分野の学生を対象とした特別講演会の実施「人助けの技術創造」（平成27年9月25日、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門）／地下歩行空間への展示活動・シンポジウム実施運営（平成27年10月25日、Sapporo Design Week）

金子 晋也

＜学術論文＞1.近年の住宅建築における立面の資料整理ー「新建築 住宅特集」を資料としてー（共著、平成27年6月、札幌市立大学）

＜学会発表＞1.道内A区在住高齢者の外出困難要因の明確化 第一報（共同、平成27年7月、在宅ケア学会）／2.北海道沿岸部における漁業小屋の調査（共同、平成27年9月、日本建築学会）／3.坂道からみた函館市西部地区の空間構成（共同、平成27年9月、日本建築学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本建築学会技術報告集（1件、日本建築学会）／2.日本建築学会計画系論文集（1件、日本建築学会）

＜学会役員就任状況＞日本建築学会（木造建築構法小委員）

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／芸術工学会／木の建築フォーラム／在宅ケア学会

須之内 元洋

＜調査研究報告書＞1.「メディアアーツ」の産業での活用及び関連する産業人材の育成に向けた潜在ニーズ発掘型調査研究（共著、平成28年3月、札幌市）

＜作品発表＞1.浦河イン アートフェス「43d records」（共同、平成27年10月16日、浦河イン アートフェス）

＜所属学会・研究会＞Association for Computing Machinery／情報処理学会／芸術科学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞東日本大震災 写真アーカイブの運用支援（平成27年4月～平



成28年3月、NPOアットマークリアス) / 障害者施設の制作活動に関するデジタルアーカイブ企画・構築支援 (平成27年4月～、みずのき美術館) / 陶磁器デザイナー森正洋氏のデジタルアーカイブ構築アドバイス・支援 (平成27年4月～、合同会社森正洋デザイン研究所) / 2017冬季アジア札幌大会公式ホームページ構築支援・運用のアドバイス (平成27年4月～、第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会事務局) / 札幌国際芸術祭2014管理運営ログの抽出とアーカイブ化 札幌国際芸術祭ウェブサイトリニューアルのためのプロポーザル募集要項等作成協力 (平成27年7月～10月、札幌市) / Public Art Research Center 5 [PARC5 : Meeting Table] パブリックミーティングのライブ記録・可視化 (平成27年9月5日、9月6日、PROJECTA、札幌駅前通まちづくり株式会社) / アートとリサーチ ワークショップ記録の可視化及びアーカイブ化 (平成28年2月～3月、一般社団法人 AISプランニング) / アートプロジェクト活動のアーカイブ企画・運用支援 (平成28年3月～、NPOアートフル・アクション)

看護学部

中村 恵子

＜学術論文＞1.フィジカルアセスメント能力を向上させるシミュレーション学習の効果—準実験研究による分析— (共同、平成27年9月、日本救急看護学会誌Vol.17 (2)) / 2.入院患者の転倒リスクアセスメントツールの予測精度—国内データベースを用いた文献検討— (共同、平成28年1月、日本医療・病院管理学会誌Vol.53 (1))

＜学会発表＞1.熟練した救急看護師の語りから捉えた外傷看護実践における看護師の役割 (共同、平成27年6月12日、第29回日本外傷学会) / 2.一般病棟入院患者の転倒予防に向けた看護実践の実態調査 (共同、平成27年8月23日、日本看護研究学会第41回学術集会) / 3.指定インフォメーション・エクスチェンジ3「看護管理者が創成する地域包括ケア (共同、平成27年8月28日、第19回日本看護管理学会学術集会) / 4.大卒看護職者1年目から5年目の「看護師として必要な基本姿勢と態度」及び「社会人基礎力」の経年別変化 (共同、平成27年12月5日、第36回日本看護科学学会学術集会) / 5.Characteristics of Fall Risk Behaviors of Hospitalized Patients in Japanese Hospitals 19th EAFONS (共同、平成28年3月14日、East Asian Forum of Nursing Scholars)

＜研究会発表等＞1.疲弊する看護を救う (単独、平成27年7月、北の療養環境ケア研究会) / 2.地域包括ケア (単独、平成27年7月、NPO)

＜学会座長就任状況＞ワークショップ「重症外傷患者に対するチーム医療の役割」 (平成27年6月12日、第29回日本外傷学会) / 招聘講演「集中治療における専門性とチーム医療」 (平成27年6月28日、第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会) / 教育講演「時代を超えた看護の原理を伝えつづける看護学教育」 (平成27年8月18日、日本看護学教育学会第25回学術集会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本看護学教育学会誌 (1件、日本看護学教育学会) / 2.日本臨床救急医学会誌 (1件、日本臨床救急医学会) / 3.日本臨床救急医学会学術集会誌 (10件、日本臨床救急医学会) / 4.日本看護科学学会学術集会誌 (5件、日本看護科学学会) / 5.日本看護管理学会年次大会誌 (6件、日本看護管理学会)

＜学会役員就任状況＞一般社団法人日本救急看護学会 (代表理事) / 一般社団法人日本看護研究学会 (副理事長) / 一般社団法人日本看護学教育学会 (理事) / 一般社団法人日本看護管理学会 (理事) / 一般社団法人日本クリティカルケア看護学会 (社員) / 一般社団法人日本臨床救急医学会 (社員) / 一般社団法人集団災害医学会 (社員) / 公益法人日本看護科学学会 (社員) / 日本災害看護学会 (評議員) / 日本看護診断学会 (評議員) / NPO法人地域の包括的な医療に関する研究会 (理事) / コーチング研究会 (顧問) / 北のケア環境研究会 (代表)

＜所属学会・研究会＞公益社団法人日本看護科学学会 / 一般社団法人日本救急看護学会 / 一般社団法人日本看護管理学会 / 一般社団法人日本看護研究学会 / 一般社団法人日本看護教育学会 / 一般社団法人日本クリティカルケア看護学会 / 一般社団法人日本臨床救急医学会 / 一般社団法人日本集団災害医学会 / 日本災害看護学会 / 日本看護診断学会 / 日本看護技術学会 / 日本看護理工学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞救急医療財団研修会講師「トリアージ」 / 日本救急看護学会セミナー講師「救急看護」 / 北海道看護協会ファーストレベル講師「看護管理概説」 / 日本看護協会専門



看護師認定委員

樋之津 淳子

＜調査研究報告書＞1.外来通院中の関節リウマチ患者における口腔ケアに関する研究（共著、平成27年8月、勇美財団、オンライン）

＜学会発表＞1.使用済み注射針とキャップの取り扱いに関する研究－国内の書籍における横断的検討－（共同、平成27年10月、日本看護技術学会第14回学術集会）／2.臨地実習において患者の個別性に合わせた環境調整技術を教授する活動（共同、平成27年10月、日本看護技術学会第14回学術集会）／3.関節リウマチ患者の疾患活動性で比較した口腔清掃に伴う関節症状及び口腔内の状態（共同、平成27年11月、第30回日本臨床リウマチ学会）／4.大卒看護職者1年目から5年目の「看護師として必要な基本姿勢と態度」及び「社会人基礎力」の経年別変化（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／5.市民参加型の模擬患者養成プログラムの開発と評価～第1報 模擬患者活動に対する意識の変化～（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／6.市民参加型の模擬患者養成プログラムの開発と評価～第2報 模擬患者の成長に焦点を当てて～（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本看護技術学会誌（1件、日本看護技術学会）／2.日本看護研究学会雑誌（1件、日本看護研究学会）／3.第35回日本看護科学学会学術集会講演集（5件、日本看護科学学会）／4.看護人間工学研究誌（1件、日本人間工学会）／5.本学紀要（1件）／6.日本看護科学学会誌（1件、日本看護科学学会）

＜学会役員就任状況＞日本看護技術学会（評議員）／看護理工学会（評議員・監事）

＜学術集会運営＞日本看護研究学会第26回北海道地方会学術集会

＜所属学会・研究会＞日本看護研究学会／日本保健医療行動科学学会／日本人間工学会／日本老年泌尿器科学学会／日本泌尿器科学学会／日本がん看護学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本看護技術学会／日本看護管理学会／日本コンチネンス協会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞北海道専任教員養成講習会の講師「看護論」（平成27年7月28日、北海道保健福祉部）／北海道看護協会継続教育のあり方検討委員会委員「看護論」（平成27年8月4日、北海道看護協会）／研究会の運営委員、意見交換（北のケア環境研究会）

山本 勝則

＜学会発表＞1.保護室隔離の際に急性期にある患者から暴力を受けた看護師の思い（共同、平成27年6月、日本精神保健看護学会第24回学術集会・総会）／2.交流セッション22「看護師が行うマッサージ」を教えます（共同、平成27年8月、日本看護学教育学会第25回学術集会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.第35回日本看護科学学会学術集会（6件、日本看護科学学会）／2.応用心理学会研究（2件、日本応用心理学会）／3.SCJ JOURNAL（1件）

＜学術集会運営＞第83回日本応用心理学会大会長／日本精神保健看護学会第27回学術集会・総会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護研究発表会 講評講師（4演題）（北海道看護協会札幌第一支部）／卒業生対象シャトル研修（2回）（札幌市立大学看護学部）

宮崎 みち子

＜学術論文＞1.Laws related to the protection of women's health in Japan（共著、平成27年12月、Medicine and Law、34巻、4号、pp.635-643）

＜学会発表＞1.Support for Survivors of Sexual Assault in Japan（共同、平成27年6月、第25回国際看護師協会4年毎大会）／2.Children's Rightw and Marriage（共同、平成27年8月、第21回世界医事法学会）／3.Laws related to the protect of women's health in Japan（共同、平成27年8月、第21回世界医事法学会）／4.Legal Environment Decision Making for Children Treated for Pediatric Cancer（共同、平成27年8月、第21回世界医事法学会）／5.性暴力被害者支援センター北海道SACRACH－センター開設2.5年間の活動実態－（共同、平成27年8月、第34回日本思春期学会）／6.Fetel Care in Japan-From an Analysis of Relevant Textbooks（共同、平成27年10月、10thInternational Nursing Conference）／7.Thoughts Regarding the Right to Life of the fetus-Based on US Legal Precedent Related to Abortion（共同、平成27年10月、10thInternational Nursing Conference）／8.母性看護



学における看護実践能力を向上させるための教材開発ー装着型産褥子宮モデルー（共同、平成27年10月、第56回日本母性衛生学会）

＜学会座長就任状況＞分娩1（平成27年10月、第56回日本母性衛生学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本母性衛生学会誌（3件、日本母性衛生学会）／2.第56回日本母性衛生学会総会・学術集会（5件、日本母性衛生学会）

＜学会役員就任状況＞日本母性衛生学会（代議員）／北海道母性衛生学会（理事）／北海道公衆衛生学会（評議員）／日本母性衛生学会（査読委員）

＜学術集会運営＞第26回日本看護研究学会北海道地方会学術集会実行委員

＜所属学会・研究会＞日本助産学会／日本看護研究学会／日本医事法学会／日本看護管理学会／国際看護研究会／世界医事法学会／北海道公衆衛生学会／日本母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護倫理学会／日本看護学教育学会／日本思春期学会／日本生命倫理学会／北海道母性衛生学会

猪股 千代子

＜調査研究報告書＞1.看護白書：管理者教育/研修について（平成27年11月、日本看護協会）

＜学会発表＞1.中小規模病院の看護師長の経験に含まれる倫理的問題とその対応（共同、平成27年6月、日本看護倫理学会第8回年次大会）／2.「職場における仕事と子育ての両立支援体制が母親役割を持つ看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトに及ぼす影響」（共同、平成27年8月、第19回日本看護管理学会学術集会）／3.全人的統合医療のケアの特徴（単独、平成27年10月、第17IMJ北海道支部会）

＜学会シンポジウム＞1.健康長寿者社会を実現する統合医療とポジティブ看護ー生命力を高める七感に働きかける未来看護の潮流（平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）

＜研究会発表等＞1.健康長寿者社会を実現する統合医療とポジティブ看護（平成27年11月、SCU産学官研究交流会）

＜学会座長就任状況＞組織運営・組織分析4（平成27年8月、第19回日本看護管理学会学術集会）／始めませんか、術前外来ー多職種で実践する手術患者のリスク回避（平成27年10月、日本医療マネジメント学会第15回北海道支部学術集会）／中堅看護師育成の工夫や課題（平成27年10月、日本看護管理学会）／元気・笑顔をもたらす癒しのケア・心のケアを普及しましょう（平成27年12月、第19回日本統合医療学会山口大会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本統合医療学会誌（4件、日本統合医療学会）／2.日本看護管理学会（1件、日本看護管理学会）／3.日本医療マネジメント学会誌（4件、日本医療マネジメント学会第15回北海道支部学術集会）

＜学会役員就任状況＞日本統合医療学会（日本統合医療学会理事）／日本医療マネジメント学会（日本医療マネジメント学会評議委員）／日本看護管理学会（日本看護管理学会評議委員）／日本統合医療学会北海道支部（日本統合医療学会北海道支部評議委員）／日本統合医療学会看護部会北海道地区研究会（日本統合医療学会看護部会北海道地区研究会会長）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞オーダーメイド医療の紹介ー潔く・しなやかに・優雅に生きるセルフヘルスケア（全国パーキンソン病友の会富山県支部）

小田 和美

＜学術論文＞1.「看護の教育的関わりモデル」を用いたアクションリサーチ（共著、平成27年12月、日本看護科学学会誌、35巻、pp.235-246）

＜学会発表＞1.大卒看護職者1年目から5年目の「看護師として必要な基本姿勢と態度」及び「社会人基礎力」の経年別変化（共同、平成27年12月、日本看護科学学会学術集会）

＜学会座長就任状況＞セッション04「患者・家族の行動科学」（平成27年6月、日本保健医療行動科学学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞札幌市立大学研究論文集（平成27年11月、2件）

＜学会役員就任状況＞日本保健医療行動科学学会（指名理事）／日本糖尿病教育・看護学会（評議員）／日本循環器看護学会（査読委員）

＜所属学会・研究会＞日本糖尿病教育・看護学会／日本看護科学学会／患者教育研究会／日本保健医療行動科学学会／日本糖尿病・妊娠学会／日本糖尿病学会／日本看護研究学会／日本循環器看護学会／日本



がん看護学会／千葉看護学会／日本看護学教育学会／日本心身医学会
 <専門職者・企業・展覧会等への支援>看護研究の指導（手稲溪仁会病院）

河原田 まり子

<学術論文>1.首尾一貫感を改善する介入方法に関する文献的考察（共著、平成27年6月、札幌市立大学研究論文集、9巻、1号、pp.15-23）／2.2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めると認識している支援内容の検討（共著、平成27年9月、日本糖尿病教育・看護学会誌、19巻、2号、pp.157-165）

<調査研究報告書>1.市民参加型のSCU模擬患者養成プログラムの開発（共著、平成27年8月、札幌市立大学COC研究企画推進チーム、pp.7-13）

<解説文>1.第18回産業医・産業看護・産業衛生技術・産業歯科保健合同研修会報告（単著、平成27年8月、北方産業衛生、52号、pp.11-11）

<学会発表>1.看護師教育において強化すべき地域看護学の教育内容（共同、平成27年8月、日本地域看護学会第18回学術集会）／2.Support pf the Elderly in Urban Communities and Support-Related Issues（共同、平成27年8月、6th ICCHNR）／3.Necessity of Community Haelth Nursing Program in Nursing Education as Perceived by Nursing Teachers in Japan（共同、平成27年8月、6th ICCHNR）／4.地域保健活動に活用できるソーシャルキャピタル測定尺度開発のための予備調査（共同、平成27年10月、第74回日本公衆衛生学会）／5.市民参画型模擬患者養成プログラムの開発と評価～第1報模擬患者活動に対する意識の変化（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／6.市民参画型模擬患者養成プログラムの開発と評価～第2報模擬患者の成長に焦点を当てて（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／7.地域保健分野で活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度の開発（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／8.ソーシャル・キャピタルを醸成する保健師活動の特徴（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／9.都市部に居住する高齢者の健康及び生活状況とソーシャル・キャピタルとの関連（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／10.都市部に居住する高齢者のうつ状態に関連する要因（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／11.後期高齢者の社会活動の実践に関連する要因（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／12.Developing an Education Program to Enhance Sence of Coherence in Patients with Diabetes Mellities Type2（共同、平成28年2月、19th EAFONS）

<研究会発表等>1.市民参画型模擬患者養成プログラムの開発と評価～第1報（共同、平成27年11月、SCU産学官研究交流会実行委員会）／2.市民参画型模擬患者養成プログラムの開発と評価～第2報（共同、平成27年11月、SCU産学官研究交流会実行委員会）

<学会座長就任状況>地域高齢者の健康課題とレジリエンス（単独、平成27年8月、日本地域看護学会）／地域づくり②（単独、平成28年1月、日本公衆衛生看護学会）

<論文査読・学会抄録査読>1.日本産業衛生学会誌（2件、日本産業衛生学会）／2.日本地域看護学会誌（1件、日本地域看護学会）

<学会役員就任状況>日本産業看護学会（日本産業看護学会評議員）／看護総合科学研究会（看護総合科学研究会監事）／日本産業衛生学会地方会（日本産業衛生学会地方会理事（研修委員長））／日本産業衛生学会（日本産業衛生学会代議員）／北海道公衆衛生学会（北海道公衆衛生学会常任理事）／日本公衆衛生看護学会（日本公衆衛生看護学会評議員）／日本看護科学学会（日本看護科学学会代議員）／日本地域看護学会（日本地域看護学会代議員）

<学術集会運営>第68回北海道公衆衛生学会学術集会学会長（平成28年10月開催）

<専門職者・企業・展覧会等への支援>産業保健相談員（北海道産業保健推進センター）

川村 三希子

<学術論文>1.緩和ケア認定看護師の捉えるスピリチュアリティ（共著、平成27年6月、死の臨床、38巻、1号、pp.184-189）／2.学生をひきつける講義の工夫②教材の使い方（単著、平成28年1月、がん看護、21巻、1号、pp.50-53）

<著書>1.事例で理解する最新緩和ケア（共著、平成27年6月、看護の科学社、978-4-87804-089-4、pp.2-12）

<調査研究報告書>1.公益財団法人勇美記念財団 在宅看取りをテーマにした市民のつどい（平成27年



7月、勇美財団) / 2.公益財団法人勇美記念財団 その人らしい平穏な看取りを叶えるために 基礎編：意向を聞くコミュニケーションスキル (平成27年9月、勇美財団)

＜学会発表＞1. Providing and sharing information and consultation for cancer care on city streets (共同、平成27年5月、14th World congress of the European association for palliative care) / 2.がん診療拠点病院未整備の二次医療圏内に住むがん患者家族の医療に対するニーズ (共同、平成27年6月、第20回日本緩和医療学会) / 3.広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会) / 4.積雪寒冷地の地域高齢者のQuality of life (EuroQOL効用値)の実態 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会) / 5.在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会) / 6.地域在住高齢者の生活実態 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会) / 7.意思決定をすることが困難ながん患者の家族の治療選択におけるプロセス (共同、平成28年2月、第30回日本がん看護学会)

＜学会シンポジウム＞1.看護ケアの最新エビデンス (単独、平成27年6月、第20回日本緩和医療学会)

＜学会招聘講演＞1.死を見据えつつ今を生き抜く患者の強さに学ぶ (単独、平成27年9月、第15回日本音楽療法学会)

＜研究会発表等＞1.認知症を伴うがん患者の入院判定の実態と看護管理上の困難

＜学会座長就任状況＞教育講演：治療期における症状マネジメント～エキスパートの力を活かす～ (日本がん看護学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本がん看護学会誌 (2件) / 2.日本緩和医療学会 (10件) / 3.日本緩和医療学会 (1件)

＜学会役員就任状況＞NPO法人日本緩和医療学会 (代議員・査読委員・ELNEC-JWPG、看護職セミナーWPG) / NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会 (理事・教育委員) / NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部 (役員) / NPO法人日本がん看護学会 (評議員) / 札幌ホスピス緩和ケアネットワーク (副代表) / 日本看護科学学会 (査読委員)

＜学術集会運営＞日本死の臨床研究会 / 日本サイコオンコロジー学会

＜所属学会・研究会＞日本がん看護学会 / 日本看護科学学会 / 日本緩和医療学会 / 日本死の臨床研究会 / 日本臨床死生学会 / European Association for palliative care

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞ELNEC-J高齢者プログラム研修会 (平成27年8月1日～2日、北海道看護協会) / エンドオブライフを支えるコミュニケーションbasic (平成27年8月22日、札幌ホスピス緩和ケアネットワーク) / ELNEC-J研修会 (平成27年8月25日～26日、北海道看護協会) / ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成研修 (平成27年9月4日～6日、日本緩和医療学会) / ELNEC-J指導者フォローアップ研修 (平成27年9月17日、日本緩和医療学会) / がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 (平成28年2月13日、KKR札幌医療センター)

定廣 和香子

＜著書＞1.看護実践・教育のための測定用具ファイル 第3版 (共著、平成27年10月、医学書院、978-4-260-02165-4、pp.54-63) / 2.院内教育プログラムの立案・実施・評価 第2版 (共著、平成27年12月、医学書院、978-4-260-02395-5、pp.227-244)

＜学会発表＞1.看護師個人が看護の質を維持するための手段 (共同、平成27年10月、日本看護技術学会 第14回学術集会) / 2.女性看護師の飲酒行動と自己コントロールの実際－北海道内の病院に勤務する看護師に焦点を当てて－ (共同、平成27年10月、日本看護技術学会 第14回学術集会) / 3. Quality of Nursing Faculty Activities for Prevention Nursing Students' Medical Accident and Association tu Their Attributes in Japan (共同、平成27年11月、Sigma theta tau international 43rd Biennial Convention) / 4.医療事故の当事者となった新人看護師の経験 (共同、平成27年11月、医療の質と安全学会) / 5.「実習安全のための教授活動自己評価尺度－看護学教員用－ (試行版)」の作成 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会) / 6.精神科看護師の疼痛アセスメント能力と個人特性との関係 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会) / 7.病院に再就職した看護職者が就職後に直面する問題 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本看護科学学会 学術集会 (4件、平成27年6月) / 2.札幌市立大学紀要 (1件、平成27年12月) / 3.日本看護学教育学会 第26回学術集会 (4件、平成28年3月)

＜学会役員就任状況＞日本看護学教育学会 (評議員) / 日本看護教育学会 (看保連 診療報酬のあ



り方検討会委員)

＜学術集会運営＞日本看護教育学学会

＜所属学会・研究会＞日本看護教育学学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／医療の質と安全学会／sigma theta tau international honor society of nursing

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞実習指導者研修会「臨床指導者研修Ⅰ」（平成27年5月11日、市立札幌病院）／実習指導者研修会「看護教育論」（平成27年6月29日～30日、秋田県）／専任教員養成講習会「看護論」（平成27年7月13日・27日、北海道）／FD研修会講師「統合カリキュラム編成の実際」（平成27年12月25日、旭川医科大学）

スーディ神崎 和代

＜学術論文＞1.在宅死を可能にするための在宅ケア基盤づくりの方略（共著、平成27年5月、地域ケアリング、17巻、6号、pp.42-47）／2.異分野連携・融合による超高齢社会支援（CDROM）（単著、平成27年9月、日本機械学会学術集会誌、15巻、1号、pp.1-5）／3.Allowing people to be cared at home（単著、平成27年11月、Finland&Hokudai joint symposium集、pp.48-48）／4.オンラインアンケートを用いた回答者の理解度向上を通じた製品設計手法（共著、平成28年2月、日本感性工学論文誌、pp.1-7）／5.札幌市南区における高齢者の住まいのアプローチ空間の構成（共著、平成28年3月、札幌市立大学紀要）

＜著書＞1.医療事前指示書：私への医療・私の終末期はこうしてほしい（編著及び共著、平成28年2月、ナカニシヤ出版、9.78478E+12、pp.1-93）

＜調査研究報告書＞1.E-KURASHIとロボット実験（共著、平成27年4月、札幌市立大学、pp.1-19）／2.COC共同研究 札幌市南区における高齢者の外出困難要因の明確化（共著、平成27年7月、札幌市立大学、pp.1-8）／3.地域住民を交えたデザイン・看護合同シュミレーション教育の基礎的研究（共著、平成28年3月、札幌市立大学、pp.1-27）／4.保健師と在宅療養者を対象にしたE-KANGOの運用/都市部のサービス付き高齢者住宅でのE-KANGOの運用（共著、平成28年3月、札幌市立大学、pp.1-59）／5.COC事業 研究企画推進班（共著、平成28年3月、札幌市立大学COC）

＜その他の論文＞1.あなたの意思と願を叶える医療事前指示書（単著、平成27年6月、BEST NURSE、26巻、6号、pp.32-33）

＜実務関係報告書＞1.ウエルネス x 協奏型地域社会の担い手育成事業報告書（平成28年3月、札幌市立大学）

＜解説文＞1.魂の引っ越し：医療事前指示書とは（単著、平成27年10月、新陽会、pp.11-11）

＜学会発表＞1.北海道の老人福祉施設における腎臓管理を必要とする高齢者の受け入れ実態（共同、平成27年5月、日本創傷・オストミー・失禁管理学会）／2.ICT use as adelaying tool for elderly patients with mild dementia（単独、平成27年6月、KUOPIO Alzheimr Symposium Finaland）／3.意思決定を支援する医療事前指示書：フォーカスグループによる検証（共同、平成27年7月、日本在宅ケア学会）／4.道内A区在住高齢者の外出困難要因の明確化（共同、平成27年7月、日本在宅ケア学会）／5.高齢社会に果たす感性工学の役割：高齢社会とICT（単独、平成27年9月、日本機械学会）／6.広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）／7.看護系大学での看護基礎教育課程における国際看護科目の課題（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）／8.積雪寒冷地の地域在住高齢者のQOL（EurQOL効用値）の実態（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）／9.在宅高齢者の外出困難の状況とQOLの関連（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）／10.地域在住高齢者の生活の実態（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）／11.市民を交えたシュミレーション授業の効果計測手法の検討（共同、平成28年3月、日本感性工学学会春季大会）／12.sustainability week:北海道大学/Finland"北極地域における人の暮らし"（単独、Sustainability Week）

＜学会シンポジウム＞1.北海道大学/Finland"北極地域における人の暮らし"のシンポジスト（単独、平成27年11月、Sustainability Week Symposium）

＜学会招聘講演＞1.看護の日 基調講演（単独、平成27年5月、北海道看護協会）

＜研究会発表等＞1.道内A区在住高齢者の外出困難要因の明確化（共同、産学官連携研究発表会）／2.意思決定を支援する医療事前指示書：フォーカスグループによる検証（共同、産学官連携研究発表会）



＜学会座長就任状況＞看護分科会：地域と共に生きる、創造する看護の在り方（平成27年10月、全国自治体病院学会）

＜学会役員就任状況＞北海道公衆衛生学会（評議員）

＜学術集会運営＞第22回（2017年）日本在宅ケア学会

＜所属学会・研究会＞日本在宅ケア学会／日本遠隔医療学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／北海道公衆衛生学会／日本看護管理学会／日本ルーラルナーシング学会／北海道ホームヘルス研究会（3HR）／北のケア環境研究会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞介護における高齢者のICT利活について（平成27年6月3日、新陽パソコン倶楽部）／終末期医療について講演（平成27年6月24日、北海道医療福祉産業研究会）／20周年記念講演（平成27年9月11日、市立札幌病院やさしさGENTLE）／認知症の基本的理解（平成27年10月16日、北成病院）／地域包括ケアシステムの背景と意図の理解のもとに看護師職者はどうつながる（平成27年10月24日、北海道看護協会空知支部）／介護・福祉分野における将来課題と工学分野が取り組むべき技術課題（平成27年11月9日、本田技術研究所）／オープン講演：変遷する社会の中で看護倫理の原点に立つ（平成28年2月27日、市立札幌病院企画）／意思決定を尊重した人生の最終段階への支援（平成28年3月5日、公益財団法人：社会福祉会）／極寒の夜のマーシャラ（平成28年3月13日、社会的健康と地域づくりを支える研究会）／貴方の意思と願を叶える医療事前指示書（平成28年3月23日、北白石区民生委員・児童委員協議会）／訪問看護養成講座（北海道看護協会）／運営委員（北のケア環境研究会）／ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員（札幌医科大学）

松浦 和代

＜学術論文＞1.Evaluation of Playing Style with Mechatronics System Embedded Building Blocks（共著、平成27年11月、IASDR2015 Proceedings、pp.1-9）

＜その他の論文＞1.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第1回）札幌市立大学が企画した卒業生へのアサーティブ研修（共著、平成27年9月、医学書院、25巻、9号、pp.826-830）／2.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第2回）ノン・アサーティブタイプ教材「オロオロの巻」（共著、平成27年10月、医学書院、25巻、10号、pp.938-941）／3.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第3回）ノン・アサーティブタイプ教材「ドッカン」の巻」（共著、平成27年11月、医学書院、25巻、11号、pp.1050-1053）／4.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第4回）ノン・アサーティブタイプ教材「ネッチー」の巻」（共著、平成27年12月、医学書院、25巻、12号、pp.1144-1147）／5.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第5回）”What’sチームワーク”シリーズ教材（1）「新人VS新人の巻」（共著、平成28年1月、医学書院、26巻、1号、pp.94-97）／6.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第6回）”What’sチームワーク”シリーズ教材（2）「新人フォローの巻」（共著、平成28年2月、医学書院、26巻、2号、pp.200-204）／7.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第7回）”What’sチームワーク”シリーズ教材（3）「新人VS2年目看護師の巻」（共著、平成28年3月、医学書院、26巻、3号、pp.304-308）

＜実務関係書＞1.モンゴル語版DDH予防ポケットマニュアル（共著、平成27年12月、モンゴル国立母子保健センター）

＜実務関係報告書＞1.JICA草の根技術協力事業（モンゴル国）先天性股関節脱臼ハイリスク児の育児指導（共著、平成28年3月、札幌市立大学看護学部）

＜学会発表＞1.NICU入院児の父親の親性に対するNICUエキスパート看護師のアセスメントと看護（共同、平成27年7月、日本小児看護学会第25回学術集会）／2.小児看護学実習における看護実践能力習得の実態と課題（共同、平成27年7月、日本小児看護学会第25回学術集会）／3.大学主催による新卒看護師のための社会化支援の評価（第1報）卒業前スキルアップトレーニングについて（共同、平成27年8月、日本看護学教育学会第25回学術集会）／4.大学主催による新卒看護師のための社会化支援の評価（第2報）シャトル研修について（共同、平成27年8月、日本看護学教育学会第25回学術集会）／5.特別支援学校における医療的ケアの実践に対する保護者のニーズ-教員へのニーズに諸点を当てて-（共同、平成27年8月、日本育療学会第19回学術集会）／6.北海道内小学校の保健授業における医教連携ニーズ（共同、平成27年10月、第50回北海道学校保健学会）／7.北海道内中学校の保健授業にお



ける医教連携ニーズ（共同、平成27年10月、第50回北海道学校保健学会）／8.操作に反応するメカトロ積木を用いた視覚性記憶訓練ツールの開発（共同、平成27年10月、第3回看護理工学会学術集会）／9.Evaluation of Playing Style with Mechatronics System Embedded Building Blocks（共同、平成27年11月、IASDR 2015 Congress）

＜研究会発表等＞1.病院木質化座談会（単独、平成28年2月、道産針葉樹を活用した新規製品開発検討委員会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本小児看護学会講演集（5件、日本小児看護学会第25回学術集会）／2.日本看護学教育学会講演集（5件、日本看護科学学会）／3.日本小児看護学会誌（1件、日本小児看護学会第25回学術集会）／4.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）

＜学会役員就任状況＞日本看護科学学会（公益社団法人日本看護科学学会社員（北海道地区））／北海道小児保健研究会（北海道小児保健研究会幹事）／北海道学校保健学会（北海道学校保健学会評議員）／北海道成育看護研究会（北海道成育看護研究会理事）／全国病弱教育研究会（全国病弱教育研究会地域担当世話人（東日本ブロック北海道））

＜学術集会運営＞日本看護研究学会第26回北海道地方学術集会

＜所属学会・研究会＞日本小児看護学会／日本看護教育学会／日本看護科学学会／日本学校保健学会／日本小児保健協会

＜講演会・講習会活動＞ACUまなびシェアキッズワークショップ2015 講義・ワークショップ「小児看護師の仕事にチャレンジ！」（平成27年8月3日、ACU）／思春期保健講演会「10代を生きるみなさんへのメッセージ～見つめよう心と体、そして性～」（平成27年11月9日、帯広大谷高校）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞実地指導者研修「新人看護師の学習支援」（平成27年6月2日・11日、札幌医科大学附属病院）／病室用木質インフィルモニタリング調査・展示会「病室用木質インフィルモニタリング調査・内覧会」（平成28年2月2日～2月28日、渡島地域病室木質化検討委員会）

上村 浩太

＜実務関係報告書＞1.COCウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成学び舎事業 平成27年度成果報告書（共著、平成28年3月、札幌市立大学、pp.22-25）

＜学会発表＞1.小児看護学実習における看護実践能力習得の実態と課題（共同、平成27年7月、第25回日本小児看護学会）／2.市民参画型の模擬患者養成プログラム開発と評価～第1報 模擬患者活動に対する意識の変化（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／3.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発と評価～第2報 模擬患者の成長に焦点を当てて～（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）

＜研究会発表等＞1.小児医療における食事制限～小児がんの子どもと家族に焦点を当てて～（平成27年7月、食品加工研究センター 視察研究交流会）／2.市民参画型の模擬患者養成プログラム開発と評価～第1報 模擬患者活動に対する意識の変化（平成27年11月、道総研研究交流会）／3.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発と評価～第2報 模擬患者の成長に焦点を当てて～（平成27年11月、道総研研究交流会）

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本小児看護学会／日本小児がん看護学会／日本小児保健学会／日本学校保健学会／北海道成育看護研究会

＜講演会・講習会活動＞ACUまなびシェア キッズワークショップ2015「小児看護師の仕事にチャレンジ！」（平成27年8月3日）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞病児・病後児保育の基礎A・B（平成27年6月16日、恵庭市緊急サポートネットワーク）／病児の身体的・心理的苦痛とその援助方法（平成27年7月24日、江別市緊急サポートネットワーク）／病児支援の基礎知識（平成27年10月30日、千歳市緊急サポートネットワーク）

大野 夏代

＜その他の論文＞1.マッサージによるリスクを最小化する試み（共著、平成27年4月、日本看護技術学会誌、14巻、1号、pp.46-48）／2.新人看護師の組織社会化を目指す アサーティブ研修 教材の作成と学習展開 1「札幌市立大学が企画した卒業生へのアサーティブ研修」（共著、平成27年9月、医学



書院看護管理、25巻、9号、pp.826-830) / 3.新人看護師の組織社会化を目指す アサーティブ研修教材の作成と学習展開 2 「ノン・アサーティブ教材①オロオロの巻」 (共著、平成27年10月、医学書院看護管理、25巻、10号、pp.938-941) / 4.新人看護師の組織社会化を目指す アサーティブ研修教材の作成と学習展開 3 「ノン・アサーティブ教材②ドッカン」 (共著、平成27年11月、医学書院看護管理、25巻、11号、pp.1050-1053) / 5.新人看護師の組織社会化を目指す アサーティブ研修教材の作成と学習展開 4 「ノン・アサーティブ教材③ネッチー」 (共著、平成27年12月、医学書院看護管理、25巻、12号、pp.1144-1147) / 6.新人看護師の組織社会化を目指す アサーティブ研修教材の作成と学習展開 5 「What's チームワーク? ①新人VS新人の巻」 (共著、平成28年1月、医学書院看護管理、26巻、1号、pp.94-97) / 7.仰臥位による足浴の同一体位がもたらす身体負荷に対する主観と生理反応 (共著、平成28年1月、日本看護技術学会誌、15巻、1号、pp.64-73) / 8.新人看護師の組織社会化を目指す アサーティブ研修 教材の作成と学習展開 6 「What's チームワーク? ②新人フォローの巻」 (共著、平成28年2月、医学書院看護管理、26巻、2号、pp.200-203) / 9.新人看護師の組織社会化を目指す アサーティブ研修 教材の作成と学習展開 7 「What's チームワーク? ③新人VS2年目看護師の巻」 (共著、平成28年3月、医学書院看護管理、26巻、3号、pp.304-308)

＜実践報告書＞1.第35回日本看護科学学会学術集会：「未来看護」への展望を交流 (単著、平成28年1月、日本統合医療学会会報、21号、pp.4-4)

＜学会発表＞1.看護系大学における海外交流研修事業の課題—引率教員の役割や資質について (共同、平成27年8月、日本看護学教育学会第25回学術集会) / 2.「看護師が行うマッサージ」を教えます (共同、平成27年8月、日本看護学教育学会第25回学術集会) / 3.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価 (第1報) 卒業前スキルアップトレーニングについて (共同、平成27年8月、日本看護学教育学会第25回学術集会) / 4.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価 (第2報) シャトル研修について (共同、平成27年8月、日本看護学教育学会第25回学術集会) / 5.臨地実習において患者の個別性に合わせた環境調整技術を教授する活動 (共同、平成27年10月、日本看護技術学会第14回学術集会) / 6.健康長寿社会を実現する統合医療とポジティブ看護—自然治癒力を惹起させる七感に働きかける未来看護の潮流 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.国際看護研究会第18回学術集会抄録 (5件、国際看護研究会第18回学術集会) / 2.札幌保健医療大学紀要第2巻 (1件)

＜学会役員就任状況＞国際看護研究会 (運営委員)

＜学術集会運営＞日本看護研究学会第26回北海道地方学術集会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会 / 日本看護研究学会 / 国際看護研究会 / 日本看護学教育学会 / 国際看護交流協会 / 日本国際保健医療学会 / 日本渡航医学会 / 日本人間工学会 / 日本人間工学会看護人間工学部会 / 看護における指圧マッサージ研究会

＜講演会・講習会活動＞医療通訳ボランティア養成研修2015「感染症に関する基礎知識」 (平成27年7月26日、特定非営利活動法人エスニコ)

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞新入職看護職員の面談 (平成27年7月1日・7月10日、IMSグループ) / 勤医協札幌病院看護研究指導 (大学・病院 連携プロジェクト)

貝谷 敏子

＜学術論文＞1. Cost-utility analysis of an advanced pressure ulcer management protocol followed by trained wound, ostomy, and continence nurses. (単著、平成27年10月、Wound Repair Regen.、23巻、6号、pp.915-921)

＜その他の論文＞1. WOCナーシング 褥瘡患者のQOL向上を目指したドレッシング材の選択 (単著、平成27年10月、医学出版、3巻、10号、pp.84-90)

＜学会発表＞1. 褥瘡患者における日本語版EuroQolの信頼性と妥当性の検討 (共同、平成27年8月、日本褥瘡学会) / 2. Freiburg Life Quality Assessment-wound module (FLQA-w) 日本語版の信頼性・妥当性の検討 (共同、平成27年8月、日本褥瘡学会) / 3. 広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会) / 4. 積雪寒冷地の地域高齢者のQuality of life (EuroQOL効用値) の実態 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会) / 5. 在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会) / 6. 地域在住高齢者の生活実態 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会) / 7. 市民参画型の模擬患者養成プログラムの開



発と評価～第1報 模擬患者活動に対する意識の変化～（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／8.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発と評価～第2報 模擬患者の成長に焦点を当てて～（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）

＜研究会発表等＞1.リソースナースの地域活用によるシームレスな連携体制の構築と効果の検証（平成27年11月、産学官連携発表会）

＜学会座長就任状況＞保存的治療（平成27年8月、日本褥瘡学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.看護理工学学会誌（1件、看護理工学学会）／2.天使大学紀要（1件、天使大学）／3.日本創傷オストミー失禁管理学会誌（1件、日本創傷オストミー失禁管理学会）／4.札幌市立大学紀要（1件、札幌市立大学）／5.第25回日本創傷オストミー失禁管理学会（6件、日本創傷オストミー失禁管理学会）

＜学会役員就任状況＞日本褥瘡学会（評議員）／日本創傷オストミー失禁管理学会（庶務）／看護理工学学会（編集委員）

＜学術集会運営＞第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会プログラム委員

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護研究 基調講演（市立札幌病院）／東京大学大学院医学系研究科アドバンストナーシングテクノロジー 講演（東京大学病院）

菊地 ひろみ

＜学会発表＞1.人の居場所を探る対話型手法「居場所曼荼羅」の構築—第1報—構築プロセスと第1版（共同、平成27年8月、第41回日本看護研究学会学術集会）／2.人の居場所を探る対話型手法「居場所曼荼羅」の開発—第2報—療養環境における利用の可能性（共同、平成27年8月、第41回日本看護研究学会学術集会）／3.在宅神経難病療養者の療養継続に対する療養通所介護の役割—SEIQol—DWによる検討（単独、平成27年11月、第5回日本在宅看護学会学術集会）

＜学会座長就任状況＞広い！寒い！遠い！北の在宅医療を支えるプロフェッショナル（平成27年10月、第21回全国の集いin北海道）

＜学会役員就任状況＞北海道公衆衛生学会（評議員）

＜学術集会運営＞NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第21回全国の集いin北海道／第68回北海道公衆衛生学会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本難病看護学会／日本難病医療ネットワーク学会／日本プライマリケア学会／日本在宅ケア学会／日本在宅看護学会／日本がん看護学会／日本遠隔医療学会／日本看護研究学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護研究支援（札幌厚生病院）／訪問看護スキルアップ講座（訪問看護師）

清水 光子

＜学会発表＞1.Support of the Elderly in Urban Communities and Support-Related Issues（共同、平成27年8月、ICCHNR Confence）／2.OSCEにおけるタブレット型端末を活用した効果的な評価システムに関する研究 第一報（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）／3.OSCEにおけるタブレット型端末を活用した効果的な評価システムに関する研究 第二報（共同、平成27年12月、日本看護科学学会）／4.都市部に居住する高齢者の健康及び生活状況とソーシャル・キャピタルとの関連（共同、平成28年1月、日本公衆衛生看護学会）／5.都市部に居住する高齢者のうつ状態に関する要因（共同、平成28年1月、日本公衆衛生看護学会）／6.後期高齢者の社会活動の実践に関する要因（共同、平成28年1月、日本公衆衛生看護学会）

＜学会座長就任状況＞一般演題（示説）p6群 高齢者保健①（平成28年1月、日本公衆衛生看護学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.SCU JOURNAL（1件）

＜学会役員就任状況＞北海道公衆衛生学会（北海道公衆衛生学会評議員）

＜学術集会運営＞北海道公衆衛生学会

＜所属学会・研究会＞日本公衆衛生学会／日本公衆衛生看護学会／日本地域看護学会／日本看護科学学会／北海道公衆衛生学会／看護総合科学研究会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞支部職能委員長会議（平成27年7月3日、北海道看護協会保健師職能委員）／保健師職能集会（2015年7月4日、北海道看護協会保健師職能委員）／北海道ブロック



研修会「公衆衛生看護学実習と人材育成について」（平成27年9月12日、全国保健師長会）／北海道保健師関係団体連絡会研修会「保健師基礎教育と現任教育の関わり」（平成27年12月19日、北海道保健師関係団体連絡会）／保健師国家試験の出題内容に関する調査への協力（平成28年2月19日、全国保健師教育機関協議会）

菅原 美樹

＜学術論文＞1.フィジカルアセスメント能力を向上させるシミュレーション学習の効果 準実験研究による分析（共著、平成27年8月、日本救急看護学会雑誌、17巻、2号、pp.45-55）

＜著書＞1.疾患別看護過程（共著、平成27年9月、学研メディカル秀潤社、9.78478E+12）

＜その他の論文＞1.患者さんの全体像がみえる疾患別看護過程（第9回）無症候性心筋虚血 冠動脈バイパス術を受ける事例（共著、平成27年11月、学研メディカル秀潤社、3巻、2号、pp.53-86）

＜学会発表＞1.重症外傷患者に対するチーム医療の役割 熟練した救急看護師の語りから捉えた外傷看護実践における看護師の役割（共同、平成27年5月、第29回日本外傷学会総会・学術集会）／2.看護におけるフィジカルアセスメント能力を評価するOSCE評価表の一致率の検証（共同、平成28年3月、第43回日本集中治療医学会学術集会）

＜学会座長就任状況＞患者の思いと体験（平成27年6月、日本クリティカルケア看護学会）／これからの国際感染症に備える（平成27年6月、日本救急看護学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本救急看護学会雑誌第17巻2号（1件、日本救急看護学会）／2.日本クリティカルケア看護学会誌第11巻2号（5件、日本クリティカルケア看護学会）／3.日本救急看護学会雑誌第17巻3号（5件、日本救急看護学会）／4.日本クリティカルケア看護学会誌第12巻1号（1件、日本クリティカルケア看護学会）／5.SCU JOURNAL OF DESIGN & NURSING（1件、札幌市立大学）

＜学会役員就任状況＞日本救急看護学会（理事）／日本クリティカルケア看護学会（将来構想検討委員）／日本循環器看護学会（専任査読委員）／北のケア環境研究会（北のケア環境研究会運営委員）／看護系学会等社会保険連合（社員）

＜所属学会・研究会＞日本救急看護学会／日本クリティカルケア看護学会／日本循環器看護学会／日本臨床救急医学会／日本集中治療医学会／日本看護科学学会／日本看護教育学学会／日本看護研究学会／日本災害看護学会／日本看護管理学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞トリアージナース育成研修会の運営支援（日本救急看護学会）／基礎病態セミナーの運営支援（日本救急看護学会）／『シミュレーション教育とOSCEによる看護実践力評価』（Nursing SUN in Tokyo）

古都 昌子

＜学術論文＞1.実習施設と教育施設との連携に向けての具体的方策（共著、平成27年6月、札幌市立大学研究論文集、第9巻、1号、pp.25-30）

＜著書＞1.看護学生のなぜ？どうして？看護の統合と実践10（共著、平成27年5月、MEDICMEDIA、978-4-89632-578-2）

＜実務関係書＞1.看護師国家試験問題集Select必修2016（平成27年4月、MEDICMEDIA）／2.看護師・看護学生のためのレビューブック2017（平成28年3月、MEDICMEDIA）

＜解説文＞1.クエスチョンバンク看護師国家試験問題解説2016（平成27年4月、MEDICMEDIA）

＜学会発表＞1.看護基礎教育の臨床実習における物理的環境の現状と課題（第1報）（共同、平成27年8月、日本看護管理学会）／2.看護基礎教育の臨床実習における物理的環境の現状と課題（第2報）（共同、平成27年8月、日本看護管理学会）／3.交流集会 学生の臨床実習と看護師のキャリア形成プレゼンテーション（共同、平成27年8月、日本看護学教育学会）／4.臨地実習において患者の個別性に合わせた環境調整技術を教授する活動（共同、平成27年10月、日本看護技術学会）／5.看護学実習において学生が指導を獲得する要因（共同、平成27年10月、日本看護技術学会）／6.看護学の学士課程修了時の学生が語る「看護職としての『私』」－脳卒中リハビリテーション認定看護師を目指す木村さん（仮名）の語りから－（単独、平成27年10月、東京女子医科大学看護学会）／7.看護学の学士課程修了時の学生が語る「看護職としての『私』」－助産師になる今井さん（仮名）の語りから－（単独、平成27年10月、東京女子医科大学看護学会）／8.看護学の学士課程修了時の学生が語る「看護職としての『私』」看護師となる直前の学生の語りから（単独、平成27年12月、日本看護科学学会）／9.看



護学生のコミュニケーションに対する困難感と変化要因（単独、平成28年3月、日本医学看護学教育学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.北海道看護教育施設協議会誌（1件）／2.SCU JOURNAL OF DESIGN & NURSING（1件、札幌市立大学）

＜学会役員就任状況＞北海道看護教育施設協議会（監事）

＜所属学会・研究会＞日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本看護管理学会／日本医学看護学教育学会／日本医療マネジメント学会／東京女子医科大学看護学会／日本看護技術学会／日本看護倫理学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞専任教員養成講習会研究方法演習 講師（北海道保健福祉部）／中堅看護師の現状と課題ミニレクチャー（看護コンソーシアム）／実習指導者研修会講師「臨地実習における事故防止と医療安全教育」（札幌保健医療大学）／リーダーⅠ、卒2年、リーダーⅢ、プリセプター研修、倫理講義（計5回）（北海道社会事業協会帯広病院）／中堅看護師育成のための研修講師（苫小牧市立病院）／倫理審査委員、アドバイザー（北海道看護教育施設協議会）

村松 真澄

＜学術論文＞1.Changes in Nursing Self-Rated Basic Social Skills Attitudes of Newly Graduated and Basic Nurses（共著、平成27年6月、Worldwide Nursing WNC2015、pp.81-85）／2.【認知症ケアのスキルアップを目指して】認知症の人への口腔ケアのスキルアップ（単著、平成27年9月、認知症ジャーナル、8巻、2号、pp.126-134）／3.北海道の病院における周術期口腔機能管理に関する看護管理者への実態調査（共著、平成28年3月、日本口腔ケア学会誌、10巻、1号、pp.83-88）

＜著書＞1.多職種共働チーム先制医療での口腔ケアQ&A.50（共著、平成28年1月、一世出版社、9.78487E+12、pp.108-111）

＜調査研究報告書＞1.寒冷な特別豪雪地帯に居住する高齢者の健康と暮らしについての研究（平成28年3月、札幌市立大学共同研究費事業、pp.1-26）

＜学会発表＞1.地域自立高齢者における社会的健康格差要因一歯数との関連性（共同、平成27年6月、第26回日本老年歯科医学会）／2.特別養護老人ホームにおける歯科介入によるOral Assessment Guide（OAG）口腔内状況の変化（共同、平成27年6月、第26回日本老年歯科医学会）／3.Relationship between Fundamental Competencies for Working Persons and relative factors on the nursing professional career.（共同、平成27年6月、3rd Annual Worldwide Nursing Conference（WNC2015）（Singapore））／4.口腔ケアシミュレータ及びその手技記録ソフトウェアの開発（共同、平成27年10月、第3回看護理工学会学術集会）／5.看護領域における口腔ケアの評価に関するデータベースの構築（共同、平成27年10月、第3回看護理工学会学術集会）／6.地域自立高齢者の咀嚼能力と食事摂取状況との関連性（共同、平成27年11月、第73回日本公衆衛生学会）／7.介護保険施設の看護管理者への口腔ケアマネジメント研修の効果検証（共同、平成27年11月、第73回日本公衆衛生学会）／8.関節リウマチ患者の疾患活動性で比較した口腔清掃に伴う関節症状及び口腔内の状態（共同、平成27年11月、第30回日本リウマチ学会）／9.地域自立高齢者の Oral Assessment Guide（OAG）とその影響要因について（共同、平成27年11月、第80回日本民族衛生学会）／10.地域在住高齢者の生活の実態（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／11.在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／12.積雪寒冷地の地域在住高齢者のQuality of life（EuroQOL効用値）の実態（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／13.広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／14.大卒看護職者1年目から5年目の「看護師として必要な基本姿勢と態度」及び「社会人基礎力」の経年別変化（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／15.異なる年度に同一の課題を課したOSCE成績の比較（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／16.地域で生活する高齢者の閉じこもりに関する文献レビュー（共同、平成27年11月、第67回北海道公衆衛生学会）

＜学会シンポジウム＞1.高齢患者に対する周術期口腔機能管理を考える 今後の課題と取り組み 北海道の病院における看護管理者への実態調査の結果から（単独、平成27年5月、第26回日本老年歯科医学会学術大会）

＜学会招聘講演＞1.認知症の人への口腔アセスメント（単独、平成27年5月、第16回日本認知症ケア学会）／2.在宅療養患者コンフォート口腔ケアのために一多職種で共有できる口腔アセスメント（単独、



平成27年9月、第18回日本在宅ホスピス協会全国大会in奄美)

＜研究会発表等＞1.「口腔ケアと感染対策」(単独、平成28年3月、日本感染管理ベストプラクティス”saizen”研究会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.Japan Journal of Nursing Science (1件、Japan Journal of Nursing Science)

＜学会役員就任状況＞日本摂食嚥下リハビリテーション学会(評議員)／日本口腔ケア学会(評議員)／日本公衆衛生学会(モニタリング委員)／日本口腔看護研究会(副代表世話人)／のみこみ安心ネット札幌(幹事)／北海道口腔ケア研究会(委員)／旭川口腔ケア普及研究会(幹事)

＜学術集会運営＞第16回日本認知症ケア学会／日本看護研究学会第26回北海道地方学術集会／第68回北海道公衆衛生学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞食と健康支援ネットワーク特別講演「多職種で共有できる口腔アセスメントと口腔ケア」(平成27年7月31日、食と健康支援ネットワーク)／口腔ケアを効果的に行うための「口腔ケアのアセスメント」(平成27年9月6日、いわて口腔ケア研究会)／道産針葉樹材を活用した新規製品開発検討委員会の座談会(平成28年2月5日、道産針葉樹材を活用した新規製品開発検討委員会)／「口腔ケアの教育」(平成28年3月11日～12日、第10回羊蹄地域ケアネットワーク研究会)／日本感染管理ベストプラクティス”Saizen”研究会「口腔ケアと感染対策 病院から介護まで」(平成28年3月19日、日本感染管理ベストプラクティス”Saizen”研究会)／平成27年度鹿児島県在宅歯科医療連携体制整備事業「介護専門職等研修会」「在宅療養患者コンフォート口腔ケアのために～多職種で共有できる口腔アセスメント～」(平成28年3月27日、大島郡歯科医師会)／第22回全国のつどいin鹿児島2016 奄美プレ大会「在宅療養患者コンフォート口腔ケアのために～多職種で共有できる口腔アセスメント～」(平成28年3月27日、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク)／幹事：日本財団の助成で運営している、企画担当「第7回、第8回公開研修会を開催。事例検討会」(年間、のみこみ安心ネット札幌)／日本老年歯科学会の助成により運営している、企画担当「第14回北海道口腔ケアセミナーを開催」(年間、北海道口腔ケア研究会)／幹事、企画担当(年間、旭川口腔ケア普及研究会)／幹事、企画担当(年間、日本口腔看護研究会)／新人職員研修「口腔ケア」への支援(年間、市立札幌病院)

守村 洋

＜学会発表＞1.保護室隔離の際に急性期にある患者から暴力を受けた看護師の思い(共同、平成27年6月、日本精神保健看護学会第24回学術集会・総会)／2.札幌市内の救急医療機関に搬送された自殺未遂者に関する調査(共同、平成27年9月、日本自殺予防学会)／3.OSCEにおけるタブレット型端末を活用した効果的な評価システムに関する研究 第一報(共同、平成27年12月、日本看護科学学会)／4.OSCEにおけるタブレット型端末を活用した効果的な評価システムに関する研究 第二報(共同、平成27年12月、日本看護科学学会)／5.精神科看護師の疼痛アセスメント能力と個人特性との関係(共同、平成27年12月、日本看護科学学会)

＜学会シンポジウム＞1.身体科救急スタッフに向けた精神科救急患者の初期対応 PEEC公開コース(平成27年11月、日本総合病院精神医学会総会)

＜学会役員就任状況＞日本臨床救急医学会(自殺企図者のケアに関する検討委員)

＜学術集会運営＞第83回日本応用心理学会

＜講演会・講習会活動＞精神療養講座講師／ゲートキーパー研修会講師／札幌市市民後見人養成研修講師／生活支援員登録に向けた研修説明会講師

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞医療情報技師検定試験(医療情報技師育成部門)／勉強会講師(北海道消防職員協議会)／被災者支援のためのスキルアップ研修講師(北海道広域避難アシスト協会)／自殺未遂者支援研修講師(札幌市)／清田区障がい者支援関係者研修講師(札幌市清田区)／自殺未遂者支援研修講師(帯広保健所)／東胆振自殺予防対策推進連絡会議講師(苫小牧保健所)／平成27年度北海道自殺未遂者研修会講師(北海道)／看護研究支援(勤医協札幌西区病院)

渡邊 由加利

＜学術論文＞1.Laws Related to The Protection of Women's Health In Japan(共著、平成28年1月、Medicine and Law Journal)



<著書>1.疾患別看護過程（共著、平成27年9月、学研メディカル秀潤社、4780912164）／2.助産師国試対策スキルアップブック 第2版（共著、平成27年10月、海馬書房、4907921055）

<学会発表>1.Support for Survivors of Sexual Assault in Japan（共同、平成27年6月、"ICN Conference 2015"）／2.Laws related to the protection of women's health in Japan（共同、平成27年7月、21thworld congress on medical law）／3.Children's rights and marriage（共同、平成27年7月、"21thworld congress on medical law"）／4.「性暴力被害者支援センター北海道SACRACHーセンター開設2.5年間の活動実態ー」（共同、平成27年8月、第34回日本思春期学会学術集会）／5.Thoughts Regarding The Right to Life The Fetus-Based on US Legal Precedent Related to Abortion"（共同、平成27年10月）／6.Fital care in japan -From an analysis of relevant textbooks-（共同、平成27年10月、"10 th International Nursing Conference "）／7.母性看護学における看護実践能力を向上させるための教材開発ー装着型産褥子宮モデルー（共同、平成27年10月、第56回母性衛生学会学術集会）／8.Reliability and Validity of the Clinical Nursing Competency Scale（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会抄録集）／9.広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会抄録集）／10.地域在住高齢者の生活の実態（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会抄録集）／11.在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会抄録集）／12.地域在住高齢者のQuality of life（EuroQOL効用値）の実態（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会抄録集）

<論文査読・学会抄録査読>1.天使大学紀要（1件、天使大学紀要）

<講演会・講習会活動>平成27年度「赤ちゃんがやってくる～先輩パパ・ママと話そう」札幌市子育て支援総合センター（平成27年9月26日）

<専門職者・企業・展覧会等への支援>「クレーム対応のワークショップ」の企画を行うための講義「考えよう！心の通う接遇～お母様方の満足度をたかめるために」ファシリテーター（平成27年8月23日、一般社団法人桶谷式乳房管理法研鑽会）

神島 滋子

<その他の論文>1.急性期の栄養管理が注目される理由 脳卒中患者の急性期における栄養管理と看護（単著、平成27年8月、日総研、1巻、2号、pp.76－82）／2.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第1回）札幌市立大学が企画した卒業生へのアサーティブ研修（共著、平成27年9月、医学書院、25巻、9号、pp.826－830）／3.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第2回）ノン・アサーティブタイプ教材「オロオロの巻」（共著、平成27年10月、医学書院、25巻、10号、pp.938－941）／4.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第3回）ノン・アサーティブタイプ教材「ドッカン」の巻」（共著、平成27年11月、医学書院、25巻、11号、pp.1050－1053）／5.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第4回）ノン・アサーティブタイプ教材「ネッチーの巻」（共著、平成27年12月、医学書院、25巻、12号、pp.1144－1147）／6.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第5回）”What’sチームワーク”シリーズ教材（1）「新人VS新人の巻」（共著、平成28年1月、医学書院、26巻、1号、pp.94－97）／7.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第6回）”What’sチームワーク”シリーズ教材（2）「新人フォローの巻」（共著、平成28年2月、医学書院、26巻、2号、pp.200－204）／8.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第7回）”What’sチームワーク”シリーズ教材（3）「新人VS2年目看護師の巻」（共著、平成28年3月、医学書院、26巻、3号、pp.304－308）

<学会発表>1.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価（第1報）卒業前スキルアップトレーニングについて（共同、平成27年7月、第25回日本看護学教育学会）／2.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価（第2報）シャトル研修について（共同、平成27年7月、第25回日本看護学教育学会）／3.褥瘡患者における日本語版EuroQolの信頼性と妥当性の検討（共同、平成27年8月、第17回日本褥瘡学会学術集会）／4.Freiburg Life Quality Assessment-wound module（FLQA-w）日本語版の信頼性・妥当性の検討（共同、平成27年8月、第17回日本褥瘡学会学術集会）／5.広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因（共同、第35回日本看護科学学会）／6.積雪寒冷地



の地域高齢者のQuality of life (EuroQOL効用値) の実態 (共同、第35回日本看護科学学会) / 7.在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連 (共同、第35回日本看護科学学会) / 8.地域在住高齢者の生活実態 (共同、第35回日本看護科学学会)

＜学会座長就任状況＞人の手による作業の軽労化を軽労化するロボット技術 (平成27年10月、日本脳神経看護研究学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.札幌医科大学札幌保健科学雑誌 (1件) / 2.第42回日本脳神経看護研究学会学会抄録 (15件)

＜学会役員就任状況＞日本脳神経看護研究学会 (日本脳神経看護研究学会北海道地方部会副会長) / 日本脳神経看護研究学会 (日本脳神経看護研究学会評議員) / 日本看護研究学会 (日本看護研究学会北海道地方会 研究奨励賞選考委員) / 日本脳神経看護研究学会 (日本脳神経看護研究学会 編集委員)

＜学術集会運営＞第42回日本脳神経看護研究学会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会 / 日本看護研究学会 / 日本脳神経看護研究学会 / 国際リハビリテーション看護学会 / 日本高次脳機能障害学会 / 日本看護学教育学会 / 日本看護管理学会 / 日本褥瘡学会 / 日本慢性看護学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞新人研修会、講演会などの企画運営「新人研修会」 (平成27年5月・10月、日本脳神経看護研究学会) / カンファレンスについての講演・指導 (平成27年通年、北海道済生会小樽病院) / 中間看護師ステップアップ研修 (本学OSCE課題の共同作成を通じた研修) (平成27年通年、手稲溪仁会病院) / 各病棟の看護研究の支援 (平成27年通年、北海道中央労災病院脊損センター)

工藤 京子

＜その他の論文＞1.ナーシングプロセス膀胱がん (単著、平成27年12月、メヂカルフレンド社、37巻、1号、pp.15-29)

＜学術集会運営＞日本看護研究学会第26回地方会

＜所属学会・研究会＞日本看護学教育学会 / 日本看護科学学会 / 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 / 日本看護研究学会 / 日本慢性看護学会 / 日本創傷治癒学会 / 日本看護技術学会 / 日本看護管理学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護研究計画書の作成指導、看護研究成果発表会での講評「院内看護研究発表会」 (平成27年6～12月、札幌中央病院) / 中堅看護師研修コースの指導、授業への参加、OSCE課題作成指導「中堅看護師ステップアップ研修」 (平成27年4月～6月、平成27年8月～平成28年2月、手稲溪仁会病院)

櫻井 繭子

＜学会発表＞1.大卒看護職者1年目から5年目の「看護師として必要な基本姿勢と態度」及び「社会人基礎力」の経年別変化 (共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会) / 2.都市部に居住する高齢者のうつ状態に関連する要因 (共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会) / 3.都市部に居住する高齢者の健康及び生活状況とソーシャル・キャピタルとの関連 (共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会)

＜学会役員就任状況＞日本産業衛生学会 (日本産業衛生学会産業看護部会幹事) / 日本産業衛生学会 (日本産業衛生学会北海道地方会産業看護部会幹事) / 北海道公衆衛生学会 (北海道公衆衛生学会評議員)

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞産業看護職を対象とした研修会企画 (日本産業衛生学会北海道地方会産業看護部会)

田中 広美

＜作品発表＞1.注射針廃棄容器 (共同、平成27年8月27日～28日、イノベーションJapan2015)

＜学会発表＞1.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価 (第1報) 卒業前スキルアップトレーニングについて (共同、平成27年8月、第25回日本看護学教育学会)

＜学会座長就任状況＞神奈川県立二俣川高校の歴史など 全4演題 (平成27年8月、日本看護歴史学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本看護学会学会誌 (9件)



＜学術集会運営＞日本看護歴史学会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／日本看護技術学会
／日本看護歴史学会／日本看護管理学会／日本看護理工学会

原井 美佳

＜学術論文＞1.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発ー共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指してー（共著、札幌市立大学研究論文集10、10巻、1号、pp.19-29）

＜調査研究報告書＞1.寒冷な特別豪雪地帯に居住する高齢者の健康と暮らしについての研究（平成28年2月、札幌市立大学）

＜学会発表＞1.尿失禁のリスク要因の検討ー前期高齢者の女性と中年期女性の比較ー（共同、平成27年9月、第22回日本排尿機能学会）／2.異なる年度に同一の課題を課したOSCE成績の比較検討（共同、第35回日本看護科学学会学術集会）

＜学会役員就任状況＞北海道公衆衛生学会（評議員）

＜学術集会運営＞第68回北海道公衆衛生学会学術集会

＜所属学会・研究会＞日本老年看護学会／日本看護管理学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会
／日本公衆衛生学会／日本老年泌尿器科学会／日本排尿機能学会／日本産業カウンセラー協会／日本認知症ケア学会／日本女性骨盤底医学会／日本コンチネンス協会／北海道公衆衛生学会／福祉住環境コーディネーター協会／札幌市介護支援専門員連絡協議会／愛知排泄ケア研究会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞看護研究支援（社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院看護部）

藤井 瑞恵

＜学術論文＞1.The combination of abdominal obesity and high-sensitivity C-reactive protein predicts new onset of hypertension in general Japanese population.（共著、平成27年5月、Hypertension Research、38号、pp.426-432）／2.Association between toothbrushing and risk factors for cardiovascular disease: a large-scale, cross-sectional Japanese study（共著、平成28年1月、BMJ Open、2016;6:e009870 doi:10.1136/bmjopen-2015-009870巻）

＜その他の論文＞1.腹部肥満、hsCRPと高血圧（雑誌 血圧）（共著、平成27年11月、先端医学社、22巻、11号、pp.786-787）

＜学会発表＞1.北海道における壮年期透析患者の冬期通院の現状（共同、平成27年5月、北海道透析療法学会）／2.地域一般住民における年齢および口腔内健康状態とインスリン抵抗性との関係（共同、平成27年6月、日本老年医学会北海道地方会）／3.糖尿病性腎症を持つ壮年期維持透析患者の就労とソーシャルサポートの関係～糖尿病・非糖尿病の比較～（共同、平成27年6月、日本透析医学会）／4.北海道における壮年期維持透析患者のADL予測因子（共同、平成27年6月、日本透析医学会）／5.北海道における壮年期維持透析患者のADLと就労の関係（共同、平成27年6月、日本透析医学会）／6.はみがき習慣と心血管疾患リスク因子との関係（共同、平成27年6月、日本循環器予防医学会）／はみがき習慣と心血管疾患リスク因子との関係ー5年間コホート研究ー（共同、平成27年6月、日本循環器予防医学会）

＜学会座長就任状況＞専任査読者（日本糖尿病教育・看護学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.日本糖尿病教育・看護学会誌（3件、糖尿病教育・看護学会）

＜学会役員就任状況＞北海道公衆衛生協会（評議員）

＜学術集会運営＞日本応用心理学会

＜所属学会・研究会＞日本看護科学学会／日本看護学教育学科／日本慢性看護学会／日本糖尿病看護・教育学会／日本看護管理学会／日本透析医学会／日本循環器病予防学会／日本疫学会／日本公衆衛生学会／日本糖尿病学会／日本老年医学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞研究発表総評（平成27年11月14日、北海道看護協会札幌第一支部）／院内研究支援（札幌厚生病院）

三上 智子

＜実務関係報告書＞1.JICA草の根技術協力事業（モンゴル国）先天性股関節脱臼ハイリスク児の育児指導（共著、平成28年3月、札幌市立大学看護学部）



＜学会発表＞1.小児看護学実習における看護実践能力習得の実態と課題（共同、平成27年7月、日本小児看護学会第25回学術集会）／2.北海道内小学校の保健授業における医教連携ニーズ（共同、平成27年10月、第50回北海道学校保健学会）／3.北海道内中学校の保健授業における医教連携ニーズ（共同、平成27年10月、第50回北海道学校保健学会）／4.転倒予防マットレスを用いた運動プログラムの導入による低学年児童の基礎活動力の変化（共同、平成27年11月、日本学校保健学会第63回学術集会）／5.大卒看護職者1年目から5年目の「看護師として必要な基本姿勢と態度」及び「社会人基礎力」の経年別変化（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）

＜所属学会・研究会＞日本小児看護学会／日本学校保健学会／日本小児保健協会／日本看護学教育学会／日本看護研究学会／日本母性衛生学会／日本看護管理学会／日本育療学会／北海道成育看護研究会／北海道小児保健研究会

＜講演会・講習会活動＞ACUまなびシェアキッズワークショップ2015 講義・ワークショップ「小児看護師の仕事にチャレンジ！」（平成27年8月3日、ACU）

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞会計・行事企画運営（札幌市立大学看護学部親睦会）

矢野 祐美子

＜学会発表＞1.健康長寿社会を実現する統合医療とポジティブ看護（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）

＜学会役員就任状況＞せいれい看護学会（評議員）

＜学術集会運営＞日本看護管理学会 例会運営事業 平成27年度例会in北海道

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞認定看護管理者教育課程ファーストレベル「看護サービス提供論」（静岡県看護協会）

山内 まゆみ

＜受賞等＞1.平成27年度研究奨励賞（研究発表）（平成27年7月、日本看護研究学会北海道地方会）

＜学会発表＞1.母性看護学の看護実践能力を向上させるための教材開発（共同、平成27年9月、第56回日本母性衛生学会）／2.分娩施設まで長距離の移動を要する妊婦が分娩準備教育を施設と市町村で受ける機会（共同、平成27年9月、第56回日本母性衛生学会）／3.地域在住高齢者の生活の実態（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会）／4.在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会）／5.積雪寒冷地の地域在住高齢者のQuality of Life（EuroQOL効用値）の実態（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会）／6.広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会）

山本 真由美

＜その他の論文＞1.新人看護師の組織社会化を目指すアサーティブ研修 教材の作成と学習展開（第3回）ノン・アサーティブ教材「ドッカン」の巻」（共著、平成27年11月、医学書院、看護管理25巻、11号、pp.1050-1053）

＜学会発表＞1.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価（第1報）卒業前スキルアップトレーニングについて（共同、平成27年8月、第25回日本看護学教育学会学術集会）／2.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価（第2報）シャトル研修について（共同、平成27年8月、第25回日本看護学教育学会学術集会）／3.母性看護学における看護実践能力を向上させるための教材開発—装着型産褥子宮モデル—（共同、平成27年10月、第56回日本母性衛生学会学術集会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1.保健科学研究誌（熊本保健科学大学）（1件）

＜学術集会運営＞第83回日本応用心理学会

＜所属学会・研究会＞日本助産学会／日本看護科学学会／日本母性衛生学会／北海道母性衛生学会／日本看護管理学会／日本看護学教育学会／日本看護技術学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞北海道看護協会教育委員として運営「看護研究」（平成27年4月23日～24日、北海道看護協会）／看護研究支援（講義および研究指導）「看護研究（研究計画書の作成・質的分析）講義」（平成27年5月15日、北海道がんセンター）、「看護研究指導」（平成27年10月～平成28年1月、北海道がんセンター）、「研究発表会講評」（平成28年3月14日、北海道がんセンター）



石引 かずみ

＜学会発表＞1.母性看護学の看護実践能力を向上させるための教材開発ー装着型産褥子宮モデルー（共同、平成27年10月、第56回日本母性衛生学会学術集会）

小田嶋 裕輝

＜学術論文＞1.2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めると認識している支援内容の検討（共著、平成27年9月、日本糖尿病教育・看護学会雑誌）／2.患者の首尾一貫感を改善する介入方法に関する文献的考察（共著、平成27年6月、札幌市立大学研究論文集）／3.アニマルセラピーに関する国内文献における介入方法と介入効果指標の検討ー医療への活用に向けた示唆ー（共著、平成28年3月、北海道公衆衛生学会誌）

＜学会発表＞1.看護基礎教育の臨床実習における物理的環境の現状と課題（第1報）中国・四国地方の3年課程看護学校に焦点を当てて（共同、平成27年8月、第19回日本看護管理学会学術集会）／2.看護基礎教育の臨床実習における物理的環境の現状と課題（第2報）中国・四国地方の3年課程看護学校に焦点を当てて（共同、平成27年8月、第19回日本看護管理学会学術集会）／3.地域保健分野で活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度の開発（共同、平成28年1月、第3回日本公衆衛生看護学会学術集会）／4.後期高齢者の社会活動の実践に関連する要因（共同、平成28年1月、第3回日本公衆衛生看護学会学術集会）／5.ソーシャル・キャピタルを醸成する保健師活動の特徴（共同、平成28年1月、第3回日本公衆衛生看護学会学術集会）／6.Developing an Educational Program to Enhance Sense of Coherence in Patients with Diabetes Mellitus Type 2（共同、平成28年3月、19th East Asian Forum of Nursing Scholars）

柏倉 大作

＜学会発表＞1.「OSCEにおけるタブレット型端末を活用した効果的な評価システムに関する研究 第二報」（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／2.「OSCEにおけるタブレット型端末を活用した効果的な評価システムに関する研究 第一報」（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）／3.「大卒看護職者1年目から5年目の「看護師として必要な基本姿勢と態度」及び「社会人基礎力」の経年別変化」（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会）

＜学術集会運営＞第42回日本脳神経看護学会（当日の受付業務）

＜講演会・講習会活動＞地域の包括的な医療に関する研究会 講演会

近藤 圭子

＜学会発表＞1.都市部に居住する 高齢者のうつ状態に関連する要因（共同、平成28年1月、日本公衆衛生看護学会）／2.都市部に居住する高齢者の健康及び生活状況とソーシャルキャピタルとの関連（共同、平成28年1月、日本公衆衛生看護学会）／3.後期高齢者の社会活動の実践に関連する要因（共同、平成28年1月、日本公衆衛生看護学会）

＜研究会発表等＞1.地域在住高齢者の社会活動と健康習慣指数・健康管理自己効力感との関連について（平成27年11月、SCU産学官研究交流会）

＜学術集会運営＞北海道公衆衛生学会

＜所属学会・研究会＞日本プライマリ・ケア連合学会／日本地域看護学会／日本公衆衛生学会／北海道公衆衛生学会／日本公衆衛生看護学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞当日の受付等の運營業務（北海道地域医療研究会）

田仲 里江

＜学術論文＞1.親密な関係にある者からの暴力的事犯被害者への支援方策に関する検討～警察官と医療従事者の連携体制の課題について～（共著、平成27年6月、日本フォレンジック看護学会誌、1巻、2号、pp.50-58）

＜その他の論文＞1.ニューヨーク市における性暴力被害者支援の実際～LenoxHill救急専門病院のForensic Nurse活動より～（共著、平成27年6月、日本フォレンジック看護学会誌、1巻、2号、pp.85-91）

＜学会発表＞1.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価（第1報）卒業前スキルアップ



トレーニングについて（共同、平成27年7月、第25回日本看護学教育学会学術集会）／2.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価（第2報）シャトル研修について（共同、平成27年7月、第25回日本看護学教育学会学術集会）／3.Support of the Elderly in Urban Communities and Support-Related Issues（共同、平成27年8月、THE6th ICCHNR）／4.北海道内小学校の保健授業における医教連携ニーズ（共同、平成27年10月、第50回 北海道学校保健学会）／5.北海道内中学校の保健授業における医教連携ニーズ（共同、平成27年10月、第50回 北海道学校保健学会）／6.地域保健活動に活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度開発のための予備調査（共同、平成27年10月、第74回日本公衆衛生学会学術集会）／7.脆弱性骨折患者の日常生活に対する実態調査（共同、平成27年11月、第46回 日本看護学会 ヘルスプロモーション学術集会）／8.後期高齢者の社会活動の実践に関連する要因（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／9.地域保健活動に活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度の開発（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／10.ソーシャル・キャピタルを醸成する保健師活動の特徴（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／11.都市部に居住する高齢者の健康及び生活状況とソーシャル・キャピタルとの関連（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）／12.都市部に居住する高齢者のうつ状態に関連する要因（共同、平成28年1月、第4回日本公衆衛生看護学会学術集会）

＜学術集会運営＞北海道公衆衛生学会（運営委員）

＜所属学会・研究会＞日本地域看護学会／日本看護科学学会／日本公衆衛生学会／日本看護学教育学会／日本公衆衛生看護学会／日本学校保健学会／北海道公衆衛生学会／看護総合科学研究会／日本フォレンジック看護学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞平成27年度白石すこやかフェスタへ学生と共にボランティア（白石すこやかフェスタ実行委員会）

坂東 奈穂美

＜学術論文＞1.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発－共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指して－（共著、平成28年1月、札幌市立大学研究論文集）

＜学会発表＞1.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発と評価－第1報 模擬患者活動に対する意識の変化－（共同、平成27年12月、日本看護科学学会学術集会）／2.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発と評価－第2報 模擬患者の成長に焦点を当てて－（共同、平成27年12月、日本看護科学学会学術集会）

＜学術集会運営＞看護管理学会 例会 in 北海道

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞大学・病院連携支援（看護研究の指導）（札幌厚生病院）

檜山 明子

＜学術論文＞1.入院患者の転倒に至る生活行動の解明（共著、平成27年5月、木村看護教育振興財団看護研究集録）／2.入院患者の転倒リスクアセスメントツールの予測精度－国内データベースを用いた文献検討－（共著、平成28年1月、日本医療・病院管理学会誌、53巻、1号、pp.31－39）／3.入院患者の転倒予測を目的とした転倒リスク行動アセスメントツールの開発（単著、平成28年3月、札幌市立大学大学院）

＜学会発表＞1.一般病棟入院患者の転倒予防に向けた看護実践の実態調査（共同、平成27年8月、第41回日本看護研究学会学術集会）／2.女性看護師の飲酒行動と自己コントロールの実際 北海道内の病院に勤務する看護師に焦点をあてて（共同、平成27年9月、第15回日本看護技術学会学術集会）／3.看護師個人が看護の質を維持するための手段（共同、平成27年9月、第15回日本看護技術学会学術集会）／4.OSCEにおけるタブレット型端末を活用した効果的な評価システムに関する研究（第一報）（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会学術集会）／5.OSCEにおけるタブレット型端末を活用した効果的な評価システムに関する研究（第二報）（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会学術集会）／6.広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会学術集会）／7.積雪寒冷地の地域在住高齢者のQuality of life（EuroQOL効用値）の実態（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会学術集会）／8.在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会学術集会）／9.地域在住高齢者の生活の実態（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会学術集会）／10.精神科看護師の疼痛アセスメント能力と個人特



性との関係（共同、平成27年11月、第35回日本看護科学学会学術集会）／11.Characteristics of Fall Risk Behaviors of Hospitalized Patients in Japanese Hospitals.（共同、平成28年3月、19th East Asian Forum of Nursing Scholars）

＜所属学会・研究会＞日本看護研究学会／日本看護倫理学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／看護総合科学研究会／看日本看護技術学会／北のケア環境研究会／日本医療・病院管理学会／看護総合科学研究会／日本看護管理学会／日本精神保健看護学会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞運営委員（事務局）（平成27年4月22日、7月3日、11月24日、平成28年2月22日、北のケア環境研究会）／研究発表会支援「院内研究発表会」（平成28年3月8日～3月9日、札幌徳洲会病院）

星 幸江

＜学会役員就任状況＞日本応用心理学会第83回大会（日本応用心理学会第83回大会実行委員）

＜所属学会・研究会＞日本精神保健看護学会／日本看護科学学会／日本看護協会／北海道看護協会

御厩 美登里

＜学術論文＞1.在宅死を可能にするための在宅ケア基盤づくりの方略ーフィンランドと日本の比較検討に向けての2014年度基礎調査（共著、平成27年6月、地域ケアリング）

＜著書＞1.医療事前指示書：私への医療・私の終末期はこうしてほしい（共著、平成28年2月、ナカニシヤ出版、4779510236）

＜調査研究報告書＞1.市民参加型のSCU模擬患者養成プログラムの開発～共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指して.平成26年度COC共同研究費研究成果報告書（平成27年8月）／2.人生の終焉を自分らしく生ききるためのガイド 意思決定を支援する事前指示書の作成と検証.平成26年度COC共同研究費研究成果報告書（平成27年8月）／3.地域住民を交えたデザイン・看護合同シミュレーション教育の基礎的研究：ICT活用科目における学生視点での言語的および非言語的評価（平成28年3月）

＜学会発表＞1.意思決定を支援する医療事前指示書：フォーカスグループによる検証（共同、平成27年7月、第20回日本在宅ケア学会）／2.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価（第1報）卒業前スキルアップトレーニングについて（共同、平成27年8月、日本看護学教育学会第25回学術集会）／3.大学主催による新卒看護職員のための社会化支援の評価（第2報）シャトル研修について（共同、平成27年8月、日本看護学教育学会 第25回学術集会）／4.地域在住高齢者の生活の実態（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／5.在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／6.積雪寒冷地の地域在住高齢者のQuality of life（EuroQOL効用値）の実態（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／7.広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／8.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発と評価～第1報 模擬患者活動に対する意識の変化～（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）／9.市民参画型の模擬患者養成プログラムの開発と評価～第2報 模擬患者の成長に焦点を当てて～（共同、平成27年12月、第35回日本看護科学学会学術集会）

横川 亜希子

＜学会発表＞1.就職後1年以内に医療事故の当事者となった看護師の職業経験に関する研究ー医療事故の克服過程で生じた経験に焦点を当ててー（共同、医療の質・安全学会学術集会）／2.大卒看護職者1年目から5年目の「看護師として必要な基本姿勢と態度」及び「社会人基礎力」の経年別変化（共同、日本看護科学学会学術集会）／3.精神科看護師の疼痛アセスメント能力と個人特性との関係（共同、日本看護科学学会学術集会）

＜学術集会運営＞第25回看護学教育学会学術集会

木田 妙

＜学会発表＞1.骨盤の緩み・ゆがみの実態ー出産経験の無い女性を対象にー（単独、平成27年10月、日本母性衛生学会）／2.女子学生の有する不快症状の骨盤ケアによる効果ー頭痛、腰痛、生理痛、肩こり、冷え症に着目してー（単独、平成27年10月、日本母性衛生学会）

＜所属学会・研究会＞日本母性衛生学会／北海道母性衛生学会



教育支援プロジェクトセンター

中田 亜由美

＜調査研究報告書＞1.札幌市南区における高齢者の外出困難要因の明確化（共著、平成27年8月、札幌市立大学 平成26年年度COC共同研究費 研究成果報告書、pp.19-26）

＜学会発表＞1.道内A地区在住高齢者の外出困難要因の明確化 第一報（共同、平成27年7月、第20回日本在宅ケア学会学術集会）

＜学会シンポジウム＞1.ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業（共同、平成28年2月、高知大学「地（知）の拠点整備事業シンポジウム～COC全国ネットワーク化事業～」）

＜所属学会・研究会＞一般社団法人日本看護研究学会／日本在宅ケア学会／看護総合科学研究会／北海道成育看護研究会

＜専門職者・企業・展覧会等への支援＞上遠野教授と地域連携課職員とともに、企画・運営を行った。一般社団法人北海道チャレンジドアート&プロダクツと連携して、アートセンターあいのさとおよびともに福祉から利用者の作品の無償貸与を受け、まちの学校に作品の展示を行い、地域住民へ、アウトサイダーアートの魅力を伝えた。展示品は、86点である。「「学び舎」で考える障害者アート展」（平成27年12月4日～26日、札幌市立大学）

藪谷 祐介

＜学会発表＞1.道内A区在住高齢者の外出困難要因の明確化 第一報（共同、平成27年7月、日本在宅ケア学会）

＜所属学会・研究会＞日本建築学会／芸術工学会／アートミーツケア学会／日本在宅ケア学会／NPO法人まちづくりデザインサポート

「札幌市立大学のシンボルマークについて」

札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。(登録商標)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報 平成27年度 第10号

編 集 広報室

担 当 事 務 経営企画課

発 行 日 平成28年12月1日

発 行 行 札幌市立大学

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL : 011-592-2300 FAX : 011-592-2369

URL <http://www.scu.ac.jp>